

POLESTAR Automation

ユーザマニュアル

ユーザマニュアル

対象製品： POLESTAR AUTOMATION 3.3.0

保証： NKIA Corp.は、この資料に関して商業性や特定の目的への適合性に対する黙示的保証などのいかなる保証も行いません。NKIA Corp.は、この文書の誤謬やこの資料の供給、遂行、または使用に伴う付随的または派生的損害に対していかなる種類の責任も負いません。

著作権： 本書の著作権についてはNKIA Corp.に属します。本書の一部または全部を、著作権者の許可なしに、複製、転載することを禁止します
© NKIA Co.,Ltd. All rights reserved.

著作権者： NKIA Corp.
B-10th Floor, Usapce1, 660 Daewangpangyo-ro, Bundang-gu, Seongnam-si,
Gyeonggi-do, 13494 Korea

発行年度： 2023年

本書の概要

本書はIT運営自動化ソリューションであるPOLESTAR Automationを利用する管理者に必要な機能及び操作方法について説明しています。

- ▶ 本書には、POLESTAR Automationのインストールおよび管理などについての説明が記載されています。

本書に例として記載された製品の画面と機能説明は、製品の機能安定化と性能向上のために変更されることがあります。変更された内容は別途文書でその内容を通知するか、ホームページなどのウェブサイトで告知されるとともに、本書への更新を行います。更新が適用された製品は、顧客との契約内容により無償または、有償でサポートされます。

本書は、POLESTAR Automationユーザのためのユーザマニュアルであり、POLESTAR Automationのインストールなどの作業を行うシステム管理者は、POLESTAR Automation管理者マニュアルをご参照ください。

目次

本書の概要	2
目次	3
図表目次	15
POLESTAR Automationの概要	28
システムアーキテクチャ	29
UI レイヤー	29
マネージャーシステムレイヤー	29
管理対象デバイスレイヤー	30
アクセス制御	30
ツリー	31
サーバ	31
ネットワーク	31
エージェントレス	31
ジョブ	32
クラウド	32
はじめに	32
ウェブクライアント	32
対応するウェブブラウザ	33
解像度	33
ユーザログイン	33
2段階認証	34
個人情報の設定及びパスワードの変更	35
ユーザインタフェース	36
メニュー領域	37
ツリー領域	38

情報表示領域	42
ツリー構成	42
静的グループ生成	43
スマートグループ生成	45
ローラー括変更	48
プロパティ括変更	49
ネットワーク接続情報の一括変更	50
システムオブジェクトプロパティ	53
プロパティリスト	53
プロパティ追加/変更	61
プロパティの活用	65
スマートグループ	66
構成リスト	66
アクセス制御	68
認証方式の理解	68
ロールベース認証	68
オブジェクトベース認証	71
ロール生成	73
基本情報	73
権限設定	74
ユーザ設定	75
ユーザ生成	75
システムオブジェクトに対するロールの指定	78
個別ロール設定	79
ローラー括変更	80
システム基本ロールとユーザ	81
システム基本提供ロール	81
システム管理者アカウント	82
ユーザ実行履歴照会	82
接続履歴	83

ユーザ実行履歴	83
サーバ管理	85
サーバ登録.....	85
サーバー一覧.....	86
基本情報.....	87
プロパティ.....	88
検索	89
ロール	89
サーバ削除.....	90
サーバ情報.....	91
基本情報.....	92
システム情報.....	95
ジョブ結果.....	98
ユーザ実行履歴	100
サーバのライブオブジェクト.....	101
System Information	101
Account.....	101
Packages	103
Windows Application	105
Windows Service	106
Windows Update	108
FileExplorer.....	110
Windows Registry	111
Windows Update管理.....	112
Windows Update 分析	114
Windows Update 詳細情報	115
エージェントレス管理	118
エージェントレス登録	118
エージェントレス一覧	119
基本情報.....	120
プロパティ.....	122

探索	122
ロール	123
クラウド仮想サーバ登録.....	124
エージェントレス削除	125
エージェントレス情報	126
基本情報.....	127
システム情報.....	131
ジョブ結果.....	134
ユーザ実行履歴.....	135
ネットワーク管理.....	137
ネットワークデバイス登録.....	137
ネットワークデバイス一覧.....	138
基本情報.....	138
プロパティ.....	139
検索	139
ロール設定.....	140
ネットワークデバイス削除.....	141
ネットワークデバイス情報.....	141
基本情報.....	142
システム情報.....	146
ネットワークインタフェース.....	147
ジョブ結果.....	149
ユーザ実行履歴.....	150
ネットワーク構成管理	152
ネットワークオブジェクト管理	152
ネットワークオブジェクト管理一覧	152
ネットワークオブジェクト登録.....	153
基本情報.....	155
収集コマンド	155
データ変換.....	156
ユーザ実行履歴	157

ネットワークオブジェクト収集管理	157
ネットワークオブジェクト収集管理一覧	157
ネットワークオブジェクト収集管理登録	158
基本情報.....	160
ネットワークオブジェクト.....	161
対象デバイス.....	161
スケジュール.....	162
プロパティ.....	162
ロール	163
実行結果.....	164
照会結果.....	165
ネットワークオブジェクト照会 (照会管理).....	165
ネットワークオブジェクト照会一覧	166
ネットワークオブジェクト照会登録	166
基本情報.....	167
ネットワークオブジェクト.....	168
対象デバイス.....	169
照会結果.....	169
ネットワークオブジェクト照会 (現況照会).....	170
ネットワークオブジェクト現況照会	170
入カコマンド実行.....	172
コマンド管理.....	174
登録コマンド管理	175
制限コマンド管理	179
構成リスト	183
ConfigurationFile.....	184
CustomObject	187
NetworkCustomObject.....	190
NetworkCustomCLIObject	193
AgentlessCustomObject.....	196
構成リストコピー	198

構成リスト削除	199
構成リストのインポート/エクスポート	199
点検グループ管理	201
点検グループ生成	201
点検グループ一覧	201
点検グループのインポート/エクスポート	202
基本情報	203
ポリシー設定	204
プロパティ	209
点検グループの活用例	209
点検グループ情報	212
詳細情報	213
点検グループ削除	213
プロパティ一括変更	214
ライブラリ管理	215
ファイルライブラリ登録	215
ファイルライブラリ一覧	216
基本情報	217
ファイル	217
プロパティ	220
スクリプトライブラリ登録	221
スクリプトライブラリ一覧	221
基本情報	222
スクリプト	223
プロパティ	225
プロパティ一括変更	225
ジョブ管理	227
共通	228
ジョブ実行	228
ジョブ中止	229

ジョブコピー	230
ジョブ削除	231
ジョブのインポート/エクスポート	232
ジョブ結果照会	233
ユーザ実行履歴	235
点検ジョブの生成	236
点検ジョブ一覧	236
基本情報	239
点検グループ	240
対象デバイス	241
スケジュール	242
プロパティ	245
ロール	246
通知設定	246
点検ジョブの結果	248
点検ジョブの点検結果の詳細	249
ファイル配布ジョブの生成	251
ファイル配布ジョブ一覧	252
基本情報	254
ライブラリ	256
対象デバイス	257
オプション	257
スケジュール	259
プロパティ	259
ロール	261
通知設定	261
ファイル配布ジョブの結果	262
スクリプトジョブの生成	263
スクリプトジョブ一覧	264
基本情報	267
スクリプト	268
対象デバイス	270

スケジュール.....	271
プロパティ.....	271
ロール.....	273
通知設定.....	273
スクリプトジョブの結果.....	274
ネットワークスクリプトジョブの生成.....	275
ネットワークスクリプトジョブ一覧.....	276
基本情報.....	278
対象デバイス.....	279
スケジュール.....	280
プロパティ.....	280
ロール.....	282
通知設定.....	282
ネットワークスクリプトジョブの結果.....	283
ファイル収集ジョブの生成.....	284
ファイル収集ジョブ一覧.....	284
基本情報.....	287
収集ファイル.....	289
対象デバイス.....	290
オプション.....	290
スケジュール.....	292
プロパティ.....	292
ロール.....	294
通知設定.....	294
ファイル収集ジョブの結果.....	295
監査ジョブの生成.....	296
監査ジョブ一覧.....	296
基本情報.....	299
監査項目.....	300
対象デバイス.....	301
スケジュール.....	302
プロパティ.....	302

ロール	303
通知設定.....	304
監査ジョブの結果	305
Windows Updateジョブの生成.....	307
Windows Update ジョブ一覧	307
基本情報.....	310
対象デバイス.....	311
更新項目.....	312
オプション.....	314
スケジュール.....	314
プロパティ.....	315
ロール	316
通知設定.....	317
Windows Updateジョブの結果.....	317
バッチジョブの生成	318
バッチジョブ一覧.....	318
基本情報.....	320
対象ジョブ.....	322
対象デバイス.....	323
スケジュール.....	324
プロパティ.....	324
ロール	325
バッチジョブの結果	326
データ比較ジョブの生成.....	327
データ比較ジョブ一覧	327
基本情報.....	330
監査項目.....	330
対象デバイス.....	331
データの入力.....	332
スケジュール.....	333
プロパティ.....	333
ロール	335

通知設定.....	335
データ比較ジョブの結果.....	336
クラウド管理	338
クラウド生成.....	338
クラウド一覧.....	338
仮想サーバー一覧.....	339
クラウド詳細情報	340
詳細情報.....	340
クラウド仮想サーバの登録.....	341
ダッシュボード.....	344
ダッシュボード管理	344
ダッシュボード登録	345
ダッシュボード修正	347
ダッシュボード削除	348
ウィジェット.....	348
点検状況.....	349
点検要約.....	354
ジョブ結果状態	356
ショートカット	358
月別 Windows Update 適用サーバ数（最新の更新基準）	360
Windows 重要更新の適用状況.....	361
OS 別のバージョン状況	362
ジョブスケジュールの現況.....	363
報告書	366
報告書テンプレート	366
報告書テンプレート一覧	366
報告書テンプレート登録	369
報告書テンプレート修正	370
報告書テンプレート削除	372
報告書管理.....	372

報告書一覧.....	372
報告書追加.....	373
報告書修正.....	376
報告書削除.....	377
報告書コピー.....	377
関連性情報管理.....	379
サーバとサーバ間の関連情報.....	379
関連性情報表示.....	379
サービス関連性情報管理.....	380
運用/管理ツール.....	382
お知らせ.....	382
お知らせ登録.....	382
お知らせ照会.....	383
システム管理.....	384
基本情報.....	384
システムプロパティ.....	385
パスワードポリシー.....	387
データ保存期間ポリシー.....	388
ライセンス情報.....	391
プラグイン.....	392
クラスタリング.....	396
クレデンシャル管理.....	397
通知管理.....	406
メールサーバ情報.....	406
SMS 情報.....	408
ライブオブジェクト照会.....	412
URLショートカット.....	416
付録.....	416
構成構文解析器一覧.....	416
正規表現.....	418

文法	418
Windowsエージェントレスサーバのポリシー設定	420
DCOM 権限設定	421
DCOM 許容ポート設定.....	423
DCOM ファイアウォール設定	425
ローカルセキュリティ設定.....	429
Remote UAC 権限設定	430
ファイル共有 OS ファイアウォール設定.....	432
POLESTAR Automation Windows Defender設定	435
Windows OpenSSHサーバのインストール及び構成	438
Windows 10、Windows Server 2019 以上.....	438
Windows 7、Windows Server 2008 ~ Windows Server 2016.....	440
エージェントレス用VBScript作成ガイド	442
リモートホスト接続するための WMI スクリプト作成	442

図表目次

図1 POLESTAR Automationのアーキテクチャ	29
図2 ログイン画面	34
図3 個人情報変更	36
図4 ユーザインタフェース	37
図5 ツリー選択	38
図6 情報表示領域	42
図7 静的グループ生成 - 基本情報	43
図8 静的グループ生成 - 対象設定	44
図9 静的グループ生成 - ロール設定	45
図10 スマートグループ生成 - 基本情報	46
図11 スマートグループ追加 - 条件	47
図12 スマートグループ生成 - ロール	48
図13 ロール一括変更	49
図14 プロパティ一括変更	50
図15 接続情報の一括変更 - [マイコンピュータ]選択	51
図16 接続情報の一括変更 - [ツリー]選択	52
図17 プロパティリスト	54
図18 システムオブジェクトタイプのレイヤー構造	59
図19 プロパティ追加画面	62
図20 プロパティ追加時の範囲定義	63
図21 プロパティ追加のライブオブジェクト定義でOperating Systemを選択した例	64
図22 プロパティ修正	65
図23 スマートグループ - Linux	66
図24 構成リストでプロパティ変数を使用する画面	67
図25 プロパティ選択	68
図26 サーバにViewerロール追加	71
図27 グループにViewerロール追加	72
図28 システム管理者(左)とViewer(右)のジョブグループツリー	72
図29 ロール一覧	73
図30 ロール基本情報	74

図31	ロールの権限設定	74
図32	ロールのユーザ設定	75
図33	ユーザー一覧照会	76
図34	ユーザ詳細情報	76
図35	CSVの追加 - 直接入力	78
図36	静的グループ生成のロール設定	79
図37	登録済みシステムオブジェクトのロール修正	80
図38	ロール一括変更	81
図39	Adminsロールの基本権限設定	82
図40	接続履歴	83
図41	ユーザ実行履歴	84
図42	サーバー一覧	86
図43	サーバ登録 - 基本情報	87
図44	サーバ登録 - 基本情報(範囲設定)	88
図45	サーバ登録 - プロパティ	88
図46	サーバ登録 - 検索	89
図47	サーバ登録 - ロール	90
図48	サーバ削除	91
図49	グループのサーバー一覧	92
図50	サーバコンテキストメニュー	92
図51	サーバの詳細情報	93
図52	サーバの基本情報 - プロパティ	94
図53	サーバの基本情報 - ロール	95
図54	サーバ - システム情報	96
図55	サーバ情報結果	99
図56	サーバに対するユーザ実行履歴	100
図57	サーバのライブオブジェクト	101
図58	Groupsの詳細情報	102
図59	Usersの詳細情報	103
図60	Packagesの詳細情報	104
図61	Windows Applicationsの詳細情報	106
図62	Windows Service'情報	108
図63	Windows Update'情報	110

図64 FileExplorer情報.....	111
図65 Windows Registry情報.....	112
図66 Windows Update管理.....	113
図67 Windows Update分析画面.....	114
図68 Windows Update分析進行画面.....	115
図69 Windows Update - 基本情報.....	116
図70 Windows Update - 更新のインストール状況.....	116
図71 エージェントレス一覧.....	120
図72 エージェントレスサーバ登録 - Windows情報入力.....	120
図73 エージェントレスサーバ登録 - Linux情報入力.....	121
図74 エージェントレスデバイス登録 - プロパティ.....	122
図75 エージェントレスサーバ登録 - 探索結果.....	123
図76 エージェントレスサーバ登録 - ロール.....	124
図77 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - 基本情報.....	124
図78 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - インスタンス照会.....	125
図79 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - 検索.....	125
図80 エージェントレスデバイス削除.....	126
図81 グループのエージェントレス一覧.....	127
図82 エージェントレスサーバの基本情報.....	128
図83 エージェントレスサーバの基本情報 - プロパティ.....	130
図84 エージェントレスサーバの基本情報 - ロール.....	131
図85 エージェントレスサーバ - システム情報.....	132
図86 エージェントレスサーバのジョブ結果.....	134
図87 エージェントレスサーバ - ユーザ実行履歴.....	135
図88 ネットワークデバイス一覧.....	138
図89 ネットワーク登録 - 基本情報.....	139
図90 ネットワークデバイス登録 - プロパティ.....	139
図91 ネットワークデバイス登録 - 検索.....	140
図92 ネットワークデバイス登録 - ロール.....	140
図93 ネットワークデバイス削除.....	141
図94 グループのネットワーク一覧.....	142
図95 ネットワークデバイスの詳細情報.....	143
図96 ネットワークデバイスの基本情報 - プロパティ.....	145

図97 ネットワークデバイスの基本情報 - ロール.....	146
図98 ネットワークデバイスのシステム情報.....	146
図99 ネットワークデバイスのネットワークインタフェース.....	148
図100 ネットワークデバイスのジョブ結果.....	149
図101 ネットワークデバイスのユーザ実行履歴.....	150
図102 ネットワークオブジェクト管理一覧.....	153
図103 ネットワークオブジェクト管理 - 基本情報.....	155
図104 ネットワークオブジェクト管理 - 収集コマンド.....	156
図105 ネットワークオブジェクト管理 - データ変換.....	156
図106 ネットワークオブジェクト管理 - ユーザ実行履歴.....	157
図107 ネットワークオブジェクト収集管理一覧.....	158
図108 ネットワークオブジェクト収集管理 - 基本情報.....	160
図109 ネットワークオブジェクト収集管理 - ネットワークオブジェクト.....	161
図110 ネットワークオブジェクト収集管理 - 対象デバイス.....	162
図111 ネットワークオブジェクト収集管理 - スケジュール.....	162
図112 ネットワークオブジェクト収集管理 - プロパティ.....	163
図113 ネットワークオブジェクト収集管理 - ロール.....	164
図114 ネットワークオブジェクト収集管理 - 実行結果.....	164
図115 ネットワークオブジェクト収集管理 - 実行結果の詳細.....	165
図116 ネットワークオブジェクト収集管理 - 照会結果.....	165
図117 ネットワークオブジェクト照会一覧.....	166
図118 ネットワークオブジェクト照会 - 基本情報.....	167
図119 ネットワークオブジェクト照会 - ネットワークオブジェクト.....	168
図120 ネットワークオブジェクト照会 - 対象デバイス.....	169
図121 ネットワークオブジェクト照会 - 照会結果.....	170
図122 ネットワークオブジェクト照会 - 現況照会.....	171
図123 入力コマンド実行.....	173
図124 登録コマンド.....	175
図125 登録コマンドの登録.....	176
図126 登録コマンドの修正.....	177
図127 入力コマンド実行 - 登録コマンドの修正.....	178
図128 制限コマンド.....	180
図129 制限コマンド登録.....	180

図130 制限コマンド修正	181
図131 構成リスト	184
図132 構成リスト登録 - ConfigurationFile.....	185
図133 プロパティ選択ポップアップ	186
図134 構成リスト修正 - ConfigurationFile.....	187
図135 構成リスト登録 - CustomObject	188
図136 構成リスト修正 - CustomObject	190
図137 構成リスト登録 - NetworkCustomObject.....	191
図138 構成リスト修正 - NetworkCustomObject.....	193
図139 構成リスト登録 - NetworkCustomCLIObject	194
図140 構成リスト修正 - NetworkCustomCLIObject	195
図141 構成リスト登録 - AgentlessCustomObject	196
図142 構成リスト修正 - AgentlessCustomObject	198
図143 点検グループ管理一覧.....	202
図144 点検グループ生成 - 基本情報	203
図145 点検グループ生成 - ポリシー設定.....	205
図146 ポリシー別ルールの比較値設定	205
図147 点検グループ管理のポリシー設定 - 対象外のデバイス.....	208
図148 点検グループ管理のポリシー設定 - 自動対策実行 (サーバ/エージェントレス).....	208
図149 点検グループ管理のポリシー設定 - 自動対策実行 (ネットワーク)	209
図150 点検グループ管理 - プロパティ設定.....	209
図151 構成リスト登録画面.....	210
図152 点検グループ管理の活用例 - 基本情報画面	211
図153 ポリシー項目選択及びルール設定画面.....	211
図154 点検グループ管理一覧.....	212
図155 点検グループ管理の詳細情報	213
図156 ジョブ一覧画面	213
図157 点検グループ管理削除.....	214
図158 プロパティ一括変更.....	214
図159 ファイルライブラリー一覧.....	216
図160 ファイルライブラリー登録 - 基本情報.....	217
図161 ファイルライブラリー登録 - ファイル.....	218
図162 ファイルがあるデバイス選択	219

図163 選択されたデバイスのファイル検索	219
図164 ファイル検索完了	219
図165 ファイルライブラリ - プロパティ.....	220
図166 スクリプトライブラリ一覧.....	222
図167 スクリプトライブラリ登録 - 基本情報.....	222
図168 スクリプトライブラリ登録 - スクリプト (スクリプト).....	223
図169 スクリプトライブラリ登録 - スクリプト (パラメータ).....	224
図170 スクリプトライブラリ登録 - プロパティ	225
図171 プロパティ一括変更.....	226
図172 点検ジョブ一覧から実行.....	228
図173 点検ジョブ詳細で実行.....	229
図174 点検ジョブ中止	230
図175 点検ジョブコピー	231
図176 コピーする対象グループ.....	231
図177 点検ジョブ削除	232
図178 ジョブ結果照会 - ジョブ.....	233
図179 点検ジョブの詳細結果.....	233
図180 ジョブ結果照会 - サーバ.....	234
図181 ジョブ結果照会 - ネットワーク	234
図182 ジョブ結果照会 - エージェントレス.....	235
図183 点検ジョブ - ユーザ実行履歴	236
図184 点検ジョブ一覧	237
図185 ジョブツリーで点検ジョブ生成メニュー.....	238
図186 サーバツリーで点検ジョブ生成メニュー.....	239
図187 点検ジョブ生成 - 基本情報	240
図188 点検ジョブ生成 - 点検グループ	241
図189 点検ジョブ生成 - 対象デバイス	242
図190 点検ジョブ生成 - スケジュール	243
図191 ジョブスケジュール設定画面	243
図192 ジョブスケジュールの1回設定画面.....	244
図193 ジョブスケジュールの毎日設定画面	244
図194 ジョブスケジュールの毎週設定画面	244
図195 ジョブスケジュールの毎月設定画面	244

図196 ジョブスケジュールの繰り返し設定画面.....	244
図197 点検ジョブ生成 - プロパティ	245
図198 点検ジョブ生成 - ロール.....	246
図199 点検ジョブ生成 - 通知設定	247
図200 点検ジョブ生成 - 通知設定(メール).....	247
図201 点検ジョブ生成 - 通知設定(SMS).....	248
図202 点検ジョブ生成 - 通知設定(REST)	248
図203 点検ジョブ - ジョブ結果タブ	248
図204 点検ジョブ - 結果タブ - 詳細結果.....	249
図205 点検ジョブ - 詳細ジョブ結果	249
図206 点検結果の詳細	250
図207 対策実行計画	251
図208 ファイル配布ジョブ一覧.....	252
図209 ジョブツリーでのファイル配布ジョブ生成メニュー	253
図210 サーバツリーでのファイル配布ジョブ生成メニュー	254
図211 ファイル配布ジョブ生成 - 基本情報	255
図212 ファイル配布ジョブ生成 - ライブラリ.....	256
図213 ファイル配布ジョブ生成 - 対象デバイス.....	257
図214 ファイル配布ジョブ生成 - ジョブ実行前/後のコマンド	258
図215 ファイル配布ジョブ生成 - プロパティ.....	260
図216 ファイル配布ジョブ生成 - ロール.....	261
図217 ファイル配布ジョブ生成 - 通知設定.....	262
図218 ファイル配布ジョブ - ジョブ結果タブ.....	262
図219 ファイル配布ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果.....	263
図220 ファイル配布ジョブ - 詳細ジョブ結果.....	263
図221 スクリプトジョブ一覧.....	264
図222 ジョブツリーでのスクリプトジョブ生成メニュー	266
図223 サーバツリーでのスクリプトジョブ生成メニュー	266
図224 スクリプトジョブ生成 - 基本情報.....	267
図225 スクリプトジョブ生成 - スクリプト.....	268
図226 スクリプトジョブ生成 - スクリプト (直接入力)	269
図227 スクリプトジョブ生成 - スクリプト (スクリプトライブラリ選択)	269
図228 スクリプトジョブ生成 - スクリプト入力 (スクリプトライブラリ選択)	269

図229 スクリプトジョブ生成 - 対象デバイス.....	271
図230 スクリプトジョブ生成 - プロパティ.....	272
図231 スクリプトジョブ生成 - ロール.....	273
図232 スクリプトジョブ生成 - 通知設定.....	274
図233 スクリプトジョブ - ジョブ結果タブ.....	275
図234 スクリプトジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果.....	275
図235 スクリプトジョブ - 詳細ジョブ結果.....	275
図236 ネットワークスクリプトジョブ一覧.....	276
図237 ジョブツリーでのネットワークスクリプトジョブ生成メニュー.....	277
図238 ネットワークツリーでのネットワークスクリプトジョブ生成メニュー.....	277
図239 ネットワークスクリプトジョブの生成 - 基本情報.....	278
図240 ネットワークスクリプトジョブ生成 - 対象デバイス.....	280
図241 ネットワークスクリプトジョブ生成 - プロパティ.....	281
図242 ネットワークスクリプトジョブ生成 - ロール.....	282
図243 ネットワークスクリプトジョブ生成 - 通知設定.....	283
図244 ネットワークスクリプトジョブ - ジョブ結果タブ.....	283
図245 ネットワークスクリプトジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果.....	284
図246 ネットワークスクリプトジョブ - 詳細ジョブ結果.....	284
図247 ファイル収集ジョブ一覧.....	285
図248 ジョブツリーでのファイル収集ジョブ生成メニュー.....	286
図249 サーバツリーでのファイル収集ジョブ生成メニュー.....	287
図250 ファイル収集ジョブ生成 - 基本情報.....	288
図251 ファイル収集ジョブ生成 - 保存場所.....	289
図252 ファイル収集ジョブ生成 - 収集ファイル.....	289
図2533 ファイル収集ジョブ生成 - 対象デバイス.....	290
図254 ファイル収集ジョブ生成 - ジョブ実行前/後のコマンド.....	291
図255 ファイル収集ジョブ生成 - プロパティ.....	293
図256 ファイル収集ジョブ生成 - ロール.....	294
図257 ファイル収集ジョブ生成 - 通知設定.....	295
図258 ファイル収集ジョブ - ジョブ結果タブ.....	295
図259 ファイル収集ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果.....	296
図260 ファイル収集ジョブ - 詳細ジョブ結果.....	296
図261 監査ジョブ一覧.....	297

図262 ジョブツリーでの監査ジョブ生成メニュー	298
図263 サーバツリーでの監査ジョブ生成メニュー	298
図264 監査ジョブ生成 - 基本情報	299
図265 監査ジョブ生成 - 監査項目	301
図266 監査ジョブ生成 - 対象デバイス	302
図267 監査ジョブ生成 - プロパティ	303
図268 監査ジョブ生成 - ロール	304
図269 監査ジョブ生成 - 通知設定	305
図270 監査ジョブ - ジョブ結果タブ	305
図271 監査ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果	306
図272 監査ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果(詳細表示)	306
図273 監査ジョブ - 詳細ジョブ結果	307
図274 Windows Updateジョブ一覧	308
図275 ジョブツリーでのWindows Updateジョブ生成メニュー	309
図276 サーバツリーでのWindows Updateジョブ生成メニュー	310
図277 Windows Updateジョブ生成 - 基本情報	311
図278 Windows Updateジョブ生成 - 対象デバイス	312
図279 Windows Updateジョブ生成 - 更新項目	313
図280 Windows Updateジョブ生成 - 更新項目	313
図281 Windows Updateジョブ生成 - オプション	314
図282 Windows Updateジョブ生成 - プロパティ	315
図283 Windows Updateジョブ生成 - ロール	316
図284 Windows Updateジョブ生成 - 通知設定	317
図285 Windows Updateジョブ - ジョブ結果タブ	318
図286 Windows Updateジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果	318
図287 Windows Updateジョブ - 詳細ジョブ結果	318
図288 バッチジョブ一覧	319
図289 ジョブツリーでのバッチジョブ生成メニュー	320
図290 バッチジョブ生成 - 基本情報	321
図291 バッチジョブ生成 - 対象ジョブ	322
図292 バッチジョブ生成 - 対象ジョブ追加	323
図293 バッチジョブ生成 - 対象デバイス	324
図294 バッチジョブ生成 - プロパティ	325

図295 バッチジョブ生成 - ロール	326
図296 バッチジョブ - ジョブ結果タブ	326
図297 バッチジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果	327
図298 データ比較ジョブ一覧.....	327
図299 ジョブツリーでのデータ比較ジョブ生成メニュー	328
図300 サーバツリーでのデータ比較ジョブ生成メニュー	329
図301 データ比較ジョブ生成 - 基本情報.....	330
図302 データ比較ジョブ生成 - 監査項目.....	331
図303 データ比較ジョブ生成 - 対象デバイス.....	332
図304 データ比較ジョブ生成 - データの入力.....	333
図305 データ比較ジョブ生成 - プロパティ.....	334
図306 データ比較ジョブ生成 - ロール	335
図307 データ比較ジョブ生成 - 通知設定.....	336
図308 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ.....	336
図309 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果	337
図310 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果(詳細表示)	337
図311 データ比較ジョブ - 詳細ジョブ結果.....	338
図312 クラウド一覧	339
図313 仮想サーバ全体の一覧.....	339
図314 クラウド詳細情報 - 基本情報	340
図315 クラウド詳細情報 - 仮想サーバ	341
図316 クラウド仮想サーバ登録 - プロパティ	342
図317 クラウド仮想サーバ登録 - クラウド仮想サーバ照会.....	342
図318 クラウド仮想サーバ登録 - 探索	343
図319 ダッシュボード一覧.....	344
図320 ダッシュボード登録.....	345
図321 ウィジェットの設定.....	346
図322 追加されたウィジェット画面	346
図323 複数のウィジェット追加結果	346
図324 登録完了したダッシュボード	347
図325 ダッシュボード修正.....	348
図326 ダッシュボード削除確認.....	348
図327 点検状況ウィジェット.....	350

図328 点検状況ウィジェット設定 - 基準項目	351
図329 Score statistics pluginプラグイン - Property For Groupプロパティ	352
図330 構成 > プロパティリスト > Device > ServerDevice > OS_TYPEプロパティ	352
図331 点検状況ウィジェット - 点検グループの分類	353
図332 点検状況ウィジェット - デバイス.....	353
図333 点検要約ウィジェット.....	354
図334 点検要約ウィジェット設定 - 全体.....	355
図335 点検要約ウィジェット設定 - OS_TYPE	356
図336 点検要約ウィジェット - Linux.....	356
図337 ジョブ結果状態ウィジェット	357
図338 ジョブ結果状態ウィジェット設定	357
図339 ショートカットウィジェット	358
図340 ショートカットウィジェット設定	359
図341 ショートカット - 種類.....	359
図342 ショートカット追加 - サーバ	360
図343 ショートカット - サーバ追加完了.....	360
図344 月別Windows Update適用サーバ数 (最新の更新基準)	361
図345 Windows重要更新の適用状況	362
図346 OS別のバージョン状況	363
図347 OS別のバージョン状況ウィジェット設定	363
図348 ジョブスケジュールの現況	364
図349 ジョブスケジュールの現況ウィジェット設定	365
図350 報告書テンプレート一覧.....	367
図351 報告書テンプレート登録.....	370
図352 報告書テンプレート修正	371
図353 報告書テンプレート削除	372
図354 報告書一覧	373
図355 報告書追加	374
図356 報告書修正	376
図357 報告書削除	377
図358 報告書コピー	378
図359 関連性情報表示	380
図360 サービス関連性情報管理	380

図361 お知らせ登録	382
図362 お知らせの照会	383
図363 システムプロパティ	386
図364 パスワードポリシー設定画面	387
図365 データ保存期間ポリシー画面	388
図366 データ保存期間ポリシーの履歴画面	391
図367 ライセンス情報	391
図368 プラグインの一覧画面	393
図369 プラグイン登録	395
図370 クラスタリング情報	396
図371 クレデンシャル管理一覧	397
図372 クレデンシャル削除	397
図373 クレデンシャル修正	398
図374 SSHクレデンシャル登録 - 基本情報	399
図375 AWSクレデンシャル登録 - 基本情報	400
図376 RESTクレデンシャル登録 - 基本情報	401
図377 RESTクレデンシャル - 基本情報	402
図378 AZUREクレデンシャル登録 - 基本情報	403
図379 GCPクレデンシャル登録 - 基本情報	404
図380 NOTIFY_RESTクレデンシャル登録 - 基本情報	405
図381 WMIクレデンシャル登録 - 基本情報	406
図382 SMTPメールサーバ情報	407
図383 HTTPメールサーバ情報	408
図384 テストメール送信	408
図385 SMS情報 - DB	410
図386 SMS情報 - HTTP	410
図387 SMS情報 - TCP	411
図388 SMS情報 - UDP	412
図389 テストSMS送信	412
図390 ライブオブジェクト照会の選択項目	413
図391 ライブオブジェクト照会のサーバプロパティ 選択項目	414
図392 ライブオブジェクト照会結果	415
図393 ライブオブジェクト照会の条件保存	415

図394 ライブオブジェクト照会の一括照会結果画面	416
図395 URLショートカット	416
図396 コンポーネントサービス > DCOMの構成	421
図397 Windows Management and Instrumentationプロパティ	422
図398 起動とアクティブ化のアクセス許可	422
図399 コンポーネントサービス > コンピュータ > マイコンピュータ	423
図400 マイコンピュータのプロパティ	423
図401 COMインターネットサービスのポート範囲の追加	424
図402 COMイントラネットサービスのプロパティ	425
図403 Windowsファイアウォール	426
図404 PCバージョンでの受信の規則使用	427
図405 サーババージョンでの受信の規則使用	427
図406 Windows Management Instrumentation (DCOM受信) - プロパティ	427
図407 Windows Management Instrumentation (DCOM受信) - 任意のIPアドレス設定..	428
図408 Windows Management Instrumentation (WMI受信) - プロパティ	428
図409 Windows Management Instrumentation (WMI受信) - 任意のIPアドレス設定	429
図410 ローカルポリシー - セキュリティオプション	430
図411 ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル	430
図412 レジストリエディター - Remote UAC権限設定	431
図413 LocalAccountTokenFilterPolicy値設定	432
図414 Windowsファイアウォール	432
図415 ファイルとプリンターの共有の受信の規則使用	433
図416 ファイルとプリンターの共有 (NB受信) - プロパティ	433
図417 ファイルとプリンターの共有 (NB受信) - 任意のIPアドレス設定	434
図418 ファイルとプリンターの共有 (SMB受信) - プロパティ	434
図419 ファイルとプリンターの共有 (SMB受信) - 任意のIPアドレス設定	435
図420 Windows Defenderファイアウォール	436
図421 許可されたアプリ	436
図422 アプリの追加	437
図423 java.exeアプリの追加	437
図424 構成リスト登録	446

POLESTAR Automationの概要

POLESTAR Automationは、サーバ及びネットワーク機器の構成管理、パッチ、監査、配布、設定変更、システム/セキュリティ点検などのITインフラ運用管理業務を自動化する製品です。

近年、ITインフラの運用環境は複雑なものとなり、また新たなビジネスに対する多様なリクエストが増加しているため、ITインフラ運用部門に対する迅速な対応へのニーズが高まりつつあります。POLESTAR Automationは、このようなニーズに応えるため、ITインフラ運用管理業務を自動化し、迅速かつ確実な処理を実現します。

POLESTAR Automationは、実際のサーバに変更する前に変更内容をモデリングして適切な実行方法を計画し、多数のサーバに同時作業を行うことができます。このような作業方法は、手作業による作業よりも安全な変更方法を提供します。このようなモデルは再利用が可能で、実行履歴が保存され、変更による障害発生時に迅速な問題の原因追跡が可能です。また、障害処理のように自動化が難しい運營業務でもPOLESTAR Automationは多様な管理ツール及び接続方法を提供し、迅速な業務処理が可能です。

事業継続のためには、障害を事前に予防することが重要です。POLESTAR Automationを活用してサーバのOS設定項目、セキュリティ、アプリケーション設定などに対する点検項目の遵守状況が点検できます。管理者は点検項目に違反している内容を把握し、潜在的な障害要因を事前に取り除くことができます。

ITインフラ運用担当者は、試行錯誤を重ねてミスを減らす運用ノウハウや手順を蓄積します。こうした経験から得た運用ノウハウや手順を、POLESTAR Automationを通じて他のITインフラ運用担当者と共有できます。このようなプロセスを通じて高度な運用ノウハウや手順が蓄積され、業務の完成度を高めていくことができます。完成度の高いツールの活用により、運用業務に要される時間が短縮され、障害の原因を事前に排除することができます。

システムアーキテクチャ

POLESTAR Automationは、UI、マネージャー、管理対象デバイスの3-tierアーキテクチャで構成されています。次の図は、3-tier構成のコンポーネント間の関連性を表しています。

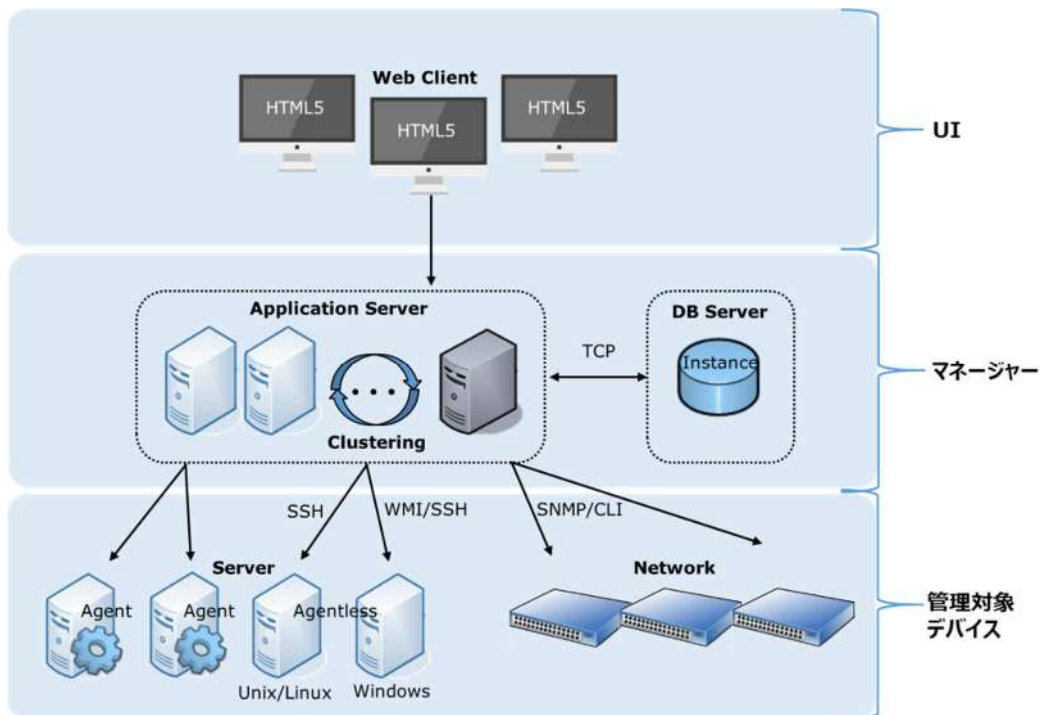


図1 POLESTAR Automationのアーキテクチャ

UIレイヤー

POLESTAR Automationは、HTML5ベースのユーザインタフェースを提供します。ユーザは、専用のクライアントをインストールすることなく、ウェブブラウザでPOLESTAR Automationの機能を使用できます。

マネージャーシステムレイヤー

マネージャーシステムはUIを介してユーザからリクエストを受けた後、DBとエージェントから情報を受け取り、ユーザに提供します。また、ユーザが登録したジョブを、定義したスケジュールに従って実行します。

マネージャーシステムの負荷は、ユーザ数やDBサイズ、実行するジョブ数が増加することで上昇します。

複数のマネージャーシステムをクラスタリング構成することで負荷が分散でき、高可用性を実現できます。

クラスタリング構成を採用した場合でも、ユーザはすべてのマネージャーシステムに接続し、同じ画面で操作することができます。

管理対象デバイスレイヤー

管理対象サーバは、エージェントとエージェントレスの2つの方法をサポートします。エージェントは管理対象サーバにインストールされ作動します。エージェントレスはLinux/Unixの場合管理対象サーバにSSHの設定を行うことで、Windowsの場合WMI接続方式でマネージャーシステムからのリクエストに応じてジョブを実行します。

ネットワークの場合、SNMP v1、v2c、v3方式で登録して構成情報を収集し、Telnet/SSH接続情報設定を行うことでコマンドを実行することができます。



備考：Windowsサーバを対象にエージェントレス方式を適用する場合、マネージャーがインストールされるOSはWindowsサーバでなければなりません。エージェントレス方式で登録可能なWindowsサーバは、付録「Windowsエージェントレスサーバのポリシー設定」のサポートが必要です。

アクセス制御

ロールベースのアクセス制御方式を提供します。ロールは権限リスト(ロールベースの認証参考)とアクセスできる**グループ**および**システムオブジェクト**リストを持っています。

グループとは、ユーザがシステムオブジェクトを静的及びスマートグループにグループ化することを意味します。

システムオブジェクトとは、ユーザが生成するオブジェクトを意味します。システムオブジェクトの種類にはサーバ、エージェントレス、ネットワーク、ジョブがあります。ユーザは1つ以上のロールが付与され、与えられたロールに割り当てられているシステムオブジェクトにアクセスできます。

ユーザの権限認証には、**ロールベース認証**と**オブジェクトベース認証**があります。システムオブジェクトの場合、ロールベース認証とオブジェクトベース認証が必要です。例えば、ユーザがAジョブを実行する場合、ジョブ実行権限を持つロールがあるかを確認するロールベース認証と、このロールが実際にAジョブに対するアクセス権限があるかを確認するオブジェクトベース認証を行います。システムオブジェクトを対象とするジョブではない場合、ロールベースの認証を行います。例えば、ユーザが登録済みコマンドを変更する場合、InstantCommandの書き込み権限があるロールが付与されていれば認証が行われ、該当のコマンドを変更することができます。

ツリー

ツリーの種類には、サーバ、ネットワーク、エージェントレス、ジョブ、クラウドがあります。各ツリーには、システムオブジェクトにアクセスし、データの確認と業務を行います。

すべてのツリーは、システムオブジェクトをグループとスマートグループとしてグループを生成することができます。**静的グループ**は対象を直接指定することができ、**スマートグループ**はプロパティ項目を条件定義して満たしたシステムオブジェクトを動的に構成することができます。例えば、ホスト名が「web」から始まるサーバのスマートグループを生成することができます、OS種別のスマートグループなど生成することができます。

サーバ

エージェントで登録したサーバの構成情報が確認できます。構成情報は、System Information、Account、Packages、Windows Application、Windows Service、Windows Update、FileExplorer、Windows Registryがあります。

ネットワーク

ネットワークの構成情報が確認できます。構成情報は、System Information、Network Interfacesがあります。

エージェントレス

エージェントレスで登録したサーバの構成情報が確認できます。構成情報は、System Informationがあります。

ジョブ

ジョブのツリーでは、業務を行うためのすべてのジョブを生成及び保存できます。生成できるジョブは以下の通りです。

- **点検ジョブ**：点検内容が遵守しているかを検証します。
- **監査ジョブ**：情報が変更されているかを確認します。
- **ファイル配布ジョブ**：ファイルをリモートサーバに配布します。
- **ファイル収集ジョブ**：ファイルを特定サーバに収集します。
- **スクリプトジョブ**：複数のサーバにスクリプトを実行します。
- **バッチジョブ**：複数のジョブを束ねて1つのジョブとして実行します。
- **Windows Updateジョブ**：WindowsサーバのOSアップデートを実行します。
- **ネットワークスクリプトジョブ**：複数のネットワーク機器にコマンドを実行します。
- **データ比較ジョブ**：サーバ/ネットワークコマンドを実行してデータの変更有無を確認します。

クラウド

クラウドツリーは、クレデンシャル情報とCloudScannerプラグインによって収集されたクラウドの基本情報、仮想サーバ情報を確認することができます。

はじめに

ウェブクライアント

HTML5を使用したウェブアプリケーションです。以下はウェブクライアントに接続するために必要な内容について説明します。

対応するウェブブラウザ

対応できるウェブブラウザ一覧です。

<表> ウェブクライアントをサポートするOSとブラウザ

プラットフォーム	OS	ウェブブラウザ
Windows	Windows 10/11、Windows Server	Google Chrome(最新)

解像度

推奨 : 1920 X 1080

最小 : 1366 X 768

ユーザログイン

ログインするためのアカウントは、管理者が新規ユーザを登録して生成されます。管理者が生成したパスワードは、ユーザがログインした時、パスワードを変更することができます。

ログイン画面は、ウェブブラウザでPOLESTAR Automationがインストールされているマネージャサーバのアドレス（例 : http://manager_ip_address）を入力すると表示されます。



図2 ログイン画面



備考：接続ポート（構築時の設定）が80や443でない場合は、ip_address:portのようにIPアドレスの後にポート番号を追加する必要があります。（例：http://manager_ip_address:port）

また、IPアドレスの代わりにドメインアドレスを設定した場合は、IPアドレスの代わりにドメインアドレスを入力する必要があります。（例：http://dca.nkia.net）

2段階認証

ログインに対する2段階認証機能を提供し、認証コードはユーザが設定したSMSまたはメールアドレスを通じて送信されます。ログイン2段階認証機能を通じて既存の認証機能を強化しました。

2段階認証設定は<install path>/conf/config.propertiesファイル内容の中、login.2Factor=trueを設定すると適用できます。ただし、**管理者 > 通知管理**にSMSまたはメールアドレスが設定されている必要があります。



備考：管理者はユーザのパスワード有効期間を設定することができます。ユーザがパスワード有効期間中にパスワードを変更しない場合、ログインが制限されます。ログインが制限されたユーザは、管理者に要請する必要があります。



備考：管理者は不正なユーザのログインを制限するために、不正なパスワードによるログイン失敗許容回数の指定ができます。ユーザが連続的にパスワードを間違えて入力した場合、ログインが制限されます。ログインが制限されたユーザは、管理者に要請する必要があります。

個人情報の設定及びパスワードの変更

ユーザは、ユーザ名、メールアドレス、電話番号、パスワードなどの個人情報を変更することが可能です。書き込み権限が付与されていないロールを持つユーザは、自分の権限を修正することができません。権限の変更が必要な場合は管理者に問い合わせてください。

個人情報及びパスワードの変更は、次の手順で行います。

[手順]

1. ログインします。メイン画面が表示されます。

画面の右側上部のユーザアイコンをクリックし、**個人情報変更**ボタンをクリックすると個人情報変更画面が表示されます。

図3 個人情報変更

2. パスワードを変更する場合は、**パスワード変更**ボタンをクリックし、現在のパスワードを入力して新しいパスワードと確認するためのパスワードを入力します。
3. 個人設定情報を修正するためには、個人情報項目の内容を修正します。
4. **保存**ボタンをクリックします。



備考：最初に表示されるページのURL情報を入力すると、ログイン時に最初の画面が入力されたURL画面で表示されます。入力しないときは、**管理者 > システム管理 > システムプロパティ**の「最初に表示されるページのURL情報」に入力された値で最初の画面が表示されます。

ユーザインタフェース

ユーザインタフェースはPOLESTAR Automationの機能を使用できるよう、次の3つのメイン領域に区分されます。

- メニュー領域
- ツリー領域

- 情報表示領域



図4 ユーザインタフェース

メニュー領域

メニューの構成は次のようになります。

- **ダッシュボード**：点検状況及びジョブ実行結果などのウィジェットでユーザがダッシュボード画面を生成する機能を提供します。
- **運用**：入力コマンド実行、ライブオブジェクト照会、点検結果照会、Windows Update管理、お知らせに関わる機能を提供します。
- **構成**：サーバ登録、ジョブ生成、プロパティリストなどの構成に関わる機能を提供します。
- **報告書**：報告書生成と報告書自動転送などに関わる機能を提供します。
- **管理者**：新規ユーザ生成、ロール権限設定などの管理者向けの機能を提供します。
- その他に、個人情報変更、ログアウトメニューがあります。



備考：詳細メニューは、ログインしたユーザの権限によって使用できるメニューのみ利用可能です。

ツリー領域

選択したツリーに属するグループ及びシステムオブジェクトを探索することができます。



図5 ツリー選択

各ツリーのオブジェクトにマウスをポイントさせると、実行可能なコンテキストメニューが表示されます。



備考： ツリーで対象上にマウスを乗せると、小さな逆三角形アイコン(▼)が表示されます。これをクリックすると実行できるメニューが確認できます。

管理対象デバイスのツリー

管理対象デバイスのツリーには、サーバ、ネットワーク、エージェントレスがあります。各ツリーはユーザが持つロールでアクセスが可能なデバイスを表示します。ユーザは各デバイスのライブオブジェクトを確認することができ、コマンド実行機能を使用することができます。管理対象デバイスのツリーのコンテキストメニューは、次のようになります。

<表> 管理対象デバイスツリーで使用可能なコンテキストメニュー

メニュー名	説明
接続チェック	デバイスの接続状態をチェックします。
構成情報スキャン	構成情報をスキャンしてDBに保存します。
名称を変更	デバイス名を変更します。
グループ削除	静的グループに属するオブジェクトを削除します。ただし、スマートグループに属するオブジェクトは削除できま

	せん。仮にデバイスグループを削除しても表示されないだけで、実際の管理対象から削除されるわけではありません。
入力コマンド実行	運用 > 入力コマンド実行 に対象デバイスに設定されます。
静的グループ生成	デバイスを直接に指定してグループ化する場合に使います。
スマートグループ生成	特定の条件でデバイスをグループ化する場合に使います。デバイスを新規に追加する場合、合致する条件に従って、特定のグループに自動で割り当てられます。
サーバ/エージェントレス/ネットワーク登録	選択したグループにサーバ/エージェントレス/ネットワークを登録します。
点検ジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、点検ジョブを生成します。
監査ジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、監査ジョブを生成します。
スクリプトジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、スクリプトジョブを生成します。
ファイル配布ジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、ファイル配布ジョブを生成します。
ファイル収集ジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、ファイル収集ジョブを生成します。
Windows Updateジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、Windows Updateジョブを生成します。
ネットワークスクリプトジョブ生成	グループまたはデバイスに対して、ネットワークスクリプトジョブを生成します。
データ比較ジョブ	グループまたはデバイスに対して、データ比較ジョブを生成します。
ロール一括変更	グループに属しているデバイスのロールを一括で追加または削除します。
プロパティ一括変更	グループに属しているデバイスのプロパティを一括で変更します。一括で変更可能な一部のプロパティに限って変更できます。

情報	デバイスの詳細画面に移動します。
----	------------------



備考：コンテキストメニューは、選択したデバイスの種類と権限によって異なります。ユーザに権限のないメニューは選択できません。

ジョブツリー

ジョブツリーでは、ジョブを生成、修正、実行及び実行結果を照会することができます。

- **点検ジョブ**：点検項目を遵守しているかを検証します。
- **監査ジョブ**：情報が変更されていることを確認します。
- **ファイル配布ジョブ**：ファイルを対象サーバに配布します。
- **ファイル収集ジョブ**：ファイルを特定のサーバに収集します。
- **スクリプトジョブ**：リモートサーバにスクリプトを実行します。
- **バッチジョブ**：複数のジョブを1つにまとめて実行します。
- **Windows Updateジョブ**：WindowsサーバのOSパッチを実行します。
- **データ比較ジョブ**：比較データに基づいてデータが同一であることを確認します。
- **ネットワークスクリプトジョブ**：複数のネットワーク機器にコマンドを実行します。

<表> ジョブツリーで使用可能なコンテキストメニュー

メニュー名	説明
名称を変更	ジョブ名を変更します。
グループ削除	グループに属しているオブジェクトを削除します。スマートグループに属しているオブジェクトは削除されず、ここで削除されたとしても実際の管理対象から除外されるわけではありません。
静的グループ生成	ジョブを直接に指定してグループ化する場合に使います。
スマートグループ生成	ジョブを条件でグループ化する場合に使います。ジョブを新規に追加する場合、合致する条件に従って特定のグループに自動で割り当てられます。
点検ジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ、エージェントレス、ネットワーク）に基づいて点検ジョブを生成します。
監査ジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ、エージェントレス、ネットワーク）に基づいて監査ジョブを生成します。

バッチジョブ生成	選択したグループや対象デバイスに基づいてバッチジョブを生成します。
スクリプトジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ、エージェントレス）に基づいてスクリプトジョブを生成します。
ファイル配布ジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ、エージェントレス）に基づいてファイル配布ジョブを生成します。
ファイル収集ジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ）に基づいてファイル収集ジョブを生成します。
Windows Updateジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ）に基づいてWindows Updateジョブを生成します。
データ比較ジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（サーバ、エージェントレス、ネットワーク）に基づいてデータ比較ジョブを生成します。
ネットワークスクリプトジョブ生成	選択したグループや対象デバイス（ネットワーク）に基づいてネットワークスクリプトジョブを生成します。
ロール一括変更	グループに属しているジョブのロールを一括で追加/削除します。
プロパティ一括変更	グループに属しているジョブのプロパティを一括で変更します。（一括で変更可能な一部のプロパティに限って変更できます。）
情報	ジョブの詳細画面に移動します。

クラウドツリー

クラウドツリーでは、ユーザが持つロールにアクセスできるクラウドを表示します。

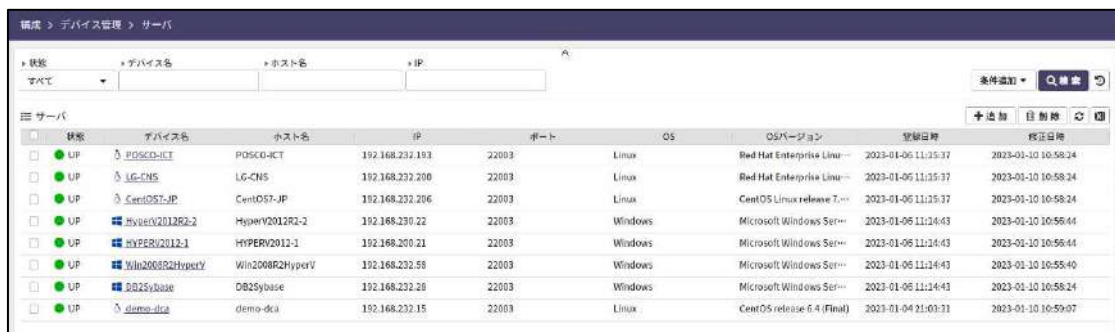
<表> クラウドツリーで使用可能なコンテキストメニュー

メニュー名	説明
名称を変更	クラウドの名称を変更します。
グループ削除	グループに属しているオブジェクトを削除します。スマートグループに属しているオブジェクトは削除されず、ここで削除されたとしても実際の管理対象から除外されるわけではありません。
静的グループ生成	直接に指定してグループ化する場合に使います。
スマートグループ生成	グラントを条件でグループ化する場合に使います。新規にクラウドが追加する場合、合致する条件に従って特定のグループに自動で割り当てられます。

ロール一括変更	グループに属しているジョブのロールを一括で追加/削除します。
プロパティ一括変更	グループに属しているジョブのプロパティを一括で変更します。（一括で変更可能な一部のプロパティに限って変更できます。）
情報	クラウドの詳細画面に移動します。

情報表示領域

ツリーからオブジェクトを選択したり、メニューを選択すると情報表示領域に詳細内容が表示されます。クリックされたメニューのパスは、画面上部のパンくずリストから確認できます。



状態	デバイス名	ホスト名	IP	ポート	OS	OSバージョン	登録日時	修正日時
UP	POSCD-ICT	POSCD-ICT	192.168.232.193	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:25:37	2023-01-10 10:58:24
UP	LG-CMS	LG-CMS	192.168.232.200	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:25:37	2023-01-10 10:58:24
UP	CentOS7-JP	CentOS7-JP	192.168.232.206	22003	Linux	CentOS Linux release 7.9.2009...	2023-01-06 11:25:37	2023-01-10 10:58:24
UP	HyperV2012R2-2	HyperV2012R2-2	192.168.230.22	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:24:43	2023-01-10 10:56:44
UP	HYPERV2012-1	HYPERV2012-1	192.168.200.21	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:24:43	2023-01-10 10:56:44
UP	Win2008R2HyperV	Win2008R2HyperV	192.168.232.58	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:24:43	2023-01-10 10:55:40
UP	DB2Sybase	DB2Sybase	192.168.232.28	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:24:43	2023-01-10 10:56:24
UP	demo-dca	demo-dca	192.168.232.15	22003	Linux	CentOS release 6.4 (Final)	2023-01-04 21:03:31	2023-01-10 10:59:07

図6 情報表示領域



備考： UIテーマは色設定を通じて変更することができます。設定はconfig.propertiesファイルの`ui.theme_color`値を変更します。デフォルト値は、`#454169`に設定されています。

ツリー構成

ツリーは、静的グループとスマートグループを通じてオブジェクトをグループ化できます。グループは対象システムオブジェクトを参照します。1つのシステムオブジェクトが複数のグループに含まれる場合があります。また、グループを削除しても含まれているシステムオブジェクトは削除されません。

静的グループは、ユーザが対象を指定して構成します。**スマートグループ**は、システムオブジェクトのプロパティに基づいて条件を定義してグループ化します。システムオブジェクトが指定した条件に合致すると、該当するグループに自動的に属することになります。**スマートグループ**は

システムオブジェクトのグループ化が容易に行えます。例えば、ユーザはOS_TYPEプロパティを利用してWindowsサーバを対象とするスマートグループが生成できます。このように生成されたスマートグループには、すべてのWindowsサーバが自動的に属します。

対象システムオブジェクトに設定されたロール、プロパティを一括で変更できます。

ツリー上段右側のコンテキストメニューアイコン(☰)で静的/スマートグループ生成及びロール/プロパティ一括変更ができます。



備考： グループは、構成結果によってグループ間の親子関係を持つ階層構造で生成されます。これらのグループの親子関係は、グループのメンバー定義に影響を与えません。例えば、Aグループの子グループでBグループがあれば、AグループにaオブジェクトがなくてもBグループにaオブジェクトを割り当てることができます。

静的グループ生成

静的グループを生成する手順は、次のようになります。

[手順]

1. 静的グループをツリーの最上位にグループを生成したい場合には、ツリーのコンテキストで**静的グループ生成**をクリックします。グループを他のグループのサブグループとして生成する場合は、該当グループのコンテキストメニューから**静的グループ生成**をクリックします。

図7 静的グループ生成 - 基本情報

2. **グループ名**はツリー上に表示される名称を意味します。説明はグループの詳細内容を入力します。グループパスには上位グループの指定ができ、最上位に生成する場合はパス値を設定せずに次へボタンをクリックします。
3. サーバのツリーではサーバが対象になり、その他のオブジェクト（ネットワーク、エージェントレス、ジョブ、クラウド）のツリーでは各オブジェクトが対象になります。対象を指定する方法は、ツリーで選択した対象を右側に移動します。

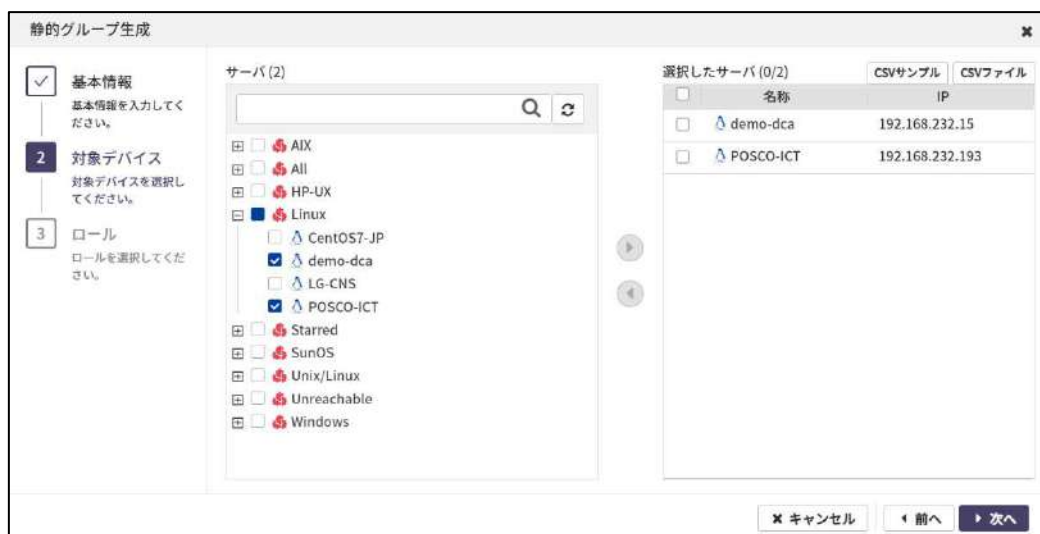


図8 静的グループ生成 - 対象設定

- **CSVサンプル**：対象デバイスをCSV形式で設定可能なサンプルファイルです。サンプルファイルをダウンロードした後、設定したいデバイスのホスト名を入力します。
 - **CSVファイル**：設定したいCSVファイルを選択して対象デバイスを設定します。
4. 次は、ロールを設定するステップです。生成したグループに対する接続可能なロールを設定します。選択したロールを持つユーザはグループを見ることができます。

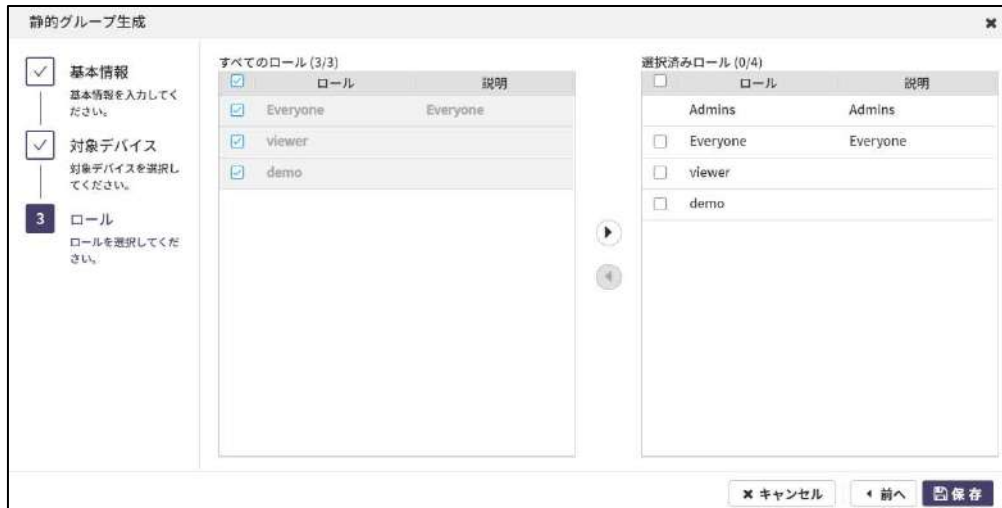


図9 静的グループ生成 - ロール設定

- 最後に**保存**ボタンをクリックすると、静的グループの生成が完了します。生成したグループはツリーで確認できます。

スマートグループ生成

スマートグループを生成する手順は、次のようになります。

[手順]

- スマートグループをツリーの最上位にグループを生成したい場合には、ツリーのコンテキストで**スマートグループ生成**をクリックします。グループを他のグループのサブグループとして生成する場合は、該当グループのコンテキストメニューから**スマートグループ生成**をクリックします。

図10 スマートグループ生成 - 基本情報

2. グループ名はツリー上に表示される名称を意味します。説明はグループの詳細内容を入力します。グループパスには上位グループの指定ができ、最上位に生成する場合はパス値を設定せずに次へボタンをクリックします。
3. 次はスマートグループに対して条件を設定するステップです。条件が複数の場合は、[+] ボタンをクリックすると、新しい条件の入力ができます。条件はANDまたはORで連絡します。
 - **AND条件**：システムオブジェクトが定義したすべての条件を満たすと該当のグループに割り当てられます。
 - **OR条件**：システムオブジェクトが定義した条件の中、1つ以上の条件を満たすと該当のグループに割り当てられます。



図11 スマートグループ追加 - 条件

4. 条件別にユーザは該当オブジェクトのプロパティを条件として指定できます。図11はOS_TYPE、STARRED、IPADDRESSというプロパティ項目を条件に指定したものです。条件の比較演算を提供し、各演算子はプロパティのデータタイプによって異なります。

- 比較演算子を選択します。比較演算子には、=, <>, <, <=, >, >=, is null, is not null, equals ignore case, contains, not contains, starts with, ends withがあります。選択できる比較演算子は、プロパティタイプによって決まります。
- 比較する値を入力します。比較する値の入力方法はプロパティのデータタイプによって決まります。比較する値の入力数は1つが一般的ですが、比較演算子がis null、is not nullの場合は入力する値がありません。
- 条件を追加する場合は [+] をクリックして追加できます。また、条件を削除する場合は、 [-] をクリックして削除できます。

5. 条件が正常に登録されているかを確認するためにはプレビューボタンをクリックします。プレビューを通じて条件に合致するシステムオブジェクトを照会します。結果が照会できなかった場合は再度条件を設定します。

6. 次のステップはロールを設定するステップです。生成したグループに対する接続可能なロールを設定します。選択したロールを持つユーザはグループを見ることができます。

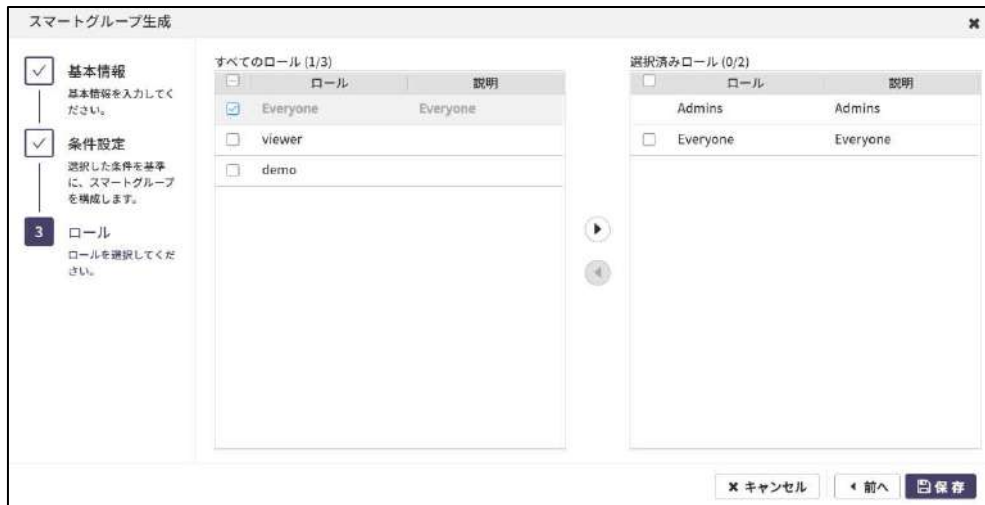


図12 スマートグループ生成 - ロール

7. 最後に保存ボタンをクリックすると、スマートグループの生成が完了します。生成したグループはツリーで確認できます。

ロール一括変更

ロール一括変更手順は、次のようになります。

[手順]

1. ツリーのコンテキストメニューで**ロール一括変更**をクリックします。



図13 ローラー括変更

2. 変更したい対象サーバ（グループ）をチェックして右側に移動します。またはCSVファイルをダウンロードした後、CSVファイルアップロードで対象を設定します。
3. 追加するロールの**ロール選択**ボタンをクリックして追加したいロールを選択します。
4. 削除するロールの**ロール選択**ボタンをクリックして削除したいロールを選択します。
5. **保存**ボタンをクリックします。

プロパティー括変更

プロパティー括変更手順は、次のようになります。

[手順]

1. ツリーのコンテキストメニューで**プロパティー括変更**をクリックします。

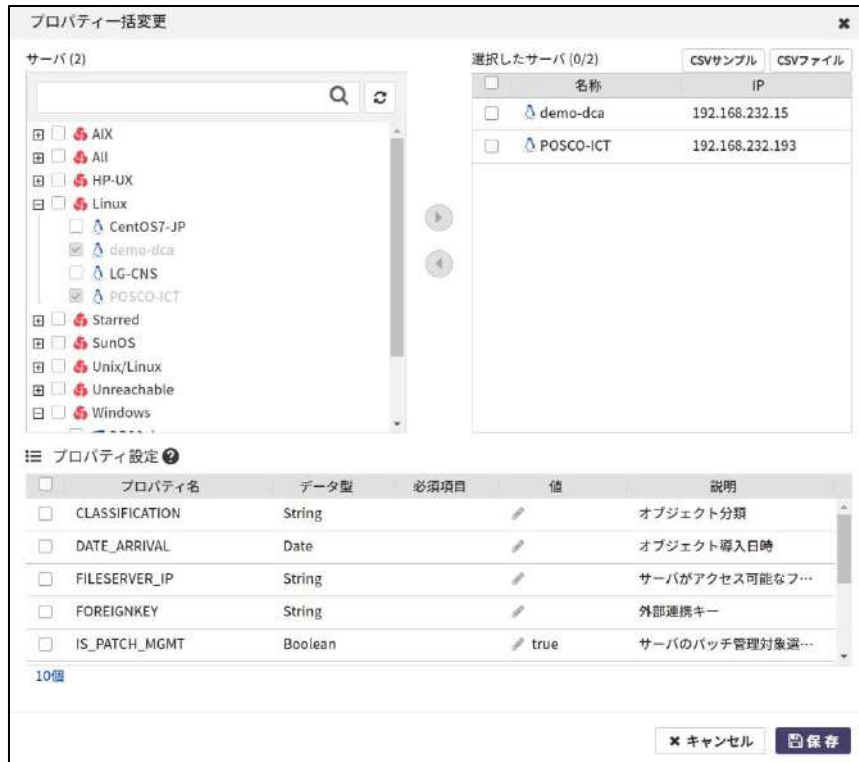


図14 プロパティ一括変更

2. 変更したい対象サーバ（グループ）をチェックして右側に移動します。またはCSVファイルをダウンロードした後、CSVファイルアップロードで対象を設定します。
3. 変更するプロパティをチェックした後、値を変更します。
4. **保存**ボタンをクリックします。

ネットワーク接続情報の一括変更

マイコンピュータを利用する接続情報の一括変更手順は、次のようになります。

[手順]

1. ネットワークツリーのコンテキストメニューで**接続情報の一括変更**をクリックします。
2. CSVファイルを利用して変更します。



図15 接続情報の一括変更 - [マイコンピュータ]選択

3. [#IP (必須),Snmp Port (必須),Account>Password,Connect Type (必須),Connect Port (必須),Enable Password]形式でCSVファイルを生成します。
4. **マイコンピュータ**ボタンをクリックして生成したCSVファイルをアップロードします。
5. **変更**ボタンをクリックします。
6. **接続情報および結果のダウンロード**ボタンをクリックして結果を確認します。

ツリーを利用する接続情報の一括変更手順は、次のようになります。

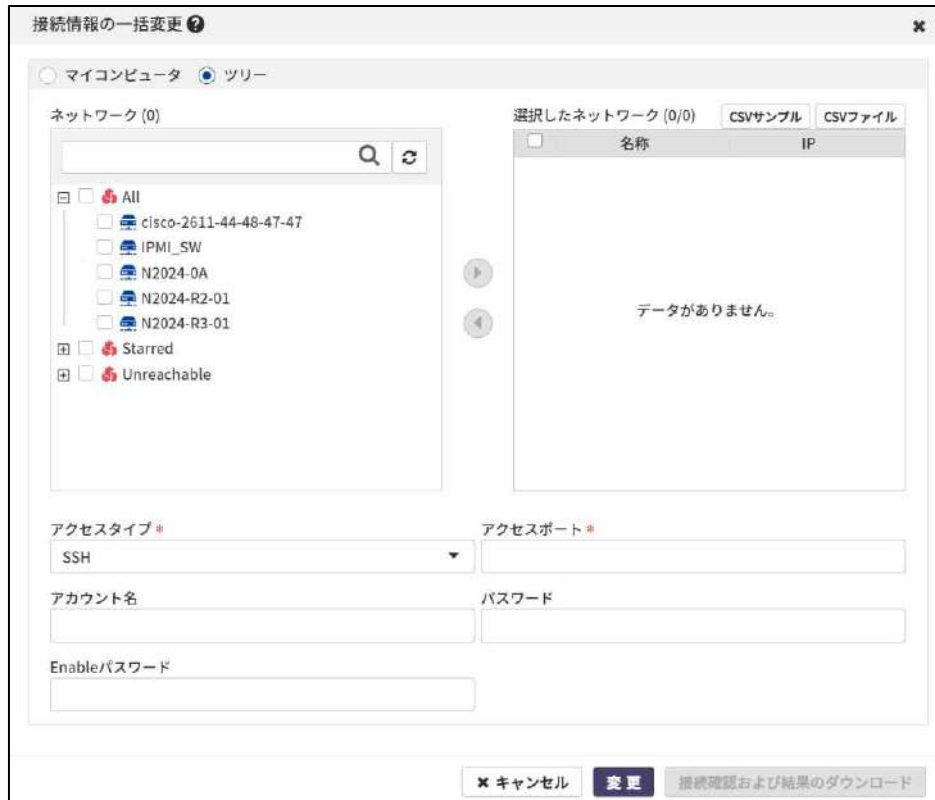


図16 接続情報の一括変更 - [ツリー]選択

1. **ツリー**をクリックして変更する対象デバイスを選択します。
2. アカウント名、パスワード、アクセスタイプ、アクセスポート、Enableパスワードを入力します。
3. **変更**ボタンをクリックします。
4. **接続情報および結果のダウンロード**ボタンをクリックして結果を確認します。

システムオブジェクトプロパティ

システムオブジェクトは固有のプロパティを持っています。プロパティは、**構成 > プロパティリスト**で定義します。また、ユーザは定義したプロパティをスマートグループ、コマンド実行、ジョブ実行、構成リストなどでプロパティを利用できます。

プロパティリストは継承の概念が適用されます。最上位オブジェクトのシステムオブジェクトが保持するプロパティはサブオブジェクトにも継承されます。

基本プロパティはビルトインされており、ユーザ定義によるプロパティ定義も可能です。

最上位タイプはシステムオブジェクトで、システムオブジェクトのプロパティは生成日時、変更日時、名称などがあります。

システムオブジェクトプロパティが使用される例です。Tomcatがインストールされた複数のサーバにセキュリティ問題が発生し、修正されたweb.xmlを一括的に配布しようとしています。この場合、Tomcatが各システムに異なるパスにインストールされているため、ユーザはServerDeviceプロパティにTOMCAT_INSTALLED_PATHを定義し、当該プロパティを利用して一括変更作業を行うことができます。この場合、WindowsサーバはC:\Program Files\Tomcatで、Unix/Linuxサーバは/usr/local/tomcatでTOMCAT_INSTALLED_PATHを定義します。このようにプロパティを利用してユーザはファイル配布ジョブを利用して一括的にTomcatが設置されたサーバに変更作業を行うことができます。

また、プロパティは主要な用途でスマートグループに使用することができます。サーバに担当部署プロパティを定義し、担当部署が**DB管理チーム**である値を持つサーバのみグループ化できます。

プロパティリスト

プロパティでリストは、システムオブジェクトが持つプロパティを定義します。同じタイプのシステムオブジェクトの場合、プロパティ名は異なるように設定する必要があります。



参考：必須項目に設定されたプロパティは設定をしないと、登録及び修正作業を行うことができません。

プロパティ名	タイプ	データ型	検証可能	必須項目	読取	ライフ	ユーザ定義	デフォルト値	説明
CLASSIFICATION	Device	String	✓		✓				オブジェクト分類
CREATED_DATE	SystemObject	Date							オブジェクト生成日時
CREATED_USER	SystemObject	String							オブジェクト生成ユーザ
DESCRIPTION	SystemObject	String							オブジェクト説明
FOREIGNKEY	Device	String	✓						外部連携キー
HOSTNAME	Device	String							ホスト名
IPADDRESS	Device	String							IPアドレス
LAST_PERSIST	Device	Date							最後にシステム...
LAST_MODIFIED	Device	Date							オブジェクト最終変更日時
MANAGER_GROUP	Device	String	✓		✓				接続可能なマネ...
MODIFIED_DATE	SystemObject	Date							オブジェクト最終変更日時
MODIFIED_USER	SystemObject	String							オブジェクト最終変更ユーザ
NAME	SystemObject	String							オブジェクト名
OS_TYPE	SystemObject	String							OS種類
REACHABLE	Device	Boolean						true	マネージャ...
STARRED	SystemObject	Boolean	✓					false	特定のオブジェ...
SYSTEM_ID	SystemObject	Integer						0	システムで使用...

図17 プロパティリスト

プロパティには、システムにビルトインされている**ビルトインプロパティ**と**ユーザ定義プロパティ**があります。ビルトインプロパティは、ユーザによって一部項目の変更はできますが削除はできません。

ビルトインプロパティの種類は、次のようになります。

<表> ビルトインプロパティ

プロパティ名	システムオブジェクトタイプ	説明
DESCRIPTION	SystemObject	オブジェクト説明
OS_TYPE	SystemObject	OS種類
CREATED_USER	SystemObject	オブジェクト生成ユーザ
MODIFIED_USER	SystemObject	最後にオブジェクトを変更したユーザ
CREATED_DATE	SystemObject	オブジェクト生成日時
MODIFIED_DATE	SystemObject	オブジェクト最終変更日時
STARRED	SystemObject	特定のオブジェクトに対して星マーク
NAME	SystemObject	オブジェクト名
SYSTEM_ID	SystemObject	システムで使用するオブジェクトID情報
CLASSIFICATION	Compliance Device	オブジェクト分類

	Library Job	
SCHEDULE_PAUSE	Job CiNetwork	スケジュール作業と即時実行の中止設定
NUM_OF_THREADS	Job	同時に実行するジョブ対象数。全体のジョブ対象を並列に実行するには、0に設定します。1に設定すると、ジョブ対象は1個ずつ順次実行されます。
JOB_TIMEOUT	Job	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
IS_SCHEDULED	Job CiNetwork	スケジュール登録の有無
IS_AGENTLESS	Job	エージェントレスを設定する
JOB_TYPE	Job	ジョブ種類

AGENT_TIMEOUT	DeployJob ScriptJob	エージェントへのリクエスト（ファイル配布、スクリプト実行など）に対する完了までの最大待ち時間（分）。タイムアウト時間までにリクエストが完了しない場合、作業中止後に失敗として処理します。タイムアウトを0に設定した場合、基本設定されている最大のタイムアウトが適用されます。
JOB_CODE	ScriptJob	外部と連動するためのジョブコード
STOP_ON_ERROR	BatchJob	先行ジョブ結果にエラーがある場合、ジョブを停止して終了します。サブジョブが同時に実行されている場合は、エラーが発生しても終了しません。
EXPECT_TIMEOUT	NetworkScriptJob	デバイスごとの1行ごとにExpectコマンド完了まで待機する最大時間(秒)です。タイムアウト時間までに、1行ごとにExpectコマンドの実行が終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。
MANAGER_GROUP	Device	接続可能なマネージャースystemグループ。クラスタリング環境で接続可能なマネージャースystemが限られた場合に設定します。
REACHABLE	Device	マネージャースystemとネットワーク接続の可否
HOSTNAME	Device	ホスト名
IPADDRESS	Device	IPアドレス
LAST_PERSISTED_TIME	Device	最後にシステム情報をDBストレージに保存した時間
LAST_UPDATE_PROPERTY_TIME	Device	ライブ属性を持つプロパティの最

		新アップデート時間
FOREIGNKEY	Device	外部連携キー
AGENT_VERSION	ServerDevice	エージェントバージョン
DATE_ARRIVAL	ServerDevice	オブジェクト導入日時
FILESERVER_IP	ServerDevice	サーバがアクセス可能なファイル サーバIP
IS_PATCH_MGMT	ServerDevice	サーバのパッチ管理対象選択設定
OS_NAME_LIVE	ServerDevice	OS名
OS_PATCH_LIVE	ServerDevice	OSパッチ名
OS_VERSION_LIVE	ServerDevice NetworkDevice	OSバージョン
SCRIPT_EXECUTION_FORBIDDEN	ServerDevice	スクリプト実行禁止を選択（true の場合、スクリプト実行は禁止さ れます。）
TEMP_DIRECTORY	ServerDevice	エージェントのtempディレクトリ です。別途設定しない場合、エー ジェント基本tempディレクトリを 使用します。
UNMANAGED_SOFTWARE_SERVER	ServerDevice	ソフトウェア収集対象デバイスか ら除きます。
MODEL	NetworkDevice	ネットワーク機器のモデル
NETWORK_TYPE	NetworkDevice	ネットワーク機器のタイプ
VENDOR	NetworkDevice	ネットワーク機器のメーカー
ENTERPRISE_NUMBER	NetworkDevice	ベンダーから提供するenterprise number
SYS_OBJECT_ID	NetworkDevice	ベンダが提供するSysObjectID
CONNECT_FORBIDDEN	NetworkDevice	ネットワーク機器接続の禁止設定
ENABLE_PASSWORD	NetworkDevice	ネットワーク機器への接続情報のe nableパスワード設定をプロパティ として使用できます。
CLOUD_CREDENTIAL_NAME	AgentlessDevice	SSHクレデンシャルに適用された クラウドクレデンシャルの名称で す。クレデンシャルの詳細設定

		は、「管理者 > クレデンシャル管理」で確認できます。
CLOUD_RESOURCE_ID	AgentlessDevice	クラウド環境で使用中の仮想サーバの固有管理IDです。
CLOUD_TAGS	AgentlessDevice Cloud	クラウドで指定されたタグが表示されます。
CLOUD_TYPE	AgentlessDevice Cloud	AWS, AZURE, GCP
CREDENTIAL_NAME	AgentlessDevice	SSHクレデンシャルに適用されたクレデンシャルの名称です。クレデンシャルの詳細設定は、「管理者 > クレデンシャル管理」で確認できます。
RUN_TIMEOUT_MIN	CiNetwork	デバイスごとにネットワークオブジェクト収集が完了するまでの最大待機時間(分)。タイムアウト時間までに作業が完了しない場合、実行を強制的にキャンセルさせます。タイムアウトさせないようにするには0に設定します。



注意 : SCRIPT_EXECUTION_FORBIDDENプロパティは、サーバに特定のスクリプト(コマンド)が終了できないエラーが発生する場合、そのサーバに継続的に特定のコマンドを実行できないように設定するプロパティです。

点検や情報収集作業が実行される時、特定のスクリプト(コマンド)が終了できない場合、設定値が自動的にtrueに変更され、「true」になった後には、運用者がサーバにアクセスしてその現象を確認して手動でサーバのSCRIPT_EXECUTION_FORBIDDEN値をfalseに変更すれば、点検や情報収集作業を実行できます。



注意 : CONNECT_FORBIDDENは、ネットワーク接続情報が間違っている場合、そのネットワークに継続的に接続しないように設定する項目です。

点検や情報収集作業を実行して接続が失敗になる場合、設定値が自動的にtrueに変更されます。trueになった後には、運用者がネットワークにアクセスして、ネットワーク接続

情報を修正した後、CONNECT_FORBIDDEN値をfalseに変更すれば、点検や情報収集作業を実行できます。

複数のシステムオブジェクトタイプが存在し、各システムオブジェクトタイプは階層的関係を持ちます。

最上位システムオブジェクトのサブオブジェクトは、Compliance、Device、Job、Libraryなどがあります。各タイプは階層構造を持ちます。

システムオブジェクトタイプの階層構造は、次のようになります。

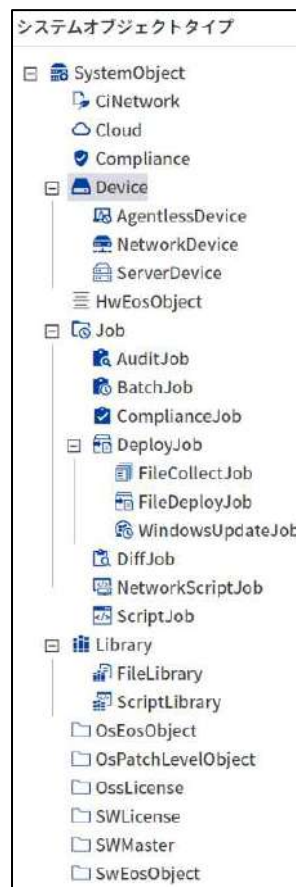


図18 システムオブジェクトタイプのレイヤー構造

各システムオブジェクトは固有の機能を実行するオブジェクトです。各オブジェクトに対する詳細説明は、次のようになります。

<表> システムオブジェクトの種類

システムオブジェクト	上位タイプ	説明
------------	-------	----

オブジェクト名	継承先	説明
SystemObject	なし	最上位のシステムオブジェクトタイプ、すべてのシステムオブジェクトが継承
CiNetwork	なし	ネットワーク構成管理のプロパティ
Cloud	なし	クラウドデバイスのプロパティ
Compliance	SystemObject	点検グループのポリシーを定義しているシステムオブジェクトプロパティ
Device	SystemObject	デバイスの最上位プロパティ
ServerDevice	Device	サーバのプロパティ
NetworkDevice	Device	ネットワーク機器のプロパティ
AgentlessDevice	Device	エージェントレスで登録したサーバのプロパティ
Job	SystemObject	ジョブの最上位システムオブジェクトプロパティ
AuditJob	Job	監査ジョブのプロパティ
BatchJob	Job	バッチジョブのプロパティ
ComplianceJob	Job	点検ジョブのプロパティ
DeployJob	Job	配布ジョブの最上位ジョブプロパティ
FileCollectJob	DeployJob	ファイル収集ジョブのプロパティ
FileDeployJob	DeployJob	ファイル配布ジョブのプロパティ
WindowsUpdateJob	DeployJob	Windows Updateジョブのプロパティ
Diff Job	Job	データ比較ジョブのプロパティ
ScriptJob	Job	スクリプトジョブのプロパティ
NetworkScriptJob	Job	ネットワークスクリプトジョブのプロパティ
Library	SystemObject	ファイル、ソフトウェアのようなパッケージを表すシステムオブジェクトのプロパティ
FileLibrary	Library	ファイルライブラリのプロパティ
ScriptLibrary	Library	スクリプトライブラリのプロパティ
OsEosObject	SystemObject	OS EOSのプロパティ
OsPatchLevelObject	SystemObject	OSパッチレベルのプロパティ
OssLicense	SystemObject	ソフトウェアOSSのプロパティ

SWLicense	SystemObject	ソフトウェアライセンスのプロパティ
SWMaster	SystemObject	ソフトウェア収集管理のプロパティ
SwEosObject	SystemObject	ソフトウェアEOSのプロパティ

プロパティ追加/変更

ユーザはオブジェクトに定義されたプロパティリストに対して**ユーザ定義プロパティ**を、追加/変更することができます。追加されたユーザ定義プロパティは、権限を持つすべてのユーザが照会でき、書き込み権限を持つユーザは追加、変更ができ、削除権限を持つユーザは削除ができます。

もし、追加したプロパティがDeviceオブジェクトの場合、そのプロパティはサブオブジェクトであるServerDeviceオブジェクトにも継承されます。

プロパティ追加

新規のプロパティ追加は、**構成 > プロパティリスト**メニューから行います。追加手順は次のようになります。

[手順]

1. **構成 > プロパティリスト**を選択して、現在管理しているプロパティ情報を照会します。
2. **追加**ボタンをクリックすると、プロパティ追加画面が表示されます。



図19 プロパティ追加画面

- **プロパティ名**：定義するプロパティ名を入力します。
- **データタイプ**：プロパティに値のデータタイプを設定します。データタイプには、String、Integer、 Boolean、 Dateがあります。

<表> プロパティのデータタイプ

データタイプ	説明	例
Integer	整数型データ	例) 0、1、-2など
String	文字列データ	例) 顧客名、担当者名など
Date	日付形式のデータ	例) 2010-12-13 13:40:40
Boolean	真/偽形式のデータ	例) trueまたはfalse



参考：日付タイプで定義されたプロパティは、カレンダーコンポーネントを使って値を入力します。

- **選択オプション**：プロパティオオプションを定義できる項目です。
 - ✓ **範囲**：予め定義された値の一覧から、プロパティ値を選択するオプションです。この場合、階層構造別にプロパティ値が定義可能です。**追加**ボタンをクリック

して項目を追加し、追加された項目にマウスを乗せると表示される逆三角形の追加/削除メニューをクリックすることで下位項目の追加及び削除ができます。範囲に定義可能なデータタイプはIntegerとStringです。



備考：追加したプロパティのオプションが**範囲**で定義される場合、ユーザは定義された値の中でのみ設定できます。



注意：階層構造は、**2段階**まで設定可能です。

図20 プロパティ追加時の範囲定義

- ✓ **修正可能**：システムオブジェクトのプロパティ値をユーザが修正できるようになります。ユーザが追加した項目はデフォルトでチェックされます。



注意：選択オプションで**修正可能**のチェックを入れない場合、システムオブジェクトには常にデフォルト値が設定されます。もし、デフォルト値の設定がない場合は値が設定されておらず、修正もできません。

- ✓ **必須項目**：システムオブジェクトを登録するときにプロパティ値を必須入力しなければならないオプションです。初期値はデフォルト値が保存されます。

- ✓ **ライブ** : サーバのライブオブジェクトの情報をプロパティ化する場合に設定します。例えば、サーバのOSバージョンをプロパティでとして定義できます。

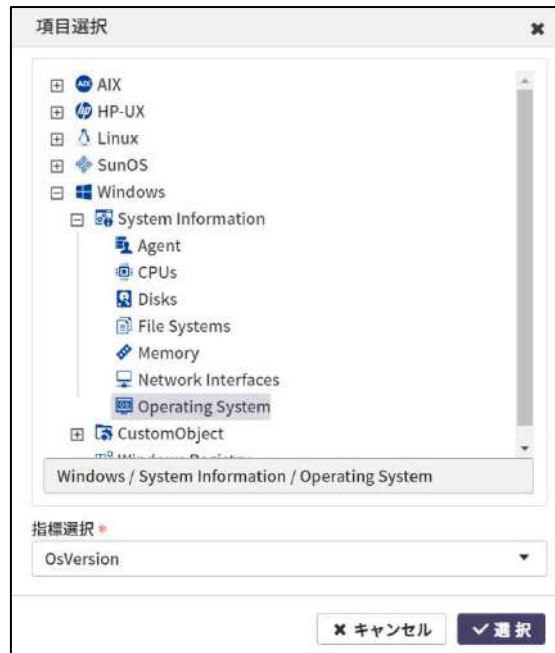


図21 プロパティ追加のライブオブジェクト定義でOperating Systemを選択した例

- すべての項目を入力したら、**保存**ボタンをクリックします。保存せずに終了させる場合は**キャンセル**ボタンをクリックします。

プロパティ修正

オブジェクトのプロパティ修正は、**構成 > プロパティリスト**から実行できます。実行手順は次のようになります。

[手順]

- 構成 > プロパティリスト**を選択し、現在管理しているプロパティ一覧を照会します。
- 修正するプロパティをダブルクリックして修正画面が表示されます。修正できる項目はプロパティの種類によって異なります。システムに内蔵されている基本プロパティは、修正可能な項目が限られます。

図22 プロパティ修正

- 修正が完了したら、**保存**ボタンをクリックします。もし、保存せずにキャンセルする場合は**キャンセル**ボタンをクリックします。

プロパティ削除

構成 > **プロパティリスト**から実行できます。削除する項目にチェックを入れた後、**削除**をクリックします。ユーザ定義プロパティのみ削除可能で、ビルトインプロパティは削除できません。

プロパティの活用

プロパティは、色々な機能で活用され、スマートグループ、構成リストなどで使用できます。

- **スマートグループ**：プロパティ値に対する条件を定義し、対象オブジェクトを自動でグループ化して構成できます。
- **構成リスト**：構成リストを登録する際に、サーバに定義されているプロパティを変数として使用できます。



備考 : プロパティを変数として使う場合、\$\$プロパティ名\$\$の形式で入力します。
 プロパティを変数として使う場合、**対象サーバ**のプロパティ値が変数に代入されます。
 例) サーバ別に存在するプロパティの中、\$\$IP_ADDRESS\$\$を使用する場合、該当サーバのIPアドレスを代入

スマートグループ

スマートグループは、プロパティに対する条件を定義して、該当条件に合致するオブジェクトを動的に構成しグループ化します。

ユーザは、サーバを効率的に管理するため、OS別にサーバを配置したり、重要度/部署別にサーバを配置したりする場合があります。この場合、ユーザはサーバ(ServerDevice)に対するプロパティとしてOS種別(OS_TYPE : 基本項目)、重要度(STARRED : 基本項目)、部署別(DEPARTMENT : ユーザ定義項目)を活用して、スマートグループが生成できます。以下の例は、OS_TYPEがLinuxで設定されたスマートグループの情報です。

状態	デバイス名	ホスト名	IP	ポート	OS	OSバージョン	登録日時	修正日時
UP	EOSCO-ICT	POSICO-ICT	192.168.232.193	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	LE-CHS	LG-CHS	192.168.232.200	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	CentOS7_IP	CentOS7_IP	192.168.232.206	22003	Linux	CentOS Linux release 7....	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	demo-dca	demo-dca	192.168.232.15	22003	Linux	CentOS release 6.4 (Final)	2023-01-04 21:03:31	2023-01-10 10:59:07

図23 スマートグループ - Linux

構成リスト

システム定義オブジェクトとユーザ定義オブジェクトに分類され、構成リストはユーザ定義オブジェクトであるConfigurationFileとCustomObjectを定義することができます。

構成リストにファイルまたはコマンドを登録する際に、サーバ別に異なる項目をプロパティに登録して変数として使用できます。結果に各サーバのIP、ホスト名情報を出力する場合、サーバのプロパティを利用して表現できます。

構成リスト登録

タイプ *
CustomObject

名称 *
サーバ情報収集

グループ * OS *
運用 × Unix/Linux

構文解析器 スクリプト種類 *
value.grammar Shell

実行アカウント タイムアウト 重要度
名称を入力してください。 1分 上

説明

コマンド パラメータ

コマンド * プロパティ マイコンピュータ

```
1 echo $HOSTNAME$$
2 echo $$IPADDRESS$$
3
4 uname -a
```

点検基準 対策実行ガイド 基本ポリシー

点検基準を入力してください。
点検結果は入力された点検基準として表示されます。

キャンセル 保存

図24 構成リストでプロパティ変数を使用する画面

プロパティを変数として使う場合は、\$\$プロパティ名\$\$の形式で入力します。プロパティは、形式に従って直接入力するか、プロパティボタンをクリックしてプロパティを選択できます。



図25 プロパティ選択

アクセス制御

アクセス制御には**ロールベース認証**と**オブジェクトベース認証**があります。

セキュリティ上のリスクを最小限にするため、実行する作業に対して制限を掛けることができます。デバイスの情報収集やスクリプト実行などでの情報変更作業をロールベースのアクセス制御を通じて制限することができ、ユーザの権限に応じた設定が可能です。

認証方式の理解

ロールベース認証とオブジェクトベース認証を通じて、アクセス制御を管理します。ロールには、役割や目的に応じた権限が付与されます。役割は管理者、運用者のように役割に基づいての分類され、部署などの組織で分類することができます。オブジェクトは、デバイス、ジョブなどが含まれます。各オブジェクトに対して読み取り権限、書き込み権限、削除権限、実行権限などに分けてアクセス制御ができます。

ロールベース認証と**オブジェクトベース認証**で構成された計2段階の権限体系を持っています。

ロールベース認証

管理者アカウントであるadminは、ロールの定義や管理ができます。またロール管理ができる権限が付与されている別の管理者も、ロールの定義や管理ができます。

管理者は、システム管理者やDBMS管理者のような役割と、部署/組織に分類してロールを定義します。

ロールを定義した後、権限を付与します。権限には次のような種類があります。

<表> 権限の種類

区分	説明
AgentlessDevice	エージェントレスに対するアクセス権限
AuditJob	監査ジョブに対するアクセス権限
BatchJob	バッチジョブに対するアクセス権限
Bulletin	お知らせの管理権限
CiNetwork	ネットワーク構成管理に対するアクセス権限
Cloud	クラウド管理に対するアクセス権限
Compliance	点検グループに対するアクセス権限
ComplianceJob	点検ジョブに対するアクセス権限
ConfigurationDictionary	構成リストに対するアクセス権限
Credential	クレデンシャル管理に対するアクセス権限
Dependency	関連情報管理に対するアクセス権限
DiffJob	データ比較ジョブに対するアクセス権限
FileCollectJob	ファイル収集ジョブに対するアクセス権限
FileDeployJob	ファイル配布ジョブに対するアクセス権限
ForbiddenCommand	禁止コマンドに対するアクセス権限
HwEosObject	ハードウェアEOSに対するアクセス権限
InstantCommand	入力コマンド実行に対するアクセス権限
Job	ジョブ管理に対するアクセス権限
Library	ライブラリに対するアクセス権限
LiveObjectSearch	ライブオブジェクト照会に対するアクセス権限
NetworkDevice	ネットワーク機器に対するアクセス権限
NetworkScriptJob	ネットワークスクリプトジョブに対するアクセス権限
Notification	通知管理に対するアクセス権限

ObjectGroup	グループに対するアクセス権限
OsEosObject	OS EOSに対するアクセス権限
OsPatchLevelObject	OSパッチレベルに対するアクセス権限
OssLicense	ソフトウェアOSS管理に対するアクセス権限
Plugin	プラグインに対するアクセス権限
PropertyClass	プロパティリストに対するアクセス権限
Report	報告書に対するアクセス管理権限
Role	ロールに対するアクセス管理権限
SWLicense	ソフトウェアライセンス管理に対するアクセス権限
SWMaster	ソフトウェア収集管理に対するアクセス権限
ScriptJob	スクリプトジョブに対するアクセス権限
ServerDevice	サーバに対するアクセス権限
SwEosObject	ソフトウェアEOS管理に対するアクセス権限
SystemAdministration	システム管理メニューに対するアクセス権限
User	ユーザ管理メニューに対するアクセス権限
WidgetDashboard	ダッシュボード管理に対するアクセス権限
WindowsUpdateJob	Windows Updateジョブに対するアクセス権限
WindowsUpdateMaster	Windows Update分析に対するアクセス権限

権限はメニューに対するアクセスとオブジェクトに対するアクセスを制御することができます。例えば、権限の種類中、Userには読み取り、書き込み、削除の3つの権限があります。Userの読み取り権限は、**管理者 > ユーザ管理**メニューを使用でき、ユーザー一覧も照会できます。Userの書き込み権限はユーザの作成及び修正が可能で、削除権限はユーザを削除する権限です。

権限の種類中、ScripJobには読み取り、書き込み、削除、実行の4つの権限があります。読み取り権限は生成されたジョブを確認でき、書き込みはジョブの生成及び修正が可能です。削除権限は生成されたジョブを削除でき、実行権限は生成されたジョブを実行できます。ScripJob権限は、割り当てられたスクリプトジョブに対してのみ権限を行使できます。



注意：ロールの権限を修正した場合、該当ロールが付与されているユーザはブラウザを更新する必要があります。

オブジェクトベース認証

デバイスやジョブに対して、オブジェクトベースの認証を提供します。オブジェクトベースアクセス制御は オブジェクト生成ユーザ及び管理者が権限を付与します。

デバイス(サーバ、ネットワーク、エージェントレス)のアクセス制御

デバイス(サーバ、ネットワーク、エージェントレス)のアクセス制御は、デバイス登録時に割り当てることができ、基本情報からロールを修正することができます。次の図は、デバイスの基本情報からロールを確認する画面です。

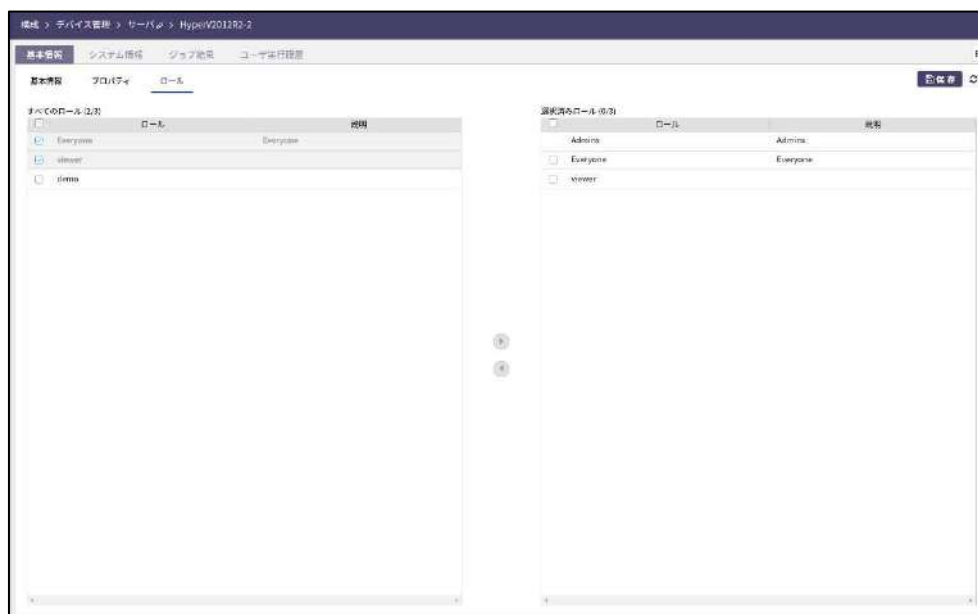


図26 サーバにViewerロール追加

ジョブのアクセス制御

ジョブのアクセス制御は、ジョブごとに作成する際に権限を付与することができ、各ジョブの基本情報でロールを付与または削除することができます。

グループのアクセス制御

グループのアクセス制御は、静的グループまたはスマートグループの生成時に割り当てることができ、グループプロパティからロールを修正することができます。グループはツリー基準でオブジェクトベースでなく、グループベースでの制御ができる機能を提供します。次の図は、グループにViewerロールを追加する画面です。

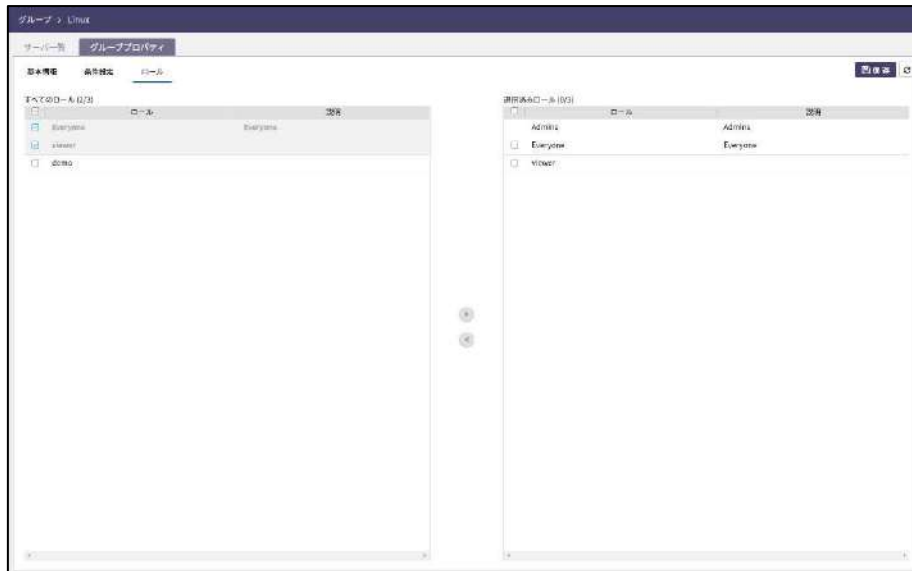


図27 グループにViewerロール追加

次の図は、管理者が見るジョブツリーグループとViewerが見るジョブツリーグループです。

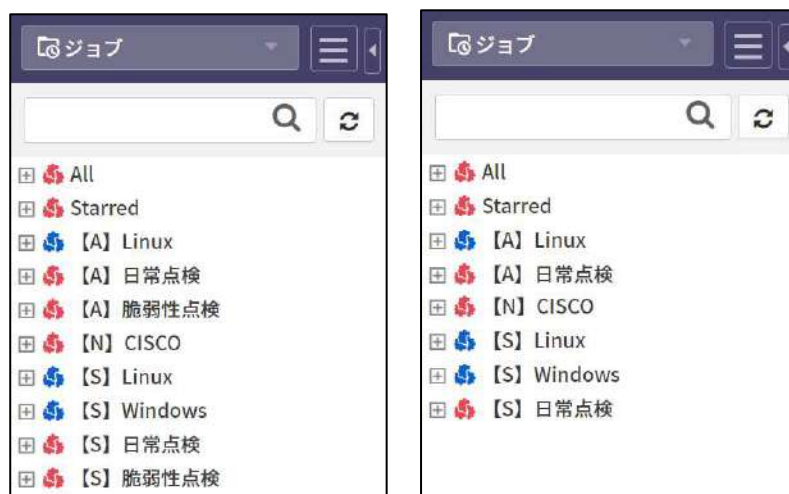


図28 システム管理者(左)とViewer(右)のジョブグループツリー



備考：基本提供する管理者ロールである**Admins**は、すべてのオブジェクトに対して読み取り権限、書き込み権限、削除権限が付与されます。Adminsロールは削除できません

ん。

ロール生成

ロールは、基本管理者アカウントである**admin**とロール管理権限が付与されたユーザーのみアクセスできます。**管理者 > ロール設定**から生成や変更、削除が可能です。

管理者は必要に応じて、ロールを生成することができます。ロールに付与する種類とアクセス権限（読み取り/書き込み/削除/実行）の設定と、どのユーザーに付与するかの設定を行います。

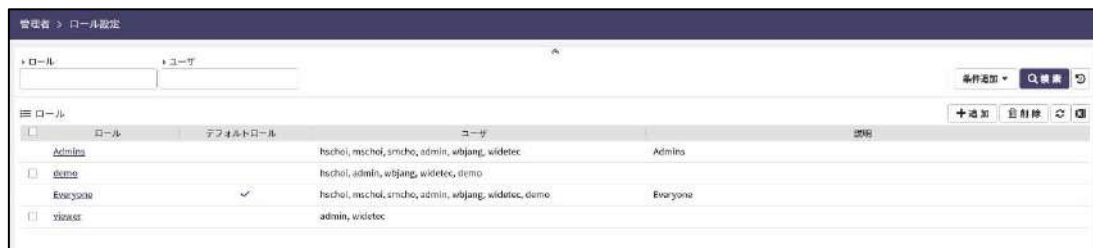


図29 ロール一覧

[手順]

1. **管理者 > ロール設定**をクリックします。
2. ロール管理画面で**追加**をクリックします。
3. ロール登録画面が表示されます。
4. ロールの基本情報を入力します。
5. ロールの権限を設定します。
6. ロールを付与するユーザーを追加します。
7. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

基本情報

ロールの基本情報を入力するステップで、ロール名と説明を入力します。デフォルトロールにチェックを入れるとユーザーを登録する場合の基本ロールになります。

登録されたロールの適用で、既存に登録されたロール情報を呼び出し適用できます。

ロール登録

1 基本情報
基本情報を入力してください。

2 権限
権限を設定してください。

3 ユーザ
ユーザを登録してください。

名称*

説明

デフォルトロール

登録されたロールの適用

キャンセル 前へ 次へ

図30 ロール基本情報

権限設定

権限設定は、アクセス可能なメニューとオブジェクト及びグループに対する読み取り、書き込み、削除、実行権限を付与します。

ロール登録

基本情報
基本情報を入力してください。

2 権限
権限を設定してください。

3 ユーザ
ユーザを登録してください。

権限名	<input checked="" type="checkbox"/> 読み取り	<input type="checkbox"/> 書き込み	<input type="checkbox"/> 削除	<input type="checkbox"/> 実行
AgentlessDevice	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
AuditJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
BatchJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Bulletin	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
CiNetwork	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Cloud	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Compliance	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ComplianceJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ConfigurationDict...	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Credential	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Dependency	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Diff Job	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
41個				

キャンセル 前へ 次へ

図31 ロールの権限設定

[手順]

1. 各権限に読み取り、書き込み、削除、実行に対して**チェック**ボタンをクリックします。
2. **次へ**ボタンをクリックします。



備考：基本的に提供されるロールは、管理者ロールである**Admins**とすべてのユーザに割り当てられる**Everyone**があります。基本提供ロールは削除できません。

ユーザ設定

ユーザ設定は、ロールを付与するユーザを選択するステップです。



図32 ロールのユーザ設定

すべての設定が完了したら、**保存**ボタンをクリックします。

ユーザ生成

ユーザとは、ログインして操作可能な使用者を意味し、**管理者** > **ユーザ管理**で管理できます。

ユーザ管理には、デフォルトで提供される管理者アカウントであるadminと、ユーザ権限を含むロールが付与されたユーザのみアクセスできます。User権限で読み取り権限のみ付与されている場合は、ユーザー一覧とユーザの詳細情報のみ照会ができます。書き込み権限が付与されている場合は、ユーザ生成及び修正ができます。削除権限が付与されている場合は、ユーザの削除ができます。ユーザは、複数のロールを持つことができます。

管理者 > ユーザ管理

ユーザID ユーザ名

条件追加 🔍 検索 🗄

ユーザ管理 ログイン履歴一括付与 CSVの追加 +追加 削除 🔄 🗑

<input type="checkbox"/>	ユーザID	ユーザ名	ロール	会社	部署	ログイン不可	登録日時	説明
<input type="checkbox"/>	demo	demo	Everyone,demo			<input checked="" type="checkbox"/>	2023-01-10 09:50:20	
<input type="checkbox"/>	widetec	widetec	Admins,Everyone,viewer,demo	widetec		<input type="checkbox"/>	2023-01-06 15:15:50	
<input type="checkbox"/>	smcho	smcho	Admins,Everyone	Nkia		<input type="checkbox"/>	2023-01-06 15:15:07	
<input type="checkbox"/>	mschoi	mschoi	Admins,Everyone	Nkia		<input type="checkbox"/>	2023-01-06 15:14:19	
<input type="checkbox"/>	wbjang	wbjang	Admins,Everyone,demo	Nkia		<input type="checkbox"/>	2023-01-06 15:12:02	
<input type="checkbox"/>	hschoi	hschoi	Admins,Everyone,demo	Nkia	R&D ITeam	<input type="checkbox"/>	2023-01-03 20:01:50	
<input type="checkbox"/>	admin	admin	Admins,Everyone,viewer,demo			<input type="checkbox"/>	2023-01-03 19:23:08	Polestar Automation

図33 ユーザー一覧照会

ユーザ情報修正 ✕

ユーザID *
admin

ユーザ名 *
admin

説明
Polestar Automation Administrator

パスワード変更

次回のログイン時にパスワードを変更

ログイン不可

会社
[空欄]

部署
[空欄]

メールアドレス
メールアドレスを入力してください。

電話番号
電話番号を入力してください。

ロール *
Admins,Everyone,viewer,demo

図34 ユーザ詳細情報

[手順]

1. 管理者 > ユーザ管理メニューをクリックします。
2. 追加ボタンをクリックします。
3. ユーザ追加画面が表示されます。
4. 基本情報を入力します。

- **ユーザID** : ログイン時に使うIDを入力します。
- ユーザ名、説明、パスワード、会社、部署、メールアドレス、電話番号を入力します。
- **次回のログイン時にパスワードを変更** : 該当ユーザの次回ログイン時にパスワード変更画面が実行されます。
- **ログイン不可** : ログイン不可がチェックされたユーザは、ログインのみ制限することです。該当ユーザが保持する情報は維持されます。

5. ユーザに付与するロールを選択します。
6. **保存ボタン**をクリックしてユーザを生成します。

多数のユーザを登録する場合は、CSVの追加ボタンをクリックして直接入力またはファイルアップロードの2つの方法で登録を進めることができます。

[手順]

1. **管理者** > **ユーザ管理**メニューをクリックします。
2. **CSVの追加**ボタンをクリックします。
3. CSV登録画面が表示されます。
4. ファイルアップロード方式
 - **ファイルアップロード** : サンプルCSVダウンロードをクリックして形式に合わせて情報を入力した後にファイルアップロードを通してユーザ登録を行います。
5. 直接入力方式

図35 CSVの追加 - 直接入力

6. CSVフォーマットで登録するユーザ情報を入力します。

<表> 項目の種類

区分	必須項目	説明
user_id	○	ユーザID ※ 登録済みユーザと重複する場合、失敗処理されます。
user_name	○	ユーザ名
company		会社名
dept		部署名
mobile_phone		携帯電話 番号
email		メールアドレス
description		説明 (3000bytesまで入力可能です。)

7. **保存**ボタンをクリックするとユーザが登録されます。



備考 : ユーザ管理コラムの中でログイン不可は、画面で空白、vで表現されますが、Excel保存時にはfalse、trueに表示されます。

システムオブジェクトに対するロールの指定

システムオブジェクトの種類にはサーバ、エージェントレス、ネットワーク、ジョブがあります。

対象のオブジェクトにロールを割り当てると、該当ロールを持つユーザは対象オブジェクトにアクセスできます。

対象オブジェクトにロールを指定する方法で、各システムオブジェクトの基本情報画面で**ロール設定**と、ツリーグループのコンテキストメニューの**ロール一括変更**から設定する方法があります。

個別ロール設定

新規生成時にロール設定ステップと登録されたシステムオブジェクトの場合は詳細情報で基本情報タブのロールで設定可能です。

静的グループ生成画面でロールを付与する手順は、次のようになります。

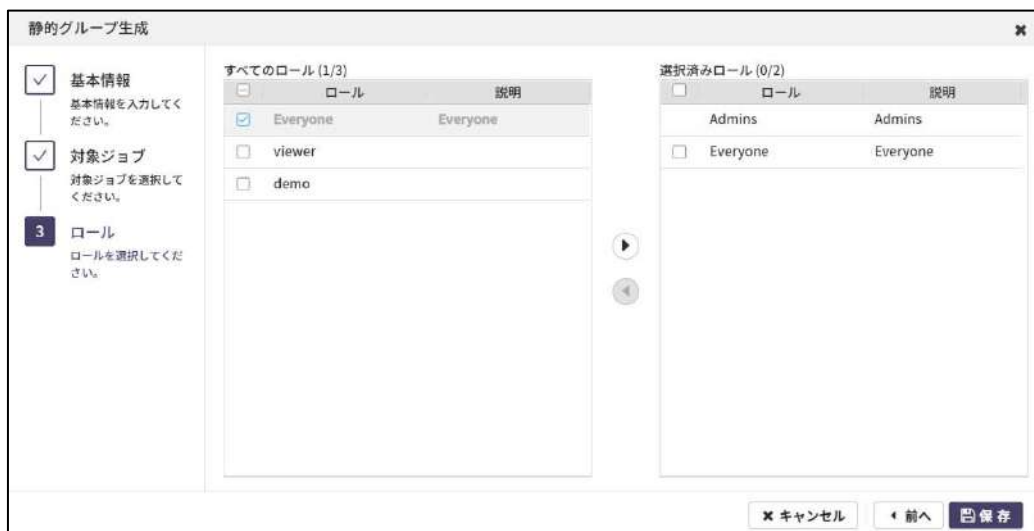


図36 静的グループ生成のロール設定

[手順]

1. サーバツリーの上段メニューで**静的グループ生成**メニューまたはグループのコンテキストメニューで**静的グループ生成**メニューをクリックします。
2. 静的グループ生成のロール設定ステップで対象ロールを選択します。
3. **保存**ボタンをクリックします。

登録済みシステムオブジェクトのロールを修正する手順は、次のようになります。

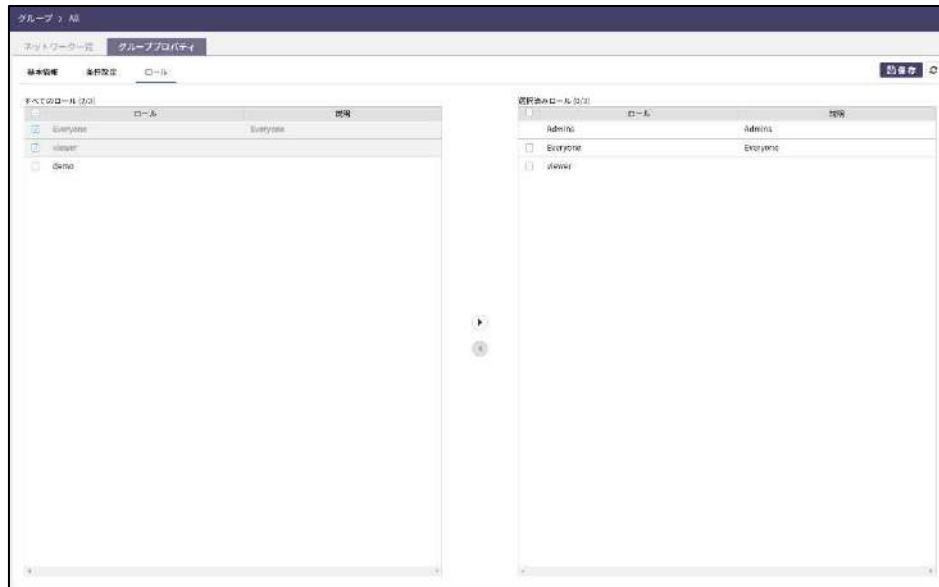


図37 登録済みシステムオブジェクトのロール修正

[手順]

1. サーバツリーに生成したグループをクリックします。
2. グループプロパティ画面でロールタブをクリックし、変更したいロールを変更して**保存**ボタンをクリックします。

ロール一括変更

ロール一括変更機能を使い、複数のオブジェクトのロールが一括変更できます。

ロールを一括変更する手順は、次のようになります。



図38 ロール一括変更

[手順]

1. グループのコンテキストメニューで**ロール一括変更**をクリックします。
2. 変更するシステムオブジェクトを選択します。
3. **追加するロール**から**ロール選択**ボタンをクリックし、追加したいロールを選択します。
4. **削除するロール**から**ロール選択**ボタンをクリックし、削除したいロールを選択します。

システム基本ロールとユーザ

システムからデフォルトで提供されるロールとユーザがあります。基本ロールとユーザに対する権限と機能について説明します。

システム基本提供ロール

システムからデフォルトで提供されるロールは**Admins**です。

Adminsロールは、システムオブジェクトに対して読み取り、書き込み、削除、実行権限が自動で付与されます。adminユーザはAdminsロールがデフォルトで付与されます。

権限名	読み取り	書き込み	削除	実行
AgentlessDevice	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
AuditJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
BatchJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Bulletin	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
CINetwork	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Cloud	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Compliance	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ComplianceJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ConfigurationDictionary	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Credential	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Dependency	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
DiffJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
FileCollectJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
FileDeployJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ForbiddenCommand	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
HiExObject	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
InstantCommand	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Job	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Library	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
LiveObjectSearch	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
NetworkDevice	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
NetworkScriptJob	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Notification	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ObjectGroup	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
OsExObject	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
OsPatchLevelObject	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
OsLicense	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

図39 Adminsロールの基本権限設定



参考：Adminsロールはシステム管理者のための用途であり、adminユーザに基本的に提供するロールです。Adminsロールに設定されたadminユーザは除外できません。

システム管理者アカウント

システムからデフォルトで提供する管理者アカウントは**admin**です。adminユーザは、すべての権限を持つ**Adminsロール**が付与され、システムのすべてのメニューとオブジェクトに対してアクセスできます。

生成されるすべてのシステムオブジェクトとグループに、**Adminsロール**が付与されるため、**adminユーザ**はすべてのシステムオブジェクトとグループにアクセスできます。

ユーザ実行履歴照会

ユーザ実行履歴を照会できる機能を提供します。実行履歴はログイン/ログアウト時間と接続したIPアドレスを履歴に保存され、ログイン後のすべての実行（生成/修正/削除/ジョブ実行など）履歴を保存し、照会できます。

接続履歴

画面にログインした時、情報が履歴に保存され、検索できる画面です。

接続履歴画面は、**管理者 > 接続履歴**メニューをクリックして確認します。

ユーザID	ユーザ名	マネージャーシステムID	ログイン	ログアウト	接続IPアドレス	結果	説明
admin	admin	MANAGER_JP_1	2023-01-10 09:15:23		1.1.1.1	true	Login
widelec	widelec	MANAGER_JP_1	2023-01-10 09:32:18	2023-01-10 09:35:14	1.1.1.1	true	Login-Logout
admin	admin	MANAGER_JP_1	2023-01-10 09:21:21		1.1.1.1	false	Login failed.
hschoi	hschoi	MANAGER_JP_1	2023-01-06 15:20:59		1.1.1.1	true	Login
hschoi	hschoi	MANAGER_JP_1	2023-01-06 15:20:33	2023-01-06 15:20:52	1.1.1.1	true	Login-Logout
hschoi	hschoi	MANAGER_JP_1	2023-01-06 15:20:28		1.1.1.1	false	Login failed.
admin	admin	MANAGER_JP_1	2023-01-06 15:11:05	2023-01-06 15:20:23	1.1.1.1	true	Login-Logout
admin	admin	MANAGER_JP_1	2023-01-06 15:10:54		1.1.1.1	false	Login failed.
admin	admin	MANAGER_JP_1	2023-01-03 20:00:33		192.168.30.15	true	Login

図40 接続履歴

- **ユーザID** : ログインしたユーザのIDです。
- **ユーザ名** : ログインしたユーザのユーザ名です。
- **マネージャーシステムID** : POLESTAR Automationマネージャーシステムの固有IDです。クラスターで構築した場合、1つ以上のマネージャーシステムが存在するため、接続したマネージャーシステムIDを履歴として残します。
- **ログイン** : ログインした時間です。形式は年-月-日 時:分:秒で表示されます。
- **ログアウト** : ログアウトした時間です。形式は年-月-日 時:分:秒で表示されます。
- **接続IPアドレス** : ログインしたPCのIPアドレスです。
- **結果** : 正常にログインした場合、trueで、ユーザIDまたはパスワードに誤りがある場合はfalseで表示されます。falseの場合は、説明カラムにその理由が表示されます。
- **説明** : ログインが失敗した場合、その理由が表示され、ログアウト状態が表示されません。

ユーザ実行履歴

ユーザ実行履歴では、ログイン後、ユーザが書き込み、削除、実行権限で実行した内容を保存し、必要時に履歴を照会できるようにします。読み取り権限で行う実行履歴は保存されません。

時刻	ユーザID	ユーザ名	接続IPアドレス	オブジェクトタイプ	オブジェクト名	ロール	権限名	権限	運用	結果	内容
2023-01-10 12:00:11	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Update Device Prepe	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has ended.(MANAGE
2023-01-10 12:00:06	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Connection Checker	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has started.(MANAGE
2023-01-10 12:00:00	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Update Device Prepe	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has started.(MANAGE
2023-01-10 12:00:00	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Connection Checker	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has started.(MANAGE
2023-01-10 11:09:05	admin	admin	1.1.1.1	RawJobData	ユーザ実行履歴	Admins	SystemAdministra	write	update	true	Granted - SystemAdministration
2023-01-10 11:08:55	admin	admin	1.1.1.1	RawJobData	AccessLog	Admins	SystemAdministra	execute	delete	true	Deletion has started.
2023-01-10 11:08:55	admin	admin	1.1.1.1	RawJobData	AccessLog	Admins	SystemAdministra	execute	delete	true	Deletion has ended.
2023-01-10 11:08:53	admin	admin	1.1.1.1	RawJobData	ユーザ実行履歴	Admins	SystemAdministra	write	update	true	Granted - SystemAdministration
2023-01-10 11:04:56	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	POLESTAR Agent	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:04:56	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	POLESTAR EMS	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:04:56	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	SqlServer	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:04:56	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	Tomcat	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:04:55	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	DB2	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:04:55	admin	admin	1.1.1.1	Dependency	Informa	Admins	Dependency	write	save	true	Granted - Dependency write
2023-01-10 11:02:29	admin	admin	1.1.1.1	SystemProp	緊急復旧サービスのタ	Admins	SystemAdministra	write	update	true	Granted - SystemProperty write
2023-01-10 11:00:11	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Update Device Prepe	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has ended.(MANAGE
2023-01-10 11:00:00	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Connection Checker	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has ended.(MANAGE
2023-01-10 11:00:00	MANAGER	MANAGER	MANAGER_IP_1	PluginJobDir	Update Device Prepe	System	SystemAdministra	execute	execu	true	The plug-in has started.(MANAGE
2023-01-10 10:59:07	admin	admin	1.1.1.1	OsPatchLevel	CentOS 5.4	Admins	OsPatchLevelObject	write	save	true	Granted - OsPatchLevelObject write
2023-01-10 10:58:34	admin	admin	1.1.1.1	HisEsoObject	VMWare Virtual Platf	Admins	HisEsoObject	write	save	true	Granted - HisEsoObject write
2023-01-10 10:56:44	admin	admin	1.1.1.1	OsEsoObject	Windows Server 2012	Admins	OsEsoObject	write	save	true	Granted - OsEsoObject write
2023-01-10 10:56:30	admin	admin	1.1.1.1	OsEsoObject	CentOS 7	Admins	OsEsoObject	write	save	true	Granted - OsEsoObject write
2023-01-10 10:55:40	admin	admin	1.1.1.1	OsEsoObject	Windows Server 2008	Admins	OsEsoObject	write	save	true	Granted - OsEsoObject write

図41 ユーザ実行履歴

- **日時**：ユーザが変更を実行した時間です。
- **ユーザID**：変更を発生したユーザのIDです。
- **ユーザ名**：変更を発生したユーザ名です。
- **接続IPアドレス**：ログインしたユーザのIPアドレスです。
- **オブジェクトタイプ**：対象オブジェクトのタイプです。
- **オブジェクト名**：オブジェクト名です。
- **ロール**：ログインしたユーザのロールです。
- **権限名**：変更したときに使用した権限名です。
- **権限**：実行時の権限です。権限の種類には、read(読み取り)、write(書き込み)、delete(削除)、execute(実行)があります。
- **運用**：実行したコマンドです。
- **結果**：実行結果をtrue (成功) とfalse (失敗) で表示します。
- **内容**：実行内容や実行失敗時の理由を表示します。

サーバ管理

サーバツリーは、管理されるサーバとアクセスできるサーバに対するユーザ作業が表示される作業領域です。ユーザがサーバツリーを使用するためには静的グループ及びスマートグループの生成と構成 > デバイス管理 > サーバを利用して管理対象サーバを登録することが可能です。

ツリーで管理されるサーバは、構成管理者により静的グループとスマートグループに分類され、サーバは複数のグループに登録することができます。

静的グループ及びスマートグループについての詳細情報は、ツリー構成を参照してください。

<表> サーバツリーでの操作

操作	説明
クリック	⊕、⊖ アイコンをクリックしてツリーを開いたり閉じたりします。 グループ、サーバ名をクリックすると詳細内容が表示されます。
コンテキストメニュー	ツリーにマウスを置いてアイコン(▼)をクリックするとコンテキストメニューが表示され、該当メニューを選択します。

サーバ登録

POLESTAR Automationを活用するためには管理対象サーバを登録する必要があります。一般的にサーバの登録機能は使用権限の高い管理者に限定する必要があります。

サーバ登録は、構成 > デバイス管理 > サーバメニューを利用して基本情報、プロパティ、探索、ロール設定ステップを進めることで管理サーバに登録されます。



備考：サーバ登録は、管理デバイスとしての登録を意味し、**追加ライセンス**が必要となります。現在使用可能なライセンス数は、**管理者 > システム管理 > ライセンス情報**から確認できます。

[手順]

1. 構成 > デバイス管理 > サーバメニューを選択します。

2. サーバー一覧画面で追加ボタンをクリックして登録を進めます。
3. 検索するデバイス数の分だけ**探索デバイスの追加**ボタンをクリックし、IP及びポート（デフォルト値：22003）情報を入力します。検索から削除したい場合、削除ボタンをクリックして削除できます。**CSVサンプル**ボタンをクリックして、ダウンロードされたCSVファイルに検索デバイスを入力し、**CSVから探索デバイス**を追加ボタンをクリックして適用できます。**範囲設定**ボタンをクリックしてIP範囲を指定して複数のサーバを登録することが可能です。入力が完了したら、次へボタンをクリックします。
4. 登録対象のサーバのプロパティ情報を設定します。プロパティ項目の中、必須項目としてチェックされている項目は、設定することで次のステップに進むことができます。項目を設定した後、**次へ**ボタンをクリックします。
5. 入力した情報により検索が行われると、検索結果は3つの状態（管理、登録可能、接続不可）に分けて表示されます。登録可能状態のみ登録ができます。登録するサーバにチェックを入れて**次へ**ボタンをクリックします。
6. アクセスロールを選択して**保存**ボタンをクリックします。
7. サーバー一覧から登録されたサーバを確認できます。



備考：Windowsエージェントが起動しているとき、**C:/NkiaDCAShellPath**ディレクトリが自動的に生成されます。

C:/NkiaDCAShellPathディレクトリは、ネットワークファイルシステム情報収集時に収集結果を一時的に保存するパスで、エージェント方式でのみ使用されます。

サーバー一覧

登録されたサーバー一覧が確認できます。**条件追加**ボタンをクリックして、基本検索項目以外にも検索条件を追加して検索できます。

状態	デバイス名	ホスト名	IP	ポート	OS	OSバージョン	登録日時	更新日時
UP	POSCO-ICT	POSCO-ICT	192.168.232.193	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	LG-CMS	LG-CMS	192.168.232.208	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux...	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	CentOS7-IP	CentOS7-IP	192.168.232.208	22003	Linux	CentOS Linux release 7....	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 10:58:24
UP	HyperV2012R2-L	HyperV2012R2-L	192.168.230.22	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:14:43	2023-01-10 10:56:44
UP	HYPERV2012-L	HYPERV2012-L	192.168.200.11	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:14:43	2023-01-10 10:56:44
UP	Win2008R2HyperV	Win2008R2HyperV	192.168.232.58	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:14:43	2023-01-10 10:55:40
UP	DB1Subbase	DB1Subbase	192.168.232.28	22003	Windows	Microsoft Windows Ser...	2023-01-06 11:14:43	2023-01-10 10:58:24
UP	demo-dca	demo-dca	192.168.232.35	22003	Linux	CentOS release 6.4 (Final)	2023-01-04 11:03:31	2023-01-10 10:59:07

図42 サーバー一覧

- **状態**：サーバにインストールされたエージェントの接続状態です。UpとDownで表示されます。
- **デバイス名**：ユーザが定義したサーバ名です。
- **ホスト名**：サーバのホスト名です。
- **IP**：サーバのIPアドレスです。
- **ポート**：エージェントのポートです。
- **OS**：サーバのOSタイプです。
- **OSバージョン**：サーバOSのバージョンです。
- **登録日時**：サーバを登録した日時です。
- **修正日時**：登録したサーバ情報の修正日時です。

基本情報

対象サーバのIPとインストールされたエージェントのポートを入力する画面で検索。検索するデバイス数の分だけ**探索デバイスの追加**ボタンをクリックし、IP及びポート（デフォルト値：22003）情報を入力します。検索から削除したい場合、**削除**ボタンをクリックして削除できます。**CSVサンプル**ボタンをクリックして、ダウンロードされたCSVファイルに検索デバイスを入力し、**CSVから探索デバイスを追加**ボタンをクリックして適用できます。

図43 サーバ登録 - 基本情報

範囲設定ボタンをクリックしてIP範囲とエージェントポートを入力して一括で適用できます。



図44 サーバ登録 - 基本情報(範囲設定)



備考：登録する対象サーバにエージェントのインストール及び起動が必要です。

プロパティ

対象サーバの設定可能なプロパティ項目の基準を設定する画面です。プロパティ項目の中、必須項目としてチェックされている項目は、設定することで次のステップに進むことができます。



図45 サーバ登録 - プロパティ

検索

対象サーバの検索結果画面です。検索結果は3つの状態（管理、登録可能、接続不可）に分けて表示されます。登録可能状態のみ登録ができます。登録するサーバにチェックを入れて次へボタンをクリックします。

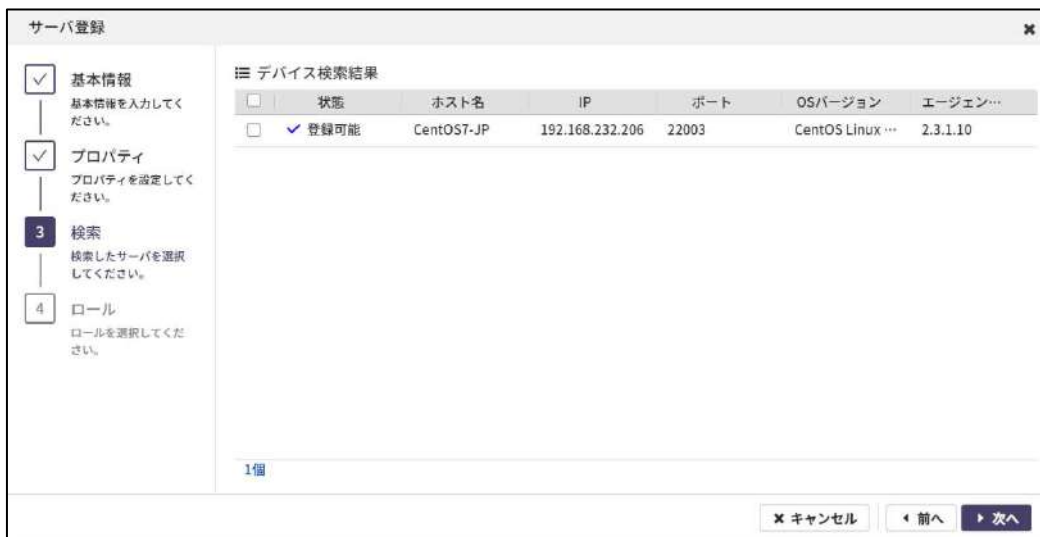


図46 サーバ登録 - 検索

ロール

対象サーバのロール設定画面です。基本選択されたロールはAdminsで、必要な場合にはすべてのロール中で必要なロールを追加したり、選択されたロールで削除することができます。

ロールに対する詳細な情報はアクセス制御を参照してください。

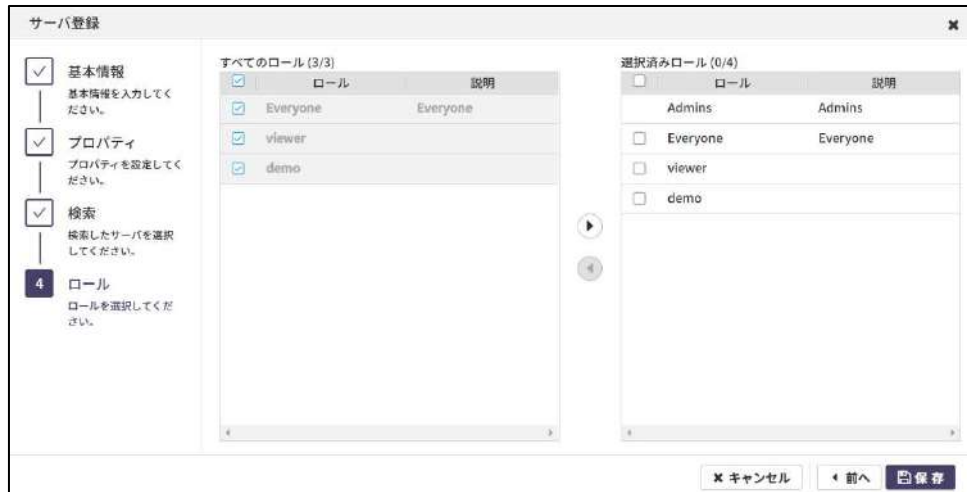


図47 サーバ登録 - ロール



参考：サーバ登録時に入力された情報は、サーバの詳細情報（登録情報）からも修正できます。

サーバ削除

サーバ一覧から管理対象サーバを削除できます。サーバ削除を実行すると、管理サーバに関する全ての情報が削除されます。このため、サーバ削除の実行については、権限が高いロールを持っている管理者に限定する必要があります。

次は、サーバ一覧からサーバを削除する方法です。

[手順]

1. **構成 > デバイス管理 > サーバメニュー**をクリックします。
2. 一覧から削除したいサーバをチェックします。
3. **削除ボタン**をクリックして削除します。

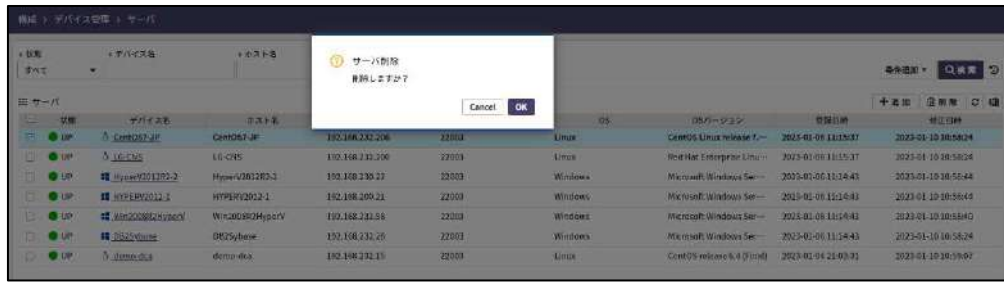


図48 サーバ削除



注意： 管理されているサーバを削除するには注意が必要です。もし、間違っ
て削除した場合は再登録する必要があり、ユーザが設定したプロパティやロールなどサーバに設定された値は再設定する必要があります。また、ジョブも再設定が必要です。

サーバ情報

サーバ情報は基本的に収集される情報を確認することができます。サーバのツリーにはグループ（静的グループ/スマートグループ）とサーバ下位のライブオブジェクトを含み、サーバの情報を管理できる機能を含みます。

サーバ共通の基本機能は、次のようになります。

- **サーバの詳細情報**

ツリーから特定のサーバのデバイス名をクリックすると詳細情報の確認ができ、サブツリーのオブジェクトをクリックすると該当のオブジェクト情報を確認できます。

- **サーバー一覧**

静的グループまたはスマートグループをダブルクリックすると、グループのサーバー一覧及びプロパティが表示されます。サーバー一覧は、サブグループに含まれるすべてのサーバを対象としています。

状態	デバイス名	ホスト名	IP	ポート	OS	OSバージョン	登録日時	修正日時
● UP	lg-oms	lg-oms	192.168.232.200	22003	Linux	Red Hat Enterprise Linux	2023-01-09 11:15:37	2023-01-10 12:13:31
● UP	CentOS7-IP	CentOS7-IP	192.168.232.206	22003	Linux	CentOS Linux release 7.9.2022-11-15	2023-01-06 11:15:37	2023-01-10 12:13:31
● UP	demo-dia	demo-dia	192.168.232.15	22003	Linux	CentOS release 6.4 (Final)	2023-01-04 21:03:31	2023-01-10 12:13:31

図49 グループのサーバー一覧

- サーバコンテキストメニュー

サーバ(ServerDevice)には、**構成情報スキャン**、**ジョブ生成**などのサーバに從属するコンテキストメニューを提供します。



図50 サーバコンテキストメニュー

基本情報

サーバの登録情報、プロパティ、ロール情報が表示されます。サーバ情報に対して変更権限を持っている場合、変更可能な情報を変更できます。

[手順]

1. サーバツリーまたは構成 > デバイス管理 > サーバをクリックします。
2. 詳細情報を確認するサーバのデバイス名をクリックします。

The screenshot shows a web interface for server configuration. The breadcrumb path is '構成 > デバイス管理 > サーバ > CentOS7-JP'. The page has tabs for '基本情報', 'システム情報', 'ジョブ結果', and 'ユーザ実行履歴'. The '基本情報' tab is active. Fields include:

- デバイス名: CentOS7-JP
- ホスト名: CentOS7-JP
- IPアドレス: 192.168.232.206
- 説明: (empty)
- 静的グループのパス: (empty)
- OS: Linux
- OSバージョン: CentOS Linux release 7.8.2003 (Core)
- エージェントバージョン: 2.3.1.30
- エージェントポート: 22003
- 登録日時: 2023-01-06 11:15:37
- 修正日時: 2023-01-10 12:13:31

 There are buttons for '保存' (Save) and 'グループ選択' (Select Group) and '初期化' (Reset).

図51 サーバの詳細情報

基本情報

サーバの詳細情報には基本情報が含まれます。サーバの基本情報は、サーバを管理するための最小限の基本情報のみが含まれます。サーバへの書き込み権限がある場合は、項目を修正できます。

[手順]

1. サーバの基本情報の**基本情報**タブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

<表> サーバの基本情報

項目	説明	修正可否
デバイス名	画面上に表示するデバイス名	O
ホスト名	サーバのホスト名	X
IPアドレス	管理対象サーバIPアドレス	O
説明	サーバに対する詳細説明	O
静的グループのパス	属される静的グループのパス	O
OS	サーバOSの種別	X
OSバージョン	サーバOSのバージョン	X
エージェントバージョ	エージェントのバージョン情報	X

ン		
エージェントポート	エージェントのリッスンポート	O
登録者	登録ユーザのID	X
登録日時	サーバ登録日時	X
修正ユーザ	サーバに対して情報を修正した最後のユーザID	X
修正日時	サーバに対して情報が修正された最後の日時	X

プロパティ

サーバの基本情報には、プロパティ情報が含まれます。サーバに対する書き込み権限を持っている場合、項目が修正できます。

プロパティについての詳細内容は、[システムオブジェクトプロパティ](#)を参照してください。

[手順]

1. サーバの基本情報のプロパティタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
AGENT_VERSION	String		2.3.1.10	エージェントバージョン
CLASSIFICATION	String			オブジェクト分類
CREATED_DATE	Date		2023-01-09	オブジェクト生成日時
CREATED_USER	String		admin	オブジェクト生成ユーザ
DATE_ARRIVAL	Date			オブジェクト導入日時
DESCRIPTION	String			オブジェクト説明
FILESERVER_IP	String			サーバがアクセス可能なファイルサーバIP
FOREIGNKEY	String			外部連携キー
HOSTNAME	String		CentOS7-JP	ホスト名
IPADDRESS	String		192.168.232.295	IPアドレス
IS_PATCH_MGMT	Boolean		true	サーバのパッチ管理対象を設定
LAST_PERSISTED_TIME	Date		2023-01-10 00:00:13	最後にシステム情報をDBストレージに保存した時刻
LAST_UPDATE_PROPERTY_TIME	Date		2023-01-10 12:00:01	ウェブ操作性を目的としたプロパティの最後アップデート時刻です。変更可能なマネージャーステムグループ、クラスタリンググループ
MANAGER_GROUP	String		DefaultGroup	変更可能なマネージャーステムグループ、クラスタリンググループ
MODIFIED_DATE	Date		2023-01-10	オブジェクト最終変更日時
MODIFIED_USER	String		admin	オブジェクト最終変更ユーザ
NAME	String		CentOS7-JP	オブジェクト名
OS_NAME_LIVE	String		Linux	OS名
OS_PATCH_LIVE	String		3.10.0-317.el7.x86_64	OSパッチ名
OS_TYPE	String		Linux	OS種別
OS_VERSION_LIVE	String		CentOS Linux release 7.8.2003 (Core)	OSバージョン
REACHABLE	Boolean		true	マネージャーステムとネットワーク接続の可否
SCRIPT_EXECUTION_FORBIDDEN	Boolean		false	スクリプト実行禁止を管理。trueの場合、スクリプト実行は禁止
STARRED	Boolean		true	特定のオブジェクトに対して星マーク

図52 サーバの基本情報 - プロパティ

ロール

サーバの基本情報には、ロール情報が含まれます。サーバロールには、サーバ管理のために接続可能なユーザアクセスロール情報を表示します。サーバの書き込み権限を持っていれば、ロールの修正ができます。

[手順]

1. サーバの基本情報のロールタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

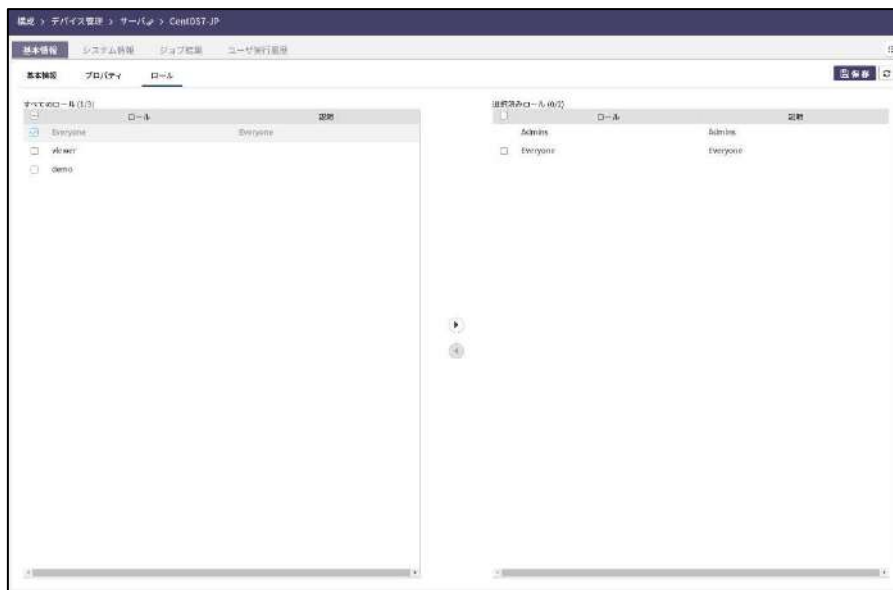


図53 サーバの基本情報 - ロール

システム情報

サーバのシステム情報を表示します。該当情報はオブジェクト情報であり、定期的に収集されDBに保存された情報です。もし、最新の情報を確認する場合には、**スキャン**ボタンをクリックして確認できます。

システム情報では、Agent、CPUs、Disks、File Systems、Memory、Network Interfaces、Operating Systemなどのサーバの構成情報が確認できます。

[手順]

1. サーバの基本情報の**システム情報**タブをクリックします。
2. エージェントから最新の値を収集する場合は、**スキャン**ボタンをクリックします。DB情報を再度読み込む場合は、**更新**ボタンをクリックします。システム情報は毎日1回自動で収集します。

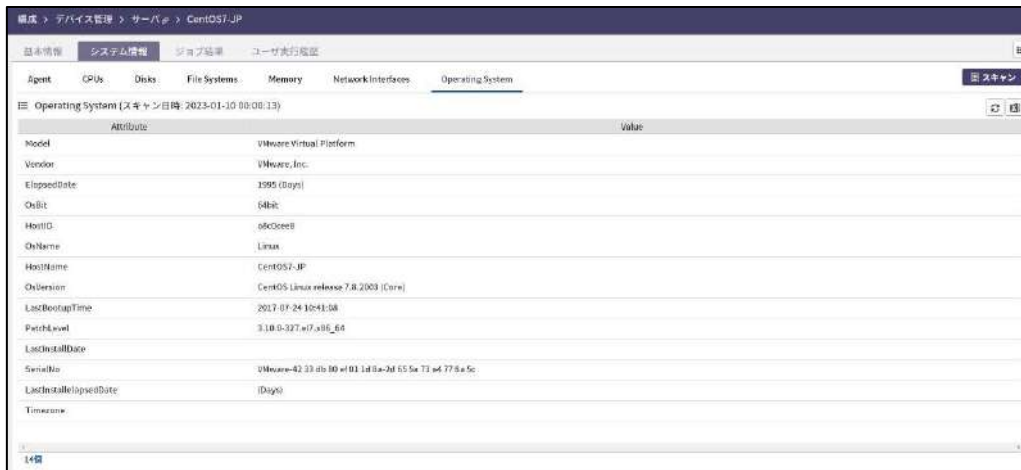


図54 サーバ - システム情報

システム情報で収集される各項目の説明は、次のようになります。

<表> システム情報の情報

区分	項目	説明
Agent	AgentKey	エージェントを識別する固有キー（インストール時に自動付与）
	InstallPath	エージェントのインストールパス
	ListenPort	エージェントのリッスンポート
	StartupTime	エージェント起動時間
	Version	エージェントのバージョン
CPUs	Count	論理CPU Coreの数
	Model	CPUのモデル名
	Vendor	CPUベンダ
	Clock	CPUのClock(MHz)
	SocketCount	CPU Socket (or slot) 数 (物理CPUの数)
	PhysicalCoreCount	物理CPU Coreの数
	ThreadCount	Core当たりのスレッド数
HyperThread	CPUがIBM製品の場合はSMT、Intelの場合はHyper-Threadingサポート有無確認（trueの場合サポート）	

Disks	Name	個別のディスク名
	Capacity (MB)	個別のディスク容量
	Type	個別のディスクベンダ
	Model	個別のディスクモデル
	Vendor	個別のディスクベンダ
File Systems	Name	個別のファイルシステム名
	Capacity (KB)	個別のファイルシステム容量
	DriveName	個別のファイルシステム物理ドライブ名
HotFix	Name	Windows HotFix ID
	Description	Windows HotFix説明
	InstallDate	Windows HotFixインストール日付
Memory	Attribute	メモリのプロパティ
	Value	実装されているメモリ容量
NetworkInterfaces	Name	ネットワークインタフェース名
	Bandwidth (Kbps)	ネットワークインタフェースに割り当てられた帯域幅
	Ip	ネットワークインタフェースに割り当てられたIPアドレス
	Mac	ネットワークインタフェースに割り当てられたMacアドレス
	Mtu (Octet)	ネットワークインタフェースに割り当てられたMTU
	Lacpcheck	ネットワークインタフェースの管理有無
	Duplex	ネットワークインタフェースに設定されているDuplex
	Netmask	ネットワークインタフェースに割り当てられているNetmask
	Bondcheck	Linux/Unix Bond構成有無
	Managed	個別Network Interface管理有無
Operating System	HostName	サーバのホスト名
	LastBootupTime	サーバの起動時間
	ElapsedDate	サーバを起動してからの経過時間
	Model	サーバのモデル

	OsBit	サーバのOSビット
	OsName	サーバOSの種別
	OsVersion	サーバOSのバージョン
	PatchLevel	サーバOSのパッチレベル
	SerialNo	サーバのシリアル番号
	Timezone	サーバのタイムゾーン
	HostID	サーバのHostID
	LastInstallDate	Windowsがアップデートされた最終日時
	LastInstallelapsedDate	Windowsがアップデートされた最終日時からの経過時間
	Vendor	サーバのベンダ



参考：システム情報から提供される各項目は、点検グループに登録可能で、標準値の遵守有無点検などに活用できます。例えば、Operating Systemのパッチレベルを点検し、標準パッチレベルを遵守しているかどうかに対する点検活動をサーバ全体に定期的に行うことができます。



参考：システム情報の自動収集は、**Live Object Persister**プラグインが担当します。実行周期は、**管理者 > プラグイン**画面で確認できます。

ジョブ結果

ジョブ結果では、サーバに適用された全てのジョブに対する最新の実行結果が確認できます。ジョブについての詳細内容は、ジョブ管理を参照してください。

[手順]

1. サーバの**ジョブ結果**タブをクリックします。
2. 名称のリンクをクリックして詳細ジョブ結果を確認します。

状態	名称	項目数	エラー	キャンセル	開始日時	終了日時	メッセージ
成功	脆弱性点検 サービス監視 Linux	1	0		2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ログ管理 Unis	1	0		2023-01-10 10:39:56	2023-01-10 10:39:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 アカウント監視 Linux	1	0		2023-01-10 10:38:46	2023-01-10 10:39:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 libssh2脆弱性点検	1	0		2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:50	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ監視	1	0		2023-01-10 10:25:49	2023-01-10 10:26:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ監視	1	0		2023-01-10 09:44:10	2023-01-10 09:44:26	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 SUDO(CVE-2017-1009367)	1	0		2023-01-10 09:42:21	2023-01-10 09:42:24	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 BashShell脆弱性点検ジョブ	1	0		2023-01-10 09:40:20	2023-01-10 09:40:23	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	日常点検 システム Linux	1	0		2023-01-10 09:39:54	2023-01-10 09:40:08	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]オーケストラ情報の変更確認	1	0		2023-01-10 09:33:12	2023-01-10 09:33:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]SW更新収集: Package Application	1	0		2023-01-10 09:33:01	2023-01-10 09:33:14	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]OSファイアウォールの設定変更確認	1	0		2023-01-10 09:32:53	2023-01-10 09:32:54	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]NTP時刻ずれチェック	1	0		2023-01-10 09:32:35	2023-01-10 09:32:37	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]Javaのバージョン確認	1	0		2023-01-10 09:32:23	2023-01-10 09:32:25	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	[S_L]DNS情報変更確認	1	0		2023-01-10 09:32:11	2023-01-10 09:32:13	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。

図55 サーバ情報結果

<表> サーバジョブ結果情報

項目	説明
状態	実行状態
名称	ジョブ名
項目数	該当ジョブの項目数
エラー件数	ジョブ実行エラー件数
キャンセル/エラー	キャンセルまたはエラー発生有無
開始日時	ジョブの開始日時(経過時間含む)
終了日時	ジョブの終了日時(動作時間含む)
メッセージ	ジョブ実行結果または失敗メッセージ

<表> ジョブ状態種類

状態	アイコン	説明
実行中		実行中の状態
失敗/キャンセル		ジョブ自体エラーが発生して中断される 例) マネージャーの再起動により完了していないジョブがキャンセルされました。
エラー/完了		完了したがエラーがある
成功/完了		正常完了

ユーザ実行履歴

ユーザ実行履歴ではサーバに適用及び実行した結果に対して実行履歴を提供します。ユーザ実行履歴の内容としてはコマンドの実行などが含まれます。

[手順]

1. サーバの**ユーザ実行履歴**タブをクリックします。

期間	ユーザID	ユーザ名	接続IPアドレス	オブジェクト	オブジェクト名	ロール	権限名	権限	運用	結果	内容
2023-01-10 10:50:53	admin	admin	1.1.1.1	SWMaster	CentOS7-JP DE25jbr	Admins	SWMaster	execute	gatherSWAll	true	
2023-01-10 10:50:09	admin	admin	1.1.1.1	SWMaster	CentOS7-JP DE25jbr	Admins	SWMaster	execute	compressId	true	
2023-01-10 10:13:31	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 10:12:55	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 10:12:25	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:55:01	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:54:39	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:54:18	admin	admin	MANAGER_JP_1	ServerDevice	CentOS7-JP	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C	true	Granted-InstantCommand.execute

図56 サーバに対するユーザ実行履歴

<表> ユーザ実行履歴情報

項目	説明
期間	実行日時
ユーザID	実行ユーザのID
ユーザ名	実行ユーザの名称
接続IPアドレス	ログインしたユーザのIPアドレス
オブジェクトタイプ	実行対象のタイプ（例：ServerDeviceはサーバを意味する）
オブジェクト名	オブジェクト名（サーバの場合、サーバ名）
ロール	適用されているロール
権限名	ユーザに付与されたオブジェクトタイプ
権限	実行した際の権限（read/write/delete/execute）
運用	実行内容（入力コマンド実行では実行したコマンドが表示される）
結果	実行の成功/失敗結果（trueまたはfalse）
内容	実行関連メッセージ（失敗した場合にはエラーメッセージ表示）

サーバのライブオブジェクト

サーバにインストールされているエージェントを通じてリアルタイムで各ライブオブジェクトの情報を照会することができます。

ライブオブジェクトでは、System Information、Accountなどの情報を提供します。

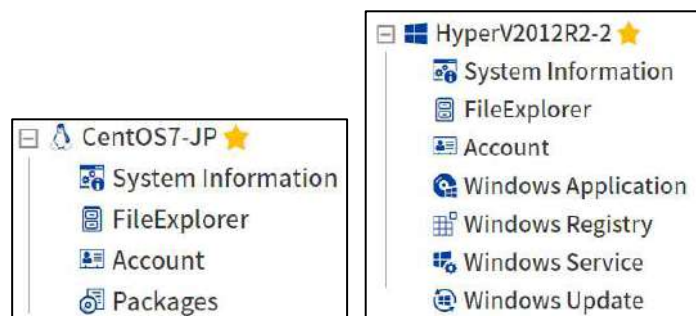


図57 サーバのライブオブジェクト



注意：ライブオブジェクト照会機能は、エージェントとの通信が正常に行われている場合に使えます。

System Information

サーバのシステム情報を確認します。System Informationは、サーバをクリックして表示される詳細情報と同様の内容です。

Account

サーバシステムのアカウントとグループ情報を表示します。

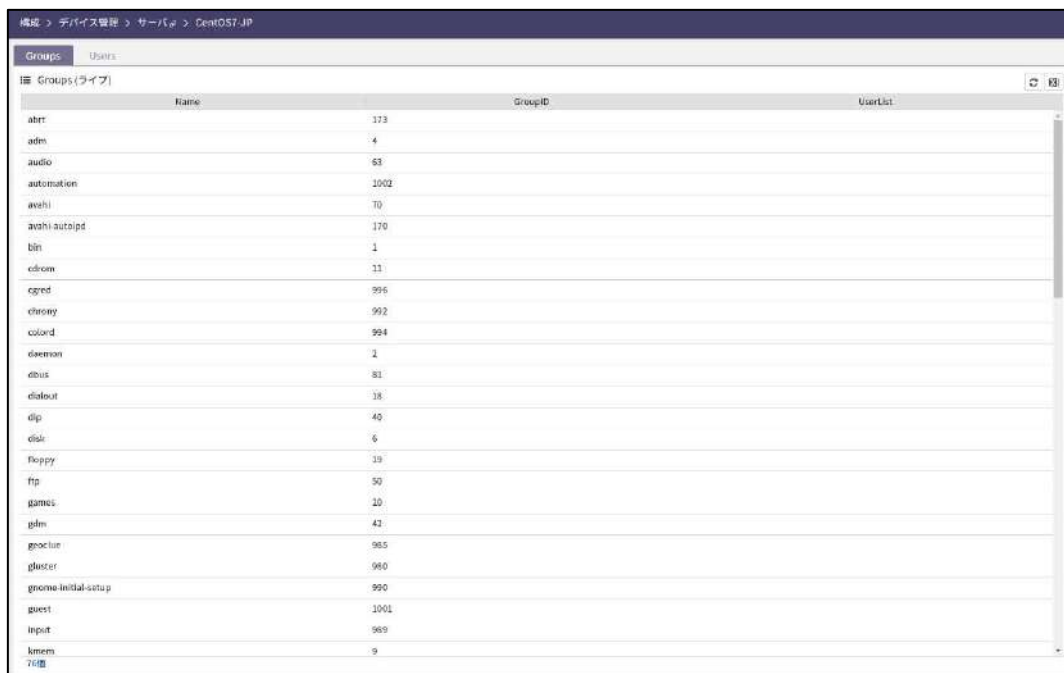
[手順]

1. サーバのツリーを選択し、該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Account**をクリックします。
3. GroupsまたはUsersタブをクリックして情報を確認します。

Groupsに表示される情報は、次のようになります。

<表> Groupsのプロパティ情報

項目	説明
Name	ユーザのグループ名
GroupID	ユーザのグループID ※ Windowsではサポートされません。
UserList	該当グループに属するユーザの一覧



The screenshot shows a window titled 'Groups' with a sub-tab 'Users'. The main area displays a table with the following data:

Name	GroupID	UserList
aher	173	
adm	4	
audio	63	
automation	1002	
avahi	70	
avahi-autoipd	170	
bin	1	
cdrom	11	
cgred	996	
cherry	992	
colord	994	
daemon	1	
dbus	81	
dialog	18	
dip	48	
disa	6	
floppy	19	
ftp	50	
games	10	
gdm	42	
gnoclu	985	
gluster	980	
gnome-initial-setup	990	
guest	1001	
input	989	
kmem	9	

図58 Groupsの詳細情報

Usersに表示される情報は、次のようになります。

<表> Usersのプロパティ情報

項目	説明
Name	ユーザ名
Gecos	ユーザについての追加情報（例：ユーザフルネームや説明など）
GroupID	該当グループに属するユーザの一覧

	※ Windowsではサポートされません
Home	ユーザのHomeディレクトリ ※ Windowsの場合、一般的には定義されていません。コントロールパネル > 管理ツール > コンピューター管理のローカルユーザ及びグループで確認/定義できます。
Shell	ユーザの基本Shell情報 ※ Windowsではサポートされません。
UserID	ユーザのID

Name	InstallDate	PackageType	Vendor	Version
GConf2-3.2.6-4.el7	Thu Jun 16 00:01:58 2016	System Environment/Base	CentOS	3.2.6
GeoIP-1.5.0-14.el7	Wed Nov 20 03:25:49 2013	Development/Libraries	CentOS	1.5.0
LibXaw-0.39-4-1.el7	Thu Sep 17 14:11:52 2020	Unspecified	CentOS	0.19.4
ModemManager-1.8.10-3.el7_6	Wed Nov 20 01:33:20 2019	System Environment/Base	CentOS	1.6.10
ModemManager-glib-1.6.10-3.el7_6	Wed Nov 20 01:24:15 2019	Development/Libraries	CentOS	1.6.10
NetworkManager-1.18.4-1.el7	Thu Sep 17 14:07:32 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-odbc-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-bluetooth-1.18.4-2.el7	Thu Sep 17 14:10:54 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-glib-1.18.4-1.el7	Thu Sep 17 14:07:53 2020	Development/Libraries	CentOS	1.18.4
NetworkManager-libnm-1.18.4-1.el7	Thu Sep 17 14:07:32 2020	Development/Libraries	CentOS	1.18.4
NetworkManager-libswan-1.2.4-2.el7	Wed Nov 20 01:33:25 2019	System Environment/Base	CentOS	1.2.4
NetworkManager-ppp-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-team-1.18.4-1.el7	Thu Sep 17 14:09:16 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-tui-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-wifi-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-wpa-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
PackageKit-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:23 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-command-not-found-1.1.10-2.el7--	Thu Sep 17 14:11:47 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-glib-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:05:08 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-gstreamer-plugin-1.1.10-2.el7.cen-	Thu Sep 17 14:11:46 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-gtk3-module-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:10:26 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-yum-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:24 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
SDL-1.2.15-15.el7	Thu Sep 17 14:11:52 2020	System Environment/Libraries	CentOS	1.2.15
abattis-cantarell-fonts-0.0.25-1.el7	Wed Nov 20 01:26:10 2019	User Interface/X	CentOS	0.0.25
alibi-2.1.11-57.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:19 2020	Applications/System	CentOS	2.1.11
alibi-addon-cpp-2.1.11-57.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Libraries	CentOS	2.1.11
alibi-addon-kerneloops-2.1.11-57.el7.centos-	Thu Sep 17 14:08:19 2020	System Environment/Libraries	CentOS	2.1.11

図59 Usersの詳細情報



備考：プロパティの値が存在しない若しくはサポートしない場合、空白で表示されます。

Packages

AIX、HP-UX、SunOS、Linuxで確認できるライブオブジェクトとして、システムにインストールされているソフトウェア情報を表示します。該当ソフトウェア情報は、OS別に管理するソフトウェア情報に基づいて表示します。

【手順】

1. サーバのツリーを選択して該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Packages**をクリックします。
3. Packages一覧が確認できます。

Packagesに表示される情報は、次のようになります。

<表> Packagesのプロパティ情報

項目	説明
Name	パッケージ名
InstallDate	インストール日時
PackageType	パッケージのタイプ
Vendor	ベンダ
Version	バージョン

Name	InstallDate	PackageType	Vendor	Version
CCent7-3.2.6-4.el7	Thu Jun 16 09:02:58 2016	System Environment/Base	CentOS	3.2.6
Group-1.5.9-14.el7	Wed Nov 20 01:25:49 2019	Development/Libraries	CentOS	1.5.9
LibRaw-0.19.4-1.el7	Thu Sep 17 14:11:52 2020	Unspecified	CentOS	0.19.4
ModemManager-1.6.10-3.el7_8	Wed Nov 20 01:33:28 2019	System Environment/Base	CentOS	1.6.10
ModemManager-glib-1.6.10-3.el7_8	Wed Nov 20 01:24:15 2019	Development/Libraries	CentOS	1.6.10
NetworkManager-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:07:22 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-selinux-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-bluezoo-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:10:44 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-glib-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:07:53 2020	Development/Libraries	CentOS	1.18.4
NetworkManager-ibmm-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:07:32 2020	Development/Libraries	CentOS	1.18.4
NetworkManager-libswan-1.2.4-2.el7	Wed Nov 20 01:31:35 2019	System Environment/Base	CentOS	1.2.4
NetworkManager-ppp-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-team-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:09:16 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-tui-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:11:14 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-wifi-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
NetworkManager-wwan-1.18.4-3.el7	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Base	CentOS	1.18.4
PackageKit-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:23 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-command-not-found-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:11:47 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-glib-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:05:08 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-gstreamer-plugin-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:11:46 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-gtk3-module-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:10:26 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
PackageKit-yum-1.1.10-2.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:24 2020	Unspecified	CentOS	1.1.10
SDL-1.2.15-16.el7	Thu Sep 17 14:11:52 2020	System Environment/Libraries	CentOS	1.2.15
abrt-ccanonical-fonts-0.0.25-1.el7	Wed Nov 20 01:26:18 2019	User Interface/X	CentOS	0.0.25
abrt-2.1.11-57.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:19 2020	Applications/System	CentOS	2.1.11
abrt-addon-cpp-2.1.11-57.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:20 2020	System Environment/Libraries	CentOS	2.1.11
abrt-addon-kerneloops-2.1.11-57.el7.centos	Thu Sep 17 14:08:19 2020	System Environment/Libraries	CentOS	2.1.11

図60 Packagesの詳細情報

OS別に日付表示方法やPackageTypeなどのPackages情報の表示形式が異なる可能性があります。また、Packages供給ベンダが該当情報を登録していない場合にも、データが正常に表示されません。



備考：プロパティの値が存在しない若しくはサポートしない場合、空白で表示されます。

Windows Application

Windows系で確認できるライブオブジェクトとして、システムにインストールされているソフトウェア情報を表示します。ソフトウェアインストール情報は、OSのレジストリに基づいて情報を収集し、表示します。

[手順]

1. サーバのツリーを選択して該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Windows Application**をクリックします。
3. Windows Applicationの一覧を確認します。

Windows Applicationsに表示される情報は、次のようになります。

<表> Windows Applicationsのプロパティ情報

項目	説明
Name	ソフトウェア名
InstallDate	インストール日付
InstallLocation	インストールされているパス
Vendor	ベンダ
Version	バージョン

Name	InstallDate	InstallLocation	Vendor	Version
Broadcom Drivers and Management Applica...	20161114	C:\Program Files\Broadcom\	Broadcom Corporation	20.2.2.3
Chrome (108.0.5359.125)	20221226	C:\Program Files (x86)\Google\Chrome\App...	Google LLC	108.0.5359.125
FileZilla Server 1.2.0 (1.2.0)	20220209	C:\Program Files\FileZilla Server	Tim Kesse <tim.kosse@filezilla-project.org>	1.2.0
Java 8 Update 191 (8.0.1910.12)	20190124	C:\Program Files (x86)\Java\jre1.8.0_191\	Oracle Corporation	8.0.1910.12
Java 8 Update 191 (64-bit) (8.0.1910.12)	20190124	C:\Program Files\Java\jre1.8.0_191\	Oracle Corporation	8.0.1910.12
Java Auto Updater (2.8.191.12)	20190124		Oracle Corporation	2.8.191.12
Java(TM) SE Development Kit 6 Update 45 (10.1.10586.15)	20151202	C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_45\	Oracle	1.6.0.450
Kits Configuration Installer (10.1.10586.15)	20160524		Microsoft	10.1.10586.15
Microsoft System Center Virtual Machine Ma...	20190910		Microsoft Corporation	3.2.7530.0
Microsoft System Center Virtual Machine Ma...	20190910		Microsoft Corporation	3.2.7510.0
Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable (x86)	20160204		Microsoft Corporation	9.0.30729.4148
Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable (x64)	20160204		Microsoft Corporation	9.0.30729.4148
Microsoft Visual C++ 2010 x64 Redistributable	20190910		Microsoft Corporation	10.0.40219
Microsoft Visual J# 2.0 Redistributable Pack...	20160204	C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\...	Microsoft Corporation	
Microsoft Visual J# 2.0 Redistributable Pack...	20160204		Microsoft Corporation	2.0.50728
NotePad++ (32-bit x86) (8.4.7)			NotePad++ Team	8.4.7
POLESTAR SMS Agent 8.4.1.13 (8.4.1.13)	20221123	C:\Program Files\NKIA\POLESTAR\NMPAgent\	NKIA Co.Ltd.	8.4.1.13
PolestarAgent 6.0.3.1	20180502	C:\Program Files\EMS\NMPAgent\	NKIA Co.Ltd.	
PolestarDCA_Agent 3.2.6.1	20220415	C:\Program Files (x86)\NKIA\Polestar\DCA_A...	NKIA Co.Ltd.	
PostgreSQL 9.3 (9.3)	20151202	C:\Program Files\PostgreSQL\9.3\	PostgreSQL Global Development Group	9.3
QConvergeConsole x64 (5.5.0.74)	20201109	C:\Program Files\QLogic Corporation\QCon...	Marvell Semiconductor	5.5.0.74
QLLogic Driver and Management Super Instal...	20161114	C:\Program Files\QLogic Corporation\Super...	QLogic Corporation	7.00.00.05
SDK Debuggers (10.1.10586.15)	20160524		Microsoft Corporation	10.1.10586.15
Update for Korean Microsoft SME Standard D...	20151203		Microsoft Corporation	16.0.662.1
VMware vSphere Client 5.5 (5.5.0.4216)	20160204	C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructu...	VMware, Inc.	5.5.0.4216
VMware vSphere Client 6.0 (6.0.0.6649)	20160204	C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructu...	VMware, Inc.	6.0.0.6649

図61 Windows Applicationsの詳細情報

Windows Application情報は、ソフトウェアベンダが該当情報を正しく登録していない場合、Nameプロパティを除く他のプロパティ値が表示されないことがあります。

ソフトウェア情報を収集するレジストリパスは、次のようになります。

<表> Windows OSのWindows Applicationを収集するレジストリパス

OS	レジストリパス
32bit	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall
64bit	1. x86 Application HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall 2. x64 Application HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall

Windows Service

Windows系で確認できるライブオブジェクトとして、Windowsに登録されているサービスを照会します。

[手順]

1. サーバのツリーを選択して、該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Windows Service**をクリックします。
3. Windows Serviceの一覧を確認します。

Windows Service一覧に表示される情報は、次のようになります。

<表> Windows Serviceのプロパティ情報

項目	説明
Name	サービス名 (Service Display Name)
CurrentState	現在のサービス状態 STOPPED : 停止されている START_PENDING : 開始中 STOP_PENDING : 停止中 RUNNING : 稼働している CONTINUE_PENDING : 進行中 PAUSE_PENDING : 一時停止中 PAUSED : 一時停止
Running	現在稼働状態
ServiceName	サービスのキーとなる名称
ServicePath	サービスがインストールされているパス
ServiceType	サービスタイプ WIN32_OWN_PROCESS : 自らのプロセスで実行 WIN32_OWN_PROCESS(INTERACTIVE_PROCESS) : 自らのプロセスで実行 WIN32_SHARE_PROCESS : 他のサービスとプロセスを共有 WIN32_SHARE_PROCESS(INTERACTIVE_PROCESS) : 他のサービスとプロセスを共有
StartType	サービス開始分類 BOOT_START : ブート時に開始 SYSTEM_START : システムから開始 AUTO_START : 自動開始

	DEMAND_START : 手動開始 DISABLED : 開始しない
Description	サービスについての詳細説明

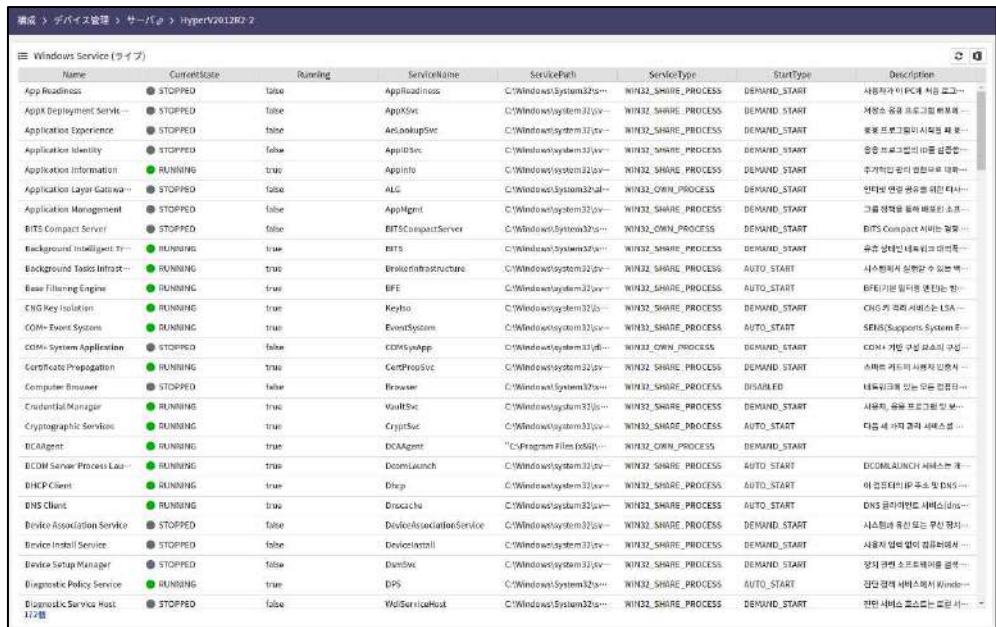


図62 Windows Service情報

Windows Update

Windows系で確認できるライブオブジェクトとして、Windows OSパッチに登録されているサービスの照会があります。OSパッチ情報は、パッチ済み項目(Updated)、パッチ可能項目(Available)、パッチ対象外項目(Excluded)に分けて照会できます。

[手順]

1. サーバのツリーを選択して、該当Windowsサーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Windows Update**をクリックします。
3. Available、Excluded、Updatedのタブをクリックして項目を確認します。

Available, Excluded, Updatedで表示される情報は、次のようになります。

<表> 詳細情報

項目	説明
----	----

Name	パッチ名
KbArticleID	MSテクニカルドキュメント番号
Product	パッチ該当製品（例：Windows XP、Office 2007など）
PublishedDate	登録日付
Category	パッチ区分（例：Service Packs、Feature Packs、Security Updates、Critical Updates、Updates、Update Rollupなど）
Size (byte)	パッチファイルのサイズ
UpdateType	アップデートの種類（例：None、Important、Optional）
AnalysisDate	パッチ分析日付
InstallDate	パッチ適用日付
Installed	パッチ適用の有無
Restart	再起動の要不要
Severity	重要度（例：Critical、Important、Moderate、Low、None）
BulletinID	掲示ID
Description	パッチに対する詳細説明
DownloadUrl	パッチファイルのダウンロードURL情報
Excluded	パッチ適用除外の要不要
InfoUrl	パッチ情報URL
InteractiveMode	インタラクティブモード設定 (TRUEの場合は該当パッチを自動で適用できます。)
MasterExcluded	パッチ適用除外の有無
UpdateID	パッチ項目の固有ID（UUIDと類似する形式）

Name	KBArticleID	Product	PublishedDate	Category	Size (Byte)	UpdateType	AnalysisDate	InstallDate	Installed	Default
Microsoft .NET Framework 4.5.2	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Feature Pack	4758695	Optional	2023-01-10 10:43:01		true	true
Update for Windows 8.1	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Definition Updates	1544084	Important	2023-01-10 09:55:11		true	false
Update for Windows 8.1	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Update	101029	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Update	11488562	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Security Update	88702957	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB2959613	Windows Server ...	2013-07-10 00:00:00	Critical Update	22479924	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-09-09 00:00:00	Security Update	5062013	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-09-09 00:00:00	Security Update	12839369	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-09-09 00:00:00	Security Update	4444447	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2969920	Windows Server ...	2013-10-07 00:00:00	Security Update	12314531	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2969920	Windows Server ...	2013-10-07 00:00:00	Security Update	88729	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-10-14 00:00:00	Security Update	2077943	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-11-11 00:00:00	Security Update	10810190	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB2973314	Windows Server ...	2013-11-11 00:00:00	Security Update	131007	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-02-04 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3013920	Windows Server ...	2013-12-09 00:00:00	Update	3014388	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-10-19 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB2969920	Windows Server ...	2013-12-09 00:00:00	Update	167507	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB3013920	Windows Server ...	2013-01-13 00:00:00	Security Update	61572	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB3013920	Windows Server ...	2013-01-13 00:00:00	Security Update	57093	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Security Update for Windows 8.1	KB3000483	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Security Update	6484622	Important	2023-01-10 09:55:11	2013-09-05 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3012702	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	15500038	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3013312	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	92319	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3024751	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	665881	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3024755	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	560813	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB2973947	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	4060255	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true
Update for Windows 8.1	KB3016812	Windows Server ...	2013-01-10 00:00:00	Update	734499	Optional	2023-01-10 09:55:11	2013-12-30 06:00:00	true	true

図63 Windows Update情報



注意 : Windows Update情報を収集して、パッチを適用するためには、対象サーバが <http://update.microsoft.com> にアクセスできる必要があります。エージェントが該当URLに接続して、最新のパッチ情報とパッチ必要情報などを分析します。

FileExplorer

FileExplorerはWindowsのファイルエクスプローラー機能のようなもので、サーバのファイル管理を担当しているファイルエクスプローラーです。サーバディレクトリへの階層的なアクセスが容易で、迅速なファイル探索ができます。

[手順]

1. サーバのツリーを選択して、該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**FileExplorer**をクリックします。
3. 該当サーバのディレクトリおよびファイルが確認できます。

表示される情報は、次のようになります。

<表> FileExplorerのプロパティ

項目	説明
----	----

名称	ディレクトリ及びファイルの名称
権限	ディレクトリ及びファイルの権限モード
サイズ	ファイルのサイズ
所有者	ディレクトリ及びファイルの所有者
グループ	ディレクトリ及びファイルのグループ
修正日時	ディレクトリ及びファイルを修正した日時

ディレクトリ	名称	権限	サイズ	所有者	グループ	修正日時
C:\	\$Recycle.Bin	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2019-09-10 13:11:20
	Agent	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2022-03-11 11:13:44
	Docker	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2021-01-26 20:16:04
	Documents and Settings	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2013-08-22 23:48:41
	Hyper-V	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2022-02-17 16:25:02
	Java	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2019-09-29 21:55:37
	NkiaDCAShellPath	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators	SYSTEM	2023-01-10 13:37:56
	NkiaShellPath	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators	SYSTEM	2023-01-10 13:37:30
	PerfLogs	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2016-10-19 08:58:06
	Program Files	r--r--r--	0 BYTES	TrustedInstaller	TrustedInstaller	2022-02-09 13:06:31
	Program Files (x86)	rw-rw-rw-	0 BYTES	TrustedInstaller	TrustedInstaller	2019-10-08 04:36:30
	ProgramData	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2019-09-10 11:49:16
	Recovery	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2015-12-01 11:18:13
	System Volume Information	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators	SYSTEM	2015-12-01 11:14:56
	Users	rw-rw-rw-	0 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2022-07-04 15:05:34
	WebAppM_Agent	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2019-07-25 17:40:08
	Windows	rw-rw-rw-	0 BYTES	TrustedInstaller	TrustedInstaller	2019-12-09 12:44:20
	dca_agentless	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2021-09-29 15:50:35
	del	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2023-03-04 15:34:11
	galjeon_temp	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2019-09-29 21:27:13
	nkia	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2022-07-27 16:29:19
	symbols	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2016-05-24 13:46:35
	temp	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators	SYSTEM	2022-04-15 09:07:04
	tmp	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators	SYSTEM	2022-04-07 14:37:20
	win11_test	rw-rw-rw-	0 BYTES	Administrators		2018-10-02 11:13:00
	BOOTNXT	rw-rw-rw-	1.00 BYTES	SYSTEM	SYSTEM	2013-06-18 21:18:29
	PolestarDCA_Agent_Win_3.3.0	rw-rw-rw-	13.42 MB	Administrators	SYSTEM	2023-01-10 10:22:56

図64 FileExplorer情報



備考：システムアカウントでエージェントが実行されるため、一般のユーザアカウントでマウントしたファイルシステムでは、権限が制限され検索ができません。

Windows Registry

Windows系で確認できるライブオブジェクトとして、レジストリが確認できます。

[手順]

1. サーバのツリーを選択して該当サーバが含まれているグループのツリーを開きます。
2. 該当サーバのツリーを開き、**Windows Registry**をダブルクリックします。
3. 該当サーバのレジストリを確認します。

表示される情報は、次のようになります。

<表> プロパティ情報

項目	説明
名称	レジストリ名
データ型	レジストリデータの形式(例:REG_SZ, REG_DWORD, REG_BINARY, REG_NONEなど)
データ	レジストリ名に該当する値

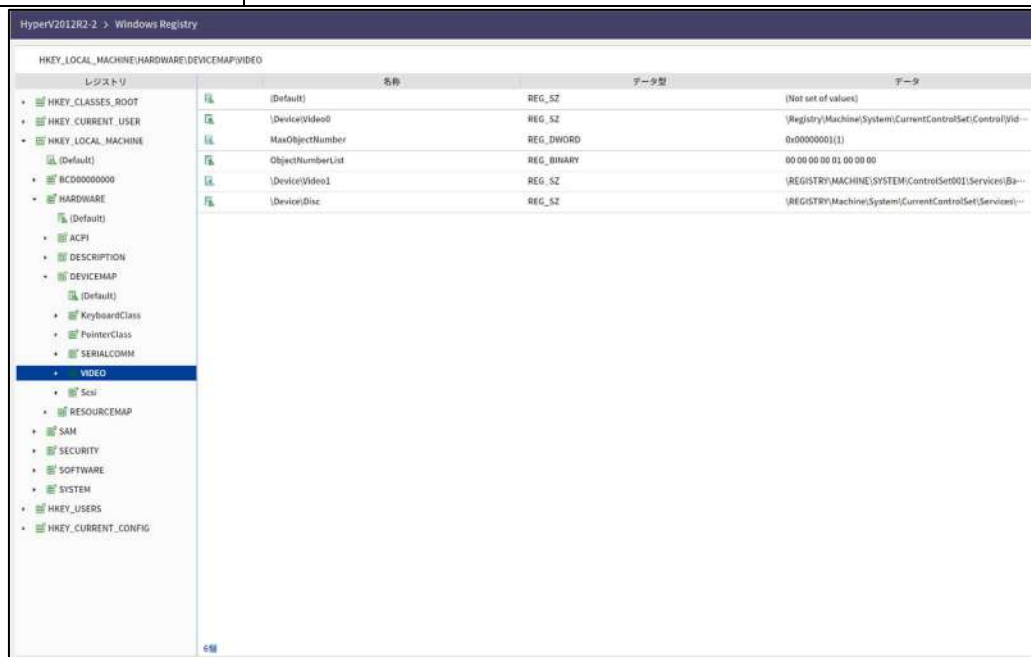


図65 Windows Registry情報

Windows Update管理

Windowsサーバは、別途のOSパッチを管理する機能をオプションで提供します。新規OSパッチ情報を分析し、インストール済みパッチ、インストール必要パッチなどを、<http://update.microsoft.com>を通じて分析します。この機能を使うためには、対象システムが同Webサイトに接続可能である必要があります。

Windowsアップデートジョブは、各Windows OSに提供されているパッチ情報の管理のために定期的に収集され、管理者 > プラグインの**Windows Update Analysis Service**から収集サイクルが設定できます。デフォルト値は、毎日午前1時に実行されます。実行周期は変更可能です。

運用 > Windows Update管理メニューでは、パッチ情報を様々な条件で検索したり、ユーザが手動で分析できるようにアップデート分析を通じて特定サーバを対象にリアルタイムでアップデート分析を遂行できるように機能を提供します。

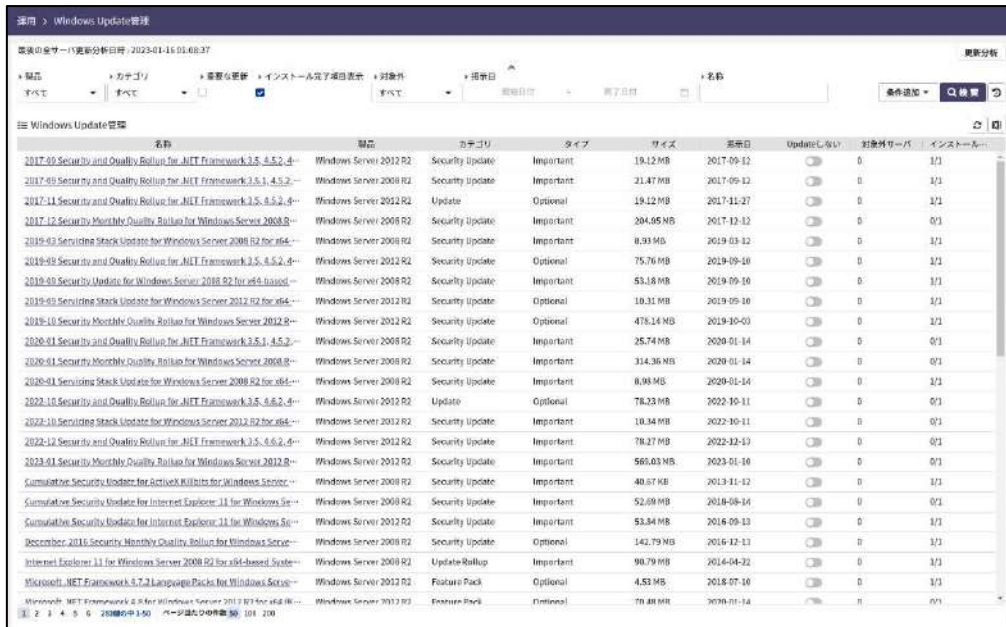


図66 Windows Update管理

<表> Windows Update情報

項目	説明
名称	パッチ名
製品	Windows Server 2016、Office 2019などの製品名
カテゴリ	Security Updates、Critical Updatesなどのパッチ区分
タイプ	重要更新設定タイプ（例：None、Important、Optional）
サイズ	パッチファイルのサイズ（単位：bytes）
揭示日	パッチファイルが揭示された日付
Updateしない	スイッチボタンをクリックして適用有無を選択 ※オンにすると、新規で追加されるサーバにも適用されます。
対象外サーバ	該当パッチの対象外設定となったサーバ数
インストールサーバ	該当パッチが適用されたサーバ数

Windows Update分析

ユーザが手動で特定サーバに対して分析作業を実行するための機能です。
分析する手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **運用 > Windows Update管理**をクリックします。
2. **更新分析**ボタンをクリックします。
3. Windows Update分析画面で分析したいWindowsサーバを選択し、右側移動ボタンをクリックします。

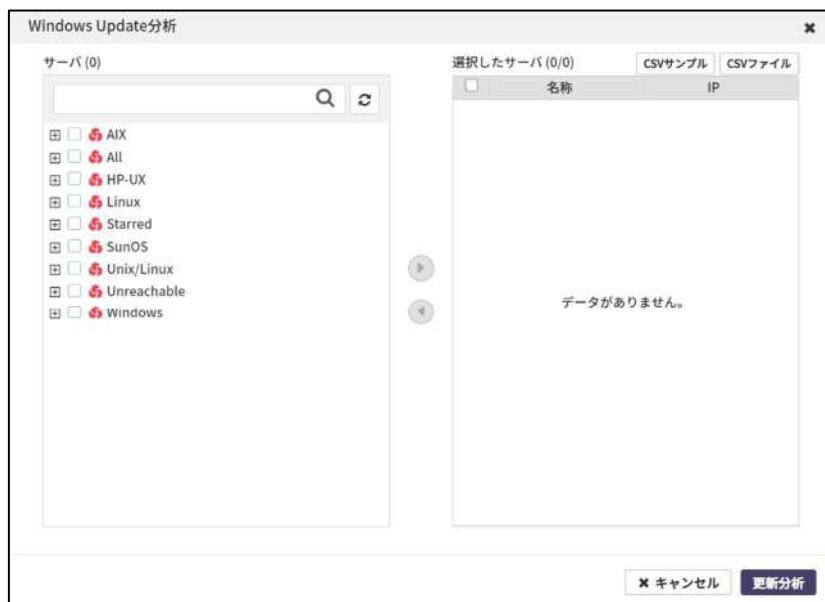


図67 Windows Update分析画面

4. **更新分析**ボタンをクリックして分析作業を進行します。

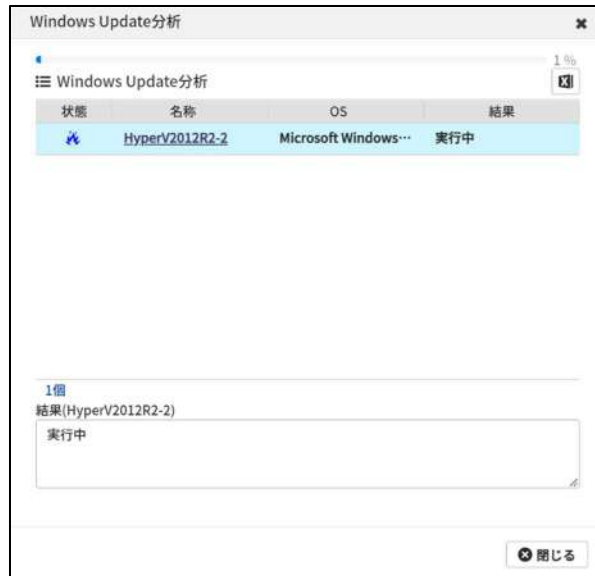


図68 Windows Update分析進行画面



注意 : Windows Updateインストール作業が最新を維持していないサーバを対象として進行する場合、分析時間が長くなり、想定以上の負荷が発生する可能性があります。Windows更新分析プラグインで設定された時間に行う方法を推奨します。Windowsアップデート分析プラグイン時間は、非業務時間に設定することを推奨します。

Windows Update詳細情報

分析されたWindowsアップデート項目毎に詳細情報が確認できます。

詳細情報は**基本情報**及び更新項目についてインストール有無を確認する**更新のインストール状況**が表示されます。

基本情報では、アップデート一覧のカラム以外にBulletin ID、KB ArticleID、情報URL、説明などの情報を追加で確認できます。**更新のインストール状況**では、サーバ名、OS、インストールの有無、インストール日付が確認でき、また対象外設定を通じて、サーバ別のインストール対象を設定します。

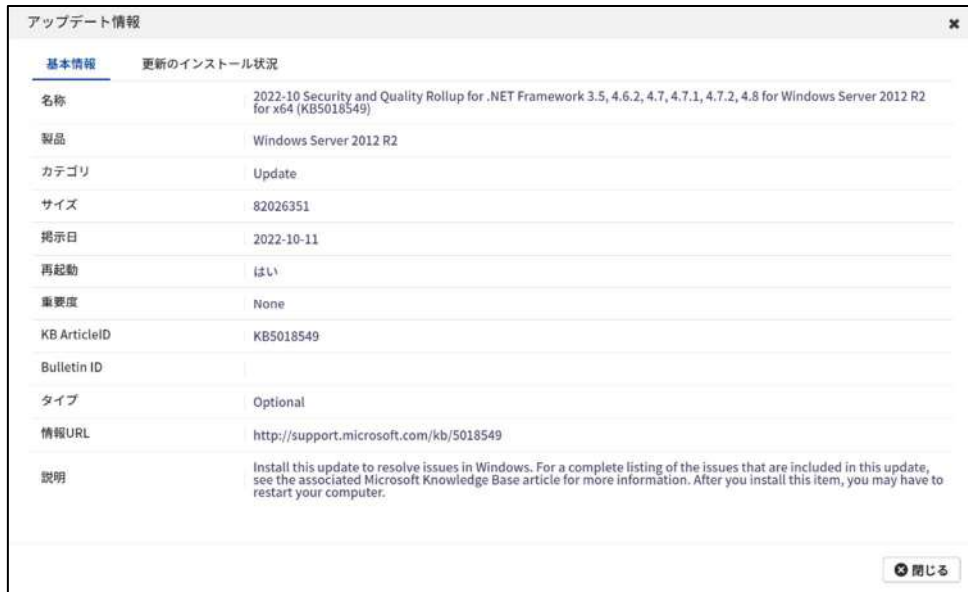


図69 Windows Update – 基本情報

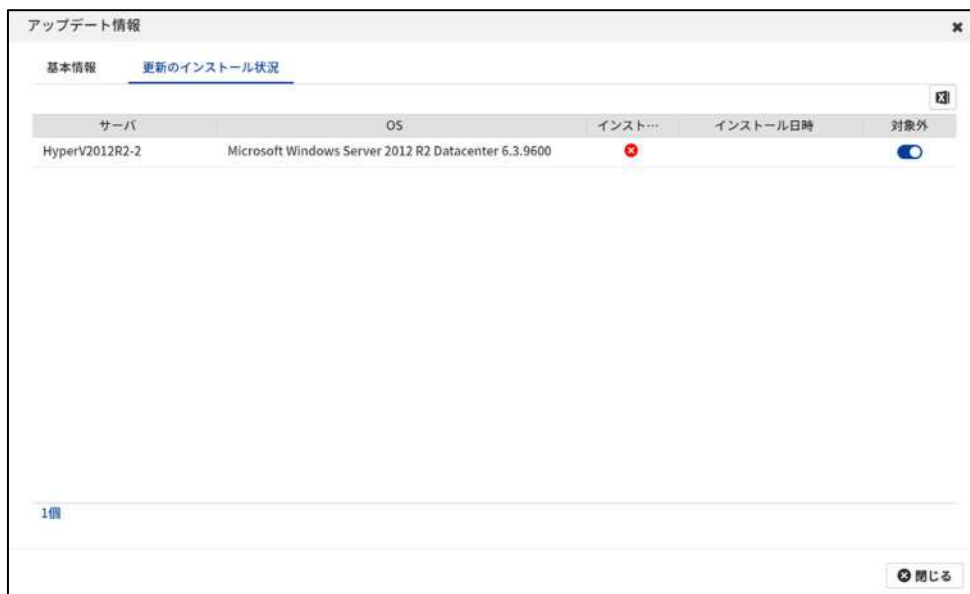


図70 Windows Update – 更新のインストール状況

<表> Windows Update詳細情報

項目	説明
名称	パッチ名
製品	Windows Server 2016、Office 2019などの製品名
カテゴリ	Security Updates、Critical Updatesなどのパッチ区分
サイズ	パッチファイルのサイズ (単位 : bytes)
掲示日	パッチファイルが掲示された日付

再起動	再起動必要有無
重要度	重要等級（例：Critical、Important、Moderate、Low、None）
KB ArticleID	技術資料の文書番号で、Qnumberとも呼ばれる
Bulletin ID	掲示ID
タイプ	重要アップデート有無（例：None、Important、Optional）
情報URL	アップデート情報URL
説明	アップデートに対する詳細説明



備考：Windows Update管理では、パッチ適用状況の検索や分析を行います。パッチ適用自体は実行しません。対象サーバにパッチ適用の実行は、**Windows Updateジョブ**を参照してください。



備考：Windowsアップデートのインストール日の場合、Microsoftがインストール有無だけ提供し、インストール日を提供せず、インストール日の収集方法が不明なため、KB ArticleIDを該当サーバーレジストリで検索し、インストール日が存在する場合は収集します。情報が無い場合は空白で処理します。

エージェントレス管理

エージェントレスツリーは、エージェントレスとして運用されるサーバを登録、管理するための領域です。静的グループやスマートグループを作成し、**構成 > デバイス管理 > エージェントレス**から管理対象を追加することで、エージェントレスツリーが利用可能となります。

エージェントレスツリーで管理するサーバは、構成管理者によって、ツリー形式で静的グループとスマートグループに分けて表示されます。また、管理対象となるサーバは、複数のグループに属することができ、様々な分類をすることができます。

エージェントレス登録

エージェントレスでサーバを管理するためには、デバイスの登録が必要です。

エージェントレスの登録は、**構成 > デバイス管理 > エージェントレス**から登録でき、基本情報の入力、プロパティ設定、デバイス検索、ロール設定を行った上で追加できます。




備考：エージェントレス登録は、**追加ライセンス**が必要です。使用可能ライセンス数は、**管理者 > システム管理 > ライセンス情報**から確認できます。



注意：OSがWindowsの場合、エージェントレスサーバを登録するための事前作業が必要です。DCOM権限設定、DCOM許可ポート設定、DCOMファイアウォール設定、ローカルセキュリティ設定、ファイル共有関連ファイアウォール設定が必要です。詳細については、付録のWindowsエージェントレスサーバのポリシー設定を参照してください。OSがAIX/HP-UX/SunOS/Linuxの場合、**SSHプロトコル**のみがサポートされ、実行アカウント及び実行パスがサーバに存在しないと登録できません。

[手順]

1. **構成 > デバイス管理 > エージェントレス**をクリックし、追加ボタンをクリックします。
2. **探索デバイスの追加**ボタンをクリックして探索対象情報を入力します。
3. OSによって入力する項目が異なり、入力不要な項目はグレーアウトされます。

- **Windows** : IP、OS、アカウント、パスワード、ドメイン名（ADで構成された場合）を入力します。
 - **AIX/Linux/SunOS/HP-UX** : IP、OS、アカウント、パスワード、SSHポート、実行パス、SUパスワードを入力します。
 - 一括登録作業のため**サンプルCSVダウンロード**ボタンをクリックしてCSVファイルに探索対象情報を直接に入力します。
 - **CSVから探索デバイスを追加**ボタンをクリックして作成したCSVファイルをアップロードして探索デバイスを確認します。
4. 変更したいプロパティ項目がある場合は、項目別に別途修正して入力し、**次へ**ボタンをクリックします。
 5. 検索が行うと、検索結果は3つの状態（登録可能、管理、接続不可）で表示されます。接続できないデバイスは登録できません。検索結果で登録するサーバを選択して**次へ**ボタンをクリックします。
 6. 適切なロールを選択した後、**保存**ボタンをクリックして登録作業を進めます。登録が完了すると、エージェントレスデバイス一覧に対象サーバ状態が  UP状態で表示されます。



備考 : エージェントレス方式でWindowsサーバを登録する場合、C:/dca_agentlessディレクトリが自動的に生成されます。C:/dca_agentlessディレクトリは、スクリプト実行結果ファイルを一時的に保存するパスです。

エージェントレス方式でAIX/Linux/SunOS/HP-UXサーバを登録する場合、登録時に入力した実行パスディレクトリを自動的に生成し、スクリプト実行結果ファイルを一時的に保存するパスとして使用します。

エージェントレス一覧

エージェントレス方式で登録したサーバの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして、基本検索項目以外に追加で検索したい項目を追加して検索できます。

状態	デバイス名	ホスト名	IP	SSHポート	OS	登録日時	修正日時
UP	scourt-xeus03	scourt-xeus03	192.168.200.227	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57
UP	scourt-xeus02	scourt-xeus02	192.168.200.226	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57
UP	scourt-xeus01	scourt-xeus01	192.168.200.225	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57

図71 エージェントレス一覧

- **状態**：エージェントレスサーバの接続状態です。UpとDownで表示されます。
- **デバイス名**：ユーザが定義したエージェントレスサーバの名称です。
- **ホスト名**：エージェントレスサーバのホスト名です。
- **IP**：エージェントレスサーバのIPアドレスです。
- **SSHポート**：SSHポートです。
- **OS**：エージェントレスサーバのOSタイプです。
- **登録日時**：エージェントレスサーバを登録した日時です。
- **修正日時**：登録したエージェントレスサーバ情報の修正日時です。

基本情報

エージェントレス方式でサーバ登録時に探索に必要な情報を入力します。

エージェントレス登録

1 基本情報
基本情報を入力してください。

2 プロパティ
プロパティを設定してください。

3 検索
検索されたエージェントレスデバイスを選択してください。

4 ロール
ロールを選択してください。

検索デバイスを入力

IP	OS	クレデン…	アカウント	パスワード	ドメイン名	SSHポート	実行パス	SUパスワード	削除
192.168.22	Windows		Administr	*****					

1件

キャンセル 前へ 次へ

図72 エージェントレスサーバ登録 - Windows情報入力

図73 エージェントレスサーバ登録 - Linux情報入力

<表> エージェントレスサーバの入力情報

項目	説明	必須入力	OS区分
IP	管理対象エージェントレスサーバIPアドレス	○	共通
OS	エージェントレスサーバOSの種別	○	共通
クレデンシ ヤル	管理者 > クレデンシヤル管理に登録したSSH/WMI情報 を選択して接続情報を入力	X	共通
アカウント	エージェントレスでアクセスするユーザのアカウント - Windowsの場合、administratorsグループ権限を持つ アカウントを入力 - Unix/Linuxの場合、Switching Userが可能な権限を持 っているアカウントを意味	○	共通
パスワード	エージェントレスでアクセスするアカウントのパスワ ード	○	共通
ドメイン名	Active Directoryアカウントの場合、ドメイン名を入力 - Active Directoryアカウントではなく、一般アカウン トまたは登録するサーバがADメンバーサーバでもローカ ルアカウントを使用する場合、ドメイン名はNULLである 可能性がある	X	Windows
SSHポート	エージェントレスでアクセスするSSHのポート番号 - Windowsの場合、ファイル配布ジョブを使用する場合 のみ入力 (WindowsサーバにSSHインストール必要)	○	Unix/Linux
実行パス	アカウントにアクセスしてスクリプトが生成するパスを 意味	○	Unix/Linux

	<ul style="list-style-type: none"> - スクリプト実行パスはエージェントレスの登録前のパスについてのディレクトリがある場合のみ登録が可能 - スクリプト実行パスは、アクセスアカウントの実行権限が必要 例) /home/nkia/script/ 		
SUパスワード	アカウント入力欄に一般アカウントを入力した場合、rootアカウントに切り替えるためのrootアカウントのパスワード	O	Unix/Linux

プロパティ

対象デバイスの設定可能なプロパティ項目を設定する画面です。プロパティ中で必須項目としてチェックした項目は、必ず設定してから次のステップに進むことができます。



図74 エージェントレスデバイス登録 - プロパティ



参考： エージェントレスデバイス登録のプロパティ設定は、登録後にSystemObjectプロパティ及び登録したデバイスの詳細情報でも修正できます。

探索

探索ステップでは、ユーザが入力した接続情報に基づいて登録が可能なデバイスか確認します。接続情報(IP、アカウント、パスワード、ドメイン目、SSHポート、SUパスワード)が有効でない場合、スクリプト実行パスが存在しない場合、アカウント実行権限がない場合、探索が失敗します。

OSがWindowsの場合、登録前に**エージェントレスサーバのポリシー設定**をしなかったり(付録の**Windowsエージェントレスサーバのポリシー設定参照**)、**マネージャーサーバがWindows**ではない場合は探索が失敗するため、確認後に登録作業を進める必要があります。

状態が登録可能と表示された場合は、そのデバイスを選択し、**次へ**ボタンを選択します。



図75 エージェントレスサーバ登録 - 探索結果

ロール

アクセスロールを設定するステップで、基本的に選択されたロールはAdminsで、必要に応じてすべてのロールの中から必要なロールを追加、選択したロールを削除することができます。

ロールの詳細については、アクセス制御を参照してください。

すべての作業が完了したら、**保存**ボタンをクリックして登録作業を実行します。登録しない場合は、**キャンセル**ボタンをクリックします。



図76 エージェントレスサーバ登録 - ロール

クラウド仮想サーバ登録

クラウド仮想サーバの登録は、**構成 > デバイス管理 > エージェントレス**から登録でき、基本情報の入力、プロパティ設定、クラウド仮想サーバの照会、検索、ロール設定を行った上で追加できます。AWS、AZURE、GCPの仮想サーバー一覧を照会してエージェントレス方式で登録できます。

[手順]

1. **構成 > デバイス管理 > エージェントレス**をクリックし、**クラウド仮想サーバの登録**ボタンをクリックします。
2. **基本情報**ステップでクレデンシャル及び名称を選択した後に**次へ**ボタンをクリックします。



図77 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - 基本情報

3. **プロパティ**ステップで必要な情報を設定し他後に**次へ**ボタンをクリックします。

4. **クラウド仮想サーバ照会**ステップに基本情報として登録するAWS、AZURE、GCPクレデンシヤルの一つを選択し、仮想サーバを照会します。照会されたインスタンスにチェックを入れ、SSHクレデンシヤルを設定して**次へ**ボタンをクリックします。

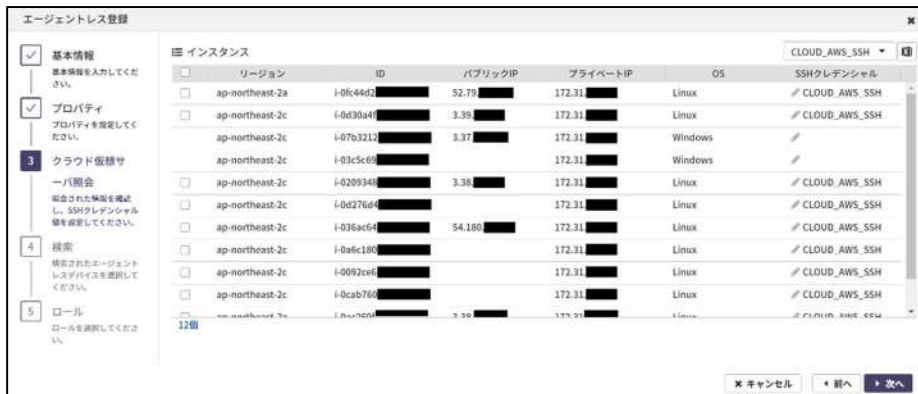


図78 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - インスタンス照会

5. **検索**ステップでは、設定されたSSHクレデンシヤルに基づいて検索し、検索結果は3つの状態（登録可能、管理、接続不可）があります。接続できないデバイスは登録できません。検索結果から追加するデバイスを選択した後に**次へ**ボタンをクリックします。



図79 クラウド仮想サーバ登録(AWS) - 検索

6. **ロール**ステップで適切なロールを選択します。

エージェントレス削除

構成 > デバイス管理 > エージェントレスメニューでデバイスを削除することができます。エー

エージェントレスサーバの削除は、管理デバイスのすべてを削除することを意味し、管理の必要性がない場合のみ削除する必要があります。一般的にエージェントレスサーバの削除は、使用権限の高い管理者に制限することをお勧めします。

エージェントレスサーバを削除する方法は、**構成 > デバイス管理 > エージェントレス**一覧で複数のデバイスを選択して同時に削除する方法も提供しています。

[手順]

1. **構成 > デバイス管理 > エージェントレス**をクリックします。
2. 一覧から削除したいデバイスにチェックを入れます。
3. **削除**ボタンをクリックして削除します。



図80 エージェントレスデバイス削除



注意：ユーザが誤って管理デバイスを削除した場合、キャンセル機能は提供されません。そのため、サーバを削除する作業は注意が必要です。もしユーザのミスでサーバを削除した場合は、再登録が必要です。この時、既存に設定したプロパティ、ロールなどは再設定する必要があります。

エージェントレス情報

エージェントレス情報は、エージェントレス方式で登録したサーバの情報を意味します。エージェントレスのツリーにはグループ(静的/スマートグループ)とエージェントレスサブのライブオブジェクトが属し、エージェントレス情報を管理する機能が提供されます。

エージェントレスサーバ情報の共通基本機能は、次のようになります

- **エージェントレスサーバの詳細情報**

ツリーから特定のエージェントレスサーバをクリックすると詳細な情報を確認でき、サブライブオブジェクトをクリックすると該当のオブジェクト情報を確認できます。

- エージェントレスサーバー一覧

静的グループまたはスマートグループをクリックすると、グループのエージェントレス一覧及びプロパティが表示されます。エージェントレス一覧には、グループに属するすべてのエージェントレスサーバが表示されます。



状態	デバイス名	ホスト名	IP	SSHポート	OS	登録日時	修正日時
UP	scout-xeus03	scout-xeus03	192.168.200.227	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57
UP	scout-xeus02	scout-xeus02	192.168.200.226	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57
UP	scout-xeus01	scout-xeus01	192.168.200.225	22	Linux	2023-01-06 11:19:02	2023-01-10 12:13:57

図81 グループのエージェントレス一覧

- エージェントレスのコンテキストメニュー

エージェントレス(AgentlessDevice)には、ジョブ生成などのサーバに従属するコンテキストメニューを提供します。

基本情報

基本情報、プロパティ、ロール情報を確認できます。エージェントレス情報に対する書き込み権限があれば、変更可能な情報を修正することができます。

[手順]

1. 構成 > デバイス管理 > エージェントレスメニューをクリックします。
2. エージェントレス一覧で確認したいサーバのデバイス名をクリックします。

図82 エージェントレスサーバの基本情報

基本情報

詳細情報には基本情報が含まれます。基本情報は、エージェントレスサーバを管理するための最小限の基本情報のみを含みます。書き込み権限があれば、項目の修正ができます。

[手順]

1. 基本情報タブをクリックします。
2. 項目修正時、画面右上の**保存**ボタンをクリックします。

<表> エージェントレスサーバの基本情報

項目	説明	修正可否
デバイス名	画面上に表示するデバイス名	O
ホスト名	ホスト名	X
IPアドレス	管理対象のIPアドレス	O
説明	詳細説明	O
静的グループのパス	属される静的グループのパス	O
OS	OS種別	X

OSバージョン	OSバージョン	X
登録者	登録ユーザのID	X
登録日時	登録日時	X
修正ユーザ	情報を修正した最後のユーザID	X
修正日時	情報が修正された最後の日時	X
アクセスタイプ	エージェントレスデバイスで接続する接続タイプ - Windowsの場合、WMI(Windows Management Instrumentation)プロトコル - AIX/Linux/SunOS/HP-UXの場合、SSHのみ選択可能	X
アカウント	エージェントレスでアクセスするユーザのアカウント - Windowsの場合、administratorsグループ権限を持つアカウントを入力 - Unix/Linuxの場合、Switching Userが可能な権限を持っているアカウントを意味	O
パスワード	エージェントレスでアクセスするアカウントのパスワード	O
ドメイン名	Active Directoryアカウントの場合、ドメイン名を入力 もし、Active Directoryアカウントではなく、一般アカウントまたは登録するサーバがADメンバーサーバでもローカルアカウントを使用する場合、ドメイン名はNULLである可能性がある	O
SSHポート	エージェントレスでアクセスするSSHのポート番号	O
SUパスワード (rootアカウント)	スクリプトを実行するとき、root権限が必要な場合に設定	O
スクリプト実行 パス	アカウントにアクセスしてスクリプトが生成するパスを意味 - スクリプト実行パスはエージェントレスの登録前のパスについてのディレクトリがある場合のみ登録が可能 - スクリプト実行パスは、アクセスアカウントの実行権限が必要 例) /home/nkia/script/	O
SSHクレデンシ ヤル	管理者 > クレデンシャル管理に登録したSSH情報 - SSHクレデンシャル情報を設定する場合には接続情報が無効になる	O

プロパティ

基本情報には、プロパティ情報が含まれます。エージェントレスに対する書き込み権限を持っている場合、項目が修正できます。

プロパティについての詳細内容は、システムオブジェクトプロパティを参照してください。

[手順]

1. プロパティタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
CLASSIFICATION	String	☑		オブジェクト分類
CLOUD_CREDENTIAL_NAME	String			SSHクレデンシャルに適用されたクラウドクレデンシャルの名前
CLOUD_RESOURCE_ID	String			クラウド環境で使用される仮想サーバの固有管理IDです。
CLOUD_TAGS	String			クラウドで指定されたタグが表示されます。
CLOUD_TYPE	String			AWS, AZURE, GCP
CREATED_DATE	Date		2023-01-06	オブジェクト生成日時
CREATED_USER	String		admin	オブジェクト生成ユーザ
CREDENTIAL_NAME	String			SSHクレデンシャルに適用されたクレデンシャルの名称です。ワー...
DESCRIPTION	String			オブジェクト説明
FORWARDKEY	String	☑		外部鍵キー
HOSTNAME	String		scourt-xms01	ホスト名
IPADDRESS	String		192.168.200.225	IPアドレス
LAST_PERSISTED_TIME	Date		2023-01-10 00:00:23	最後にシステム情報をDBストレージに保存した時間
LAST_UPDATE_PROPERTY_TIME	Date		2023-01-10 13:00:01	ライブ操作を持つプロパティの最新アップデート時間です。
MANAGER_GROUP	String	☑	DefaultGroup	接続可能なマネージャシステムグループ。クラスタリング保...
MODIFIED_DATE	Date			オブジェクト最終更新日時
MODIFIED_USER	String			オブジェクト最終更新ユーザ
NAME	String		scourt-xms01	オブジェクト名
OS_TYPE	String		linux	OS種類
REACHABLE	Boolean		true	マネージャシステムとネットワーク接続の可否
STARRED	Boolean	☑	true	特定のオブジェクトに対して星マーク
SYSTEM_ID	Integer		10038	システムで使用するオブジェクトID情報

図83 エージェントレスサーバの基本情報 - プロパティ

ロール

基本情報には、ロール情報が含まれます。エージェントレスサーバのロールには、サーバ管理のために接続可能なユーザアクセスロール情報を表示します。エージェントレスサーバの書き込み権限を持っている場合、ロールの修正ができます。

[手順]

1. ロールタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

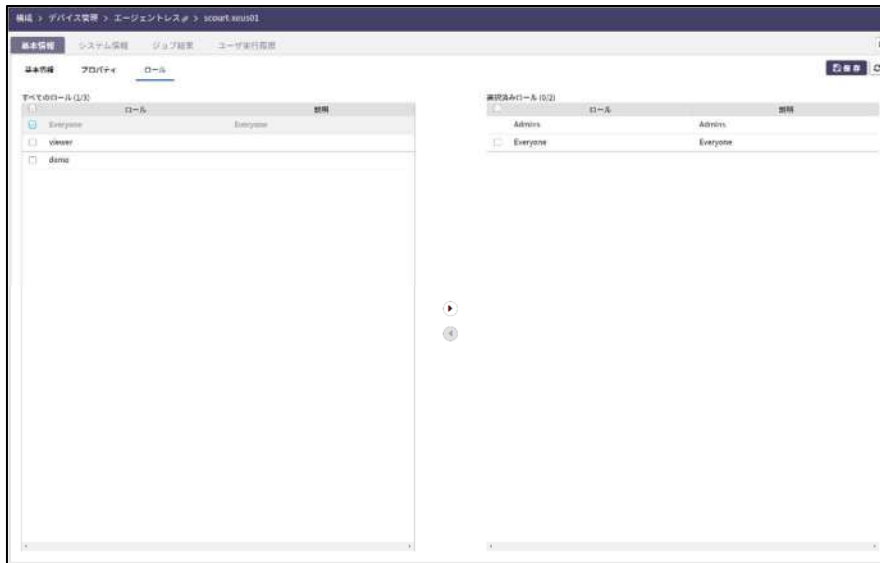


図84 エージェントレスサーバの基本情報 - ロール

システム情報

エージェントレスサーバのシステム情報を表示します。該当情報は、ライブオブジェクト情報で、定期的に収集されてDBに保存されます。**スキャン**ボタンをクリックすると最新の情報が確認できます。

システム情報では、Operating System、CPU、Memory、FileSystemなどのサーバの構成情報が確認できます。

[手順]

1. エージェントレスサーバの**システム情報**タブを選択します。
2. **スキャン**ボタンをクリックします。DB情報を再度読み込む場合は、**更新**ボタンをクリックします。システム情報は、1日に1回自動で収集されます。

Attribute	Value
OsBit	64bit
OsName	Linux
HostName	scourt-xeus01
OsVersion	CentOS Linux release 7.3.1611 (Core)
LastBootupTime	2022-10-16 10:16:20
PatchLevel	3.10.0-514.el7.x86_64
ElapsedDate	85 (Days)
LastInstallDate	
SerialNo	VMware-42 3a db 64 af 51 8f 95-51 07 eb db d3 97 01 65
Timezone	
HostID	a8c9e1c8
LastInstallElapsedDate	(Days)
Model	VMware Virtual Platform
Vendor	VMware, Inc.

図85 エージェントレスサーバ - システム情報

システム情報で収集される各項目の説明は、次のようになります。

<表> システム情報の情報

区分	項目	説明
CPUs	Clock	実装されたCPUのClock(MHz)
	Count	論理CPU Coreの数
	HyperThread	CPUがIBM製品の場合はSMT、Intelの場合はHyper-Threadingサポート有無確認 (true/false)
	Model	実装されているCPUのモデル名
	PhysicalCoreCount	物理CPU Coreの数
	SocketCount	CPU Socket (or slot) 数 (物理CPUの数)
	ThreadCount	Core当たりのスレッド数
	Vendor	実装されているCPUベンダ
Disks	Name	ディスク名
	Capacity (MB)	ディスク容量
	Vendor	ディスクベンダ
Filesystems	Name	ファイルシステム名
	Capacity (KB)	ファイルシステム容量
	DriveName	ファイルシステム物理ドライブ名
Memory	Attribute	Capacity(KB)

	Value	インストールされているメモリ量
NetworkInterfaces	Name	ネットワークインタフェース名
	Bandwidth (Kbps)	ネットワークインタフェースに割り当てられた帯域幅
	Duplex	ネットワークインタフェースに設定されているDuplex
	Ip	ネットワークインタフェースに割り当てられたIPアドレス
	Mac	ネットワークインタフェースに割り当てられたMacアドレス
	Managed	ネットワークインタフェースの管理有無
	Mtu (Octet)	ネットワークインタフェースに割り当てられたMTU
	Netmask	ネットワークインタフェースに割り当てられたNetmask
	Bondcheck	エージェントレスは収集不可
	Lacpcheck	エージェントレスは収集不可
	Operating System	ElapsedDate
HostID		サーバのHostID
HostName		サーバのホスト名
LastBootupTime		サーバの起動時間
LastInstallDate		Windowsがアップデートされた最終日時
LastInstallelapsedDate		Windowsがアップデートされてからの経過時間
Model		サーバのモデル
OsBit		サーバのOSビット
OsName		サーバOSの種別
OsVersion		サーバOSのバージョン
PatchLevel		サーバOSのパッチレベル
SerialNo		サーバのシリアル番号
Timezone		サーバのタイムゾーン
Vendor	サーバのベンダ	



参考：システム情報の自動収集は、**Live Object Persister**プラグインが担当します。
実行周期は、**管理者 > プラグイン**画面で確認できます。

ジョブ結果

ジョブ結果では、エージェントレスサーバに適用された全てのジョブに対する最新の実行結果が確認できます。ジョブについての詳細内容は、ジョブ管理を参照してください。

[手順]

1. エージェントレスサーバの**ジョブ結果**タブをクリックします。
2. 名称リンクをクリックして詳細なジョブ結果を確認します。





状態	名称	項目数	エラー	キャンセル	開始日時	終了日時	メッセージ
完了	[JA] 脆弱性点検_サービス管理_Linux	1	0		2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:45	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_ログ管理_Unix	1	0		2023-01-10 10:38:54	2023-01-10 10:38:57	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_Heartbeat点検	1	0		2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:45	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_アカウント管理_Linux	1	0		2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:30	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_ファイアウォール及びディレクター	1	0		2023-01-10 09:31:40	2023-01-10 09:32:15	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_SUDO/CVE-2017-10993対応	1	0		2023-01-10 09:30:16	2023-01-10 09:30:19	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 脆弱性点検_SudoShell脆弱性点検	1	0		2023-01-10 09:29:59	2023-01-10 09:30:01	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] 日誌点検_システム_Linux	1	0		2023-01-10 09:29:31	2023-01-10 09:29:52	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1-ジョーディング情報の変更確認	1	0		2023-01-10 09:29:14	2023-01-10 09:29:16	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1SW情報収集:Package_Application	1	0		2023-01-10 09:29:02	2023-01-10 09:29:06	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1OSファイアウォールの設定変更確認	1	0		2023-01-10 09:28:52	2023-01-10 09:28:57	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1DNS情報変更確認	1	0		2023-01-10 09:28:38	2023-01-10 09:28:40	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1Javaのバージョン確認	1	0		2023-01-10 09:28:34	2023-01-10 09:28:36	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
完了	[JA] LL1LL12情報収集:フェーズ2	1	0		2023-01-10 09:28:27	2023-01-10 09:28:32	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。

図86 エージェントレスサーバのジョブ結果

<表> エージェントレスサーバのジョブ結果情報

項目	説明
状態	実行状態
名称	ジョブ名
項目数	該当ジョブの項目数
エラー件数	ジョブ実行エラー件数
キャンセル/エラー	キャンセルまたはエラー発生有無
開始日時	ジョブの開始日時（経過時間）
終了日時	ジョブの終了日時（動作時間）
メッセージ	ジョブ実行結果メッセージ

<表> エージェントレスのジョブ状態種類

状態	アイコン	説明
実行中		実行中の状態
失敗/キャンセル		ジョブ自体エラーが発生して中断される 例) マネージャーの再起動により完了していないジョブがキャンセルされました。
エラー/完了		完了したがエラーがある
成功/完了		正常完了

ユーザ実行履歴

ユーザ実行履歴では、サーバに適用及び実行した結果に関する履歴情報を提供します。ユーザ実行履歴内容は、コマンドの実行などが含まれます。

[手順]

1. エージェントレスサーバの**ユーザ実行履歴**タブをクリックします。



期間	ユーザID	ユーザ名	接続IPアドレス	オブジェク...	オブジェクト名	ロール	権限名	権限	運用	結果	内容
2023-01-10 10:14:54	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh PA--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 10:14:33	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 10:14:00	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:55:32	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:55:21	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-10 09:55:11	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	#/bin/sh #C--	true	Granted-InstantCommand.execute
2023-01-09 20:42:23	admin	admin	MANAGER_IP_1	AgentlessDe...	scourt-xeus01	Admins	InstantCommand	execute	ls -al	true	Granted-InstantCommand.execute

図87 エージェントレスサーバ - ユーザ実行履歴

<表> エージェントレスサーバのユーザ実行履歴情報

項目	説明
期間	実行日時
ユーザID	実行ユーザ
ユーザ名	実行ユーザの名称
接続IPアドレス	ログインしたユーザのIPアドレス
オブジェクトタイプ	実行対象のタイプ (例: ServerDeviceはサーバを意味する)
オブジェクト名	オブジェクト名 (サーバの場合、サーバ名)

ロール	適用されているロール
権限名	ユーザに付与されたオブジェクトタイプ
権限	実行した際の権限 (read/write/delete/execute)
運用	実行内容
結果	実行の成功/失敗結果 (trueまたはfalse)
内容	実行結果の表示、失敗した場合のエラーメッセージが表示

ネットワーク管理

ネットワークツリーは、ネットワークデバイスを管理する作業領域です。登録したネットワークデバイスはネットワークツリーに表示されます。管理しているネットワークデバイスが多い場合、静的グループやスマートグループを利用して効率的に管理することができます。

静的グループ、スマートグループについての詳細内容は、ツリー構成を参照してください。

SNMPプロトコルを利用してネットワークデバイスの情報を収集します。**サポートするSNMPバージョンはv1、v2c、v3**です。

ネットワークデバイス登録

ネットワークデバイスを管理するためには、デバイスの登録が必要です。

ネットワークデバイスの登録は、**構成 > デバイス管理 > ネットワーク**から登録でき、基本情報の入力、プロパティ設定、デバイス検索、ロール設定を行った上で追加できます。



備考：ネットワークデバイス登録は、**追加ライセンス**が必要です。使用可能ライセンス数は、**管理者 > システム管理 > ライセンス情報**から確認できます。

[手順]

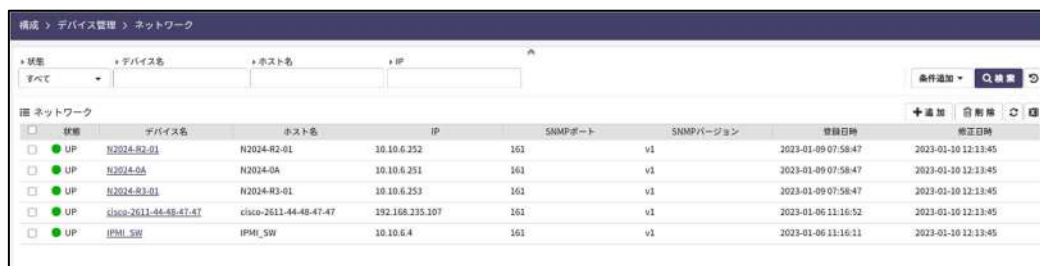
1. **構成 > デバイス登録 > ネットワーク**をクリックします。
2. ネットワーク画面で**追加**ボタンをクリックして登録作業を進めます。
3. **検索するデバイスの追加**ボタンをクリックし、検索に必要な情報を入力します。検索対象から外したい場合、**削除**ボタンをクリックして削除できます。**サンプルCSVダウンロード**ボタンをクリックした後、CSVファイルに検索デバイスの情報を入力して**CSVから探索デバイスを追加**ボタンをクリックすると、適用できます。
4. 対象デバイスの**プロパティ**情報を設定します。プロパティ項目中で必須項目としてチェックされた項目は、必ず設定してから次の段階に進むことができます。
5. 設定完了後、**次へ**ボタンをクリックします。
6. 入力した情報に基づいて**探索**が行われ、検索結果は3つの状態（登録可能、管理、接続

不可) で表示されます。登録可能状態のみ登録ができます。登録を進めるデバイスをチェックし、**次へ**ボタンをクリックします。

- 適切な**ロール**を選択し、**保存**ボタンをクリックします。
- ネットワーク一覧で登録したネットワークデバイスを確認できます。

ネットワークデバイス一覧

登録されたネットワークデバイス一覧を確認できます。**条件追加**ボタンをクリックして、基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。



状態	デバイス名	ホスト名	IP	SNMPポート	SNMPバージョン	登録日時	修正日時
UP	N2024-R2-01	N2024-R2-01	10.10.6.252	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	N2024-0A	N2024-0A	10.10.6.251	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	N2024-R3-01	N2024-R3-01	10.10.6.253	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	cisco-2611-04-48-47-47	cisco-2611-44-48-47-47	192.168.235.307	161	v1	2023-01-06 11:16:52	2023-01-10 12:13:45
UP	IPMI_SW	IPMI_SW	10.10.6.4	161	v1	2023-01-06 11:16:11	2023-01-10 12:13:45

図88 ネットワークデバイス一覧

- **状態**：SNMPの接続状態です。Up、Downで表示されます。
- **デバイス名**：ユーザが定義したネットワークデバイスの名称です。
- **ホスト名**：ネットワークデバイスのホスト名です。
- **IP**：ネットワークデバイスのIPアドレスです。
- **SNMPポート**：SNMPのポートです。
- **SNMPバージョン**：SNMPのバージョンです。
- **登録日時**：ネットワークデバイスを登録した日時です。
- **修正日時**：登録したネットワークデバイス情報を修正した日時です。

基本情報

ネットワークIPまたはSNMP情報入力画面です。**検索するデバイスの追加**ボタンをクリックし、IP、SNMPポート(デフォルト161)、SNMPバージョン、SNMPコミュニティ情報を入力します。検索対象から外したい場合、**削除**ボタンをクリックして削除できます。

サンプルCSVダウンロードボタンをクリックした後、CSVファイルに検索デバイスの情報を入力して**CSVから探索デバイスを追加**ボタンをクリックすると、適用できます。

図89 ネットワーク登録 - 基本情報



備考：ネットワークデバイスのサポートするSNMPバージョンはv1、v2c、v3です。

プロパティ

対象デバイスの設定可能なプロパティ項目を設定する画面です。プロパティ項目中で必須項目としてチェックされた項目は、必ず設定をしてから次のステップに進むことができます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
CLASSIFICATION	String			オブジェクト分類
CONNECT_FORBIDDEN	Boolean		false	接続禁止状態を確認するプロパティです。
FOREIGNKEY	String			外部連携キー
MANAGER_GROUP	String		DefaultGroup	接続可能なマネージャシステムグル...
MODEL	String			モデル
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して星マーク

図90 ネットワークデバイス登録 - プロパティ

検索

ネットワークデバイスの検索結果画面です。検索結果は3種類（管理、登録可能、接続不可）があります。検索結果から追加するデバイスを選択した後に**次へ**ボタンをクリックします。



図91 ネットワークデバイス登録 - 検索

ロール設定

ロール設定ステップで設定したロールは、登録するすべてのネットワーク機器に共通して適用されます。基本的に選択されたロールはAdminsで、適用するロールを選択することができます。

ロールの詳細については、アクセス制御を参照してください。

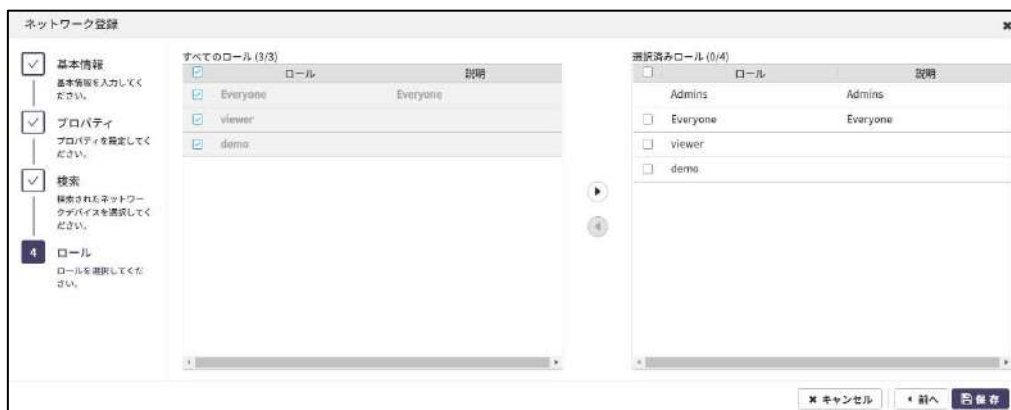


図92 ネットワークデバイス登録 - ロール



参考： ネットワーク登録のロールは、ネットワーク登録した後にアクセス制御のSystem Objectにあるロール指定及び追加されたネットワークの詳細情報でも変更することができます。

ネットワークデバイス削除

ネットワーク一覧から管理対象ネットワークデバイスを削除できます。ネットワークデバイス削除は、登録されているネットワークデバイスを削除するため、対象ネットワークデバイスの管理の必要性がない場合のみ実施します。このため、ネットワークデバイス削除の実行については権限が高いロールを持っている管理者に限定する必要があります。

以下はネットワークデバイスを削除する方法です。

[手順]

1. **構成 > デバイス管理 > ネットワーク**をクリックします。
2. ネットワーク一覧から削除したいネットワークデバイスにチェックを入れます。
3. **削除**ボタンをクリックして削除します。



図93 ネットワークデバイス削除



注意：管理されているネットワークデバイスを削除する作業は注意が必要です。もしユーザのミスで削除した場合は、再登録が必要です。この時、既存に設定したプロパティ、ロールなどは再設定する必要があります。また、関連ジョブも再設定が必要です。

ネットワークデバイス情報

ネットワークデバイスの情報は、基準的に収集される情報を確認できます。ネットワークのツリーにはグループ（静的グループ/スマートグループ）が表示され、ネットワーク下位のライブオブジェクトを含み、ネットワークの情報を管理できる機能を含みます。

ネットワークデバイスの種類は、デバイスから提供するSYS_OBJECT_ID値で確認できます。SYS_OBJECT_ID値に対応するデバイス種類のリストが保存されています。このライブラリに無いSYS

_OBJECT_IDは**Unkown**として表示されます。ネットワークデバイスの種類は、デバイスの**NET_WORK_TYPE**プロパティでユーザが直接変更できます。

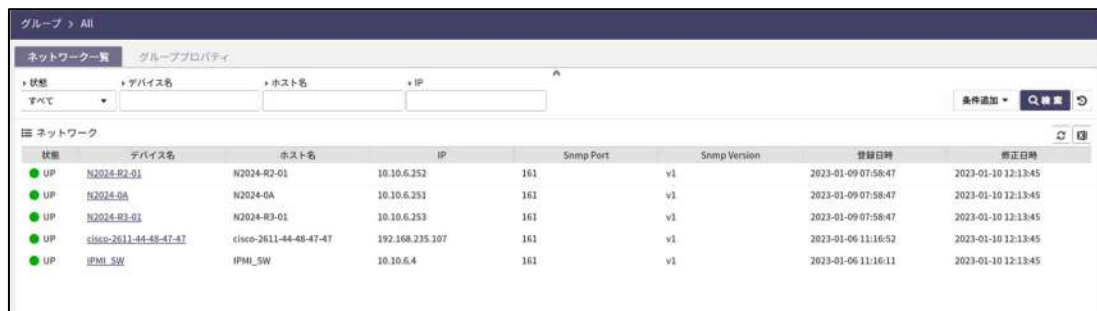
ネットワークデバイス共通の基本機能は、次のようになります。

- **ネットワークデバイスの詳細情報**

ツリーから特定のネットワークデバイスをクリックすると詳細情報を確認でき、サブライブオブジェクトをクリックすると該当のオブジェクト情報が確認できます。

- **ネットワークデバイス一覧**

静的グループまたはスマートグループをダブルクリックすると、グループのネットワークデバイス一覧及びプロパティが表示されます。ネットワークデバイス一覧には、グループに属するすべてのネットワークデバイスが表示されます。



状態	デバイス名	ホスト名	IP	Snmp Port	Snmp Version	登録日時	修正日時
UP	N2024-R2-01	N2024-R2-01	10.10.6.252	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	N2024-0A	N2024-0A	10.10.6.251	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	N2024-R3-01	N2024-R3-01	10.10.6.253	161	v1	2023-01-09 07:58:47	2023-01-10 12:13:45
UP	cisco-2011-44-48-47-47	cisco-2011-44-48-47-47	192.168.235.107	161	v1	2023-01-06 11:16:52	2023-01-10 12:13:45
UP	IPMI_SW	IPMI_SW	10.10.6.4	161	v1	2023-01-06 11:16:11	2023-01-10 12:13:45

図94 グループのネットワーク一覧

- **ネットワークデバイスコンテキストメニュー**

ネットワーク(NetworkDevice)には、**構成情報スキャン**、**ジョブ生成**などのネットワークに從属するコンテキストメニューを提供します。

基本情報

ネットワークデバイスの登録情報、プロパティ、ロール情報を確認できます。ネットワーク情報に対する書き込み権限があれば、変更可能な情報を修正することができます。

[手順]

1. ネットワークツリーまたは**構成 > デバイス管理 > ネットワーク**メニューをクリック

クします。

2. 詳細情報を確認したいネットワークデバイス名をクリックします。

図95 ネットワークデバイスの詳細情報

基本情報

ネットワークデバイスの基本情報には、基本情報が含まれます。基本情報は、ネットワークデバイスを管理するために必要な最小限の情報のみ表示されます。ネットワークデバイスに対して書き込み権限を持っている場合、項目を修正できます。

[手順]

1. ネットワークデバイスの基本情報タブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

<表> ネットワークデバイスの基本情報

項目	説明	修正可否
ネットワークタイプ	ネットワークデバイスのタイプ	X
デバイス名	画面に表示されるデバイスの名称	O
ホスト名	デバイスのホスト名	X
IPアドレス	管理用IPアドレス	O

SNMPポート	管理用SNMPポート番号	0
SNMPコミュニティ	管理用SNMP読み込みコミュニティ値	0
SNMPバージョン	管理用SNMPのバージョン	0
説明	管理デバイスに対する説明	0
静的グループのパス	デバイスが含まれているグループのパス	0
アクセスタイプ	機器のアクセスタイプ(Telnet/SSH)	0
アクセスポート	接続タイプ別のポート番号	0
アカウント名	ネットワーク機器に接続してコマンドを実行できるアカウント名	0
パスワード	アカウントに対するパスワード	0
Enableパスワード	Enableモードのパスワード	0
登録者	デバイスの登録ユーザのID	X
登録日時	デバイスの登録日時	X
修正ユーザ	デバイスの情報を修正したユーザのID	X
修正日時	デバイスの情報を修正した日時	X
USM User	使用者名 (SNMP v3専用)	0
Secure Level	セキュリティレベル (SNMP v3専用)	0
Auth Algorithm	権限暗号化アルゴリズム (SNMP v3専用)	0
Auth Password	権限パスワード (SNMP v3専用)	0
Privacy Algorithm	プライバシー暗号化アルゴリズム (SNMP v3専用)	0
Privacy Password	プライバシーパスワード (SNMP v3専用)	0
ContextName	コンテキスト名 (SNMP v3専用)	0



備考：ネットワークデバイスに接続してコマンドを実行するには、アカウント名とパスワードを必須で入力が必要です。また、Enableモードで接続してコマンドを実行するためには、Enableパスワードを必須で入力が必要です。

プロパティ

ネットワークデバイスの基本情報には、プロパティが含まれます。ネットワークデバイスに対する書き込み権限を持っている場合、項目が修正できます。

プロパティについての詳細内容は、システムオブジェクトプロパティを参照してください。

[手順]

1. ネットワークデバイスのプロパティタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
CLASSIFICATION	String			オブジェクト分類
CONNECT_FORBIDDEN	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	接続禁止状態を指定するプロパティです。
CREATED_DATE	Date		2023-01-06	オブジェクト生成日時
CREATED_USER	String		admin	オブジェクト生成ユーザ
DESCRIPTION	String			オブジェクト説明
ENABLE_PASSWORD	String			ネットワーク機器への接続情報(enable)パスワード設定をプロ...
ENTERPRISE_NUMBER	String	<input checked="" type="checkbox"/>	9	ベンダーから提供されるenterprise number
FOREIGNKEY	String			外鍵鍵値キー
HOSTNAME	String		IPM1_SW	ホスト名
IPADDRESS	String		10.10.1.1	IPアドレス
LAST_PERSISTED_TIME	Date		2023-01-10 09:00:35	最後にシステム情報をDBストレージに保存した時間
LAST_UPDATE_PROPERTY_TIME	Date		2023-01-10 13:00:01	タイプ属性を持つプロパティの最終アップデート時間です。
MANAGER_GROUP	String	<input checked="" type="checkbox"/>	DefaultGroup	接続可能なマネージャシステムグループ、クラスタリング機...
MODEL	String	<input checked="" type="checkbox"/>		モデル
MODIFIED_DATE	Date		2023-01-06	オブジェクト最終更新日時
MODIFIED_USER	String		admin	オブジェクト最終更新ユーザ
NAME	String		IPM1_SW	オブジェクト名
NETWORK_TYPE	String		unknown	ネットワークデバイスタイプ
OS_TYPE	String		Network	OS種類
OS_VERSION_LIVE	String		105.12.2(S)03E5	OSバージョン
REACHABLE	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	true	マネージャシステムとネットワーク接続の有否
STARRED	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	true	特定のオブジェクトに対してマーク
SYSTEM_ID	Integer		10034	システムで使用するオブジェクトID情報
SYS_OBJECT_ID	String		1.3.6.1.4.1.9.1.328	ベンダーが提供するSysObjectID

図96 ネットワークデバイスの基本情報 - プロパティ



注意 : デバイスのプロパティの項目の中には、IPADDRESSのような基本情報にも含まれる項目があります。このような項目はプロパティでは修正できず、基本情報から修正する必要があります。CONNECT_FORBIDDEN項目は、コマンド実行に失敗した場合のデバイス接続禁止設定です。詳細については、**構成 > プロパティリスト > System Object > NetworkDeviceプロパティ**に作成された内容を参照してください。

ロール

ネットワークデバイスの基本情報には、ロールが含まれます。ネットワークデバイス管理のための、ユーザアクセスロール情報を表示します。該当ネットワークデバイスに対する書き込み権限を持っていれば、ロールの修正ができます。

[手順]

1. ネットワークデバイスのロールタブをクリックします。
2. 項目を修正した場合、右上の**保存**ボタンをクリックします。

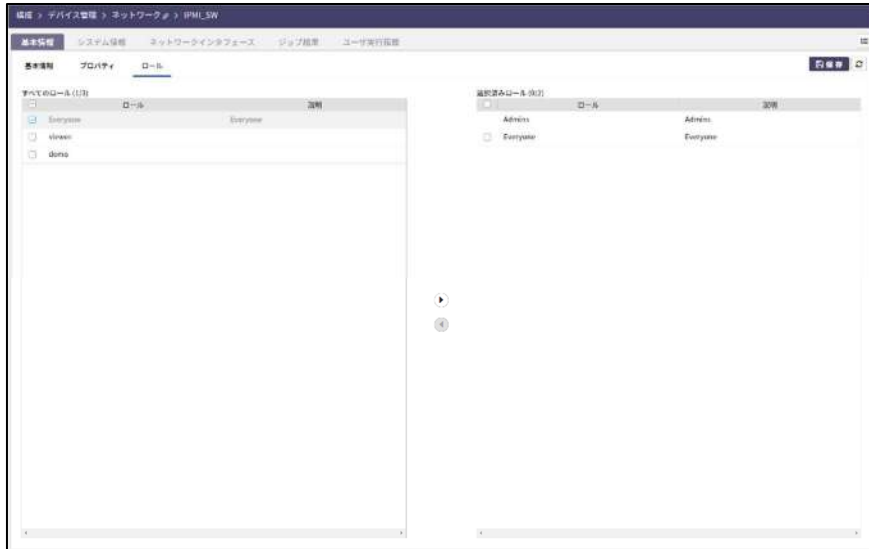


図97 ネットワークデバイスの基本情報 - ロール

システム情報

ネットワークデバイスのシステム情報の情報を表示します。該当情報はSNMPを通じて収集したライブオブジェクト情報で、周期的に収集されDBに保存された情報です。スキャン日時を通じて収集された時間を確認することができ、もし現在の情報で確認したい場合は**スキャン**ボタンをクリックすると、リアルタイムでスキャンしてDBに保存します。



図98 ネットワークデバイスのシステム情報

システム情報で収集される各項目に対する説明は、以下の通りです。

<表> ネットワークデバイスのシステム情報の情報

項目	説明
Model	機器のモデル情報です。POLESTAR Automationのモデルライブラリに

	存在しない場合は、 Unknown で表示されます。
OsVersion	機器のOSバージョン情報です。POLESTAR Automationで管理されているメーカーの機器がない場合は、表示されない可能性もあります。
SerialNumber	機器のシリアル番号です。機器の種類によって表示されない可能性もあります。
SysContact	機器担当者の連絡先です。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.4で収集します。
SysDescr	機器の説明情報です。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.1で収集します。
SysLocation	機器の位置情報です。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.6で収集します。
SysName	機器名です。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.5で収集します。
SysObjectID	機器のオブジェクトIDです。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.2で収集します。
SysUpTime	機器の起動日時です。SNMP OID 1.3.6.1.2.1.1.3で収集します。
Vendor	機器のメーカー情報です。POLESTAR Automationのモデルライブラリに存在しない場合は、 Unknown で表示されます。



参考 : システム情報の自動収集は、**Live Object Persister**プラグインが担当します。実行周期は、**管理者 > プラグイン**画面で確認できます。



注意 : システム情報の情報中、ModelとVendor項目はSNMPを通じて収集した値で、ネットワークデバイスのプロパティMODEL、VENDOR項目はユーザが修正できる情報です。このため、2つの場所で表示される値が異なる場合があります。

ネットワークインタフェース

ネットワークデバイスのインタフェース情報と、該当インタフェースに接続されているデバイスが表示されます。この情報は、SNMPを利用して収集されたオブジェクトの情報であり、定期的に収集され、DBに保存されます。スキャン日付を利用して、収集された時間を確認することができます。最新の情報を再確認したい場合は**スキャン**ボタンをクリックすると、リアルタイムでスキャンしてDBに保存します。

インタフェースの接続情報は、**Layer2 Bridge MIB**を使用して分析します。したがってL2スイッチング機能を備えていないか、またはBridge MIBをサポートしていない機器は、接続情報が表示されません。

Name	IfIndex	OperationalStatus	Port	Type	Bandwidth	Description	Mtu (Octet)	Netmask	AdminStatus	IfName	Ip	Mac	Alias
Vl1	1	Down		propVirtual	1000000	Vlan1	1500		UP	Vl1		88-62-1F-BE--	
Vl99	99	UP		propVirtual	1000000	Vlan99	1500	255.255.255.0	UP	Vl99	10.10.6.4	88-62-1F-BE--	
Fa0/1	10001	UP	1	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/1		88-62-1F-BE--	
Fa0/2	10002	Down	2	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/2		88-62-1F-BE--	
Fa0/3	10003	UP	3	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/3		88-62-1F-BE--	
Fa0/4	10004	Down	4	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/4		88-62-1F-BE--	
Fa0/5	10005	UP	5	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/5		88-62-1F-BE--	
Fa0/6	10006	Down	6	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/6		88-62-1F-BE--	
Fa0/7	10007	Down	7	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/7		88-62-1F-BE--	
Fa0/8	10008	Down	8	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/8		88-62-1F-BE--	
Fa0/9	10009	Down	9	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/9		88-62-1F-BE--	
Fa0/10	10010	Down	10	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/10		88-62-1F-BE--	
Fa0/11	10011	UP	11	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/11		88-62-1F-BE--	
Fa0/12	10012	UP	12	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/12		88-62-1F-BE--	
Fa0/13	10013	UP	13	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/13		88-62-1F-BE--	
Fa0/14	10014	UP	14	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/14		88-62-1F-BE--	
Fa0/15	10015	UP	15	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/15		88-62-1F-BE--	
Fa0/16	10016	Down	16	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/16		88-62-1F-BE--	
Fa0/17	10017	Down	17	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/17		88-62-1F-BE--	
Fa0/18	10018	Down	18	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/18		88-62-1F-BE--	
Fa0/19	10019	UP	19	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/19		88-62-1F-BE--	
Fa0/20	10020	Down	20	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/20		88-62-1F-BE--	
Fa0/21	10021	UP	21	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/21		88-62-1F-BE--	
Fa0/22	10022	UP	22	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/22		88-62-1F-BE--	
Fa0/23	10023	Down	23	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/23		88-62-1F-BE--	
Fa0/24	10024	Down	24	ethernetCs--	100000	FastEthernet--	1500		UP	Fa0/24		88-62-1F-BE--	

図99 ネットワークデバイスのネットワークインタフェース

<表> ネットワークインタフェースの情報

項目	説明
Name	インタフェース名
IfIndex	インタフェースのインデックス
OperationalStatus	インタフェースの管理状態
Port	インタフェースのポート番号
Type	インタフェースのタイプ
Bandwidth (Kbps)	インタフェースの帯域幅
Description	インタフェースの説明
Mtu (Octet)	インタフェースのMTU(Octet)
Netmask	インタフェースのNetmask
AdminStatus	インタフェースの管理状態
IfName	インタフェースの名称
Ip	接続されている機器のIPアドレス
Mac	連結したデバイスのMacアドレス
Alias	設定した名称



参考 : ネットワークインタフェースの自動情報は、**Switch Port Scanner**プラグインが担当します。実行周期は**管理者 > プラグイン**画面から確認できます。

ジョブ結果

ジョブ結果では、ネットワークデバイスに適用された全てのジョブに対する最新の実行結果が確認できます。ジョブについての詳細内容は、ジョブ管理を参照してください。

[手順]

1. ネットワークデバイスの**ジョブ結果**タブをクリックします。
2. 名称リンクをクリックして詳細なジョブ結果を確認します。

状態	名称	項目数	エラー	キャン	開始日時	終了日時	メッセージ
成功	running-config比較	1	0		2023-01-10 10:44:01	2023-01-10 10:44:03	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	running-config変更履歴	1	0		2023-01-10 10:28:46	2023-01-10 10:28:49	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ICL ユーザセッションの確定	1	0		2023-01-10 10:04:08	2023-01-10 10:04:18	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ICL メモリ情報の取得	1	0		2023-01-10 10:03:31	2023-01-10 10:03:32	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ICL ホスト情報の取得	1	0		2023-01-10 10:03:13	2023-01-10 10:03:13	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ICL running-configの取得	1	0		2023-01-10 10:02:55	2023-01-10 10:02:56	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ICL CPU情報の取得	1	0		2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:22	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。




図100 ネットワークデバイスのジョブ結果

<表> ネットワークデバイスのジョブ結果情報

項目	説明
状態	実行状態
名称	ジョブ名
項目数	該当ジョブの項目数
エラー件数	ジョブ実行エラー件数
キャンセル/エラー	キャンセルまたはエラー発生有無
開始日時	ジョブの開始日時（経過時間）
終了日時	ジョブの終了日時（動作時間）
メッセージ	ジョブ実行結果メッセージ

<表> ジョブ状態種類

状態	アイコン	説明
実行中		実行中の状態

失敗/キャンセル		ジョブ自体エラーが発生して中断される 例) マネージャーの再起動により完了していないジョブがキャンセルされました。
エラー/完了		完了したがエラーがある
成功/完了		正常完了

ユーザ実行履歴

ユーザ実行履歴では、ネットワークに適用及び実行した結果に関する履歴情報を提供します。

[手順]

1. ネットワークデバイスの**ユーザ実行履歴**タブをクリックします。



図101 ネットワークデバイスのユーザ実行履歴

<表> ネットワークデバイスのユーザ実行履歴情報

項目	説明
期間	実行日時
ユーザID	実行ユーザ
ユーザ名	実行ユーザの名称
接続IPアドレス	ログインしたユーザのIPアドレス
オブジェクトタイプ	実行対象のタイプ (例: ServerDeviceはサーバを意味する)
オブジェクト名	オブジェクト名 (サーバの場合、サーバ名)
ロール	適用されているロール
権限名	ユーザに付与されたオブジェクトタイプ
権限	実行した際の権限 (read/write/delete/execute)
運用	実行内容
結果	実行の成功/失敗結果 (trueまたはfalse)
内容	実行結果の表示、失敗した場合のエラーメッセージが表示



ネットワーク構成管理

ネットワーク構成管理は、ネットワークオブジェクトを収集できるように、ネットワークコマンド及びコマンドの結果をパーシングして構成項目を定義したテンプレートとして定義し、そのテンプレートをネットワーク機器に適用して構成情報を収集します。収集した結果を照会することができます。



備考：コマンドを実行するために、ネットワーク機器の接続情報を設定する必要があります。ネットワーク接続情報は、登録したネットワーク機器の**基本情報**で設定できます。

ネットワークオブジェクト管理

ネットワークオブジェクト管理は、ネットワーク構成情報収集のためにネットワークコマンドを定義し、ネットワークコマンドを通じて収集した情報を管理できるようにパーシングして構成項目を定義します。

ネットワークオブジェクト管理一覧

登録したネットワークオブジェクト管理一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目の以外に追加で検索したい項目を追加して検索できます。

モデル	OS	名称	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時	説明
Cisco	IOS	show configuration id_IOS	admin		2023-01-06 17:00:41		
Cisco	NX-OS	show configuration id_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:41		
Cisco	IOS	show mfo status_IOS	admin		2023-01-06 17:00:41		
Cisco	NX-OS	show mfo status_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:41		
Cisco	NX-OS	show interface_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:40		
Cisco	IOS	show interface_IOS	admin		2023-01-06 17:00:39		
Cisco	IOS	show access-list_IOS	admin		2023-01-06 17:00:38		
Cisco	NX-OS	show access-list_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:38		
Cisco	IOS	show version_IOS	admin		2023-01-06 17:00:37		
Cisco	NX-OS	show version_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:37		
Cisco	IOS	show running-config_IOS	admin		2023-01-06 17:00:36		
Cisco	NX-OS	show running-config_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:36		
Cisco	NX-OS	show interfaces summary_...	admin		2023-01-06 17:00:35		
Cisco	IOS	show logging count_IOS	admin		2023-01-06 17:00:35		
Cisco	NX-OS	show logging count_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:35		
Cisco	IOS	show mac address-table_...	admin		2023-01-06 17:00:35		
Cisco	IOS	show interfaces summary_...	admin		2023-01-06 17:00:34		
Cisco	IOS	show mac address-table_...	admin		2023-01-06 17:00:34		
Cisco	IOS	show interfaces counters_...	admin		2023-01-06 17:00:33		
Cisco	NX-OS	show interfaces counters_...	admin		2023-01-06 17:00:33		
Cisco	IOS	show env_all_IOS	admin		2023-01-06 17:00:31		
Cisco	NX-OS	show envrtable defect_ios_...	admin		2023-01-06 17:00:31		
Cisco	IOS	show envrtable defect_IOS	admin		2023-01-06 17:00:30		
Cisco	NX-OS	show environment_NXOS	admin		2023-01-06 17:00:29		

図102 ネットワークオブジェクト管理一覧

- **モデル**：ネットワークオブジェクト管理を適用できるネットワーク機器のモデル名です。
- **OS**：ネットワークオブジェクト管理を適用できるネットワーク機器のOSです。
- **名称**：指定したネットワークオブジェクト管理の名称です。
- **登録者**：ネットワークオブジェクト管理を登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：ネットワークオブジェクト管理情報を修正したユーザIDです。
- **登録日時**：ネットワークオブジェクト管理の登録日時です。
- **修正日時**：登録したネットワークオブジェクト管理情報の修正日時です。
- **説明**：ネットワークオブジェクトの説明です。

ネットワークオブジェクト登録

ネットワーク構成管理機能を活用するには、ネットワークオブジェクト収集管理で使用するネットワークオブジェクト管理を登録する必要があります。

ネットワークオブジェクト管理登録は、**構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト管理**メニューを利用し、基本情報、収集コマンド、データ変換ステップを進めることで登録できます。

[手順]

1. **構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト管理**を選択します。
2. ネットワークオブジェクト管理画面で、**追加**ボタンをクリックして登録作業を進めます。
3. **基本情報**ステップで以下の項目を入力または選択し、**次へ**ボタンをクリックします。
 - **名称**：ネットワークオブジェクト管理の名称を入力します。
 - **モデル**：モデルを選択します。
サポートするモデル：Cisco
 - **OS**：OSを選択します。
サポートするOS：IOS、NX-OS
 - **説明**：ネットワークオブジェクト管理の説明を入力します。
4. **収集コマンド**ステップでは、以下の項目を入力または選択し、**次へ**ボタンをクリックします。
 - **タイプ**：コマンドタイプを選択します。
サポートするコマンドタイプ：Network CLI
 - **promptに正規式使用**：ユーザが直接に正規式を入力して使用できます。
 - **Expect**：**追加**ボタンをクリックして、実行するコマンドを入力します。
 - **プロパティ**：ネットワーク機器に設定されたプロパティに項目を選択し、コマンド入力欄に適用します。
 - **結果保存**：入力したコマンドの実行結果の保存有無を選択できます。チェック時にDBに結果を保存し、チェックしない場合はコマンドの実行のみ行い、DBに結果は保存されません。
5. **データ変換**ステップで以下の項目を入力または選択し、**保存**ボタンをクリックします。
 - **スクリプト種類**：スクリプトの形式を選択します。
サポートするスクリプト言語：Python
 - **EXPECT_TIMEOUT(秒)**：前のステップである収集コマンドステップのネットワーク機器でコマンドを実行した後、指定した時間までコマンドの応答を待機した後、終了する時間(秒)を設定します。
 - **スクリプト**：データ変換のためのスクリプトの内容を入力するか、**プロパティ**ボタンを利用してサーバに定義されたプロパティを含めることができ、**マイコン**

ピュータボタンを利用してスクリプトファイルを直接選択できます。

- **構成項目定義**：コマンドの結果をスクリプト実行して、項目ごとに整理できるように構成項目を定義します。順番とカラム名、データ型(String、Integer)を設定します。



備考：モデルとOSが同じ場合、名称の重複登録はできません。

基本情報

ネットワークオブジェクト管理の基本情報が表示され、名称と説明を変更できます。



図103 ネットワークオブジェクト管理 - 基本情報

- **名称**：ネットワークオブジェクト管理の名称で、変更できます。
- **モデル**：ネットワークオブジェクト管理を適用できるネットワーク機器モデルです。
- **OS**：ネットワークオブジェクト管理を適用できるネットワーク機器のOSです。
- **説明**：ネットワークオブジェクト管理に関する説明で、変更できます。

収集コマンド

ネットワークオブジェクト管理の収集コマンド情報が表示され、コマンドの変更及び結果保存、コマンドの順番を変更できます。



図104 ネットワークオブジェクト管理 - 収集コマンド

- **タイプ** : コマンドのタイプです。
サポートするコマンドタイプ : Network CLI
- **promptに正規式使用** : 正規式使用有無がチェック/チェック解除されています。
- **Expect** : 実行するコマンドが入力されています。結果保存有無がチェック/チェック解除されています。

データ変換

ネットワークオブジェクト管理のデータ変換情報が表示されます。コマンドの結果を変換するスクリプトが登録され、構成項目が定義されています。

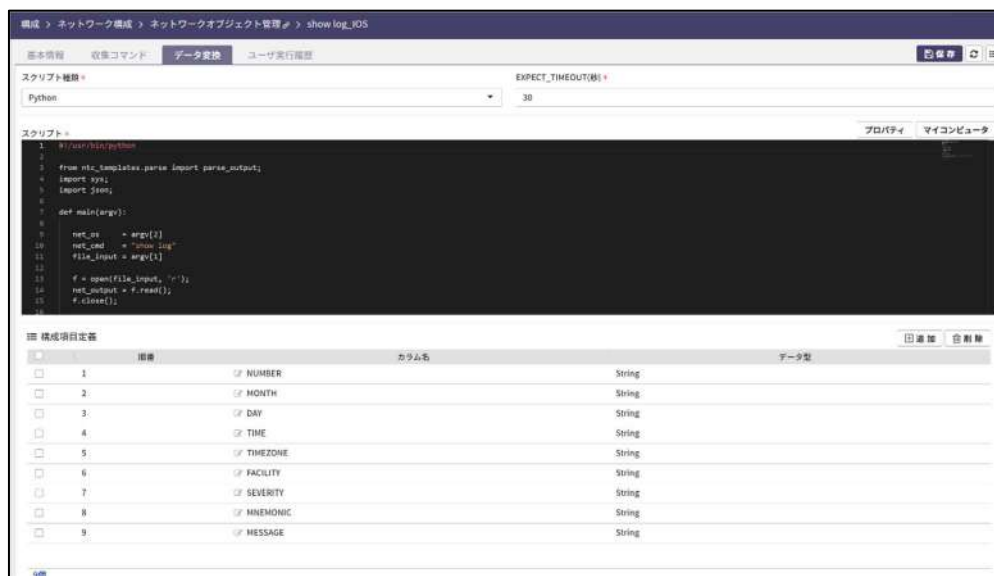


図105 ネットワークオブジェクト管理 - データ変換

- **スクリプト種類** : スクリプトの形式を選択します。
サポートするスクリプト言語 : Python
- **EXPECT_TIMEOUT(秒)** : 収集コマンドタブのネットワーク機器でコマンド

を実行した後、指定された時間までコマンドの応答を待機して終了する時間(秒)です。

- **スクリプト**：データ変換のためのスクリプトが登録され、変更できます。
- **構成項目定義**：構成項目が定義されています。順番とカラム名、データ型(String、Integer)の設定を変更できます。

ユーザ実行履歴

ネットワークオブジェクト管理に対する作成、修正、削除履歴を照会できます。

期間	ユーザID	ユーザ名	接続IPアドレス	オブジェ...	オブジェクト名	ロール	種類名	権限	運用	結果	内容
2023-01-10 13:59:32	admin	admin	1.1.1.1	CIObjNetwork	show log_ios	Admins	CINetwork	write	updateCIObj...	true	
2023-01-10 13:58:29	admin	admin	1.1.1.1	CIObjNetwork	show log_ios	Admins	CINetwork	write	updateCIObj...	true	

図106 ネットワークオブジェクト管理 - ユーザ実行履歴

ネットワークオブジェクト収集管理

ネットワークオブジェクト収集管理は、ネットワーク構成情報収集のためにネットワークオブジェクト管理に定義されたコマンドなどの内容に基づいてネットワーク機器に適用して結果を収集できる機能です。スケジュール設定により、定期的に行うことができます。ネットワークオブジェクト収集管理を実行するには、ネットワーク機器の接続情報設定が必要です。

ネットワークオブジェクト収集管理一覧

登録したネットワークオブジェクト収集管理の一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外に追加で検索したい項目を追加して検索できます。

名称	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
<input type="checkbox"/> show configuration id_IOS		admin		2023-01-09 07:57:09	
<input type="checkbox"/> show configuration id_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:09	
<input type="checkbox"/> show version_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:09	
<input type="checkbox"/> show spanning tree_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:08	
<input type="checkbox"/> show standby IOS		admin		2023-01-09 07:57:08	
<input type="checkbox"/> show version_IOS		admin		2023-01-09 07:57:08	
<input type="checkbox"/> show running-config_IOS		admin		2023-01-09 07:57:07	
<input type="checkbox"/> show running-config_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:07	
<input type="checkbox"/> show spanning-tree_IOS		admin		2023-01-09 07:57:07	
<input type="checkbox"/> show processes cpu sort_IOS		admin		2023-01-09 07:57:06	
<input type="checkbox"/> show processes mem sort_IOS		admin		2023-01-09 07:57:06	
<input type="checkbox"/> show processes mem sort_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:06	
<input type="checkbox"/> show module_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:05	
<input type="checkbox"/> show ntp status_IOS		admin		2023-01-09 07:57:05	
<input type="checkbox"/> show ntp status_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:05	
<input type="checkbox"/> show mac address-table_IOS		admin		2023-01-09 07:57:04	
<input type="checkbox"/> show mac address-table_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:04	
<input type="checkbox"/> show module_IOS		admin		2023-01-09 07:57:04	
<input type="checkbox"/> show logins count_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:03	
<input type="checkbox"/> show log_IOS		admin	admin	2023-01-09 07:57:03	2023-01-10 10:06:56
<input type="checkbox"/> show log_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:03	
<input type="checkbox"/> show in route_IOS		admin		2023-01-09 07:57:02	
<input type="checkbox"/> show in route_NXOS		admin		2023-01-09 07:57:02	
<input type="checkbox"/> show logins count_IOS		admin		2023-01-09 07:57:02	

図107 ネットワークオブジェクト収集管理一覧

- **名称**：ネットワークオブジェクト収集管理の名称です。
- **次の実行日時**：スケジュール設定による次の実行日時です。空白はスケジュール設定がされていない場合です。
- **登録者**：ネットワークオブジェクト収集管理を登録したユーザ ID です。
- **修正ユーザ**：ネットワークオブジェクト収集管理の情報を修正したユーザ ID です。
- **登録日時**：ネットワークオブジェクト収集管理の登録日時です。
- **修正日時**：登録したネットワークオブジェクト収集管理の情報修正日時です。

ネットワークオブジェクト収集管理登録

ネットワーク構成管理機能を活用するには、ネットワークオブジェクト収集管理を登録する必要があります。

ネットワークオブジェクト収集管理の登録は、**構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト収集管理**メニューを利用し、基本情報、ネットワークオブジェクト、対象デバイス、スケジュール、プロパティ、ロールステップを進めて登録します。

[手順]

1. **構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト収集管理**を選択します。

2. ネットワークオブジェクト収集管理画面で**追加**ボタンをクリックして登録作業を進めます。
3. **基本情報**ステップで以下の項目を入力または選択し、**次へ**ボタンをクリックします。
 - **名称** : ネットワークオブジェクト収集管理の名称を入力します。
 - **説明** : ネットワークオブジェクト収集管理の説明を入力します。
 - **モデル**: モデルを選択します。
サポートするモデル : Cisco
 - **OS** : OSを選択します。
サポートするOS : IOS、NX-OS
4. **ネットワークオブジェクト**ステップでは、ネットワークオブジェクト一覧からネットワークオブジェクトを選択して、選択したネットワークオブジェクトに移動します。ネットワークオブジェクトは、基本情報ステップで選択したモデル及びOSと一致するネットワークオブジェクトのみが表示されます。
5. **対象デバイス**ステップでは、ネットワークでネットワークまたはグループを選択して、選択したネットワークに移動します。
6. **スケジュール**ステップでは、ネットワークオブジェクト収集管理を実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、点検ジョブ生成のスケジュール部分を参照してください。
7. **プロパティ**ステップでは、ネットワークオブジェクト収集管理のプロパティを設定できます。



参考 : プロパティの追加または修正は、メニューの**構成 > プロパティリスト**で行います。



参考 : プロパティを追加する場合、スペースが自動的に追加されません。Expectコマンドの後にプロパティを追加する場合は、コマンドとプロパティの間に空白を追加する必要があります。

<表> ネットワークオブジェクト収集管理のプロパティ

プロパティ名	デフォルト値	説明
RUN_TIMEOUT_MIN	180	デバイスごとにネットワークオブジェクト収集が完了するまでの 最大待機時間（分） 。タイムアウト時間までに作業が完了しない場合、実行を強制的にキャンセルさせます。タイムアウトさせないようにするには0に設定します。
SCHEDULE_PAUSE	false	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	false	特定のオブジェクトに対して星マーク

8. **ロール**ステップでは、生成するネットワークオブジェクト収集管理にアクセスできるロールを設定します。選択したロールを持つユーザのみ生成したネットワークオブジェクト収集管理にアクセスできます。

基本情報

ネットワークオブジェクト収集管理の基本情報が表示され、名称と説明を変更できます。



図108 ネットワークオブジェクト収集管理 - 基本情報

- **名称**：ネットワークオブジェクト収集管理の名称で、変更できます。
- **説明**：ネットワークオブジェクト収集管理の説明で、変更できます。
- **モデル**：ネットワークオブジェクト収集管理を適用できるネットワーク機器のモデルです。
- **OS**：ネットワークオブジェクト収集管理を適用できるネットワーク機器のOSです。

ネットワークオブジェクト

ネットワークオブジェクト収集管理を実行するための対象ネットワークオブジェクトを設定します。ネットワークオブジェクト領域には、基本情報で選択したモデルとOSに対応するネットワークオブジェクトの一覧が表示されます。ネットワークオブジェクトを選択し、右側の移動ボタンをクリックして選択したネットワークオブジェクト領域に移動します。複数のネットワークオブジェクトの選択ができ、収集管理実行後の照会結果にはネットワークオブジェクト別に表示されます。

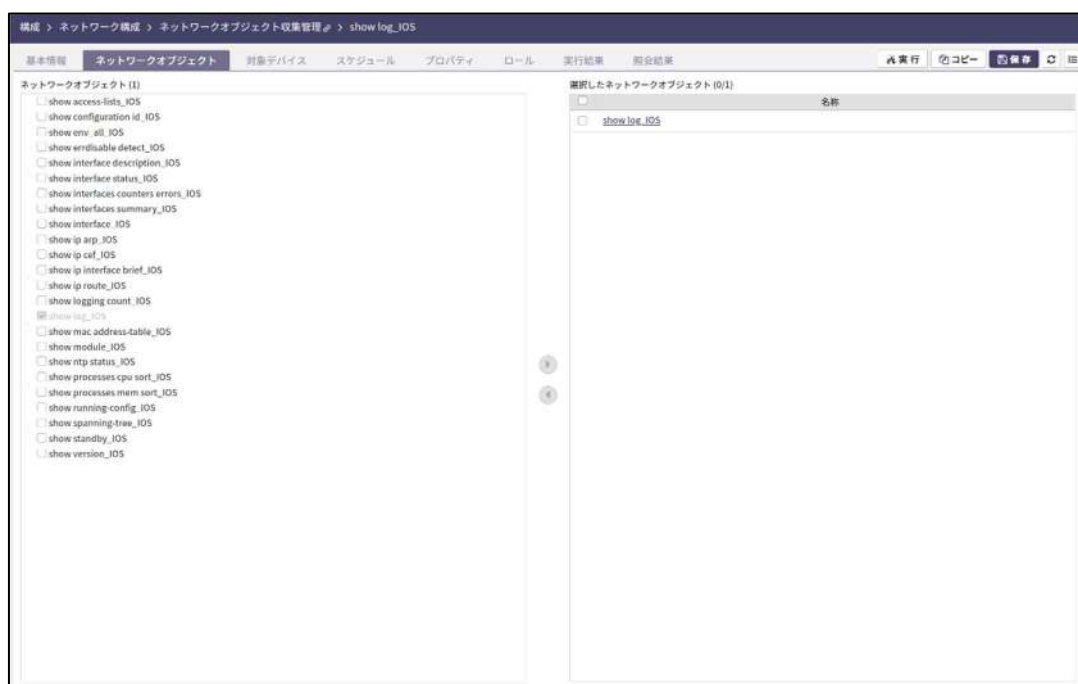


図109 ネットワークオブジェクト収集管理 - ネットワークオブジェクト

対象デバイス

ネットワークオブジェクト収集管理の実行するための対象ネットワークを設定します。ネットワーク領域には、全体のネットワーク一覧が表示されます。デバイスまたはグループを選択し、右側の移動ボタンをクリックして選択したネットワーク領域に移動します。

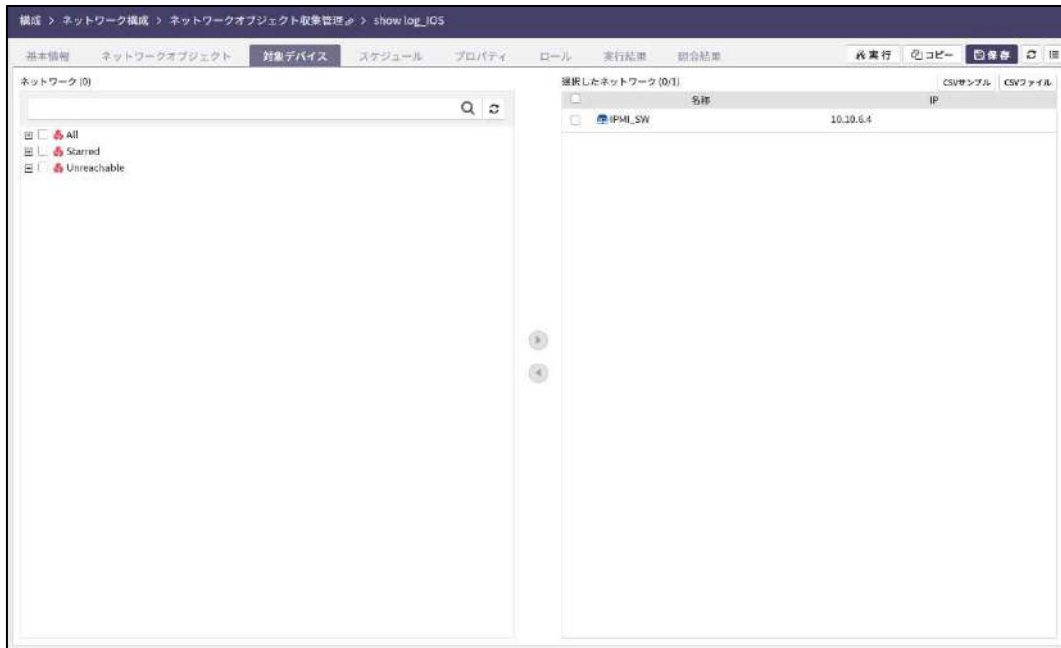


図110 ネットワークオブジェクト収集管理 - 対象デバイス

スケジュール

ネットワークオブジェクト収集管理を実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、点検ジョブ生成のスケジュール部分を参照してください。



図111 ネットワークオブジェクト収集管理 - スケジュール

プロパティ

ネットワークオブジェクト収集管理のプロパティを設定できます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
CREATED_DATE	Date		2023-01-09	オブジェクト生成日時
CREATED_USER	String		admin	オブジェクト生成ユーザ
DESCRIPTION	String			オブジェクト説明
IS_SCHEDULED	Boolean		false	ネットワークオブジェクト収集管理のスケジュール設定有無
MODIFIED_DATE	Date		2023-01-10	オブジェクト最終変更日時
MODIFIED_USER	String		admin	オブジェクト最終変更ユーザ
NAME	String		show log_IOS	オブジェクト名
OS_TYPE	String		ios	OS種類
RUN_TIMEOUT_MIN	Integer		180	デバイスごとにネットワークオブジェクト収集が完了するまでの最大待機時間(分)。タイムアウト時間までに作業が完了しない場合、実行を強制的にキャンセルさせます。タイムアウトさせないようにするには0に設定します。
SCHEDULE_PAUSE	Boolean		false	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して星マーク
SYSTEM_ID	Integer		10078	システムで使用するオブジェクトID情報

図112 ネットワークオブジェクト収集管理 - プロパティ

<表> ネットワークオブジェクト収集管理のプロパティ

プロパティ名	説明
CREATED_DATE	オブジェクト生成日時
CREATED_USER	オブジェクト生成ユーザ
DESCRIPTION	オブジェクト説明
IS_SCHEDULED	ネットワークオブジェクト収集管理のスケジュール設定有無
MODIFIED_DATE	オブジェクト最終変更日時
MODIFIED_USER	オブジェクト最終変更ユーザ
NAME	オブジェクト名
OS_TYPE	OS種類
RUN_TIMEOUT_MIN	デバイスごとにネットワークオブジェクト収集が完了するまでの 最大待機時間(分) 。タイムアウト時間までに作業が完了しない場合、実行を強制的にキャンセルさせます。タイムアウトさせないようにするには0に設定します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク
SYSTEM_ID	システムで使用するオブジェクトID情報

ロール

ネットワークオブジェクト収集管理にアクセスできるロール設定が表示されます。選択されたロールに属するユーザのみ生成したネットワークオブジェクト収集管理にアクセスできます。

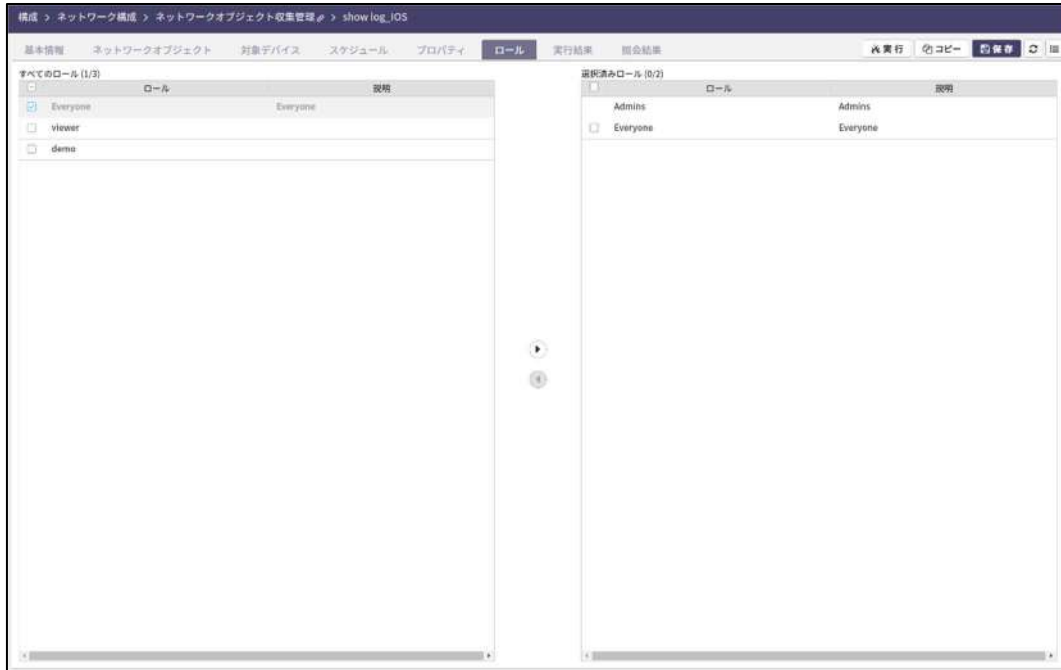


図113 ネットワークオブジェクト収集管理 - ロール

実行結果

ネットワークオブジェクト収集管理の実行結果を確認できます。



図114 ネットワークオブジェクト収集管理 - 実行結果

ネットワークオブジェクト収集管理の一覧でネットワークオブジェクト収集管理の名称をクリックすると、詳細な実行結果を確認できます。



図115 ネットワークオブジェクト収集管理 - 実行結果の詳細

照会結果

ネットワークオブジェクト収集管理を実行した最後の結果を照会します。モデル、ネットワークオブジェクト、デバイス名、構成項目一覧、収集日時が表示されます。

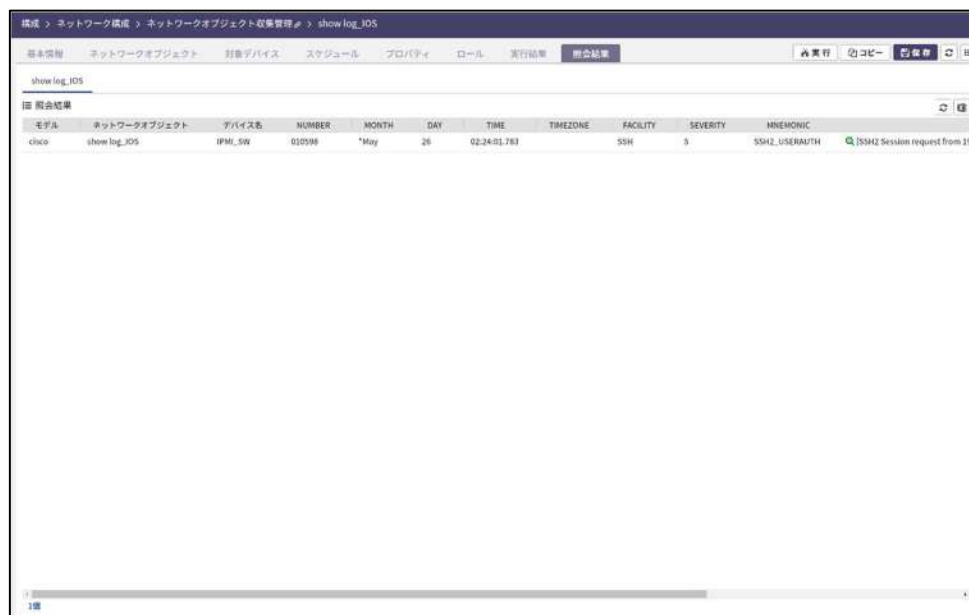


図116 ネットワークオブジェクト収集管理 - 照会結果

ネットワークオブジェクト照会 (照会管理)

ネットワークオブジェクト照会は、収集されたネットワーク構成情報に対して2つ以上のネットワークオブジェクトを組み合わせて、結果を1つのリストから確認できます。また、ネットワークオブジェクトについて構成項目ごとに照会することもできます。

ネットワークオブジェクト照会一覧

登録したネットワークオブジェクト照会の一覧です。**条件追加**ボタンをクリックし、基本検索項目以外に追加で検索したい項目を追加して検索できます。



図117 ネットワークオブジェクト照会一覧

- **名称**：ネットワークオブジェクト照会の名称です。
- **登録者**：ネットワークオブジェクト照会を登録したユーザ ID です。
- **修正ユーザ**：ネットワークオブジェクト照会を修正したユーザ ID です。
- **登録日時**：ネットワークオブジェクト照会の登録日時です。
- **修正日時**：登録したネットワークオブジェクト照会情報の修正日時です。
- **説明**：ネットワークオブジェクトの照会の説明で、変更できます。

ネットワークオブジェクト照会登録

2つ以上のネットワークオブジェクトを組み合わせて照会できる機能を活用することは、ネットワークオブジェクト照会を登録する必要があります。

ネットワークオブジェクト登録は、**構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト照会**メニューを利用し、基本情報、ネットワークオブジェクト、対象デバイスステップを進めて登録します。

[手順]

1. **構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト照会**を選択します。

2. ネットワークオブジェクト照会画面で、**追加**ボタンをクリックして登録作業を進めます。
3. **基本情報**ステップでは、以下の項目を入力または選択して次へボタンをクリックします。
 - **名称**：ネットワークオブジェクト照会の名称を入力します。
 - **説明**：ネットワークオブジェクト照会の説明を入力します。
 - **モデル**：モデルを選択します。
サポートするモデル：Cisco
 - **OS**：OSを選択します。
サポートするOS：IOS、NX-OS
4. **ネットワークオブジェクト**ステップでは、ネットワークオブジェクト一覧からネットワークオブジェクトを選択し、選択したネットワークオブジェクトに移動します。ネットワークオブジェクト一覧には、基本情報ステップで選択したモデル及びOSと一致するネットワークオブジェクトのみが表示されます。選択したネットワークオブジェクトごとにネットワークオブジェクトが持っている構成項目があります。ネットワークオブジェクトごとにネットワークオブジェクト間のマッピングキーとして利用する構成項目を選択します。
下段のネットワークオブジェクトには、選択したオブジェクトに対する全体の構成項目が表示され、適用をチェックするとカラムで照会でき、チェックを解除すると照会されません。
5. **対象機器**ステップでは、ネットワーク一覧からネットワーク機器またはグループを選択して選択したネットワークに移動します。

基本情報

ネットワークオブジェクト照会の基本情報が表示され、名称と説明を変更できます。



図118 ネットワークオブジェクト照会 - 基本情報

- **名称**：ネットワークオブジェクト照会の名称で、変更できます。

- **説明**：ネットワークオブジェクト照会の説明で、変更できます。
- **モデル**：ネットワークオブジェクト照会を適用できるネットワーク機器のモデルです。
- **OS**：ネットワークオブジェクト収集管理を適用できるネットワーク機器のOSです。

ネットワークオブジェクト

ネットワークオブジェクト照会で照会する対象ネットワークオブジェクトを設定します。ネットワークオブジェクト領域には、基本情報で選択したモデルとOSに対応するネットワークオブジェクトの一覧が表示されます。ネットワークオブジェクトを選択し、右側の移動ボタンをクリックして選択したネットワークオブジェクト領域に移動します。選択したネットワークオブジェクトごとにネットワークオブジェクトが持っている構成項目があります。ネットワークオブジェクトごとに、ネットワークオブジェクト間のマッピングキーとして利用する構成項目を選択します。下段のネットワークオブジェクトには、選択したオブジェクトに対する全体の構成項目が表示され、適用をチェックするとカラムで照会でき、チェックを解除すると照会されません。

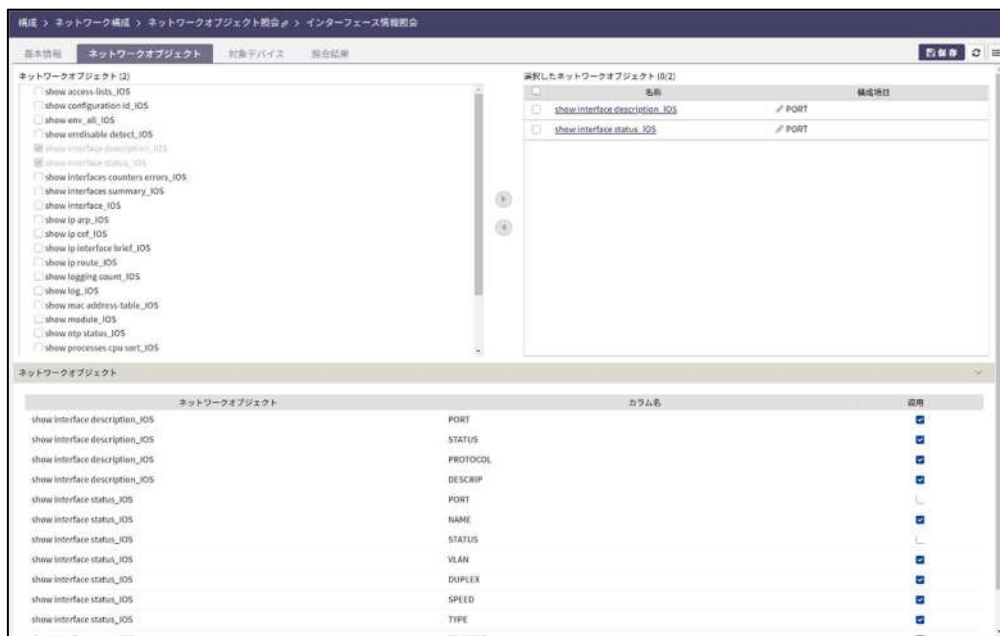


図119 ネットワークオブジェクト照会 - ネットワークオブジェクト

対象デバイス

ネットワークオブジェクト照会で照会する対象デバイスを設定します。ネットワーク領域にネットワークデバイスの一覧が表示されます。デバイスまたはグループを選択し、右側の移動ボタンをクリックして選択したネットワーク領域に移動します。

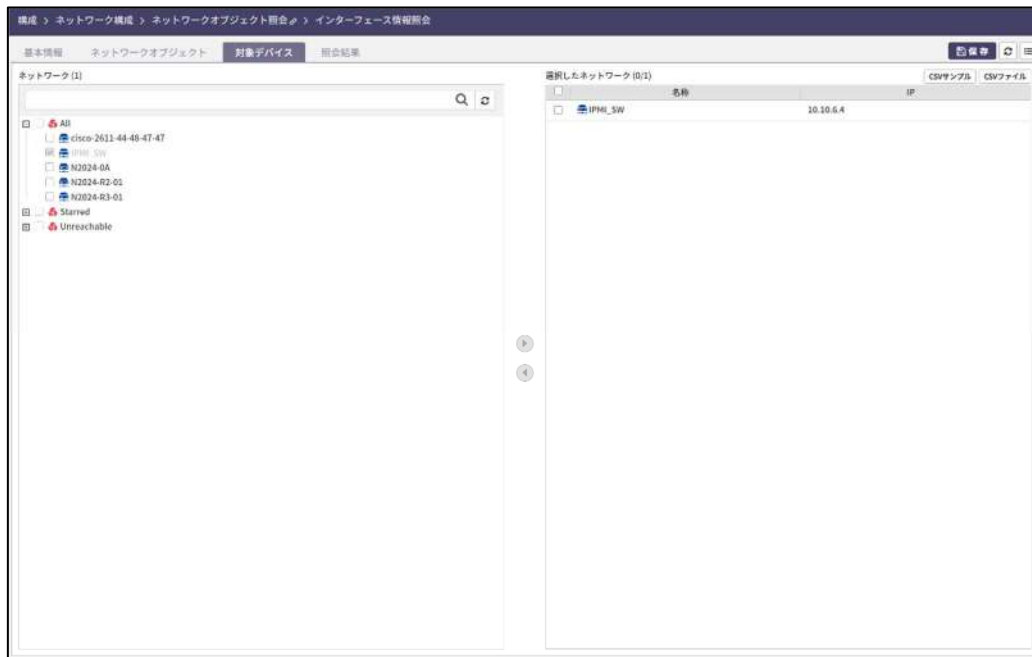


図120 ネットワークオブジェクト照会 - 対象デバイス

照会結果

ネットワークオブジェクト照会の設定に対して照会結果を表示します。対象デバイスタブで選択したデバイス名、ネットワークオブジェクトから選択したネットワークオブジェクト構成の項目中で適用をチェックした構成項目を表示します。

デバイス名	PORT	STATUS	PROTOCOL	DESCRIP	NAME	VLAN	DUPLEX	SPEED	TYPE	FC_MODE
IPMI_SW	Vl1	up	down							
IPMI_SW	Fa0/8	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/9	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/10	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/11	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/12	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/13	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/14	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/15	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/16	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/17	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Vl99	up	up							
IPMI_SW	Fa0/18	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/19	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/20	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/21	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/22	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/23	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/24	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Gi0/1	up	up	trunk with tagged vlan99	trunk with tagged	trunk	a-full	a-1000	10/100/1000BaseTX	
IPMI_SW	Gi0/2	down	down			1	auto	auto	Not Present	
IPMI_SW	Fa0/1	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/2	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/3	up	up			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/4	down	down			99	auto	auto	10/100BaseTX	
IPMI_SW	Fa0/5	un	un			99	a-full	a-100	10/100BaseTX	

図121 ネットワークオブジェクト照会 - 照会結果

ネットワークオブジェクト照会（現況照会）

ネットワークオブジェクト現況照会は、収集されたネットワーク構成情報に対してネットワークオブジェクト別及び選択した構成項目に対してのみ照会できます。

ネットワークオブジェクト現況照会

ネットワークオブジェクト構成情報について現況を照会することができます。モデル、OSを選択し、登録したネットワークオブジェクトの一覧から選択し、選択したネットワークオブジェクトの構成項目中で照会したい構成項目を選択します。すべての項目を選択し、**検索**ボタンをクリックして照会することができます。

構成 > ネットワーク構成 > ネットワークオブジェクト照会

照会管理 現況照会

モデル: Cisco OS: IOS ネットワークオブジェクト: show interface status_ID3* 構成項目: PORT 16

条件追加 検索

照会結果

モデル	ネットワークオブジェクト	デバイス名	PORT	STATUS	SPEED	TYPE	収集日時
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/1	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/2	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/3	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/4	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/5	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/6	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/7	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/8	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/9	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/10	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/11	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/12	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/13	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/14	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/15	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/16	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/17	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/18	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/19	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/20	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/21	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/22	connected	a-100	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42
Cisco	show interface status_ID3	IPMI_SW	Fa0/23	notconnect	auto	10/100BaseTX	2023-01-10 10:07:42

23/01/10 1:35

図122 ネットワークオブジェクト照会 - 現況照会

モデル、ネットワークオブジェクト、デバイス名、構成項目、収集日時を表示します。

入カコマンド実行

複数のサーバまたは特定のサーバに対してコマンドやスクリプトを実行し、結果を即時に確認する機能です。

入カコマンド実行の実行手順は、次のようになります。

[手順]

1. **運用 > 入カコマンド実行**をクリックします。
2. 実行する対象デバイスを追加します。
 - 対象サーバの追加は、サーバのツリーで静的グループ、スマートグループ、特定サーバを対象デバイス領域にドラッグ&ドロップすると、対象デバイスが追加できます。
 - 該当デバイスの除外は、対象デバイス領域でアイコン(×)をクリックします。一番上の(×)をクリックすると、対象デバイス全体が除外されます。
 - Agentlessライセンスを存在する場合、対象サーバ領域上部にエージェントレスチェックボックスが表示され、チェックを入れるとエージェントレスで登録されたサーバのみ対象サーバとして適用できます。
 - エージェントレスオプションがチェックされたコマンドやスクリプトのリストのみ表示されます。
3. **登録コマンド**領域で登録されているコマンドをクリックするか、コマンド実行領域にあるスクリプトの種類及びタイムアウト値を入力します。 検索機能を利用して登録されたコマンドを検索できます。
 - エージェント基盤のサーバスクリプト種類 : Expect、Perl、PowerShell、Shell、VBScript、 Windows batch、 Python
 - エージェントレス基盤のサーバスクリプト種類 : Expect、Perl、Shell、VBScript、 Python、 DOS Command
DOS Commandは、コマンドを1行だけ入力及び実行できます。
 - **プロパティ**を変数名で使用したい場合には、\$\$プロパティ名\$\$と同じ形式で入力

します。プロパティは形式に合わせて直接に入力でき、**プロパティ**ボタンをクリックして選択することもできます。

4. 実行ボタンをクリックして結果を確認します。

- 実行結果はレスポンス順に表示されます。
- 実行結果フィルターを利用して検索する機能を提供します。
- **Excel**アイコンをクリックすると、実行結果をExcel形式でダウンロードできます。
- 実行結果は、成功または失敗で状態が表示されます。

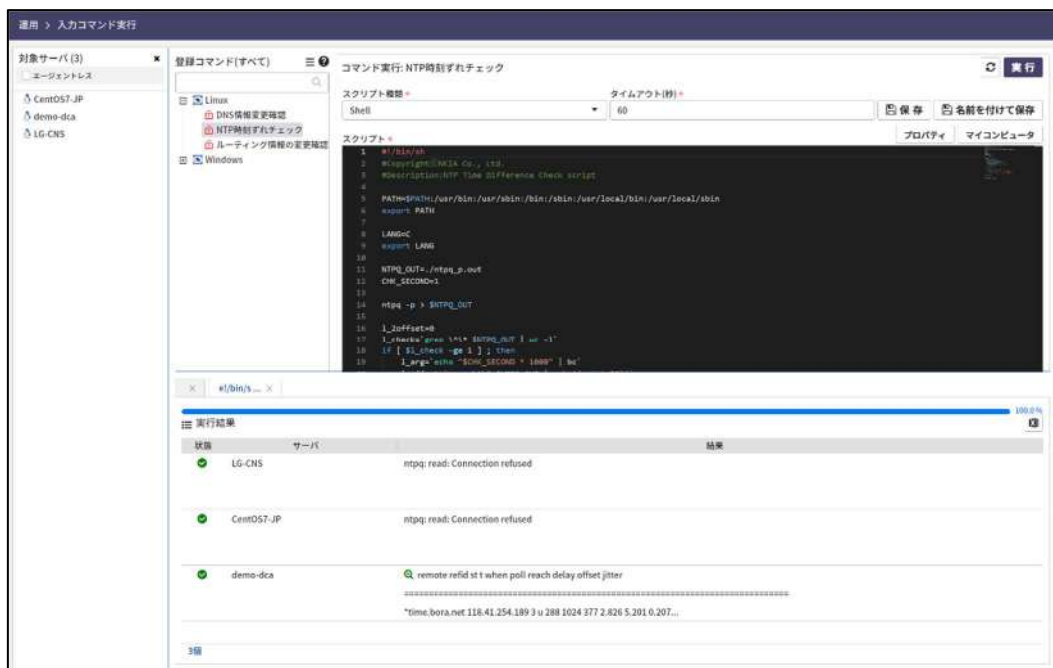


図123 入力コマンド実行



備考： 入力コマンド実行は不特定のコマンドまたはスクリプトを実行するため、システム管理者または上級管理者のような高い管理レベルが必要な機能です。



備考： 運用 > 入力コマンド実行 > サーバ > タイムアウト(秒)
エージェントがコマンドを実行したプロセスをPID基準で指定された時間が経過した後、Killコマンドを実行してプロセスを終了します。



備考： 運用 > 入力コマンド実行 > エージェントレス > タイムアウト(秒)

SSH(Socket)で対象デバイスに接続を試みる際、指定された時間まで接続できなかったり、Readするパケットがなければ接続をキャンセルします。(エージェントレスの場合、コマンドに対して停止する方法がないため、制限コマンドを指定して慎重にコマンドを実行する必要があります。)



参考：コマンド実行右上のマイコンピュータボタンは、PCのスクリプトファイルを選択できる機能です。実行された結果は、個々のタブで表現されるようになります。



参考：コマンド実行右上の保存ボタンは、登録コマンドをクリックして入力されたコマンドに対してのみ修正して保存できます。スクリプト領域に直接入力するときは、**保存**ボタンは無効になります。

名前を付けて保存ボタンは、実行したコマンドを新しい名称で登録されたコマンドに保存できます。保存されたコマンドは、構成 > コマンド管理 > 登録コマンドでも確認できます。



参考：登録コマンド領域にあるコマンドは、**構成 > コマンド管理 > 登録コマンド**の一覧に表示されます。アイコンをクリックして、登録者のコマンドに対して共有機能を有効または無効にできます。InstantCommandの書き込み権限を持つユーザは、登録コマンドの内容を修正できます。他のユーザが登録コマンドも修正できます。



参考：実行コマンドは、制限コマンドに登録されたパターンは実行されず、システム管理者は事前に制限されたコマンドを管理してリスクを防止する必要があります。



参考：InstantCommand権限が読み取りと実行のみ設定されているユーザの場合、直接コマンドを入力して実行することはできず、登録コマンドのみ実行可能です。

コマンド管理

使用する頻度の高いコマンド、または検証済みのコマンドを管理するための**登録コマンド**と、コマンド実行時にユーザによる誤操作を防止するための**制限コマンド**があります。

登録コマンド管理

登録コマンドは、運用 > 入力コマンド実行から実行できます。登録コマンドはデフォルトでは提供されないため、初期インストール後、管理者が個別に登録する必要があります。

共有	グループ	名称	エージェントレス	スクリプト種類	登録者	説明
<input type="checkbox"/>	Linux	DNS情報変更確認		Shell	admin	
<input type="checkbox"/>	Windows	HostFile情報収集		VBScript	admin	
<input type="checkbox"/>	Linux	Javaのバージョン確認	<input checked="" type="checkbox"/>	Shell	admin	
<input type="checkbox"/>	Windows	NTP時刻ずれチェック		VBScript	admin	
<input type="checkbox"/>	Linux	NTP時刻ずれチェック		Shell	admin	
<input type="checkbox"/>	Windows	OSファイアウォールの設定変更		Windows batch	admin	
<input type="checkbox"/>	Linux	SNM情報収集: Package	<input checked="" type="checkbox"/>	Shell	admin	
<input type="checkbox"/>	Linux	ルーティング情報の変更確認		Shell	admin	

図124 登録コマンド

登録コマンド登録

登録コマンドの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. 構成 > コマンド管理 > 登録コマンドをクリックします。
2. リスト右側の追加ボタンをクリックします。

図125 登録コマンドの登録

3. 以下の項目を選択、または入力した後に**保存**ボタンをクリックすると登録できます。

- **名称**：コマンド名を入力します。同じOSタイプの場合、同一の名称は設定できません。
- **説明**：登録コマンドの詳細内容を入力します。
- **グループ**：登録コマンドが属するグループ（カテゴリ）を定義します。該当グループはユーザが直接追加できます。
- **エージェントレス**：Agentlessライセンスがある場合に適用可能なオプションです。チェックを入れるとエージェントレスで管理しているサーバのみ実行できます。
- **スクリプト種類**：スクリプトの種類を選択します。
対 応 スクリプト言語：Expect、Perl、Shell、VBScript、Windows batch、Python
- **コマンド共有**：コマンドの共有有無を設定します。
- **コマンド**：コマンドまたはスクリプトを直接入力するか、**マイコンピュータ**ボタンをクリックしてPCからスクリプトファイルを選択します。



参考：登録コマンドは、制限コマンドに関係なくすべて保存は可能ですが、実行時に制

限コマンドの有無を判断します。

登録コマンド修正

登録コマンドの修正は、**構成 > コマンド管理 > 登録コマンド**または**運用 > 入力コマンド実行**で修正します。

構成 > コマンド管理 > 登録コマンドで修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > コマンド管理 > 登録コマンド**を選択します。
2. 画面上の検索条件に修正したい登録コマンドを検索します。
3. リストで修正したい登録コマンドの名称をクリックします。

コマンド修正

名称 *
NTP時刻ずれチェック

説明

グループ *
Linux

エージェントレス

スクリプト種類 *
Shell

コマンド共有 *
共有しない

コマンド *
マイコンピュータ

```

1 #!/bin/sh
2 #Copyright©NKIA Co., Ltd.
3 #Description:NTP Time Difference Check script
4
5 PATH=$PATH:/usr/bin:/usr/sbin:/bin:/sbin:/usr/local/bin:/usr/loc
6 export PATH
7
8 LANG=C
9 export LANG
10
11 NTPQ_OUT=./ntpq_p.out
12 CHK_SECOND=1
13

```

キャンセル 保存

図126 登録コマンドの修正

4. 必要項目を選択または修正し、**保存ボタン**をクリックすると修正が完了します。

運用 > 入力コマンド実行で修正する手順は、次のようになります。

[手順]

1. **運用 > 入力コマンド実行**を選択します。
2. 登録コマンド領域から**登録コマンド**を選択します。

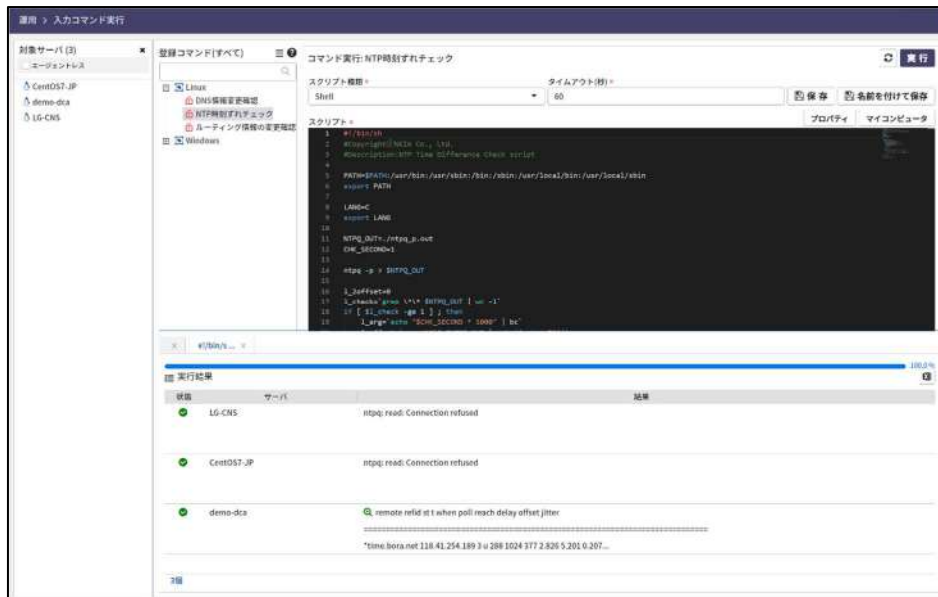


図127 入力コマンド実行 - 登録コマンドの修正

3. 必要項目を選択または修正し、**保存ボタン**をクリックすると修正が完了します。

登録コマンド削除

登録コマンドの削除は、**構成 > コマンド管理 > 登録コマンド**で削除可能です。

登録コマンドの削除手順は、次のようになります。

[手順]

1. **構成 > コマンド管理 > 登録コマンド**を選択します。
2. 画面上の検索条件に削除したい登録コマンドを検索します。
3. 一覧から削除したい登録コマンドをチェックします。
4. **削除ボタン**をクリックすると、チェックした登録コマンドが削除します。

登録コマンドのインポート/エクスポート

運営中の登録コマンドをエクスポート/インポートして、他の環境にインストールされたPOLE

STAR Automationに提供することができます。登録コマンドの名称とOS名が既存になかった項目であれば新規で、その他のすべての項目はアップデート項目に分類されます。

インポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. 他の環境で提供された**登録コマンドXMLファイル**を準備します。
2. **インポート**ボタンをクリックして、該当ファイルを選択します。

エクスポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. ジョブ一覧からエクスポートしたいジョブを選択します。
2. **エクスポート**ボタンをクリックしてジョブXMLファイルを特定のディレクトリに保存します。

制限コマンド管理

制限コマンドは、コマンド実行時にユーザによる誤操作を防止するための機能です。**構成 > コマンド管理 > 制限コマンド**で制限コマンドの登録、修正、削除が可能です。制限コマンドは正規表現(Regular Expression)に基づいて動作します。制限コマンドとして登録されても一時的に使用できるようにしたい場合は、項目をクリックして基本情報画面を表示し、使用しないにチェックを入れます。

デフォルト制限コマンドは、次の表を参照してください。

<表> デフォルトで提供する制限コマンド

制限コマンド	説明
(^¥s* .bin/)shutdown(\$ ¥s.*)	shutdownまたはbin/shutdownが含まれる場合に実行を制限 (空白含む)
(^¥s* .bin/)halt(\$ ¥s.*)	haltまたはbin/haltが含まれる場合に実行を制限 (空白含む)
(^¥s* .bin/)reboot(\$ ¥s.*)	rebootまたはbin/rebootが含まれる場合に実行を制限 (空白含む)
(^¥s* .bin/)rm¥s.*	rmで始まるか (空白含む) 、 bin/rmの後ろに空白と文字

	が含まれる場合に実行を制限。単にrmを含む文字列は制限しない
(^¥s* .*bin/)mv¥s.*	mvで始まるか（空白含む）、bin/mvの後ろに空白と文字が含まれる場合に実行を制限。単にmvを含む文字列は制限しない
(^¥s* .*bin/)dd(\$ ¥s.*)	ddまたはbin/ddが含まれる場合に実行を制限（空白含む）
^¥s*del¥s.*	delが含まれる場合に実行を制限（空白含む）。単にdelを含む文字列は制限しない
^¥s*move¥s.*	moveが含まれて実行することを制限（空白含む）。単にmoveを含む文字は制限しない

使用	制限コマンド	説明
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ shutdown ¥s*)	Prevent system shutdown
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ halt ¥s*)	Prevent system halt
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ reboot ¥s*)	Prevent system reboot
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ dd ¥s*)	Prevent dd command
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ rm ¥s*)	Prevent rm command
<input type="checkbox"/>	(^¥s*/bin/ mv ¥s*)	Prevent mv command
<input type="checkbox"/>	^¥s*del¥s.*	Prevent del command
<input type="checkbox"/>	^¥s*move¥s.*	Prevent move command

図128 制限コマンド

制限コマンド登録

制限コマンドの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **コマンド管理** > **制限コマンド**をクリックします。
2. 右側の**追加**ボタンをクリックします。

図129 制限コマンド登録

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存**ボタンをクリックすると登録が完了します。

- **制限コマンド**：正規表現(Regular Expression)に基づいて制限コマンドを入力します
- **説明**：制限コマンドの詳細内容を入力します。
- **使用可否**：該当コマンドの使用可否を選択します。

制限コマンド修正

制限コマンドの修正は、構成 > コマンド管理 > 制限コマンドで修正可能です。
修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > コマンド管理 > 制限コマンド**をクリックします。
2. 一覧で修正したい制限コマンドをクリックします。

図130 制限コマンド修正

3. 以下の項目を選択または修正し、**保存**ボタンをクリックすると修正が完了します。

制限コマンド削除

制限コマンドの削除は、**構成 > コマンド管理 > 制限コマンド**で削除可能です。
削除手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > コマンド管理 > 制限コマンド**をクリックします

2. 一覧から削除したい制限コマンドをチェックします。
3. **削除**ボタンをクリックすると、チェックした制限コマンドが削除します。

制限コマンドのインポート/エクスポート

運営中の制限コマンドをエクスポート/インポートして、他の環境にインストールされたPOLESTAR Automationに提供することができます。制限コマンドが既存になかった項目であれば新規で、その他のすべての項目はアップデート項目に分類されます。

インポート手順は、以下の通りです。

[手順]

1. 他の環境で提供された**制限コマンドXMLファイル**を準備します。
2. **インポート**ボタンをクリックして、該当ファイルを選択します。

エクスポート手順は、以下の通りです。

[手順]

1. ジョブ一覧からエクスポートしたいジョブを選択します。
2. **エクスポート**ボタンをクリックしてジョブXMLファイルを特定のディレクトリに保存します。



備考：正規表現(Regular Expression)の詳細については、付録の正規表現を参照してください。

構成リスト

構成リストは、**システム定義のオブジェクト**と**ユーザ定義のオブジェクト**があります。システム定義のオブジェクトは、システム情報のOperating System, CPU, Memory, File System, Disk, Network Interfaceなどです。ユーザ定義のオブジェクトにはファイル及びスクリプトで登録可能なオブジェクトです。

構成リストでは、ユーザが定義してオブジェクトを作成することができます。

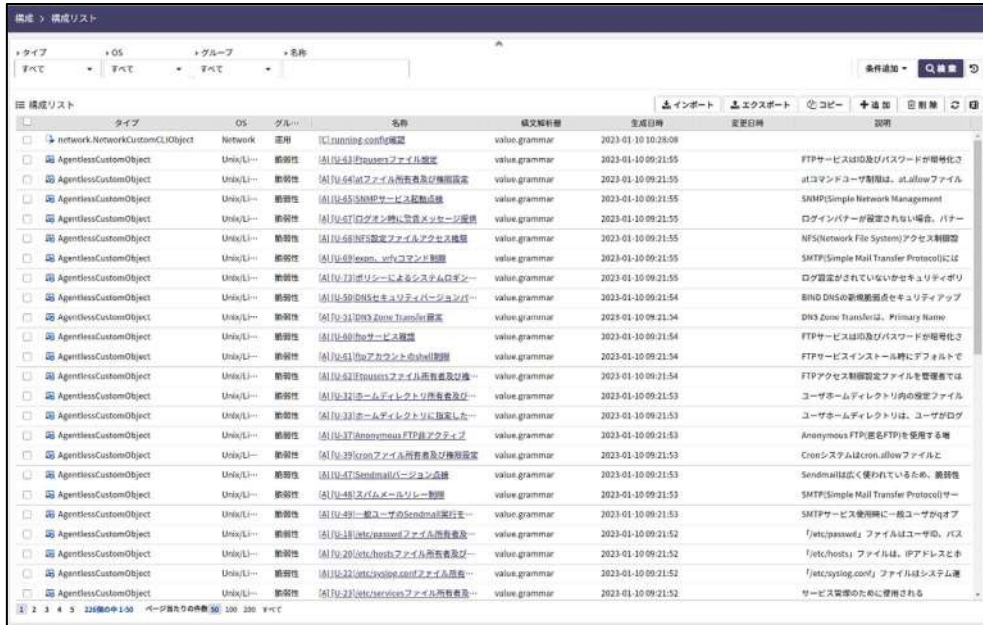
- **ConfigurationFile** : システム関連のファイルやシステム設定ファイル、ソフトウェア設定ファイルなどのファイルを意味します。ファイル単位でオブジェクトの定義ができます。例えば、`/etc/passwd`、`/etc/hosts`、`/etc/group`などのファイルを意味します。
- **CustomObject** : スクリプトまたはコマンドを使って出力される結果をオブジェクトとして定義できます。例えば、CPU Guard設定の確認は`lsattr -El sys0 | grep cpuguard | awk '{print $2}'`コマンドで確認でき、Auto Boot設定の確認は`keeprom | grep "auto-boot?" | awk -F= '{print $2}'`コマンドで確認できます。
- **NetworkCustomObject** : ネットワークのMIBに基づいて収集して出力される結果をオブジェクトとして定義できます。
- **NetworkCustomCLIObject** : ネットワークコマンドを使って出力される結果をオブジェクトとして定義できます。
- **AgentlessCustomCLIObject** : スクリプトまたはコマンドを使って出力される結果をオブジェクトとして定義できます。

構成リストは、システム管理者または権限が付与されたユーザによって管理され、点検ジョブ、監査ジョブ、データ比較ジョブに活用できます。



参考 : 構成リストの定義として、サーバは全てのOSに適用する場合に使い、Unix/LinuxはUnix系 (AIX, SunOS, HP-UX) とLinuxに適用する場合に使います。

構成リストは、**構成 > 構成リスト**で確認できます。



タイプ	OS	グループ	名称	値文解析書	生成日時	変更日時	説明
network.NetworkCustomCLIObject	Network	運用	[[C:\running.config]構成	value.grammar	2023-01-10 10:28:08		
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		FTPサービスは応及パスワードが暗号化さ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		atコマンドユーザ制御は、at.allowファイル
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/snmp/snmpd.conf]構成	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		SNMP(Simple Network Management
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		ログインパスワードが設定されない場合、パター
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		NFS(Network File System)アクセス制御
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		SFTP(Simple Mail Transfer Protocol)に
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:55		ログ設定がされていないかセキュリティポリ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:54		BIND DNSの最新更新点をセキュリティアップ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:54		DNS Zone Transferは、Primary Name
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:54		FTPサービスは応及パスワードが暗号化さ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:54		FTPサービスインストール時にデフォルトで
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:54		FTPアクセス制御設定ファイルを管理する
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		ユーザホームディレクトリ内の暗号化ファイル
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		ユーザホームディレクトリは、ユーザログ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		Anonymous FTP(匿名FTP)を使用する
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		Cronシステムはcron.allowファイルと
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		Sendmailは広く使われているため、動作性
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		SFTP(Simple Mail Transfer Protocol)サー
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:53		SFTPサービス制御に一般ユーザが可
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:52		[[etc/passwd]ファイルはユーザID、パス
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:52		[[etc/passwd]ファイルは、IPアドレスとホ
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:52		[[etc/passwd]ファイルはシステム
AgentlessCustomObject	Unix/Linux	動作性	[[/etc/passwd]ファイル所有権設定	value.grammar	2023-01-10 09:21:52		サービス管理のために管理される

図131 構成リスト



備考：製品のインストール時に、デフォルトで搭載される構成リストがあります。このようなビルトイン項目は、システム環境によっては正常に動作しない場合もあります。

ConfigurationFile

システム関連ファイルまたはシステム設定ファイル、ソフトウェア設定ファイルのようなファイル単位でオブジェクトを定義する場合に使います。

登録

ConfigurationFileの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > 構成リスト**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled '構成リスト登録' (Configure List Registration) with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following fields and controls:

- タイプ *** (Type): A dropdown menu with 'ConfigurationFile' selected.
- 名称 *** (Name): A text input field with the placeholder text '名称を入力してください。' (Please enter a name).
- グループ *** (Group): A text input field with the placeholder text '入力または選択してください。' (Please enter or select).
- 構文解析器** (Parser): A dropdown menu with 'value.grammar' selected.
- OS *** (OS): A dropdown menu with 'Server' selected.
- パス** (Path): A text input field and a 'プロパティ' (Property) button.
- 説明** (Description): A large text area.
- At the bottom right, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save).

図132 構成リスト登録 - ConfigurationFile

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存**ボタンをクリックすると登録が完了します。

- **タイプ** : **ConfigurationFile**を選択します。
- **名称** : 登録するConfigurationFile名です。同じOSタイプの場合、同一の名称は設定できません。
- **グループ** : 構成リストが属するグループ（カテゴリ）を定義します。該当グループはユーザが直接追加できます。インストール時に構成される構成リストが存在するグループを選択または追加する場合は、新しい項目で直接入力します。
- **パス** : ConfigurationFileのパスを直接入力または選択します。ファイルのパスがサーバ別に異なる場合、プロパティを使ってサーバに指定されているプロパティ値を設定することができます。



図133 プロパティ選択ポップアップ

- **構文分析器** : ConfigurationFileの構文分析器を選択します。詳細内容は、付録の構成構文解析器一覧を参照してください。
- **OS** : Server、Windows、Unix/Linux、AIX、SunOS、HP-UX、Linuxの中から選択します。
- **説明** : 登録するConfigurationFileの詳細内容です。



注意 : ConfigurationFileのOSや構文分析器に対する設定が間違った場合は、実行結果がエラーとなる恐れがあります。



備考 : プロパティポップアップで選択して追加したプロパティは、最初のラインに追加されます。プロパティをコピーして必要な位置に切り取って貼り付けてください。

修正

ConfigurationFileの修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して修正するConfigurationFileを検索します。
3. 検索結果から修正対象のConfigurationFileをクリックします。



図134 構成リスト修正 - ConfigurationFile

4. 必要項目を選択または修正し、**保存**ボタンをクリックすると修正が完了します。

CustomObject

スクリプトまたはコマンドを実行して出力される結果をオブジェクトでとして定義する場合に使います。

登録

CustomObjectの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。

図135 構成リスト登録 – CustomObject

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存ボタン**をクリックすると登録が完了します。

- **タイプ**：CustomObjectを選択します。
- **名称**：登録するCustomObject名を入力します。同じOSタイプの場合、同一の名称は設定できません。
- **グループ**：構成リストが属するグループ（カテゴリ）を定義します。グループはユーザが直接追加できます。インストール時に構成される構成リストが存在するグループを選択または追加する場合は、新しい項目で直接入力します。
- **重要度**：点検項目としてCustomObjectが追加される場合、重要度を選択します。
- **実行アカウント**：登録するCustomObjectの実行アカウントを入力します。Windows OSはサポートできません。
- **タイムアウト**：登録CustomObjectの実行タイムアウトを選択します。エージェントがコマンドを実行したプロセスをPID基準で指定された時間が経過した後、Killコマンドを実行してプロセスを終了します。
- **スクリプト種類**：スクリプトの種類を選択します。
サポートするスクリプト言語：Expect、Perl、PowerShell、Shell、VBScript、

Windows batch、Python

- **コマンド**：コマンドまたはスクリプトを直接入力するか、**プロパティ**ボタンをクリックしてサーバに定義されているプロパティ値を選択するか、**マイコンピュータ**ボタンをクリックしてスクリプトファイルを直接に選択できます。
- **パラメータ**：スクリプト実行に必要なパラメータを設定します。
- **構文分析器**：構文分析器を選択します。
詳細内容は、付録の構成構文解析器一覧を参照してください。
- **OS**：Server、Windows、Unix/Linux、AIX、SunOS、HP-UX、Linuxの中から選択します。
- **説明**：登録するCustomObjectの詳細内容を入力します。
- **点検基準**：点検項目としてCustomObjectが追加される場合、判断基準を入力します。
- **対策実行ガイド**：点検項目としてCustomObjectが追加される場合、対策実行ガイドを入力します。
- **基本ポリシー**：点検項目としてCustomObjectが追加される場合、判断ポリシーを入力します。入力されたポリシーは、点検項目として追加する場合、自動反映されます。



注意：CustomObjectの適用OS及びスクリプト言語、構文分析器などに対する設定に誤りがある場合、実行結果がエラーとなる恐れがあります。

修正

CustomObjectの修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して修正するCustomObjectを検索します。
3. 検索結果から修正対象のCustomObjectをクリックします。

構成リスト修正

タイプ *
CustomObject

名称 *
[U-01]rootアカウントリモート接続制限

グループ *
脆弱性 *

OS *
Linux

横文解析器
value.grammar

スクリプト種類 *
Shell

実行アカウント
名前を入力してください。

タイムアウト
5分

重要度
上

説明
rootはシステムを管理する非常に重要なアカウントである。rootアカウントで直接ログインできるように許可すると、違法侵入者の標的になる恐れがあるため、rootアカウント接続に対する管理が必要。rootアカウントのリモート接続許可は、攻撃者に良いチャンスを提供することになるため、rootのリモート接続は禁止する必要がある。

コマンド パラメータ

コマンド *
1 #!/bin/sh
2 #Copyright©NKIA Co., Ltd.
3 #Description: remote access restrictions check script for the root account
4 LANG=C;export LANG
5
6 #Check ssh service settings
7 return 0; if [\$(cat /etc/passwd | grep -v root | wc -l) -gt 0]; then
8 return 1; fi

プロパティ マイコンピュータ

点検基準 対策実行ガイド 基本ポリシー ユーザ実行履歴

遵守: リモートサービスを使用しないが、使用時には直接root接続を遮断する場合
違反: 直接root接続を許可してリモートサービスを利用する場合

× キャンセル 保存

図136 構成リスト修正 - CustomObject

4. 必要項目を選択または修正し、**保存**ボタンをクリックすると修正が完了します。

NetworkCustomObject

ネットワーク機器の管理拡張するために、MIB基盤のライブオブジェクトを定義できます。ネットワーク機器の場合、ベンダーとモデルにより管理項目がPrivate MIBで提供される場合があります。このようなPrivate MIBをNetworkCustomObjectとして登録し、管理することができます。NetworkCustomObjectとして登録されたライブオブジェクトは、ライブオブジェクト照会機能を利用して複数のデバイスの状態を一括照会できます。また、点検ジョブを利用して点検作業を行うことができ、監査ジョブを利用して変更事項をトラッキングできます。

登録

NetworkCustomObjectの登録手順は、以下の通りです。.

[登録]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。

図137 構成リスト登録 – NetworkCustomObject

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存**ボタンをクリックすると登録が完了します。

- **タイプ** : **NetworkCustomObject**を選択します。
- **名称** : 登録するNetworkCustomObject名を入力します。同一の名称は設定できません。
- **グループ** : 該当NetworkCustomObjectが属するグループ (カテゴリ) を定義します。登録済みグループを選択することもできます。
- **リクエストタイプ** : SNMPプロトコルのリクエストタイプをGet、Get Next、Get Subtreeの中から選択します。Getは入力したOIDに対して値を、Get Nextは入力したOIDの次の値を、Get Subtreeは入力したOIDの全てのサブ値をリクエストします。
- **OID** : リクエストするOIDを入力します。OIDが複数の場合、**追加**ボタンをクリックして追加できます。
- **テンプレート設定** : テンプレートを設定する場合にチェックを入れます。テンプレ

ート設定にチェックを入れない場合には、内臓されている基本テンプレートが適用されます。テンプレートを設定する場合、ユーザが入力したテンプレートが適用されます。テンプレートは、ネットワーク機器にリクエストしたOIDの結果値をユーザが希望する形で編集することができます。これによって結果に対して演算をしたり、OIDに定義された定数をユーザがわかりやすい値に変換することもできます。テンプレートのエンジンはApache Velocityを利用しています。

- **テンプレート**：Apache Velocityの文法でテンプレートを入力します。内臓されている基本テンプレートが表示され、ユーザが修正できます。テンプレート設定についている [?] アイコンをクリックするとテンプレート文法についての説明が確認できます。
- **構文分析器**：SNMPリクエストに対する答えの構文分析器を選択します。構文分析器は、設定したテンプレートを解析可能なものを選択します。一般的に、1つの値のみリクエストした場合には、value.grammarを選択し、コンマで区分された複数値をリクエストした場合には、csv.grammarを選択します。詳細内容は、付録の構成構文解析器一覧を参照してください。
- **説明**：登録するNetworkCustomObjectの詳細内容を入力します。



参考：テンプレート文法の詳細は、Apache Velocityホームページ(<http://velocity.apache.org/engine/devel/vtl-reference-guide.html>)をご参考ください。



注意：構文分析器の選択が間違っている場合、結果が正常に見えないことがあります。このときは、構文分析器を変更して、結果が出るように修正する必要があります。

修正

NetworkCustomObjectの修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > 構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して修正するNetworkCustomObjectを検索します。
3. 検索結果から修正対象のNetworkCustomObjectをクリックします。

図138 構成リスト修正 – NetworkCustomObject

必要項目を選択または修正し、保存ボタンをクリックすると**修正**が完了します。

NetworkCustomCLIObject

ネットワーク機器の管理拡張するためにコマンド基盤のライブオブジェクトを定義することができます。NetworkCustomCLIObjectとして登録されたライブオブジェクトは、ライブオブジェクト照会機能を利用して複数デバイスの状態を一括で照会できます。また、点検ジョブを利用して点検作業を行うことができ、監査ジョブを利用して変更事項をトラッキングできます。

登録

NetworkCustomCLIObjectの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。

図139 構成リスト登録 – NetworkCustomCLIObject

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存**ボタンをクリックすると登録が完了します。

- **タイプ**：NetworkCustomCLIObjectを選択します。
- **名称**：登録するNetworkCustomCLIObject名を入力します。同一の名称は設定できません。
- **グループ**：該当NetworkCustomCLIObjectが属するグループ（カテゴリ）を定義します。登録済みグループを選択することもできます。
- **重要度**：登録するNetworkCustomCLIObjectが点検タイプの場合、点検項目別に重要度を選択します。
- **promptに正規式使用**：ユーザが直接に正規式を入力して使用できます。
- **Expect**：追加ボタンをクリックしてコマンドを入力します。
プロパティ：ネットワーク機器に設定されたプロパティ項目を選択し、コマンド入力欄に適用します。
結果保存：入力したコマンドの実行結果を保存有無の選択ができます。チェックする場合はDBに結果を保存します。チェックしない場合はコマンドの実行のみを行い、結果は保存されません。
- **点検基準**：点検項目としてNetworkCustomCLIObjectが追加される場合、判断基準を入力します。

- **対策実行ガイド**：点検項目としてNetworkCustomCLIObjectが追加される場合、対策実行ガイドを入力します。
- **基本ポリシー**：点検項目としてNetworkCustomCLIObjectが追加される場合、判断ポリシーを入力します。入力されたポリシーは、点検項目として追加する場合、自動反映されます。
- **説明**：登録するNetworkCustomCLIObjectの詳細内容を入力します。

修正

NetworkCustomCLIObjectの修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > 構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して修正するNetworkCustomCLIObjectを検索します。
3. 検索結果から修正対象のNetworkCustomCLIObjectをクリックします。

図140 構成リスト修正 – NetworkCustomCLIObject

4. 必要項目を選択または修正し、保存ボタンをクリックすると修正が完了します。



参考：プロパティを追加すると、空白が自動的に追加されません。Expectコマンドの後にプロパティを追加する場合は、コマンドとプロパティの間に空白を追加する必要があります。

AgentlessCustomObject

スクリプトまたはコマンドを実行して出力される結果をオブジェクトとして定義します。

登録

AgentlessCustomObjectの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。

図141 構成リスト登録 – AgentlessCustomObject

3. 以下の項目を選択または入力し、**保存ボタン**をクリックすると登録が完了します。

- **タイプ** : **AgentlessCustomObject**を選択します。
- **名称** : 登録するAgentlessCustomObject名を入力します。同じOSタイプの場合、同一の名称は設定できません。
- **グループ** : 構成リストが属するグループ（カテゴリ）を定義します。グループはユーザが直接追加できます。インストール時に構成される構成リストが存在するグループを選択または追加する場合は、新しい項目で直接入力します。
- **重要度** : 点検項目としてAgentlessCustomObjectが追加される場合、重要度を選択します。
- **スクリプト種類** : スクリプトの種類を選択します。
サポートするスクリプト言語 : Expect、Perl、Shell、VBScript、Windows batch、Python
- **タイムアウト** : 登録AgentlessCustomObjectの実行タイムアウトを選択します。SSH(Socket)で対象デバイスに接続する時に指定した時間まで接続できなかったり、Readするパケットがないと接続を取り消します。
- **コマンド** : コマンドまたはスクリプトを入力します。**プロパティボタン**をクリックしてサーバに定義されているプロパティを選択します。**マイコンピュータボタン**をクリックしてスクリプトファイルを直接に選択することもできます
- **パラメータ** : スクリプト実行に必要なパラメータを設定します。
- **構文分析器** : 構文分析器を選択します。詳細内容は、付録の構成構文解析器一覧を参照してください。
- **OS** : Server、Windows、Unix/Linux、AIX、SunOS、HP-UX、Linuxの中から選択します。
- **説明** : 登録するAgentlessCustomObjectの詳細内容を入力します。
- **点検基準** : 点検項目として、AgentlessCustomObjectが追加される場合に判断基準を入力します。
- **対策実行ガイド** : 点検項目として、AgentlessCustomObjectが追加される場合に対策実行ガイドを入力します。
- **基本ポリシー** : 点検項目として、AgentlessCustomObjectが追加される場合に判断ポリシーを入力します。入力されたポリシーは、点検項目として追加する場合、自動反映されます。



注意 : AgentlessCustomObjectの適用OSや構文分析器に対する設定に誤りがある場合、実行結果がエラーとなる恐れがあります。

修正

AgentlessCustomObjectの修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して修正するAgentlessCustomObjectを検索します。
3. 検索結果から修正対象のAgentlessCustomObjectをクリックします。

構成リスト修正

タイプ *
AgentlessCustomObject

名称 *
[A] [U-01]rootアカウントリモート接続制限

グループ *
脆弱性 *

OS *
Linux

構文解析器
value.grammar

スクリプト種類 *
Shell

タイムアウト
5分

重要度
上

説明
rootはシステムを管理する非常に重要なアカウントである。rootアカウントで直接ログインできるように許可すると、違法侵入者の標的になる恐れがあるため、rootアカウント接続に対する管理が必要。rootアカウントのリモート接続許可は、攻撃者に良いチャンスを提供することになるため、rootのリモート接続は禁止する必要がある。

コマンド パラメータ

コマンド *
#!/bin/sh
1
#copyright:©NKIA Co., Ltd.
2
#description: remote access restrictions check script for the root account
3
LANG=C;export LANG
4
5
6
#Check ssh service settings
7

プロパティ マイコンピュータ

点検基準 対策実行ガイド 基本ポリシー ユーザ実行履歴

遵守: リモートサービスを使用しないか、使用時には直接root接続を遮断する場合
違反: 直接root接続を許可してリモートサービスを利用する場合

× キャンセル 保存

図142 構成リスト修正 - AgentlessCustomObject

4. 必要項目を選択または修正し、**保存**ボタンをクリックすると修正が完了します。

構成リストコピー

構成リストは、名称を異なるコピーして使用できます。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. コピーする構成リストをチェックします。
3. **コピー**ボタンをクリックしてコピーする名称を確認し、**確認**ボタンをクリックしてコピーされた構成リストを確認します。

構成リスト削除

不要な構成リストと、間違って登録した構成リストを削除します。

[手順]

1. **構成** > **構成リスト**を選択します。
2. 検索機能を利用して削除する構成リストを検索します。
3. 検索結果から削除対象の構成リストをチェックします。
4. **削除**ボタンをクリックするとチェックした構成リストが削除されます。

構成リストのインポート/エクスポート

運営中の構成リストをインポート/エクスポートし、他の環境にインストールしたPOLESTAR Automationに提供することができます。構成リスト名とOS名が既存になかった項目であれば、新規で、その以外のすべての項目はアップデート項目に分類されます。

インポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. 他の環境から提供された**構成リストXMLファイル**を用意します。
2. **インポート**ボタンをクリックして対象ファイルを選択します。

エクスポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. ジョブ一覧からエクスポートしたいジョブを選択します。
2. **エクスポート**ボタンをクリックしてジョブXMLファイルを特定のディレクトリに保存します。



注意：削除した構成リスト項目は復元できません。点検ジョブ、監査ジョブで該当する構成リスト項目を使用している場合、エラーが発生するため、ご注意ください。誤って削除した場合は、同一の構成リストの項目名で再作成する必要があります。



備考：タイプとOS、グループが同じ名称で重複登録することはできません。

点検グループ管理

点検グループは、OS設定、アプリケーション設定、セキュリティ、パッチ適用などについてのポリシーを標準化するシステムオブジェクトです。構成リストに基づいて点検ジョブを実行し、対象サーバのポリシーの遵守状況を検証します。

各種ポリシーは、構成、セキュリティなどで分類できます。分類体系に従って点検グループオブジェクトを生成すると、分類毎にポリシー遵守状況の統計を取ることができます。

点検グループ生成

点検グループの生成手順は、次のようになります。

[手順]

1. **構成** > **点検グループ管理**を選択します。**生成**ボタンをクリックし、点検グループ管理登録ウィザードを開きます。
2. 点検グループ管理登録ウィザードは、次のステップで行います。
 - ① **基本情報**：基本情報を設定します。
 - ② **ポリシー設定**：点検グループのポリシーを設定します。ポリシー違反時に実行するスクリプトも登録できます。
 - ③ **プロパティ**：点検グループのプロパティを設定します。
3. 保存ボタンをクリックし、点検グループ生成を完了します。

点検グループ一覧

生成された点検グループの一覧を確認できます。条件追加ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名称	分類	エージェントレス	OS	登録者	登録日時	修正ユーザ	修正日時
新規点検_アカウント管理_Linux	セキュリティ/アカウント		Linux	admin	2023-01-10 09:23:06		
新規点検_SUDO(CVE-2017-10038)	セキュリティ/バック		Linux	admin	2023-01-10 09:23:05		
新規点検_BashShell脆弱性点検	セキュリティ/バック		Linux	admin	2023-01-10 09:23:05		
旧点検_システム_Linux	運用/システム		Linux	admin	2023-01-10 09:23:04		
新規点検_ファイル及びディレクトリ管理_Linux	セキュリティ/ファイ		Linux	admin	2023-01-10 09:23:02		
新規点検_サービス管理_Linux	運用/サービス		Linux	admin	2023-01-10 09:22:59		
新規点検_ログ管理_Unix	セキュリティ/ログ管理		Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:52		
新規点検_HeartBeats点検	セキュリティ/バック		Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:52		
新規点検_アカウント管理_Windows	セキュリティ/アカウント		Windows	admin	2023-01-10 09:22:35		
新規点検_ログ管理_Windows	運用/サービス		Windows	admin	2023-01-10 09:22:35		
旧点検_システム_Windows	運用/システム		Windows	admin	2023-01-10 09:22:32		
新規点検_ログ管理_Windows	セキュリティ/ログ管理		Windows	admin	2023-01-10 09:22:30		
新規点検_パッド管理_Windows	セキュリティ/バック		Windows	admin	2023-01-10 09:22:30		
新規点検_セキュリティ管理_Windows	セキュリティ/セキュ		Windows	admin	2023-01-10 09:22:24		
新規点検_サービス管理_Windows	運用/サービス		Windows	admin	2023-01-10 09:22:22		
(G) 新規点検_サービス管理_Linux	運用/サービス	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:24		
(G) 新規点検_ファイル及びディレクトリ管理---	セキュリティ/ファイ	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:23:13		
(G) 新規点検_アカウント管理_Linux	セキュリティ/アカウント	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:12		
(G) 新規点検_SUDO(CVE-2017-10038)	セキュリティ/バック	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:11		
(G) 新規点検_BashShell脆弱性点検	セキュリティ/バック	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:11		
(G) 旧点検_システム_Linux	運用/システム	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:10		
(G) 新規点検_ログ管理_Linux	セキュリティ/ログ管理	✓	Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:05		
(G) 新規点検_HeartBeats点検	セキュリティ/バック	✓	Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:05		

図143 点検グループ管理一覧

- **名称**：点検グループの名称です。
- **分類**：点検グループの分類です。
- **エージェントレス**：エージェントレスのオプション設定有無です。
- **OS**：点検グループを適用したOSです。
- **登録者**：点検グループを登録したユーザIDです。
- **登録日時**：点検グループを登録した日時です。
- **修正ユーザ**：点検グループを修正したユーザ名です。
- **修正日時**：点検グループを修正した日時です。

点検グループのインポート/エクスポート

運営中の点検グループをインポート/エクスポートし、他の環境にインストールしたPOLESTAR Automationに提供できます。点検グループのUUIDキー値が従来になかった項目であれば、新規で、その以外のすべての項目はアップデート項目に分類されます。インポート手順は以下の通りです。

[手順]

1. 他の環境で提供された**点検グループXMLファイル**を準備します。
2. **インポートボタン**をクリックして該当のファイルを選択します。

基本情報

基本情報画面では、生成する点検グループの名称、説明、適用対象OS、分類を設定します。

図144 点検グループ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：点検グループの名称を設定します。
2. **説明**：点検グループについての説明を入力します。
3. **エージェントレス**：エージェントレスライセンスがある場合に適用可能なオプションです。チェックを入れるとエージェントレス対象の構成リストのみ設定ができます。
4. **OS**：点検グループを適用するOSタイプを設定します。設定したOSタイプに従ってポリシー設定ステップで、対象サーバがフィルタリングして表示されます。
5. **分類**：点検グループの分類を指定します。指定した分類は、分類毎の統計やスマートグループに活用されます。次の表はPOLESTAR Automationで推奨する点検グループの分類です。

<表> 推奨する点検グループの分類

分類	説明
運用/システム	HW、OS状態の点検
運用/サービス	必須ソフトウェア点検など運用に必要な点検
運用/バッチ作業	バッチ作業に必要な点検

セキュリティ/DB管理	KISA基準のDB管理セキュリティ点検
セキュリティ/アカウント管理	KISA基準のアカウント管理セキュリティチェック
セキュリティ/電子証明書	電子証明書関連セキュリティ点検
セキュリティ/ログ管理	KISA基準のログ管理セキュリティ点検
セキュリティ/サービス管理	KISA基準のサービス管理セキュリティ点検
セキュリティ/ファイル及びディレクトリ管理	KISA基準のファイル及びディレクトリ管理関連セキュリティチェック
セキュリティ/パッチ管理	Windows UpdateパッチまたはOSパッチについてのセキュリティ点検



備考：点検グループの分類を再定義するには、**構成 > プロパティリスト**を実行してComplianceのCLASSIFICATIONプロパティの内容を修正します。

ポリシー設定

遵守すべきポリシーを定義するステップです。点検項目ごとに、ポリシーに従ってルールを定義します。ルールに違反した場合に実行する対策スクリプトも設定します。ポリシーの適用除外の設定を行うことで、特定のサーバに対してポリシーを適用しないようにもできます。

[手順]

1. ポリシー項目の領域から**OSのサブツリー**で適用するライブオブジェクトを選択し、右側の選択されたポリシー領域に移動されます。
選択されたポリシーの**詳細**ボタンをクリックして構成リストに入力されている情報を確認できます。



図145 点検グループ生成 - ポリシー設定

2. ライブオブジェクトのルールに対する比較値を定義します。

比較条件は、+ ボタンをクリックして追加でき、**AND**または**OR**で条件を定義します。また、プロパティのデータタイプによって設定できる比較条件が定義されています。比較条件の詳細内容は、次の表を参照してください。



図146 ポリシー別ルールの比較値設定

<表> プロパティのデータタイプ別の比較条件

データタイプ	比較条件	説明
Integer	=	値が等しい場合に条件を満たす
	<>	値が異なる場合に条件を満たす
	is null	nullの場合に条件を満たす
	is not null	nullではない場合に条件を満たす
	<	対象値が比較値より小さい場合に条件を満たす

	<=	対象値が比較値より小さいか等しい場合に条件を満たす
	>	対象値が比較値より大きい場合に条件を満たす
	>=	対象値が比較値より大きいか等しい場合に条件を満たす
	between	対象値が比較値の間に存在する場合に条件を満たす
	not between	対象値が比較値の間に存在しない場合に条件を満たす
String	=	値が等しい場合に条件を満たす
	<>	値が異なる場合に条件を満たす
	is null	nullの場合に条件を満たす
	is not null	nullではない場合に条件を満たす
	equals ignore case	大小文字区別なく、同じ文字の場合に条件を満たす
	contains	対象値が比較値を含む場合に条件を満たす
	not contains	対象値が比較値を含まない場合に条件を満たす
	starts with	対象値が比較値で始まる場合に条件を満たす
	ends with	対象値が比較値で終わる場合に条件を満たす
	matches	比較値に正規表現式を入力し、表現式マッチングを通じて結果を判断
	in	('A'、'B'、'C'...) 形式で比較値を設定して、対象値に比較値が1個でも含まれる場合に条件を満たす
	not in	('A'、'B'、'C'...) 形式で比較値を設定して、対象値に比較値が1個も含まれない場合に条件を満たす



備考：ルールデータの型が決まっていない場合、1つのプロパティが ... AS Integer/... AS Stringの2つに表現されます。その場合は比較条件に適合するデータ型を選択してください。



備考：オブジェクトタイプがNetworkConfigurationObjectの場合、ネットワーク構成管理のネットワークオブジェクトタイプで、ルール設定方法が他のタイプとは異なる設定をします。データタイプが同じに... AS String, ...AS Integerで提供されますが、2つのデータタイプとも**JSON**形態で値を設定する必要があります。ネットワークオブジェクト収集管理の照会結果の結果値を確認して、ルールを設定することができます。

例えば、show interface statusの結果値に対して点検設定を適用する際、特定のインターフェースに対してSTATUSとVLAN設定を点検する場合は、以下のように設定します。

1) ポリシー設定中、ネットワークオブジェクト収集管理でinterface statusに対するネ

ネットワークオブジェクト結果を確認し、カラム名と結果値を確認します。(Fa0/1ポートに対する状態とVLAN結果を確認します。)

モデル	ネットワークオブジェクト	デバイス名	PORT	NAME	STATUS	VLAN	DUPLEX	SPEED	TYPE	FC_MODE	収集日時
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/1		connected	99	a-full	a-100	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/2	netconnect	notconnect	99	auto	auto	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/3		connected	99	a-full	a-100	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/4		notconnect	99	auto	auto	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/5		connected	99	a-full	a-100	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/6		notconnect	99	auto	auto	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42
cisco	show interface status_IOS	IPMI_SW	Fa0/7		notconnect	99	auto	auto	10/100BaseTX		2023-01-10 10:07:42

2) 点検ポリシー設定でSTATUSのデータタイプはContents AS Stringに設定し、Fa0/1ポートがconnected状態であるかどうかの設定であるため、{"PORT":"Fa0/1","STATUS":"connected"}で設定します。VLANはデータタイプをContents AS Integerに設定し、Fa0/1ポートのVLAN番号が99であるかを点検する設定なので{"PORT":"Fa0/1","VLAN":"99"}で設定します。

NetworkConfigurationObjectタイプで提供するデータタイプは、以下の通りです。

データタイプ	比較条件	説明
Integer	=	値が等しい場合に条件を満たす
	<>	値が異なる場合に条件を満たす
	<	対象値が比較値より小さい場合に条件を満たす
	<=	対象値が比較値より小さいか等しい場合に条件を満たす
	>	対象値が比較値より大きい場合に条件を満たす
	>=	対象値が比較値より大きいか等しい場合に条件を満たす

		す
String	=	値が等しい場合に条件を満たす
	contains	対象値が比較値を含む場合に条件を満たす
	not contains	対象値が比較値を含まない場合に条件を満たす
	starts with	対象値が比較値で始まる場合に条件を満たす
	ends with	対象値が比較値で終わる場合に条件を満たす

3. **対象外のデバイス**タブでは、ポリシーを適用しないデバイスを設定します。



図147 点検グループ管理のポリシー設定 - 対象外のデバイス

4. **自動対策実行**タブでは、ルールに違反した場合に実行する対策スクリプトやExpectコマンドを入力します。基本情報ステップのOS設定でServer/Windows/Unix/Linux/AIX/SunOS/HP-UXを選択した場合、対策スクリプトを入力して対策することができ、OS設定をNetworkで選択した場合はExpectコマンドを入力して対策することができます。ここに入力したスクリプト（Expectコマンド）は、点検ジョブの自動対策実行機能を使用する場合に動作します。点検ジョブ結果画面でスクリプト実行結果を確認できます。



図148 点検グループ管理のポリシー設定 - 自動対策実行 (サーバ/エージェントレス)



図149 点検グループ管理のポリシー設定 - 自動対策実行 (ネットワーク)

プロパティ

点検グループのプロパティを設定します。



図150 点検グループ管理 - プロパティ設定



参考 : プロパティの追加及び修正は、**構成 > プロパティリスト**で可能です。

点検グループの活用例

以下は、CustomObjectを活用してAIXサーバのCPU Guard設定情報をチェックする活用例です。

[手順]

1. **構成 > 構成リスト**メニューをクリックすると、構成リストの一覧が表示されます。追加ボタンをクリックして以下のように構成リストを設定して追加します。

構成リスト登録

タイプ *
CustomObject

名称 *
CPU Guard

グループ * OS *
HW * AIX

構文解析器 スクリプト種類 *
value.grammar Shell

実行アカウンント タイムアウト 重要度
名称を入力してください。 1分 上

説明

コマンド パラメータ

コマンド * プロパティ マイコンピュータ

```

1 #!/bin/sh
2 LANG=C, export LANG
3 lsattr -E | grep cpuguard | awk {print $2}

```

点検基準 対策実行ガイド 基本ポリシー

点検基準を入力してください。
点検結果は入力された点検基準として表示されます。

キャンセル 保存

図151 構成リスト登録画面

2. **構成 > 点検グループ管理**で**生成**ボタンをクリックします。**基本情報**画面でCPU Guard設定情報 Enableチェックという名称の点検グループを生成します。**適用OS**はAIXに設定します。



図152 点検グループ管理の活用例 - 基本情報画面

3. **ポリシー設定画面**で既に登録したCPU Guard設定構成リストを登録します。適用OSがAIXであるため、AIX OSのCustomObject一覧からCPU Guard設定を選択し、右側の移動ボタンをクリックして選択されたポリシー領域に移動します。

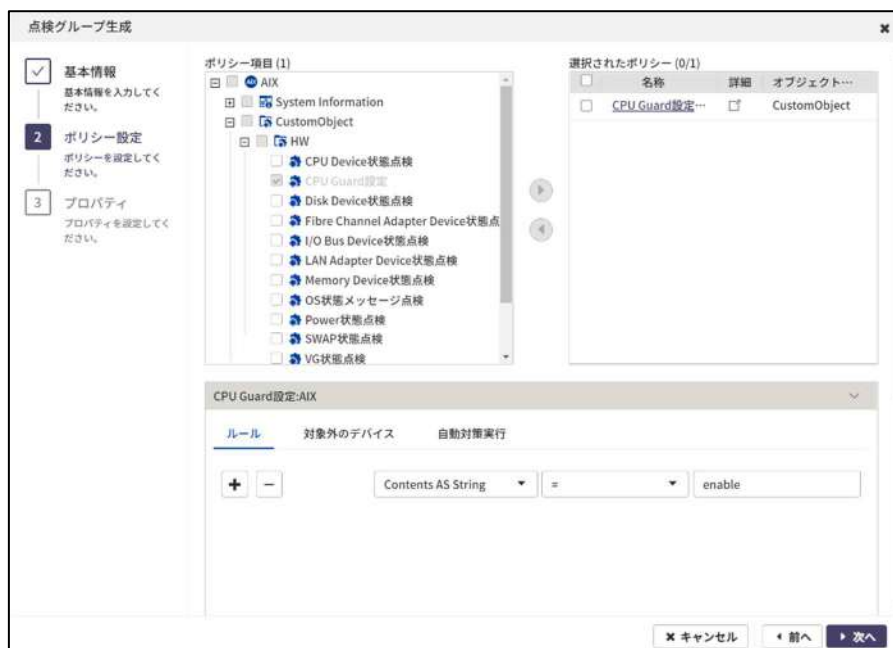


図153 ポリシー項目選択及びルール設定画面

4. 選択されたポリシーで選択したCPU Guard設定をクリックします。
5. ルールタブで + ボタンをクリックします。
6. ルール設定で *Contents AS String* = *enable* に設定し、CPU Guard設定がenable

されているかをチェックする点検グループを生成します。



備考：OSが同じ場合、名称の重複登録はできません。

点検グループ情報

登録済みの点検グループの情報は、**構成 > 点検グループ管理**で確認できます。

点検グループの**詳細情報**と該当点検グループが適用されている**点検ジョブ一覧**は、以下の方法で確認します。

[手順]

1. **構成 > 点検グループ管理**メニューをクリックします。

名前	分類	エージェントレス	OS	登録者	登録日時	修正ユーザー	修正日時
ネットワーク構成管理_intelsock_status	運用/システム		Network	admin	2023-01-10 14:29:08	admin	2023-01-10 14:34:31
脆弱性点検_アカウント管理_Linux	セキュリティ/アカウント		Linux	admin	2023-01-10 09:23:06		
脆弱性点検_SUDO(CVE-2017-1000367)	セキュリティ/パッチ		Linux	admin	2023-01-10 09:23:05		
脆弱性点検_BashShell脆弱性点検	セキュリティ/パッチ		Linux	admin	2023-01-10 09:23:05		
日常点検_システム_Linux	運用/システム		Linux	admin	2023-01-10 09:23:04		
脆弱性点検_ファイアウォール管理_Linux	セキュリティ/ファイア		Linux	admin	2023-01-10 09:23:02		
脆弱性点検_サービス管理_Linux	運用/サービス		Linux	admin	2023-01-10 09:22:59		
脆弱性点検_ログ管理_Unix	セキュリティ/ログ管理		Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:52		
脆弱性点検_HeartBleed点検	セキュリティ/パッチ		Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:52		
脆弱性点検_アカウント管理_Windows	セキュリティ/アカウント		Windows	admin	2023-01-10 09:22:35		
脆弱性点検_DNS管理_Windows	セキュリティ/DNS管理		Windows	admin	2023-01-10 09:22:35		
日常点検_システム_Windows	運用/システム		Windows	admin	2023-01-10 09:22:32		
脆弱性点検_ログ管理_Windows	セキュリティ/ログ管理		Windows	admin	2023-01-10 09:22:30		
脆弱性点検_パッチ管理_Windows	セキュリティ/パッチ		Windows	admin	2023-01-10 09:22:30		
脆弱性点検_セキュリティ管理_Windows	セキュリティ/セキュ		Windows	admin	2023-01-10 09:22:24		
脆弱性点検_サービス管理_Windows	運用/サービス		Windows	admin	2023-01-10 09:22:22		
[A] 脆弱性点検_サービス管理_Linux	運用/サービス	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:14		
[A] 脆弱性点検_ファイアウォール管理---	セキュリティ/ファイア	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:13		
[A] 脆弱性点検_アカウント管理_Linux	セキュリティ/アカウント	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:12		
[A] 脆弱性点検_SUDO(CVE-2017-1000367)	セキュリティ/パッチ	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:11		
[A] 脆弱性点検_BashShell脆弱性点検	セキュリティ/パッチ	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:11		
[A] 日常点検_システム_Linux	運用/システム	✓	Linux	admin	2023-01-10 09:22:10		
[A] 脆弱性点検_ログ管理_Unix	セキュリティ/ログ管理	✓	Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:05		
[A] 脆弱性点検_HeartBleed点検	セキュリティ/パッチ	✓	Unix/Linux	admin	2023-01-10 09:22:05		

図154 点検グループ管理一覧

2. 点検グループ一覧中で確認する点検グループの名称をクリックします。

詳細情報

点検グループを生成した時に設定された点検グループの**基本情報**、**ポリシー設定**、**プロパティ**情報を照会します。該当画面の詳細説明は、点検グループ登録を参照してください。

- **基本情報**：基本情報を設定します。
- **ポリシー設定**：ポリシーの追加、ルールを設定できます。
- **プロパティ**：点検グループのプロパティを設定します。



図155 点検グループ管理の詳細情報

- **ジョブ一覧**：該当点検グループに含まれる点検ジョブの一覧が表示されます。ジョブの名称をクリックすると、ジョブの詳細情報が確認できます。



図156 ジョブ一覧画面

点検グループ削除

点検グループの削除は、**構成 > 点検グループ管理**メニューで削除できます。

点検グループの削除手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > 点検グループ管理**メニューをクリックします。

2. 検索機能を利用して削除する点検グループのキーワードを検索します。
3. 削除する対象点検グループを選択します。
4. **削除**ボタンをクリックして点検グループを削除します。



図157 点検グループ管理削除

プロパティ一括変更

点検グループのプロパティ一括変更手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > 点検グループ管理**メニューをクリックします。
2. **プロパティ一括変更**ボタンをクリックします。
3. 修正可能なプロパティ項目が表示されます。
4. 変更するプロパティをチェックした後に値を変更します。
5. **保存**ボタンをクリックすると、すべての点検グループに対してプロパティ値が変更されます。



図158 プロパティ一括変更

ライブラリ管理

ライブラリは、構成 > ライブラリ管理から生成できます。

ファイル配布ジョブ時、登録済みファイルライブラリを利用して迅速かつ簡単に複数のサーバに配布でき、ファイルまたはスクリプトの継続的なメンテナンスが便利です。

ライブラリには、ファイルライブラリとスクリプトライブラリがあります。

- **ファイルライブラリ**：ファイルをライブラリとして登録し、ファイル配布ジョブ実行時に利用します。
- **スクリプトライブラリ**：Python、Perl、PowerShell、Shell、VBScript、Windows batch などのスクリプトをライブラリとして登録し、スクリプトジョブ実行時に利用します。

ファイルライブラリ登録

サーバにファイルを配布したい場合は、ファイルライブラリの登録後、ファイル配布ジョブを利用して配布できます。ファイルを1回限りで配布するときは、ファイルライブラリを作成することで得られるメリットはあまりありません。ファイルライブラリの適切な使用例として、サーバに共通して使用するOS及びアプリケーション設定ファイルがある場合、標準設定ファイルをライブラリに登録して、組織内のユーザ同士でそのファイルを共有できます。標準設定ファイルはユーザPCからアップロードすることも可能で、特定のサーバからファイルサーバに移すことも可能です。

ファイルをライブラリとして登録した後、ファイル配布ジョブを通じてサーバにファイル配布を行います。

以下は、ファイルライブラリの活用例となります。

例) 複数のサーバに共通で利用するOSやアプリケーションの設定ファイルがある場合、標準の設定ファイルをライブラリとして登録し、ユーザ間でそのファイルを共有できます。標準設定ファイルはユーザのPCからアップロードすることもできます。

1つのファイルライブラリは、1つのファイルで構成します。複数のファイルをライブラリとし

て登録する場合、個々のファイルをライブラリとして生成し、tarやzipなどのアーカイブファイルとして登録する必要があります。

ファイルライブラリ登録後、登録情報を確認、修正、削除ができ、ライブラリに対するジョブ一覧の確認ができます。

ファイルライブラリの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > ライブラリ管理 > ファイルライブラリ**メニューをクリックします。
2. **追加**ボタンをクリックします。
3. 基本情報を入力します。
4. ファイルを選択します。
5. プロパティ一覧を確認し、必要に応じて修正可能項目の値を設定します。
6. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。



参考：ライブラリ登録時の基本情報設定ステップの分類選択項目は、**構成 > プロパティリスト > ライブラリプロパティ > CLASSIFICATION**プロパティで設定した範囲に対応します。

ファイルライブラリー一覧

登録されたファイルライブラリー一覧を確認できます。条件追加ボタンをクリックし、基本検索項目以外にも検索条件を追加して検索できます。

名称	元ファイルのパス	OS	分類	登録者	登録日時	修正ユーザ	修正日時
<input type="checkbox"/> ネットワークオブジェクト関連	ntc-template.nkia.tar	Linux	アプリケーション	admin	2023-01-10 10:18:46		
<input type="checkbox"/> POLESTARエージェント	PolestarDCA_Linux64_3.4.3--	Linux	アプリケーション	admin	2023-01-10 10:18:07		
<input type="checkbox"/> POLESTARエージェント	PolestarDCA_Agent_Win_3.3--	Windows	アプリケーション	admin	2023-01-10 10:17:40		

図159 ファイルライブラリー一覧

- **名称**：ファイルライブラリの名称です。
- **元ファイルのパス**：管理対象サーバから選択したファイルの絶対パスで、マイコンピュータから選択したファイルはファイル名のみ表示されます。

- **OS** : ファイルライブラリが適用されるOSの種類です。
- **分類** : ファイルライブラリの分類です。
- **登録者** : ファイルライブラリを登録したユーザ名です。
- **登録日時** : ファイルライブラリを登録した日時です。
- **修正ユーザ** : ファイルライブラリを修正したユーザ名です。
- **修正日時** : ファイルライブラリを修正した日時です。

基本情報

基本情報は、ファイルライブラリに対する基本的な情報を設定するステップです。

図160 ファイルライブラリ登録 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : ファイルライブラリの名称を入力します。
2. **説明** : ファイルライブラリについての説明内容を入力します。
3. **OS** : ファイルライブラリが適用されるOSを選択します。
4. **分類** : ファイルライブラリの分類を選択します。

ファイル

ファイルを選択して設定するステップです。

図161 ファイルライブラリ登録 - ファイル

[手順]

1. **ファイル選択** : ライブラリとして登録するファイルを設定します。

- **マイコンピュータ** : ユーザのPC内のファイルを選択し設定します。
- **サーバ** : 管理対象サーバ内のファイルを選択し設定します。
- **デバイス選択** : ファイルがある管理対象サーバを選択します。サーバを選択した場合のみ表示されます。
- **ソースの絶対パス** : 選択されたデバイスに存在するファイルの**絶対パス**を入力します。この項目はサーバを選択した場合のみ表示されます。
- **ファイル検索** : 選択したデバイスのファイルを選択します。サーバにチェックされた場合のみ表示されます。ソースの絶対パスに手動でパスを入力した場合、デバイスのファイル検索ポップアップウィンドウが表現されず、入力された情報を探索して情報を表示します。



図162 ファイルがあるデバイス選択



図163 選択されたデバイスのファイル検索



図164 ファイル検索完了

2. ファイルオプション：配布サーバ選択オプションを設定します。

- **ファイルサーバ**：ライブラリ生成時にファイルがファイルサーバに保存され、ファイル配布ジョブ実行時にはファイルサーバを参照して対象サーバに配布します。ファイルライブラリ登録後は元のファイルが変更や削除されてもファイルライブラリへの影響はありません。
- **元ファイルの存在するサーバ**：ファイル配布ジョブ実行時、元ファイルのサーバから対象サーバに配布します。この場合、ファイルライブラリは元のサーバのファイルを参照します。



注意：元ファイルの存在するサーバから配布する際に、対象サーバとのネットワークが異なる場合は転送できません。

プロパティ

プロパティ設定は、システム管理者またはプロパティアクセス権限を持つユーザによって登録されたライブラリのプロパティ一覧が確認できます。修正可能なプロパティ項目のみ表示されます。

ライブラリのプロパティは、**構成 > プロパティリスト**画面で管理します。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して…

図165 ファイルライブラリ - プロパティ

スクリプトライブラリ登録

スクリプトライブラリは、スクリプトジョブに対して対象サーバに実行できます。スクリプトジョブは、実行するスクリプトを直接入力するか、登録されたスクリプトライブラリを使用できます。運用組織で使用する検証済みスクリプトをライブラリとして登録することで、ユーザはスクリプト作成の負担と検証に伴うリスクを軽減できます。1つのスクリプトライブラリは、複数のスクリプトジョブに使用できます。

このような方式により、技術レベルの高い運用者が作成したスクリプトライブラリを比較的技術レベルの低い運用者がスクリプトジョブとして活用する業務フローを維持できます。また、スクリプト内容の変更時に関連するスクリプトジョブをすべて変更する必要はなく、ライブラリだけを変更することで、運用者の管理ポイントが減少します。

スクリプトライブラリは、登録後に登録情報を修正及び削除することができ、ライブラリに関するジョブ一覧を確認できます。

スクリプトライブラリの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成 > ライブラリ管理 > スクリプトライブラリメニュー**をクリックします。
2. **追加**ボタンをクリックします。
3. 基本情報を入力します。
4. コマンドを入力します。
5. プロパティ一覧を確認し、必要に応じて修正可能項目の値を設定します。
6. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

スクリプトライブラリ一覧

登録されたスクリプトライブラリ一覧を確認できます。条件追加ボタンをクリックして、基本検索項目以外にも検索条件を追加して検索できます。

名前	OS	分類	エージェントレス	登録者	登録日時	修正ユーザ	修正日時
<input type="checkbox"/> ルーティング情報の変更処理	Linux	構成	<input checked="" type="checkbox"/>	admin	2023-01-10 10:20:30		
<input type="checkbox"/> Javaのバージョン管理	Linux	構成	<input checked="" type="checkbox"/>	admin	2023-01-10 10:20:04		
<input type="checkbox"/> Windows Hostの情報変更	Windows	構成	<input checked="" type="checkbox"/>	admin	2023-01-10 10:19:27		

図166 スクリプトライブラリー一覧

- **名称** : スクリプトライブラリの名称です。
- **OS** : スクリプトライブラリが適用されるOSの種類です。
- **分類** : スクリプトライブラリの分類です。
- **エージェントレス** : エージェントレスデバイスに適用可能なスクリプトライブラリを表示します。
- **登録者** : スクリプトライブラリを登録したユーザ名です。
- **登録日時** : スクリプトライブラリを登録した日時です。
- **修正ユーザ** : スクリプトライブラリを修正したユーザ名です。
- **修正日時** : スクリプトライブラリを修正した日時です。

基本情報

スクリプトライブラリに対する基本情報を設定するステップです。

スクリプトライブラリ登録

1 基本情報
基本情報を入力してください。

2 スクリプト
スクリプトを入力してください。

3 プロパティ
プロパティを設定してください。

名称 *
名前を入力してください。

説明
説明を入力してください。

エージェントレス

OS *
選択してください。

分類 *
選択してください。

× キャンセル ◀ 前へ ▶ 次へ

図167 スクリプトライブラリ登録 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : スクリプトライブラリの名称を入力します。
2. **説明** : スクリプトライブラリについての説明内容を入力します。
3. **エージェントレス** : エージェントレスライセンスがある場合に適用できるオプションです。チェックを入れる場合にはエージェントレスで管理しているサーバのみ実行できません。
4. **OS** : スクリプトライブラリが適用されるOSを選択します。
5. **分類** : スクリプトライブラリの分類を選択します。

スクリプト

スクリプトの入力及びスクリプトに利用されるパラメータを設定します。

スクリプト

直接またはファイルを選択してスクリプトを入力します。

The screenshot shows a window titled 'スクリプトライブラリ登録' (Script Library Registration). On the left, there is a vertical list of steps: 1. 基本情報 (Basic Information) with a checkmark, 2. スクリプト (Script) with a blue square, and 3. プロパティ (Properties). The main area is divided into two tabs: 'スクリプト' (Script) and 'パラメータ' (Parameters). Under the 'Script' tab, there is a dropdown menu for 'スクリプト種類' (Script Type) with the text '選択してください。' (Please select). Below that is a large text area for 'スクリプト' (Script) with a small '1' in the top left corner. At the bottom right of the text area are two buttons: 'プロパティ' (Properties) and 'マイコンピュータ' (My Computer). At the bottom of the dialog are three buttons: 'キャンセル' (Cancel), '前へ' (Previous), and '次へ' (Next).

図168 スクリプトライブラリ登録 - スクリプト (スクリプト)

[手順]

1. **スクリプト種類** : スクリプトの種類を選択します。
2. **スクリプト** : スクリプトを入力します。

- **プロパティ**：管理対象サーバのプロパティ項目をスクリプト内容に追加できます。
- **マイコンピュータ**：ユーザのPCにあるスクリプトファイルを選択してスクリプトを入力します。



備考：プロパティポップアップでプロパティを選択し、追加されるプロパティ名は最初のラインに**\$\$プロパティ名\$\$**で追加されます。必要な位置に切り取って貼り付ける必要があります。

パラメータ

パラメータ設定は、Shellスクリプトを動作する際に使用するパラメータを設定するステップです。

パラメータを使用するためには、前ステップのスクリプト作成内容に\$1、\$2などの変数を入力し、その変数はパラメータ設定画面で順番に適用されます。つまり、以下の画面のようにhostnameは\$1にマッピングされ、ここに入力される値はプロパティの変数を使用することができます。

順番	名称	値
1	hostname	SSHOSNAME

図169 スクリプトライブラリ登録 - スクリプト (パラメータ)

[手順]

1. **追加**ボタンをクリックしてパラメータを追加します。
2. パラメータ名称と値を入力します。パラメータ値は直接入力するか**\$\$プロパティ名**

\$\$形式で入力します。入力されたプロパティ名はサーバに入力されているプロパティ値で変更され、パラメータに適用されます。

プロパティ

プロパティ設定で修正可能なプロパティを修正することができます。プロパティ一覧は、システム管理者またはプロパティアクセス権限を持つユーザがプロパティリストに登録することができます。

ライブラリのプロパティは、**構成 > プロパティリスト**画面で管理します。



図170 スクリプトライブラリ登録 - プロパティ

プロパティ一括変更

ファイル/スクリプトライブラリのプロパティ一括変更手順です。

[手順]

1. **構成 > ライブラリ管理 > ファイル/スクリプトライブラリ**メニューをクリックします。
2. **プロパティ一括変更**ボタンをクリックします。
3. 修正可能なプロパティ項目が表示されます。
4. 変更するプロパティをチェックした後、値を変更します。

5. **保存ボタン**をクリックし、すべてのファイル/スクリプトライブラリのプロパティ値が変更されます。







図171 プロパティ一括変更

ジョブ管理

ジョブの種類には、**検ジョブ**、**監査ジョブ**、**バッチジョブ**、**スクリプトジョブ**、**ファイル収集ジョブ**、**ファイル配布ジョブ**、**Windows Updateジョブ**、**ネットワークスクリプトジョブ**、**データ比較ジョブ**があります。登録しているジョブは指定されたスケジュールによって実行するか、ユーザのコマンドによって即時に実行することができます。ジョブに対する実行状態は、**運用 > ジョブ結果照会**からリアルタイムで確認できます。


<表> ジョブ状態種類

状態	アイコン	説明
実行中		実行中の状態
失敗/キャンセル		ジョブ自体エラーが発生して中断される 例) マネージャーの再起動により完了していないジョブがキャンセルされました。
エラー/完了		完了したがエラーがある
成功/完了		正常完了

ジョブの種類と機能は、次のようになります。

<表> ジョブの種類

種類	アイコン	機能
点検ジョブ		遵守事項を遵守しているかどうかを検証するジョブ
監査ジョブ		情報と変更されたかを確認するジョブ
バッチジョブ		複数のジョブをまとめて同時/順次で行うジョブ
スクリプトジョブ		サーバにスクリプトを実行するジョブ
ファイル収集ジョブ		ファイルを特定サーバに収集するジョブ
ファイル配布ジョブ		ファイルを管理対象サーバに配布するジョブ
Windows Updateジョブ		Windowsサーバにアップデートを実行するジョブ
ネットワークスクリプト		ネットワークにコマンドを実行するジョブ

トジョブ		
データ比較ジョブ		入力したデータを基準にデバイスから収集された情報と比較するジョブ

共通

ジョブの種類別に共通して適用されている機能です。

ジョブ実行

ジョブを実行する方法は、**構成 > ジョブ管理**メニューの下位にあるジョブをクリックした後に表示される一覧から実行します。

以下は、**点検ジョブ**の一覧から実行する方法です。一覧で実行するときは、複数のジョブをチェックして実行できます。

[手順]

1. **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**メニューをクリックします。
2. 点検ジョブの一覧から実行対象を**検索**します。
3. 検索された点検ジョブの名称を**チェック**します。
4. **実行**ボタンをクリックして点検ジョブを実行します。

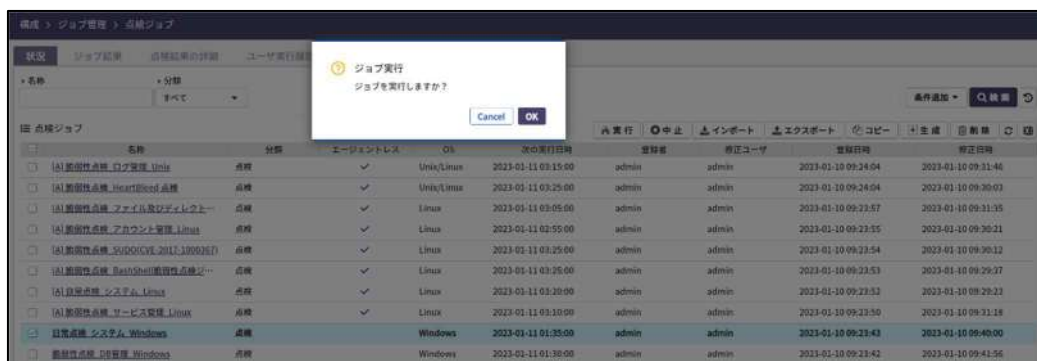


図172 点検ジョブ一覧から実行

以下は、**点検ジョブ**の詳細から実行する方法です。

[手順]

1. **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**メニューをクリックします。
2. 点検ジョブの一覧から実行対象を検索します。
3. 検索された点検ジョブの名称をクリックします。
4. **実行ボタン**をクリックして点検ジョブを実行します。



図173 点検ジョブ詳細で実行

ジョブ中止

ジョブを中止する方法は、**構成 > ジョブ管理**メニューの下位にあるジョブをクリックした後に表示される一覧から中止します。

以下は、**点検ジョブ**を中止する方法です。

[手順]

1. **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**メニューをクリックします。
2. 点検ジョブの一覧から実行対象を**検索**します。
3. 検索された点検ジョブの名称を**チェック**します。
4. **中止ボタン**をクリックして点検ジョブを中止します。

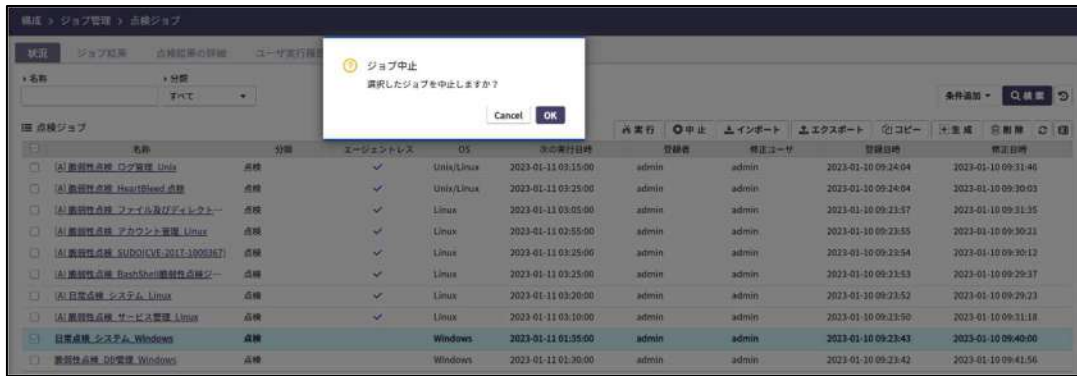


図174 点検ジョブ中止



注意：実行中のジョブを中止する場合、実行された対象デバイスに対しては中止できません。実行されていない対象デバイスを実行できないように中止します。中止ボタンをクリックしても、その前に実行された対象デバイスが完了するまではジョブは中止できません。

ジョブコピー

ジョブをコピーする方法は、**構成 > ジョブ管理**メニューの下位にあるジョブをクリックした後に表示される一覧からコピーします。

以下は、点検ジョブをコピーする方法です。

[手順]

1. **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**メニューをクリックします。
2. 点検ジョブの一覧からコピーする対象を検索します。
3. コピーする点検ジョブの名称をチェックします。
4. **コピー**ボタンをクリックし、コピーする名称及びコピー対象グループを設定します。
5. **確認**ボタンをクリックし、コピー作業を完了します。

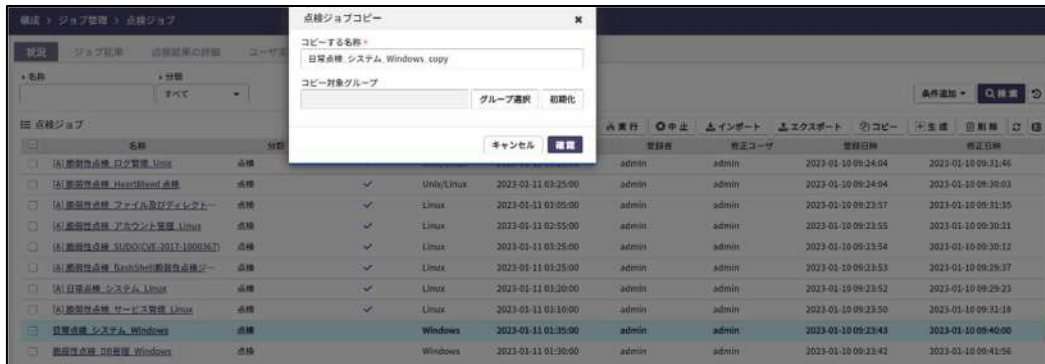


図175 点検ジョブコピー



図176 コピーする対象グループ



備考：ジョブコピーは、1つのジョブのみコピーできます。

ジョブ削除

ジョブを削除する方法は、**構成 > ジョブ管理**メニューの下位にあるジョブをクリックした後に表示される一覧から削除します。

以下は、点検ジョブを削除する方法です。

[手順]

1. **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**メニューをクリックします。
2. 点検ジョブの一覧から削除する対象を検索します。
3. 検索された点検ジョブの名称をチェックします。
4. **削除**ボタンをクリックして点検ジョブを削除します。

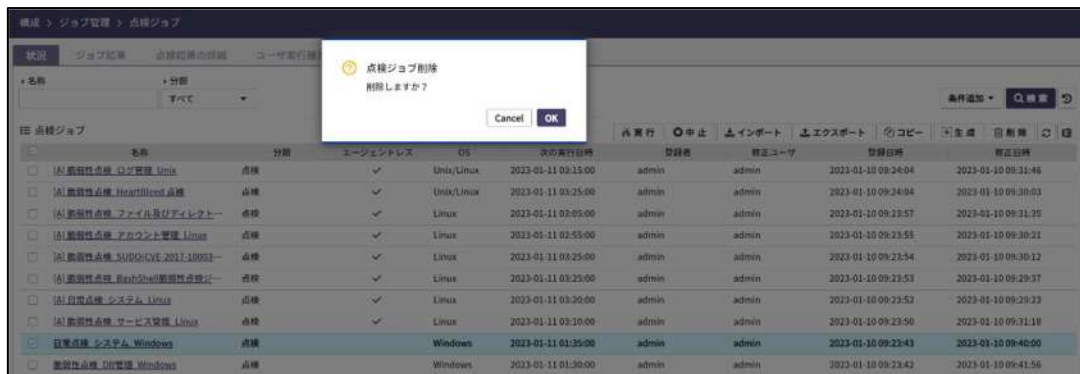


図177 点検ジョブ削除

ジョブのインポート/エクスポート

運用中のジョブをインポート/エクスポートして、他の環境にインストールされたPOLESTAR Automationに提供できます。ジョブのUUID値がインポート先の環境にない場合は、新規で登録されます。UUID値がインポート先の環境に存在する場合は、アップデートされます。

インポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. 他の環境で提供されたジョブXMLファイルを準備します。
2. **インポート**ボタンをクリックし該当ファイルを選択します。

エクスポート方法は、以下の通りです。

[手順]

1. ジョブ一覧からエクスポートしたいジョブを選択します。
2. **エクスポート**ボタンをクリックしてジョブXMLファイルを特定のディレクトリに保存します。

ジョブ結果照会

運用 > ジョブ結果照会から実行された全てのジョブの結果が確認できます。

点検ジョブの結果のみ確認したい場合には、**ジョブ種類**条件を追加し、点検ジョブを選択します。ジョブ結果一覧から確認したいジョブの名称をクリックして結果を確認します。

状態	ジョブ種類	ジョブ名	開始日時	終了日時	メッセージ
成功	DiffJob	running-config比較	2023-01-10 10:44:01	2023-01-10 10:44:03	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス管理_Linux	2023-01-10 10:39:36	2023-01-10 10:40:22	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウント管理_Windows	2023-01-10 10:39:34	2023-01-10 10:40:25	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_サービス管理_Linux	2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:46	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_ログ管理_Unix	2023-01-10 10:38:52	2023-01-10 10:39:00	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_ログ管理_Unix	2023-01-10 10:38:52	2023-01-10 10:38:59	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_Heartbleed点検	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:38:50	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウント管理_Linux	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:39:35	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス管理_Windows	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:39:34	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_Heartbleed点検	2023-01-10 10:38:43	2023-01-10 10:38:51	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_アカウント管理_Linux	2023-01-10 10:38:43	2023-01-10 10:39:31	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	BatchJob	[A] 脆弱性点検_Unix	2023-01-10 10:38:42	2023-01-10 10:38:59	全体2個サブジョブに対するジョブが成功しまし...
成功	BatchJob	[S] 脆弱性点検_Linux	2023-01-10 10:38:42	2023-01-10 10:40:23	全体2個サブジョブに対するジョブが成功しまし...
成功	BatchJob	[A] 脆弱性点検_Linux	2023-01-10 10:38:42	2023-01-10 10:40:46	全体2個サブジョブに対するジョブが成功しまし...
成功	BatchJob	[S] 脆弱性点検_Unix	2023-01-10 10:38:42	2023-01-10 10:39:01	全体2個サブジョブに対するジョブが成功しまし...
成功	BatchJob	[S] 脆弱性点検_Windows	2023-01-10 10:38:42	2023-01-10 10:40:26	全体2個サブジョブに対するジョブが成功しまし...
成功	WindowsUpdateJob	HyperV2012R2-2	2023-01-10 10:31:41	2023-01-10 10:43:02	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	AuditJob	running-config変更履歴	2023-01-10 10:28:46	2023-01-10 10:28:50	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	FileCollectJob	dst/hostsファイル収集	2023-01-10 10:25:48	2023-01-10 10:26:00	全体2個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	FileDeployJob	POLESTARエージェント	2023-01-10 10:23:34	2023-01-10 10:23:39	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	NetworkScriptJob	IC ユーザセッションの確認	2023-01-10 10:04:08	2023-01-10 10:04:18	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	NetworkScriptJob	IC メモリ情報の確認	2023-01-10 10:03:30	2023-01-10 10:03:32	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	NetworkScriptJob	IC 主スレ情報の取得	2023-01-10 10:03:13	2023-01-10 10:03:13	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。

図178 ジョブ結果照会 - ジョブ

デバイス名	状態	基準	結果	項...	遵守	違反	例外	失敗	対...	開始日時	終了日時	メッセージ
LG-CNS	成功	1	21	7	0	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:10	1個の項目が完了、ジョブが成
demo-dca	成功	1	23	5	0	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:22	1個の項目が完了、ジョブが成
CentOST-JP	成功	1	24	4	0	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:15	1個の項目が完了、ジョブが成

図179 点検ジョブの詳細結果

運用 > ジョブ結果照会 > サーバ

ジョブ サーバ ネットワーク エージェントレス

期間 2023-01-03 - 2023-01-10 デバイス名

条件追加 🔍 検索 🔄

ジョブ結果

状態	ジョブ種類	デバイス名	ジョブ名	開始日時	終了日時	メッセージ
🟢	ComplianceJob	CentOST-JP	脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	demo-dca	脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:22	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	LG-CNS	脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:10	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	HYPERV2012-1	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 10:39:35	2023-01-10 10:40:07	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	HyperV2012R2-2	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 10:39:35	2023-01-10 10:40:25	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	DB2Sybase	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 10:39:35	2023-01-10 10:39:48	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	Win2008R2HyperV	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 10:39:35	2023-01-10 10:40:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	LG-CNS	脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:56	2023-01-10 10:38:59	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	CentOST-JP	脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:56	2023-01-10 10:39:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	demo-dca	脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:56	2023-01-10 10:38:59	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	LG-CNS	脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:46	2023-01-10 10:39:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	CentOST-JP	脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:46	2023-01-10 10:39:35	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	demo-dca	脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:46	2023-01-10 10:39:23	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	CentOST-JP	脆弱性点検 HeartBeat点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:50	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	HYPERV2012-1	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:14	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	demo-dca	脆弱性点検 HeartBeat点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:50	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	DB2Sybase	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:09	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	HyperV2012R2-2	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:33	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	LG-CNS	脆弱性点検 HeartBeat点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:48	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	ComplianceJob	Win2008R2HyperV	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	WindowsUpdateJob	HyperV2012R2-2	HyperV2012R2-2	2023-01-10 10:31:41	2023-01-10 10:43:02	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	FileCollectJob	LG-CNS	ntfschostsファイル収集	2023-01-10 10:25:49	2023-01-10 10:25:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	FileCollectJob	CentOST-JP	ntfschostsファイル収集	2023-01-10 10:25:49	2023-01-10 10:26:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。

1 2 3 122個の中 1-30 ページ当たりの件数 50 100 200

図180 ジョブ結果照会 - サーバ

運用 > ジョブ結果照会 > ネットワーク

ジョブ サーバ ネットワーク エージェントレス

期間 2023-01-03 - 2023-01-10 デバイス名

条件追加 🔍 検索 🔄

ジョブ結果

状態	ジョブ種類	デバイス名	ジョブ名	開始日時	終了日時	メッセージ
🟢	DiffJob	IPMI_SW	running-config比較	2023-01-10 10:44:01	2023-01-10 10:44:03	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	AuditJob	IPMI_SW	running-config変更履歴	2023-01-10 10:28:46	2023-01-10 10:28:49	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	NetworkScriptJob	IPMI_SW	CLIユーザセッションの確認	2023-01-10 10:04:08	2023-01-10 10:04:18	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	NetworkScriptJob	IPMI_SW	CLIメモリ情報の確認	2023-01-10 10:03:31	2023-01-10 10:03:32	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	NetworkScriptJob	IPMI_SW	CLIホスト情報の取得	2023-01-10 10:03:13	2023-01-10 10:03:13	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🟢	NetworkScriptJob	IPMI_SW	CLIRunning-configの確認	2023-01-10 10:02:55	2023-01-10 10:02:56	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🔴	NetworkScriptJob	N2024-0A	CLICPU情報の確認	2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:51	1個の項目中1個にエラー発生、ジョブは失
🔴	NetworkScriptJob	N2024-R2-01	CLICPU情報の確認	2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:51	1個の項目中1個にエラー発生、ジョブは失
🔴	NetworkScriptJob	cisco-2611-44-48-47-47	CLICPU情報の確認	2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:19	1個の項目中1個にエラー発生、ジョブは失
🟢	NetworkScriptJob	IPMI_SW	CLICPU情報の確認	2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:22	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
🔴	NetworkScriptJob	N2024-R3-01	CLICPU情報の確認	2023-01-10 10:02:19	2023-01-10 10:02:51	1個の項目中1個にエラー発生、ジョブは失

11個の中 1-11

図181 ジョブ結果照会 - ネットワーク

運用 > ジョブ結果照会 > エージェントレス

ジョブ サーバ ネットワーク エージェントレス

期間: 2023-01-03 - 2023-01-10 デバイス名

条件追加 検索

ジョブ結果

状態	ジョブ種別	デバイス名	ジョブ名	開始日時	終了日時	メッセージ
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:45	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:43	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:45	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:55	2023-01-10 10:38:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:55	2023-01-10 10:38:59	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:54	2023-01-10 10:38:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:30	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:25	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 HeartBleed 点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:51	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 HeartBleed 点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:49	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:39:29	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 HeartBleed 点検	2023-01-10 10:38:45	2023-01-10 10:38:48	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 09:31:54	2023-01-10 09:31:58	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 09:31:54	2023-01-10 09:31:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 09:31:54	2023-01-10 09:31:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ...	2023-01-10 09:31:40	2023-01-10 09:32:16	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ...	2023-01-10 09:31:40	2023-01-10 09:32:15	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ...	2023-01-10 09:31:40	2023-01-10 09:32:14	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus02	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 09:31:26	2023-01-10 09:32:34	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 09:31:26	2023-01-10 09:32:35	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 09:31:26	2023-01-10 09:32:34	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus01	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 09:30:31	2023-01-10 09:31:06	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	scourt-keus03	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 09:30:30	2023-01-10 09:31:08	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。

2 / 54 件中 1-50 ページあたりの件数 50 / 100

図182 ジョブ結果照会 - エージェントレス



備考: ジョブ結果の画面で右上のExcelアイコンをクリックすると、ジョブ結果の一覧が出力できます。ジョブ結果の詳細内容については、ジョブ名称をクリックして表示される画面の右上のExcelアイコンをクリックすることで出力できます。

ユーザ実行履歴

ジョブのユーザ実行履歴を確認する方法は、構成 > ジョブ管理メニューの下位にあるジョブをクリック後に表示される画面で、ユーザ実行履歴タブをクリックして確認できます。

以下は、**点検ジョブ**のユーザ実行履歴画面です。

構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ

状況 ジョブ結果 点検結果の詳細 ユーザ実行履歴

修正日時 2023-01-09 ~ 2023-01-10 ユーザID

条件追加 🔍 検索

ユーザ実行履歴

期間	ユーザID	ユーザ名	接続IPアドレス	オブジェクト	オブジェクト名	ロール	権限名	種類	適用	結果	内容
2023-01-10 10:39:36	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:39:35	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウン...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:39:33	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_サー...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:39:53	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_ログ管理...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:39:52	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_ログ...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:38:45	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウン...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:38:44	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_Heart...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:38:44	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:38:44	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_HeartBle...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 10:38:43	system	MANAGER...	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	[A] 脆弱性点検_アカ...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Child Job executed.
2023-01-10 09:44:38	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_ログ管理...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:44:24	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_ログ管理...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:44:10	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_ファイル...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:43:52	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_パッチ管...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:43:40	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_セキュリ...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:43:18	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:43:03	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:42:48	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウン...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:42:35	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_パッチ管...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:42:20	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_SUDO(CV...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:42:10	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_HeartBle...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:42:00	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_Dir管理...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.
2023-01-10 09:40:19	admin	admin	MANAGER_IP_1	ComplianceJob	脆弱性点検_BashShel...	Admins	ComplianceJob	execute	JobDirector...	true	Job executed.

33件中1-33

図183 点検ジョブ - ユーザ実行履歴

点検ジョブの生成

生成した点検グループは、点検ジョブを通じて該当のサーバを点検します。点検ジョブはユーザが直接即時実行するか、スケジュールを設定することで定期的に実行されます。

点検ジョブでは、対象サーバがポリシーに違反している場合、自動で違反内容を修正する機能を提供します。この機能を有効にすると、ポリシー違反が発生したサーバを対象に、点検グループ生成時に登録したスクリプトを自動で実行します。

点検ジョブ一覧

生成された点検ジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ

状況 ジョブ結果 点検結果の詳細 ユーザ実行履歴

名前 分類

すべて

条件追加 検索

点検ジョブ

名前	分類	エージェントレス	OS	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
[a] 脆弱性点検_ログ管理_Unix	点検	✓	Unix/Linux	2023-01-11 03:15:00	admin	admin	2023-01-10 09:31:46	2023-01-10 09:31:46
[a] 脆弱性点検_Heartbleed_点検	点検	✓	Unix/Linux	2023-01-11 03:25:00	admin	admin	2023-01-10 09:24:04	2023-01-10 09:30:03
[a] 脆弱性点検_ファイル及びディレクトリ…	点検	✓	Linux	2023-01-11 03:05:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:57	2023-01-10 09:31:35
[a] 脆弱性点検_アカウント管理_Linux	点検	✓	Linux	2023-01-11 02:55:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:55	2023-01-10 09:36:21
[a] 脆弱性点検_SUDO(CVE-2017-1000367)	点検	✓	Linux	2023-01-11 03:25:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:54	2023-01-10 09:36:12
[a] 脆弱性点検_BashShell脆弱性点検…	点検	✓	Linux	2023-01-11 03:25:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:53	2023-01-10 09:29:37
[a] 脆弱性点検_システム_Linux	点検	✓	Linux	2023-01-11 03:20:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:52	2023-01-10 09:29:23
[a] 脆弱性点検_サービス管理_Linux	点検	✓	Linux	2023-01-11 03:10:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:50	2023-01-10 09:31:18
脆弱性点検_システム_Windows	点検		Windows	2023-01-11 03:35:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:43	2023-01-10 09:40:00
脆弱性点検_設定管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 02:30:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:42	2023-01-10 09:41:56
脆弱性点検_セキュリティ管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 01:25:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:41	2023-01-10 09:43:29
脆弱性点検_ログ管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 01:20:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:40	2023-01-10 09:44:31
脆弱性点検_パッチ管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 02:15:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:39	2023-01-10 09:43:46
脆弱性点検_サービス管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 01:10:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:38	2023-01-10 09:43:12
脆弱性点検_アカウント管理_Windows	点検		Windows	2023-01-11 01:05:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:37	2023-01-10 09:42:41
脆弱性点検_Heartbleed_点検	点検		Unix/Linux	2023-01-11 02:50:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:31	2023-01-10 09:42:06
脆弱性点検_ログ管理_Unix	点検		Unix/Linux	2023-01-11 02:35:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:28	2023-01-10 09:44:16
脆弱性点検_SUDO(CVE-2017-1000367)	点検		Linux	2023-01-11 02:50:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:21	2023-01-10 09:42:15
脆弱性点検_BashShell脆弱性点検ジョブ	点検		Linux	2023-01-11 02:45:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:20	2023-01-10 09:40:14
脆弱性点検_システム_Linux	点検		Linux	2023-01-11 02:40:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:17	2023-01-10 09:39:44
脆弱性点検_サービス管理_Linux	点検		Linux	2023-01-11 02:30:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:16	2023-01-10 09:42:56
脆弱性点検_アカウント管理_Linux	点検		Linux	2023-01-11 02:20:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:15	2023-01-10 09:42:26
脆弱性点検_ファイル及びディレクトリ管…	点検		Linux	2023-01-11 02:25:00	admin	admin	2023-01-10 09:23:15	2023-01-10 09:44:02

23件中 1 - 23

図184 点検ジョブ一覧

- **名称**：点検ジョブの名称です。
- **分類**：点検ジョブの分類です。
- **エージェントレス**：エージェントレスのオプション設定有無です。
- **OS**：点検ジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：点検ジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：点検ジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：点検ジョブを登録した日時です。
- **修正日時**：生成した点検ジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **点検ジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ**で**生成ボタン**をクリックします。
- ② **ジョブツリー**でグループを選択し、コンテキストメニューで**点検ジョブ生成**をクリックします。この方法により、点検ジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図185 ジョブツリーで点検ジョブ生成メニュー

- ③ サーバ/ネットワーク/エージェントレスツリーで、デバイスまたはグループのコンテキストメニューから**点検ジョブ生成**をクリックします。この方法により、点検ジョブの**対象デバイスステップ**に選択したデバイスまたはグループがデフォルトに設定されます。基本情報のOS設定で選択したデバイス/グループに合わせて選択する必要があります。OS設定で異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイス設定をしなければなりません。



図186 サーバツリーで点検ジョブ生成メニュー

2. 点検ジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：点検ジョブの名称と説明、分類、エージェントレス、対象OS、自動対策実行、静的グループのパスを設定します。
- ② **点検グループ**：点検する点検グループを選択します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑤ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑥ **ロール**：点検ジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑦ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、点検ジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成する点検ジョブの一般的な情報を入力します。

The screenshot shows a web form titled '点検ジョブ生成' (Check Job Creation). On the left is a vertical sidebar menu with seven items: 1. 基本情報 (Basic Information), 2. 点検グループ (Check Group), 3. 対象デバイス (Target Device), 4. スケジュール (Schedule), 5. プロパティ (Properties), 6. ロール (Role), and 7. 通知設定 (Notification Settings). The main area is the '基本情報' tab, which contains the following fields:

- 名称*** (Name): A text input field with the placeholder '名称を入力してください。' (Please enter the name).
- 説明** (Description): A text area with the placeholder '説明を入力してください。' (Please enter the description).
- 分類*** (Classification): A dropdown menu with the placeholder '選択してください。' (Please select).
- エージェントレス** (Agentless): A checkbox with the label 'エージェントレス'.
- OS*** (OS): A dropdown menu with the placeholder '選択してください。' (Please select).
- 自動対策実行** (Automatic Countermeasure Execution): A checkbox with a help icon and the label '自動対策実行'.
- 静的グループのパス** (Static Group Path): A text input field with a 'グループ選択' (Group Selection) button and a '初期化' (Reset) button.

 At the bottom right of the form are three buttons: 'キャンセル' (Cancel), '前へ' (Previous), and '次へ' (Next).

図187 点検ジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：点検ジョブの名称を入力します。
2. **説明**：点検ジョブの内容を入力します。
3. **分類**：点検ジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **エージェントレス**：エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。
5. **OS**：点検ジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
6. **自動対策実行**：点検結果の違反項目に対して自動対策実行可否を設定します。その設定を有効にすると、点検ポリシーの遵守可否を判別し、違反の場合に自動的に対策を試みます。自動対策実行は、点検グループのポリシー設定ステップでポリシーごとに自動対策実行に設定したスクリプトを実行します。
7. **静的グループのパス**：点検ジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

点検グループ

点検ジョブで点検する点検グループを選択します。左側の点検グループ一覧には、点検ジョブのOS種別に合わせた点検グループのみ表示されます。



図188 点検ジョブ生成 - 点検グループ

[手順]

1. **点検グループ**一覧から点検グループを選択し、右側に移動するボタンをクリックして選択した点検グループ領域に移動します。
選択した点検グループ名をクリックすると、新しいタブで点検グループの情報を確認できます

対象デバイス

点検ジョブを実行する対象デバイスを設定します。**エージェントレス**オプションがチェックした場合はエージェントレスツリーが表現されます。**エージェントレス**オプションをチェックしない場合は適用OSで設定したOSに合ったサーバツリーが表示されます。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合は、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

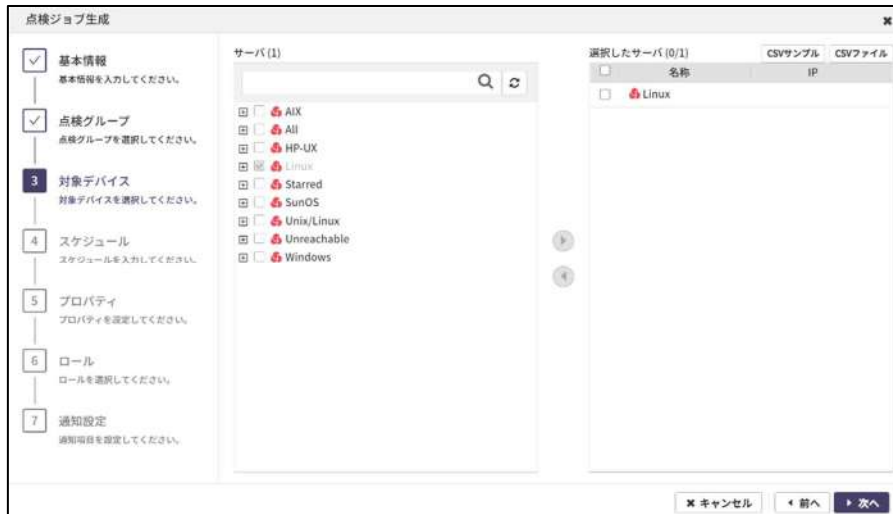


図189 点検ジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **点検ジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
 - **CSVサンプル**：対象デバイスをCSV形式で設定可能なサンプルファイルです。サンプルファイルをダウンロードした後、設定したいデバイスのホスト名を入力します。
 - **CSVファイル**：設定するCSVファイルを選択して対象デバイスを設定します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

スケジュール

点検ジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュールを設定することで、定期的にジョブを実行することができます。1つのジョブに複数のスケジュールを追加でき、柔軟なスケジュール設定ができます。

スケジュールの設定は、次の手順で行います。



図190 点検ジョブ生成 - スケジュール

[手順]

1. **追加**ボタンをクリックすると、スケジュール設定画面が表示されます。



図191 ジョブスケジュール設定画面

2. スケジュールは、**1回**、**毎日**、**毎週**、**毎月**、**繰り返し**のパターンで設定できます。

- ① **1回**：指定の日時を指定し、1回だけジョブが実行します。

図192 ジョブスケジュールの1回設定画面

- ② **毎日**：毎日指定した時間にジョブが実行します。

図193 ジョブスケジュールの毎日設定画面

- ③ **毎週**：毎週指定した曜日の指定した時間にジョブが実行します。

図194 ジョブスケジュールの毎週設定画面

- ④ **毎月**：特定月と特定日または特定月、特定周、特定曜日に指定した時間にジョブが実行します。

日付指定：繰り返し月数を指定し、実行する日付を設定します。

曜日指定：繰り返し月数を指定し、実行する週の曜日を指定します。

図195 ジョブスケジュールの毎月設定画面

- ⑤ **繰り返し**：特定時刻から指定した間隔で繰り返し実行する場合に指定します。

図196 ジョブスケジュールの繰り返し設定画面

プロパティ

プロパティ設定画面で、点検ジョブのプロパティを設定できます。



図197 点検ジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、**構成 > プロパティリスト**で行います。

<表> 点検ジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定

STARRED

特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成する点検ジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザーのみ該当点検ジョブにアクセスできます。

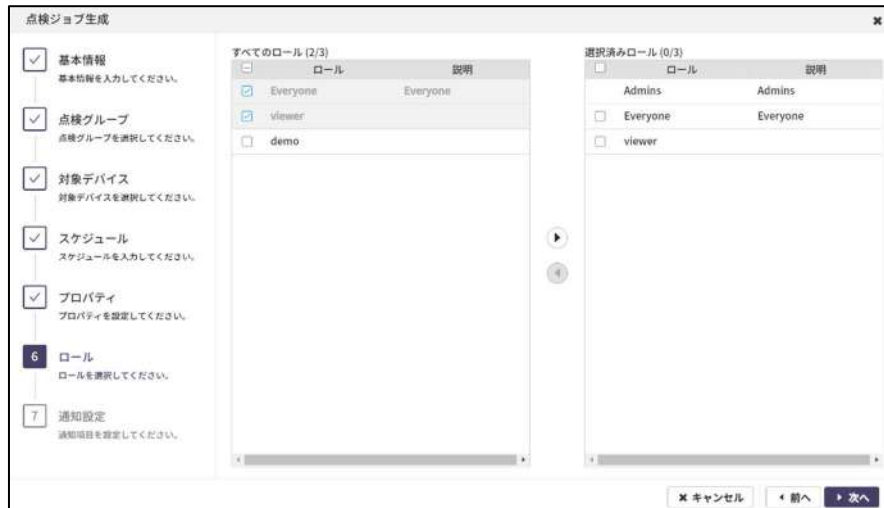


図198 点検ジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報**、**SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。



図199 点検ジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして發送条件、受信者を有効化します。
2. 發送条件の状態、結果、通知対象、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。

① **メール** : 受信者やルールを選択するか、メールアドレスを直接に入力します。

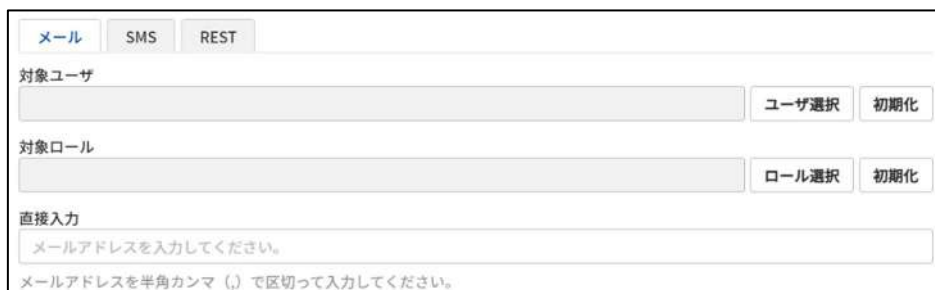


図200 点検ジョブ生成 - 通知設定(メール)

② **SMS** : 受信者やルールを選択するか、電話番号を直接に入力します。

図201 点検ジョブ生成 - 通知設定(SMS)

- ③ **REST** : クレデンシャル管理に登録されたNOTIFY_RESTを選択します。

図202 点検ジョブ生成 - 通知設定(REST)

点検ジョブの結果

点検ジョブ結果は、構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ > ジョブ結果または特定点検ジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名称	開始日時	終了日時	キャン...	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	脆弱性点検 サービス変更 Linux	2023-01-10 10:39:35	2023-01-10 10:40:22	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 10:39:34	2023-01-10 10:40:25	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[A] 脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 10:39:33	2023-01-10 10:40:46	0	0	3	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[A] 脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:52	2023-01-10 10:38:59	0	0	3	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 10:38:52	2023-01-10 10:39:00	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:39:35	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:39:34	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 Heartbleed 点検	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:38:50	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[A] 脆弱性点検 Heartbleed 点検	2023-01-10 10:38:43	2023-01-10 10:38:51	0	0	3	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[A] 脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 10:38:43	2023-01-10 10:39:31	0	0	3	全体3個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ログ管理 Windows	2023-01-10 09:44:38	2023-01-10 09:44:42	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ログ管理 Unix	2023-01-10 09:44:24	2023-01-10 09:44:30	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 ファイル及びディレクトリ管理 Lin...	2023-01-10 09:44:10	2023-01-10 09:44:36	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 パッチ管理 Windows	2023-01-10 09:43:52	2023-01-10 09:43:57	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 セキュリティ管理 Windows	2023-01-10 09:43:40	2023-01-10 09:44:17	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 サービス管理 Windows	2023-01-10 09:43:18	2023-01-10 09:43:59	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 サービス管理 Linux	2023-01-10 09:43:03	2023-01-10 09:44:00	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 アカウント管理 Windows	2023-01-10 09:42:48	2023-01-10 09:43:41	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 アカウント管理 Linux	2023-01-10 09:42:35	2023-01-10 09:43:24	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 SUDO CVE-2017-1000367	2023-01-10 09:42:20	2023-01-10 09:42:24	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 Heartbleed 点検	2023-01-10 09:42:10	2023-01-10 09:42:13	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 DB管理 Windows	2023-01-10 09:42:00	2023-01-10 09:42:02	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	脆弱性点検 BashShell脆弱性点検ジョブ	2023-01-10 09:40:19	2023-01-10 09:40:24	0	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。

図203 点検ジョブ - ジョブ結果タブ

デバイス名	状態	基準	結果	項...	遵守	違反	例外	失敗	対...	開始日時	終了日時	メッセージ
LG-CNS	成功		1	21	7	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:10	1個の項目が完了、ジョブが成
demo-dca	成功		1	23	5	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:22	1個の項目が完了、ジョブが成
脆弱性点検_サー...			28	23	5	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:38	2023-01-10 10:40:19	
CentOS7-JP	成功		1	24	4	0	0	0	0	2023-01-10 10:39:37	2023-01-10 10:40:15	1個の項目が完了、ジョブが成

図204 点検ジョブ - 結果タブ - 詳細結果



備考：自動対策実行が設定されていると、対策実行項目に実行有無が表示されます。結果項目に[点検ジョブの実行結果]、[自動対策実行スクリプトの実行結果]、[点検ジョブの再実行結果]が表示されます。

実行したジョブ結果の対象デバイスの下位の点検グループリンクをクリックし、点検グループに登録しているポリシーの確認ができます。特定の点検グループの結果は、点検ジョブの点検グループの一覧から名称をクリックし、ジョブ結果タブで確認します。

状態	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス名	メッセージ
成功	脆弱性点検_サービス管理_Linux	2023-01-10 10:39:36	2023-01-10 10:40:22	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。	
成功	脆弱性点検_サービス管理_Linux	2023-01-10 09:43:03	2023-01-10 09:44:00	0	4	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。	

図205 点検ジョブ - 詳細ジョブ結果

点検ジョブの点検結果の詳細

点検ジョブの点検結果の詳細は、**構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ > 点検結果の詳細タブ**をクリックして確認することができます。

日付の検索条件を入力しない場合には、最後に実行した点検ジョブの結果のみ表示されます。

日付の検索条件を入力して過去に点検した結果を確認することができ、ユーザ権限に基づいて参照可能な点検結果のみ表示されます。

違反が発生した際の対策実行内容や対策実行予定日を入力することで、対策実行計画を共有することができます。

デバイス名	IP	OS	点検グループ	点検グループの分類	ポリシー名	基準	結果	状態	実行時間	対策実行内容	対策実行予定日
scout-xeus01	192.168.200...	Linux	遠隔サービス	[A] 脆弱性点検	* [A] [U-67]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:40		入力
scout-xeus02	192.168.200...	Linux	遠隔サービス	[A] 脆弱性点検	* [A] [U-67]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:39		入力
scout-xeus03	192.168.200...	Linux	遠隔サービス	[A] 脆弱性点検	* [A] [U-67]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:38		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-16] 脆弱性点検	脆弱性点検	There is...	違反	2023-01-10 10:40:33		入力
demo-dca	192.168.232...	Linux	遠隔サービス	脆弱性点検	* [U-67] [U]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:17		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-14] [U]	脆弱性点検	There is...	違反	2023-01-10 10:40:16		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-11] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:40:14		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-12] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:40:12		入力
CentOS7-JP	192.168.232...	Linux	遠隔サービス	脆弱性点検	* [U-67] [U]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:11		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-11] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:40:10		入力
CentOS7-JP	192.168.232...	Linux	遠隔サービス	脆弱性点検	* [U-66] [U]	脆弱性点検	common...	違反	2023-01-10 10:40:10		入力
CentOS7-JP	192.168.232...	Linux	遠隔サービス	脆弱性点検	* [U-65] [U]	脆弱性点検	service...	違反	2023-01-10 10:40:09		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-10] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:40:08		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-09] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:40:06		入力
LG-GN5	192.168.232...	Linux	遠隔サービス	脆弱性点検	* [U-67] [U]	脆弱性点検	You must...	違反	2023-01-10 10:40:05		入力
HyperV201	192.168.230...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-08] [U]	脆弱性点検	Account...	違反	2023-01-10 10:40:04		入力
HyperV201	192.168.200...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-16] 脆弱性点検	脆弱性点検	There is...	違反	2023-01-10 10:39:59		入力
HyperV201	192.168.200...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-13] 脆弱性点検	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:39:58		入力
HyperV201	192.168.200...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-12] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:39:57		入力
HyperV201	192.168.200...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-11] [U]	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:39:57		入力
Win100802	192.168.232...	Windows	セキュリティ	脆弱性点検	* [W-10] 脆弱性点検	脆弱性点検	Do not use	違反	2023-01-10 10:39:57		入力

図206 点検結果の詳細

- **デバイス名**：点検ジョブのポリシーが実行された対象デバイス名です。
- **IP**：対象サーバのIPアドレスです。
- **OS**：対象になるOSの種類です。
- **点検グループの分類**：ポリシー名が設定された点検グループの分類です。
- **点検グループ名**：ポリシーが設定された点検グループの名称です。
- **ポリシー名**：ポリシーの名称です。ポリシー名のコンテキストメニュー(▼)をクリックすると、**対象外に指定**と**構成リスト**画面が表示されます。

機能	説明
対象外に指定	対象外に指定することで、点検対象から除外
構成リスト	登録されている点検項目のカスタムオブジェクトを確認

- **基準**：ポリシーの点検基準です。
- **結果**：ポリシーを実行した結果です。

- **状態**：ポリシーの点検基準状態です。
- **期間**：ポリシーが実行された日時です。
- **対策未実行期間（日）**：ポリシーの違反状態の継続期間です。
- **対策実行内容**：入力ボタンをクリックして違反項目の予定日、対策実行内容を入力します。
- **対策実行予定日**：対策実行計画画面で設定します。

図207 対策実行計画

- **一括実行**：点検結果から該当の結果を選択し、対象外に指定、対象外キャンセル、対策実行計画の入力の中から処理を選び、選択した点検結果に対して一括で処理を行います。
 - ✓ **対象外に指定**：該当項目を点検対象外として指定
 - ✓ **対象外キャンセル**：対象外になっている項目を再び点検対象として指定
 - ✓ **対策実施計画の入力**：該当項目に対して対策実行計画を入力

ファイル配布ジョブの生成

ファイル配布ジョブは、ライブラリに登録済みのファイル（**ファイルライブラリ**）や管理対象サーバのファイル（**ファイルライブオブジェクト**）を、複数のサーバに配布する場合に使用するジョブ

です。

ファイル配布ジョブでは、**ファイル配布前に実行するコマンド**と、**ファイル配布後に実行するコマンド**が登録できます。それぞれのコマンドには**成功判断条件使用有無**の適用が選択でき、必要に応じて配布することができます。

ファイル配布ジョブを用いることで、OSやアプリケーションから頻繁に使用される環境設定ファイルを予めライブラリ化して、必要に応じて配布することができます。アプリケーションの場合、配布前の中止と配布後の実行スクリプトを配布ジョブ実行の前/後に登録し、安定的なパッチ適用も可能になります。

また、ソフトウェアの場合、配布前にディレクトリを作成するスクリプトを登録したり、配布後に圧縮したファイルを解凍したり、ソフトウェアをインストールするスクリプトを登録したりすることができます。

ファイル配布ジョブ一覧

生成されたファイル配布ジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名称	分類	エージェントレス	OS	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
POLESTARエージェント	構成		Linux		admin		2023-01-10 15:17:39	
POLESTARエージェント	構成		Windows		admin		2023-01-10 10:23:25	

図208 ファイル配布ジョブ一覧

- **名称**：ファイル配布ジョブの名称です。
- **分類**：ファイル配布ジョブの分類です。
- **エージェントレス**：エージェントレスのオプション設定有無です。
- **OS**：ファイル配布ジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：ファイル配布ジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：ファイル配布ジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：ファイル配布ジョブを登録した日時です。

- **修正日時**：生成したファイル配布ジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **ファイル配布ジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > ファイル配布ジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
- ② ジョブツリーでグループを選択し、コンテキストメニューで**ファイル配布ジョブ生成**をクリックします。この方法により、ファイル配布ジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図209 ジョブツリーでのファイル配布ジョブ生成メニュー

- ③ サーバ/エージェントレスツリーで、デバイスまたはグループのコンテキストメニューから**ファイル配布ジョブ生成**をクリックします。この方法により、ファイル配布ジョブの**対象デバイスステップ**に選択したデバイスまたはグループがデフォルトに設定されます。基本情報のOS設定で選択したデバイス/グループに合わせて選択する必要があります。OS設定で異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイス設定をしなければなりません。



図210 サーバツリーでのファイル配布ジョブ生成メニュー

2. ファイル配布ジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：ファイル配布ジョブの名称と説明、分類、対象OS、ファイル重複時のアクション、配布パス、ジョブスレッド、静的グループのパスを設定します。
- ② **ライブラリ**：ファイル配布するライブラリを選択します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **オプション**：ファイル配布ジョブの実行前/後のスクリプトを設定します。
- ⑤ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑥ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑦ **ロール**：ファイル配布ジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑧ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、ファイル配布ジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するファイル配布ジョブの一般的な情報を入力します。

図211 ファイル配布ジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：ファイル配布ジョブの名称を入力します。
2. **説明**：ファイル配布ジョブの内容を入力します。
3. **分類**：ファイル配布ジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **エージェントレス**：エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。
5. **OS**：ファイル配布ジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
6. **ファイル重複時のアクション**：基本情報の**配布パス**に配布ファイルが存在する場合、上書きをするかスキップするかを選択します。
7. **配布パス**：ファイル配布パスを絶対パスで入力します。対象デバイスにパスが存在しないフォルダが自動で生成されます。



注意：配布パスには、("/" , ":" , ¥ , "\$\$") のうち1種類以上が含まれる必要があります。また、配布パスには日本語、英字、数字で入力してください。

エージェントレスをチェックした場合には、("/" , ":" , ¥ , "\$\$") のうち1種類以上が含まれる必要があります。また、配布パスには英字、数字で入力してください。

8. **ジョブスレッド**：ファイル配布ジョブを実行する時、同時に収集するファイルの数を指定します。ジョブスレッドを50で設定すると、ファイル収集ジョブ実行時に、同時に50のファイルを収集します。
9. **静的グループのパス**：ファイル配布ジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

ライブラリ

ファイル配布ジョブを実行するためのライブラリを選択します。左側の選択可能なライブラリ一覧には、ファイル配布ジョブ適用のOS種類に合ったファイルのライブラリのみ表示されます。



図212 ファイル配布ジョブ生成 - ライブラリ

[手順]

1. **ライブラリ**一覧から登録されたライブラリを選択し、右側に移動ボタンをクリックして選択したライブラリ領域に移動します。



備考：基本情報でエージェントレスにチェックを入れた場合には、ライブラリ一覧ではライブラリ配布オプションが**ファイルサーバから配布**のみ選択できます。

基本情報でエージェントレスにチェックを入れない場合(エージェント)には、ライブラリ配布オプションを**ファイルサーバから配布**と**元サーバから配布**の両方で設定できます。

対象デバイス

ファイル配布ジョブを実行する対象デバイスを設定します。**エージェントレス**オプションがチェックした場合はエージェントレスツリーが表現されます。**エージェントレス**オプションをチェックしない場合は適用OSで設定したOSに合ったサーバツリーが表示されます。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合は、手で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

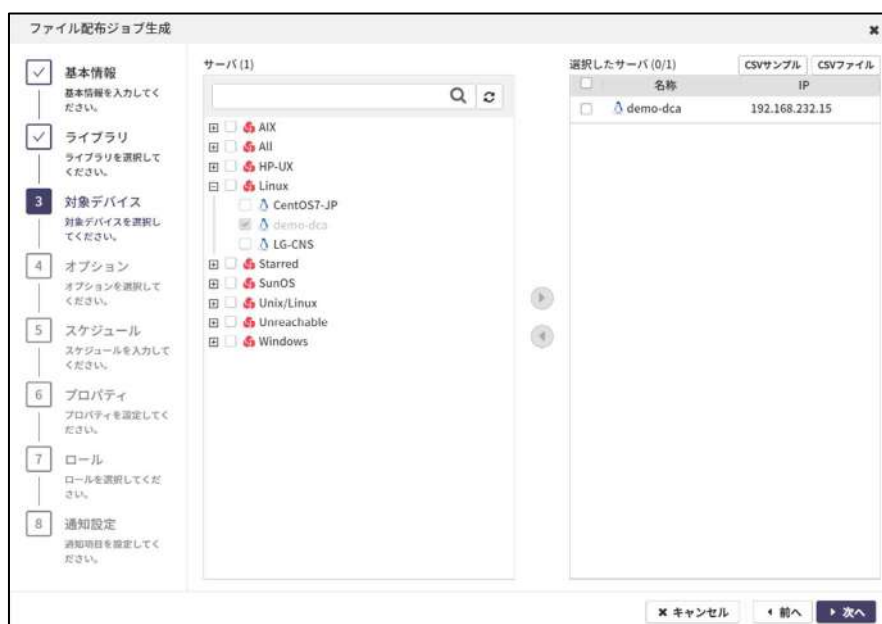


図213 ファイル配布ジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **ファイル配布ジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

オプション

ファイル配布ジョブの前/後に実行するコマンドを設定します。

ファイル配布ジョブ前/後に実行するスクリプトの種類を選択し、スクリプトを実行することができます。スクリプトのExit code値が0またはスクリプト結果メッセージに特定の内容が含ま

れる/含まれない場合を選択して、スクリプト実行の成功有無を判断することができます。



図214 ファイル配布ジョブ生成 - ジョブ実行前/後のコマンド

[手順]

1. **スクリプト種類**：ファイル配布ジョブ前/後に実行するスクリプトの種類を選択します。スクリプト種類はファイル配布ジョブの基本情報から選択したOSの種類によって異なります。
2. **成功判断条件使用有無**：スクリプト実行結果によりファイル配布ジョブの成功有無を判断するのかをチェックします。成功/失敗を判断せず、ファイル配布ジョブを実行すると単にスクリプトを実行する設定も可能です。
 チェックを入れる場合、**Exit codeが0の場合**または**結果メッセージに次のメッセージが含まれる場合に成功、含まれない場合に成功**から選択できます。
 - **Exit codeが0の場合**：成功可否の判断をチェックした場合に選択できます。Exit codeが0にリターンした場合は成功とみなすように設定できます。
 - **結果メッセージに次のメッセージが**：成功可否の判断をチェックした場合に選択できます。スクリプト実行結果メッセージに**次のメッセージが含まれる場合に成功**として処理するかどうか、**含まれていない場合に成功**として処理するかを選択し、成功判断に使用する文字列を入力することができます。

3. **スクリプト** : ジョブ実行前/後に実行するスクリプトを入力します。

- **プロパティ** : スクリプト上に事前に定義されたプロパティを使用します。
- **マイコンピュータ** : 既存にあるスクリプトをアップロードし、スクリプトを入力できます。



参考 : スクリプト作成時、ユーザはプロパティを利用してサーバのプロパティを変数として使用できます。必要に応じてプロパティに変数(例 : プログラムのパス名など)を追加し、これを活用すると、複数のシステムに一括してスクリプトを実行することができます。



参考 : Exit codeが0を成功有無として判断するためには、スクリプト作成時exitコードを0に直接変更する必要があります。結果メッセージで判断する際には**含まれる場合と含まれない場合**の2つのケースを用います。

スケジュール

ファイル配布ジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、ファイル配布ジョブのプロパティを設定できます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
AGENT_TIMEOUT	Integer	<input checked="" type="checkbox"/>	30	エージェントへのリクエスト…
JOB_TIMEOUT	Integer	<input checked="" type="checkbox"/>	360	デバイスごとのジョブ完了ま…
SCHEDULE_PAUSE	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	スケジュール作業と即時実行…
STARRED	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	特定のオブジェクトに対して…

図215 ファイル配布ジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> ファイル配布ジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
AGENT_TIMEOUT	エージェントへのリクエスト（ファイル配布、スクリプト実行など）に対する完了までの最大待ち時間（分）。タイムアウト時間までにリクエストが完了しない場合、作業中止後に失敗として処理します。タイムアウトを0に設定した場合、基本設定されている最大のタイムアウトが適用されます。
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定

STARRED

特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するファイル配布ジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当ファイル配布ジョブにアクセスできます。



図216 ファイル配布ジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報、SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図217 ファイル配布ジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして發送条件、受信者を有効化します。
2. 發送条件の状態、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

ファイル配布ジョブの結果

ファイル配布ジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > ファイル配布ジョブ > ジョブ結果**または特定ファイル配布ジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状況	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
●	POLESTARエージェント	2023-01-10 10:23:34	2023-01-10 10:23:39	0	1	1	全機1台デバイスに対するジョブが成功しました。

図218 ファイル配布ジョブ - ジョブ結果タブ

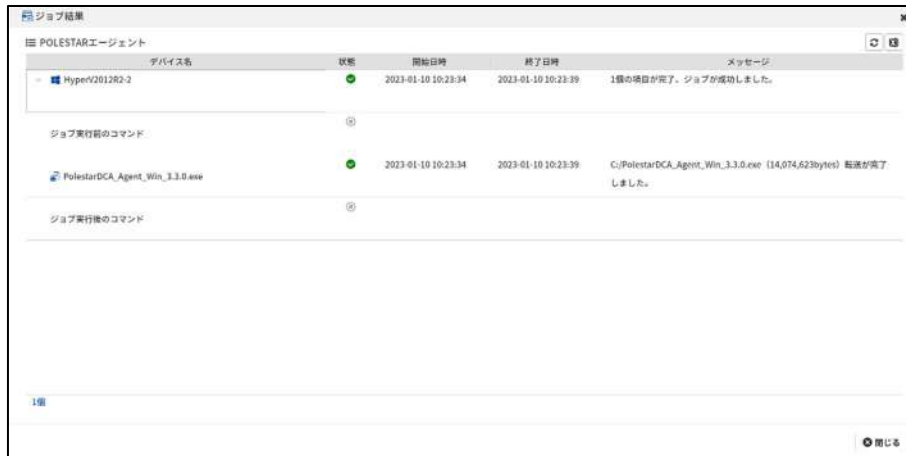


図219 ファイル配布ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果



図220 ファイル配布ジョブ - 詳細ジョブ結果

スクリプトジョブの生成

スクリプトジョブは、1つ以上のスクリプトを複数のサーバに対して実行する場合に利用します。

サポートするスクリプトの種類にはShell、Windows batch、Perl、VBScript、Expect、PowerShell、Pythonがあります。

<表> サポートするスクリプトの種類

スクリプト種類	対応OS	説明
Shell	Unix/Linux系	Bourne Shellスクリプト文法で動作
Windows batch	Windows系	Windowsでbatファイルのように動作
VBScript	Windows系	WindowsでCscriptで実行可能なVisual Basic Script
Perl	全体	Perlスクリプト文法で動作し、対象システムにPerlがインストールされている必要がある
Expect	全体	Expectスクリプト文法で動作し、対象システムにExpectがインストールされている必要がある
PowerShell	Windows系	PowerShellスクリプト文法で動作

Python	全体	Pythonスクリプト文法で動作し、対象システムにPythonがインストールされている必要がある
--------	----	--



備考 : Perlは、<http://www.perl.org>で各OS別にダウンロードが可能です。
Expectは、<http://expect.sourceforge.net>で各OS別にダウンロードが可能です。

スクリプトジョブは、場合によってはスケジュールを登録して、サーバに繰り返し特定のスクリプトを実行する必要がある場合にも活用できます。

ここではUnix/Linuxシステムの/tmpディレクトリの容量が100MB以上になるかを周期的にチェックし、履歴に結果を残して100MB以上になると/tmpディレクトリにあるファイルのサイズを履歴に詳細に残すスクリプトジョブを生成します。100MBという値はサーバごとに異なる可能性があるとして仮定して、サーバのプロパティにTMP_SIZEとして管理し、これをスクリプトから変数として受け取り処理する例を生成します。

スクリプトジョブ一覧

生成されたスクリプトジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名前	分類	エージェント種別	OS	次の実行日時	登録者	既定ユーザー	登録日時	修正日時
IS_01 Windows Hostの複製収集	複製		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:45	2023-01-10 09:26:17
IS_01 Linuxのバージョン確認	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:44	2023-01-10 09:26:35
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:43	2023-01-10 09:26:44
IS_01 ルーティング情報の更新確認	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:42	2023-01-10 09:26:30
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:41	2023-01-10 09:26:23
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:40	2023-01-10 09:26:09
IS_01 OSファイルシステムの容量確認	確認		Windows		admin	admin	2023-01-10 09:26:40	2023-01-10 09:26:54
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:35	2023-01-10 09:26:28
IS_01 ルーティング情報の更新確認	確認		Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:34	2023-01-10 09:26:07
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:33	2023-01-10 09:26:06
IS_01 OSファイルシステムの容量確認	確認		Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:32	2023-01-10 09:26:45
IS_01 Linuxのバージョン確認	確認		Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:31	2023-01-10 09:26:16
IS_01 Linuxアカウント作成、パスワード	確認		Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:30	
IS_01 1000番地を再チェック	確認		Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:29	2023-01-10 09:26:57
IS_01 1000番地を再チェック	確認	✓	Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:22	2023-01-10 09:26:20
IS_01 ルーティング情報の更新確認	確認	✓	Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:21	2023-01-10 09:26:10
IS_01 1000番地を再チェック	確認	✓	Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:20	2023-01-10 09:26:08
IS_01 OSファイルシステムの容量確認	確認	✓	Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:18	2023-01-10 09:26:46
IS_01 Linuxのバージョン確認	確認	✓	Unix/Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:17	2023-01-10 09:26:14
IS_01 Linuxアカウント作成、パスワード	確認	✓	Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:16	
IS_01 1000番地を再チェック	確認	✓	Linux		admin	admin	2023-01-10 09:26:15	2023-01-10 09:26:56

図221 スクリプトジョブ一覧

- **名称** : スクリプトジョブの名称です。
- **分類** : スクリプトジョブの分類です。
- **エージェントレス** : エージェントレスのオプション設定有無です。
- **OS** : スクリプトジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時** : スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者** : スクリプトジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ** : スクリプトジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時** : スクリプトジョブを登録した日時です。
- **修正日時** : 生成したスクリプトジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **スクリプトジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > スクリプトジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
- ② ジョブツリーでグループを選択し、コンテキストメニューで**スクリプトジョブ生成**をクリックします。この方法により、スクリプトジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。基本情報のOS設定で選択したデバイス/グループに合わせて選択する必要があります。OS設定で異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイス設定をしなければなりません。



図222 ジョブツリーでのスクリプトジョブ生成メニュー

- ③ サーバ/エージェントレスツリーで、デバイスまたはグループのコンテキストメニューから**スクリプトジョブ生成**をクリックします。この方法により、スクリプトジョブの対象デバイスステップに選択したデバイスまたはグループがデフォルトに設定されます。



図223 サーバツリーでのスクリプトジョブ生成メニュー

2. スクリプトジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報** : スクリプトジョブの名称と説明、分類、エージェントレス、対象OS、静的グループのパスを設定します。
- ② **スクリプト** : スクリプトの種類と内容を入力します。
- ③ **対象デバイス** : 対象デバイスを選択します。
- ④ **スケジュール** : ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑤ **プロパティ** : プロパティを設定します。
- ⑥ **ロール** : スクリプトジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑦ **通知設定** : ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存** ボタンをクリックして、スクリプトジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するスクリプトジョブの一般的な情報を入力します。

図224 スクリプトジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : スクリプトジョブの名称を入力します。
2. **説明** : スクリプトジョブの内容を入力します。
3. **分類** : スクリプトジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを

生成する際に活用することができます。

4. **エージェントレス**：エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。
5. **OS**：スクリプトジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
6. **静的グループのパス**：スクリプトジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

スクリプト

スクリプトを実行するために、スクリプト入力（直接入力/スクリプトライブラリ）、スクリプト種類、実行アカウントを選択し、スクリプト内容を入力します。また、スクリプト作成する際、パラメータを追加及び削除することができます。



図225 スクリプトジョブ生成 - スクリプト

スクリプト入力

[手順]

1. **スクリプト入力**：構成 > ライブラリ管理 > スクリプトライブラリ > 生成から生成された既存のライブラリを利用するかを選択します。

スクリプト パラメータ

スクリプト入力

直接入力

図226 スクリプトジョブ生成 - スクリプト (直接入力)

スクリプトジョブ生成

ライブラリ選択

スクリプトライブラリ

名称	説明
Javaのバージョン確認	

1個
選択したライブラリ

キャンセル 選択

図227 スクリプトジョブ生成 - スクリプト (スクリプトライブラリ選択)

スクリプトジョブ生成

スクリプト パラメータ

スクリプト入力

スクリプトライブラリ

ライブラリ *

Javaのバージョン確認 ライブラリ選択 初期化

スクリプト種類 *

Shell 実行アカウント

入力してください。

スクリプト *

```

1 #!/bin/sh
2 #Copyright©NKIA Co., Ltd.
3 #Description: Java Version Check script
4
5 LANG=C
6 export LANG
7
8 OS_TYPE=$(uname)
9
10 if [ $OS_TYPE = "AIX" ]; then
11   JAVA_PROC=$(ps -eo "ka" | grep ^/ | awk '{print $1}' | grep bin | grep java | grep -v ^j)
12 elif [ $OS_TYPE = "HP-UX" ]; then
13   JAVA_PROC=$(ps -eo "ka" | grep ^/ | awk '{print $1}' | grep bin | gr
14 elif [ $OS_TYPE = "Linux" ]; then
15   JAVA_PROC=$(ps -eo "ka" | grep ^/ | awk '{print $1}' | grep bin | grep java | sort -
16 elif [ $OS_TYPE = "SUNOS" ]; then
17   JAVA_PROC=$(ps -eo "ka" | grep ^/ | awk '{print $1}' | grep bin | grep java | grep -v ^j)

```

キャンセル 前へ 次へ

図228 スクリプトジョブ生成 - スクリプト入力 (スクリプトライブラリ選択)

2. **スクリプト種類** : スクリプト種類を選択します。OSの種類により、Windowsの場合はWindows batch、VBScript、Python、PowerShellが選択でき、Unix/Linuxの場合Shell、Perl、Expect、Pythonを選択できます。Serverの場合Perl、Pythonが選択できません。

3. **実行アカウント** : スクリプトを実行するアカウントを入力します。Windowsの場合は、Systemアカウントでのみスクリプトが実行します。Unix/Linuxの場合は、スクリプト入力や実行時にアカウントを指定することができます。
4. **スクリプト** : 選択したスクリプト種類に基づいてスクリプトの内容を入力します。



参考 : スクリプト入力の際に直接入力を選択した場合、ユーザはプロパティを変数で利用できます。プロパティに変数（例:プログラムのパス名など）を追加して活用すると、複数のシステムに一括でスクリプトを実行することができます。

マイコンピュータボタンを利用して、既にユーザが作成済みのスクリプトをアップロードしてスクリプト領域に読み込んできます。

パラメータ追加/削除

スクリプトを作成するとにパラメータが必要な場合、パラメータタブをクリックしてパラメータを追加/削除することができます。

[手順]

1. **パラメータ追加** : スクリプトにパラメータが必要な場合、**追加**ボタンをクリックしてパラメータ名と値を入力します。
パラメータが2つ以上の場合、上または下移動ボタンをクリックしてパラメータの順序を設定します。
2. **パラメータ削除** : スクリプトにパラメータが不要な場合、**削除**ボタンをクリックして削除します。

対象デバイス

スクリプトジョブを実行する対象デバイスを設定します。**エージェントレス**オプションがチェックした場合はエージェントレスツリーが表示されます。**エージェントレス**オプションをチェックしない場合は適用OSで設定したOSに合ったサーバツリーが表示されます。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合は、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

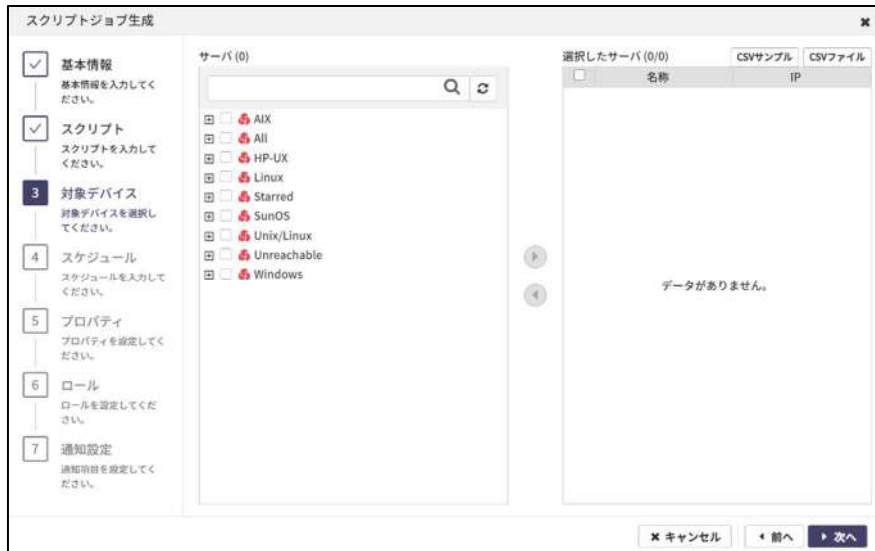


図229 スクリプトジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **スクリプトジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

スケジュール

スクリプトジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、スクリプトジョブのプロパティを設定できます。



図230 スクリプトジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> スクリプトジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
AGENT_TIMEOUT	エージェントへのリクエスト（ファイル配布、スクリプト実行など）に対する完了までの最大待ち時間（分）。タイムアウト時間までにリクエストが完了しない場合、作業中止後に失敗として処理します。タイムアウトを0に設定した場合、基本設定されている最大のタイムアウトが適用されます。
JOB_CODE	外部と連動するためのジョブコード
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サ

	ービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するスクリプトジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザーのみ該当スクリプトジョブにアクセスできます。

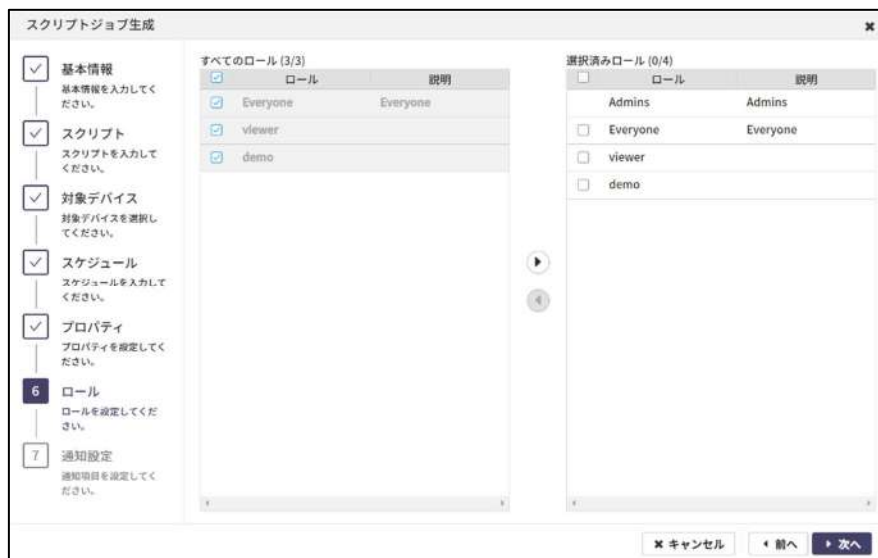


図231 スクリプトジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報**、**SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIF

Y_RESTが登録されていないと適用できません。

図232 スクリプトジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして送信条件、受信者を有効化します。
2. 送信条件の状態、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

スクリプトジョブの結果

スクリプトジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > スクリプトジョブ > ジョブ結果**または特定スクリプトジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名前	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	[S_W]ルーチング情報の変更確認	2023-01-10 09:39:36	2023-01-10 09:39:39	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] Windows HotFix情報収集	2023-01-10 09:39:24	2023-01-10 09:39:47	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OS情報収集: Package Application	2023-01-10 09:39:09	2023-01-10 09:39:20	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OSファイアウォールの設定変更確認	2023-01-10 09:38:59	2023-01-10 09:39:01	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] NTFS権限のリセット	2023-01-10 09:38:50	2023-01-10 09:38:59	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] Javaのバージョン確認	2023-01-10 09:38:40	2023-01-10 09:38:41	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] 防炎情報の変更確認	2023-01-10 09:38:30	2023-01-10 09:38:33	1	0	4	全機4台デバイス中1台にエラー発生。ジョブは...
成功	[S_W] ルーチング情報の変更確認	2023-01-10 09:33:12	2023-01-10 09:33:15	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OS情報収集: Package Application	2023-01-10 09:33:01	2023-01-10 09:33:14	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OSファイアウォールの設定変更確認	2023-01-10 09:32:50	2023-01-10 09:32:55	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] NTFS権限のリセット	2023-01-10 09:32:34	2023-01-10 09:32:37	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] Javaのバージョン確認	2023-01-10 09:32:23	2023-01-10 09:32:33	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] DNS情報変更確認	2023-01-10 09:32:10	2023-01-10 09:32:14	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] ルーチング情報の変更確認	2023-01-10 09:29:14	2023-01-10 09:29:16	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OS情報収集: Package Application	2023-01-10 09:29:01	2023-01-10 09:29:06	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] OSファイアウォールの設定変更確認	2023-01-10 09:28:50	2023-01-10 09:28:57	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] DNS情報変更確認	2023-01-10 09:28:38	2023-01-10 09:28:40	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] Javaのバージョン確認	2023-01-10 09:28:33	2023-01-10 09:28:37	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[S_W] NTFS権限のリセット	2023-01-10 09:28:26	2023-01-10 09:28:32	0	0	3	全機3台デバイスに対するジョブが成功しました。

図233 スクリプトジョブ - ジョブ結果タブ

状態	デバイス名	開始日時	終了日時	メッセージ	結果
成功	DB2Sybase	2023-01-10 09:39:26	2023-01-10 09:39:36	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。	KB2849697(20161123)Update KB2849696(20161123)Update ...
成功	HYPERV2012-1	2023-01-10 09:39:26	2023-01-10 09:39:33	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。	KB2736693(20151125)Security Update KB2742614(20151125)Security Update ...
成功	HyperV2012R2-2	2023-01-10 09:39:26	2023-01-10 09:39:32	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。	KB2868626(20131114)Security Update KB2883200(20131114)Update ...
成功	Win2008R2Hyp...	2023-01-10 09:39:26	2023-01-10 09:39:47	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。	KB2849697(20160901)Update KB2849696(20160901)Update ...

図234 スクリプトジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

状態	名前	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	[S_W] Windows HotFix情報収集	2023-01-10 09:39:24	2023-01-10 09:39:47	0	0	4	全機4台デバイスに対するジョブが成功しました。

図235 スクリプトジョブ - 詳細ジョブ結果

ネットワークスクリプトジョブの生成

ネットワークスクリプトジョブは、コマンドを複数のネットワークデバイスに対して実行する場合

に利用します。

ネットワークスクリプトジョブは、スケジュールの設定を通じて定期的に行うことができ、ネットワークに繰り返しコマンドを実行する場合に活用できます。

ネットワークスクリプトジョブを実行するためには、接続情報の設定が必要です。

ネットワークスクリプトジョブ一覧

生成されたネットワークスクリプトジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます

名前	分類	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
[C]CPU情報の取得	構成		admin	admin	2023-01-10 10:01:22	2023-01-10 10:02:12
[C]ホスト情報の取得	構成		admin	admin	2023-01-10 10:01:21	2023-01-10 10:03:08
[C]メモリ情報の取得	構成		admin	admin	2023-01-10 10:01:19	2023-01-10 10:03:23
[C]running.confの取得	構成		admin	admin	2023-01-10 10:01:17	2023-01-10 10:02:46
[C]ユーザーセッションの取得	構成		admin	admin	2023-01-10 10:01:15	2023-01-10 10:03:51

図236 ネットワークスクリプトジョブ一覧

- **名称**：ネットワークスクリプトジョブの名称です。
- **分類**：ネットワークスクリプトジョブの分類です。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：ネットワークスクリプトジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：ネットワークスクリプトジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：ネットワークスクリプトジョブを登録した日時です。
- **修正日時**：生成したネットワークスクリプトジョブを修正した日時です。

[手順]

1. ネットワークスクリプトジョブの生成は、次の3つの方法で生成できます。
 - ① **構成 > ジョブ管理 > ネットワークスクリプトジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
 - ② **ジョブツリー**でグループを選択し、コンテキストメニューで**ネットワークスクリプト**

トジョブ生成をクリックします。この方法により、ネットワークスクリプトジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図237 ジョブツリーでのネットワークスクリプトジョブ生成メニュー

- ③ **ネットワークツリー**で、ネットワークまたはグループのコンテキストメニューから**ネットワークスクリプトジョブ生成**をクリックします。この方法により、ネットワークスクリプトジョブの対象デバイスステップに選択したサーバまたはグループがデフォルトに設定されます。



図238 ネットワークツリーでのネットワークスクリプトジョブ生成メニュー

2. ネットワークスクリプトジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：ネットワークスクリプトジョブの名称と説明、分類、静的グループのパスを設定します。また、実行するExpectコマンドを追加します。
- ② **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ③ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ④ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑤ **ロール**：ネットワークスクリプトジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑥ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存ボタン**をクリックして、ネットワークスクリプトジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するネットワークスクリプトジョブの一般的な情報を入力します

The screenshot shows a web form titled 'ネットワークスクリプトジョブ生成' (Network Script Job Creation). On the left, a vertical navigation pane lists six steps: 1. 基本情報 (Basic Information), 2. 対象デバイス (Target Device), 3. スケジュール (Schedule), 4. プロパティ (Properties), 5. ロール (Role), and 6. 通知設定 (Notification Settings). Step 1 is selected. The main form area contains:

- 名称** (Name): A text input field with a placeholder '名称を入力してください。' (Please enter the name).
- 説明** (Description): A text input field with a placeholder '説明を入力してください。' (Please enter the description).
- Expect** table: A table with columns 'Name', 'prompt', 'コマンド' (Command), '比較演算子' (Comparison Operator), and '比較値' (Comparison Value). The 'prompt' column contains 'prompt'. A checkbox 'promptに正規式使用' (Use regular expression for prompt) is checked. There are buttons for '追加' (Add), '削除' (Delete), '失敗処理' (Failure Handling), and '結果保存' (Save Results).
- 静的グループのパス** (Static Group Path): A text input field with a placeholder '静的グループのパスを入力してください。' (Please enter the static group path).
- Buttons: 'グループ選択' (Group Selection) and '初期化' (Initial).

 At the bottom right, there are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '< 前へ' (Previous), and '次へ >' (Next).

図239 ネットワークスクリプトジョブの生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：ネットワークスクリプトジョブの名称を入力します。
2. **説明**：ネットワークスクリプトジョブの内容を入力します。
3. **promptに正規式使用**：直接に正規式を使用する場合にチェックします。
4. **Expect**

Prompt : ネットワーク機器にログインする時に表現されるprompt文句を入力します。エンターキーを入力する場合、次の行が追加されます。

コマンド : ネットワーク機器が提供するコマンドを入力します。コマンドの入力は、1行のみで実行できるコマンドを入力する必要があります。エンターキーを入力する場合、次の行が追加されます。

比較演算子 : コマンドの実行が正常かどうかを判断するために、結果値を基準に判断できる演算子を選択します。

比較値 : 判断するための比較値を入力します。

プロパティ : ネットワーク機器に設定されたプロパティ項目を選択し、コマンド入力欄に適用します。

失敗処理 : コマンド結果基準で比較演算子、比較値で判断結果失敗した場合、次のコマンドを実行せずにジョブを終了します。

結果保存 : 入力したコマンドの実行結果の保存有無を選択します。チェックする場合はDBに結果を保存します。チェックしない場合はコマンドの実行のみを行い、結果は保存されません。

5. **分類** : ネットワークスクリプトジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
6. **静的グループのパス** : ネットワークスクリプトジョブを保存する静的グループのパスを設定します。



参考 : プロパティを追加すると、空白が自動的に追加されません。Expectコマンドの後にプロパティを追加する場合は、コマンドとプロパティの間に空白を追加する必要があります。

対象デバイス

ネットワークスクリプトジョブを実行する対象デバイスを設定します。

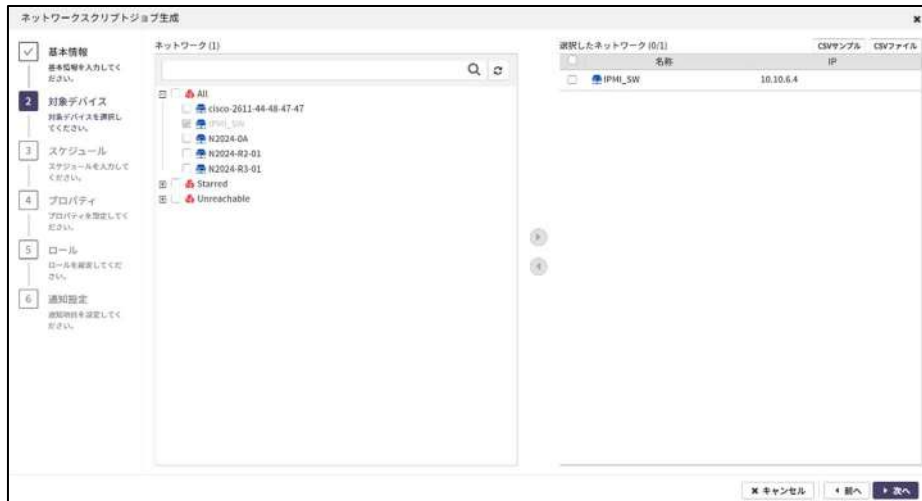


図240 ネットワークスクリプトジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. ネットワークスクリプトジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

スケジュール

ネットワークスクリプトジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、ネットワークスクリプトジョブのプロパティを設定できます。

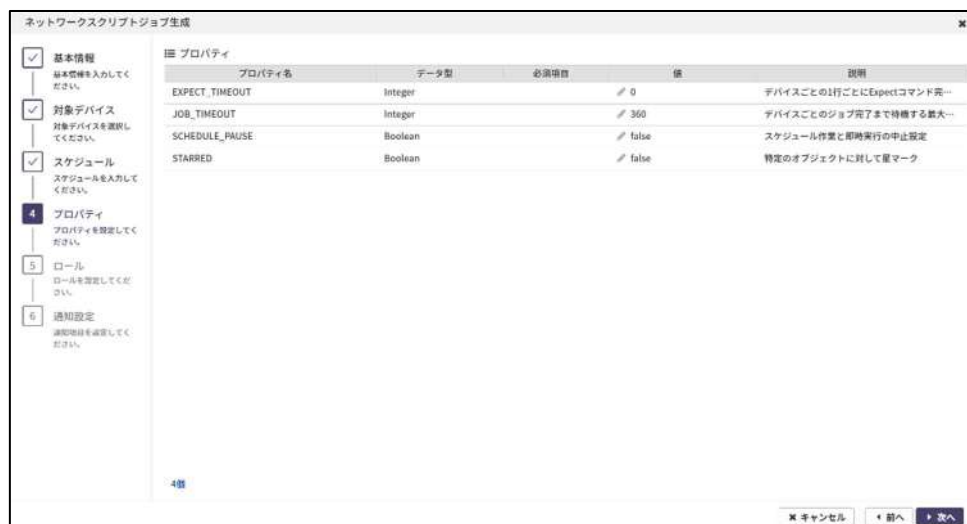


図241 ネットワークスクリプトジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> ネットワークスクリプトジョブのプロパティ説明

プロパティ名	デフォルト値	説明
EXPECT_TIMEOUT	0	Expectコマンド実行に対するタイムアウト
JOB_TIMEOUT	360	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	false	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	false	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するネットワークスクリプトジョブジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当ネットワークスクリプトジョブにアクセスできます。

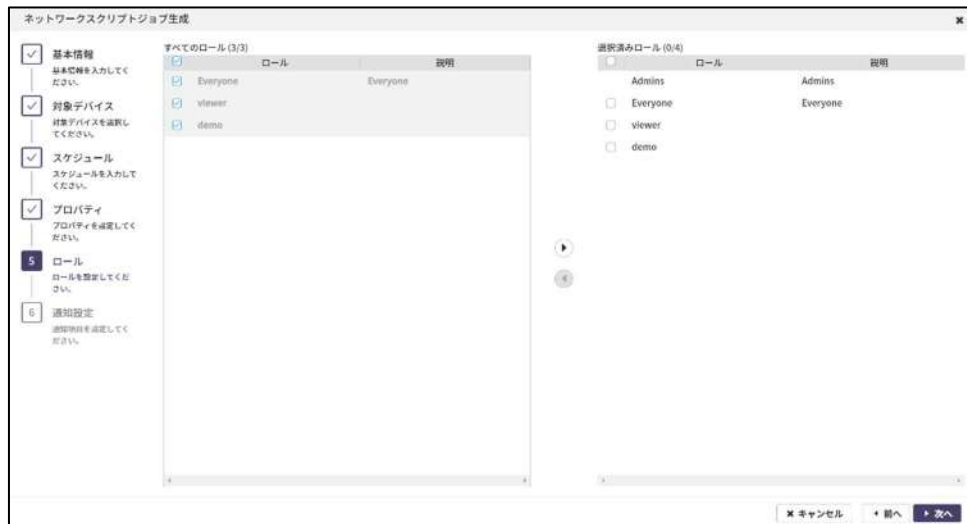


図242 ネットワークスクリプトジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックし、バッチジョブの生成を完了します。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報、SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図243 ネットワークスクリプトジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして発送条件、受信者を有効化します。
2. 発送条件の状態、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

ネットワークスクリプトジョブの結果

ネットワークスクリプトジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > ネットワークスクリプトジョブ > ジョブ結果**または特定ネットワークスクリプトジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名称	開始日時	終了日時	キャン...	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	[C]ユーザセッションの確認	2023-01-10 10:04:08	2023-01-10 10:04:18	0	0	1	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[C]メモリ情報の確認	2023-01-10 10:03:30	2023-01-10 10:03:32	0	0	1	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[C]ホスト情報の取得	2023-01-10 10:03:13	2023-01-10 10:03:13	0	0	1	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	[C]ramdisk-configの確認	2023-01-10 10:02:52	2023-01-10 10:02:57	0	0	1	全体1個デバイスに対するジョブが成功しました。
失敗	[C]CPU情報の確認	2023-01-10 10:02:17	2023-01-10 10:02:52	4	5	5	全体5個デバイス中4個にエラー発生。ジョブは...

図244 ネットワークスクリプトジョブ - ジョブ結果タブ



図245 ネットワークスクリプトジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果



図246 ネットワークスクリプトジョブ - 詳細ジョブ結果

ファイル収集ジョブの生成

ファイル収集ジョブを利用し、複数サーバのファイルを1つのサーバに集約することができます。収集前と収集後、登録したコマンドを実行することができ、収集過程で必要な事前/事後作業を処理できます。また、収集前/後のコマンド結果に基づいて収集ジョブをキャンセルすることができます。これは、特定の状態でのみ収集を進めたい場合に有用に使用できます。

ファイル収集ジョブ一覧

生成されたファイル収集ジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名称	分類	OS	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
etc/hostsファイル収集	構成	Linux		admin		2023-01-10 10:25:41	

図247 ファイル収集ジョブ一覧

- **名称**：ファイル収集ジョブの名称です。
- **分類**：ファイル収集ジョブの分類です。
- **OS**：ファイル収集ジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：ファイル収集ジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：ファイル収集ジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：ファイル収集ジョブを登録した日時です。
- **修正日時**：生成したファイル収集ジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **ファイル収集ジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。
 - ① **構成 > ジョブ管理 > ファイル収集ジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
 - ② **ジョブツリー**でグループを選択し、コンテキストメニューで**ファイル収集ジョブ生成**をクリックします。この方法により、ファイル収集ジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図248 ジョブツリーでのファイル収集ジョブ生成メニュー

- ③ サーバツリーで、サーバまたはグループのコンテキストメニューから**ファイル収集ジョブ生成**をクリックします。この方法により、ファイル収集ジョブの対象デバイスステップに選択したサーバまたはグループがデフォルトに設定されます。基本情報のOS設定で選択したデバイス/グループに合わせて選択する必要があります。OS設定で異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイス設定をしなければなりません。



図249 サーバツリーでのファイル収集ジョブ生成メニュー

2. ファイル収集ジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：ファイル収集ジョブの名称と説明、分類、対象OS、ファイル重複時のアクション、保存サーバ、保存場所、ジョブスレッド、静的グループのパスを設定します。
- ② **収集ファイル**：収集するファイル名を入力します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **オプション**：ファイル収集ジョブの実行前/後のスクリプトを設定します。
- ⑤ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑥ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑦ **ロール**：ファイル収集ジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑧ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、ファイル収集ジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するファイル収集ジョブの一般的な情報を入力します。

図250 ファイル収集ジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：ファイル収集ジョブの名称を入力します。
2. **説明**：ファイル収集ジョブの内容を入力します。
3. **分類**：ファイル収集ジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **OS**：ファイル収集ジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
5. **ファイル重複時のアクション**：基本情報の**保存場所**に収集ファイルが存在する場合、上書きをするかスキップするかを選択します。
6. **保存サーバ**：収集対象ファイルが保存されるデバイスを選択します。
7. **保存場所**：**パス探索**ボタンをクリックして、選択された保存サーバーのディレクトリから収集対象ファイルが保存されるパスを選択します。

保存場所に手動でパスを入力した場合、デバイスのディレクトリ選択ポップアップウィンドウが表示されずに入力された情報を探索します。

保存場所は、収集されたファイル保存パスを意味します。保存サーバのホスト名フォルダ名で保存場所に収集対象ファイルを保存する場合、`$$HOSTNAME$$`プロパティを利用してファイルを保存することができます。

例) ホスト名 → `$$HOSTNAME$$`, IPAddress → `$$IPADDRESS$$`

保存場所  *	<input type="text" value="/tmp/\$\$HOSTNAME\$\$"/>	プロパティ
--	--	-------

図251 ファイル収集ジョブ生成 - 保存場所



注意：保存場所には、("/")、":¥"、"\$ \$" のうち1種類以上が含まれる必要があります。また、保存場所には英字、数字で入力してください。

- ジョブスレッド**：ファイル収集ジョブを実行する時、同時に収集するファイルの数を指定します。ジョブスレッドを50で設定すると、ファイル収集ジョブ実行時に、同時に50のファイルを収集します。
- 静的グループのパス**：ファイル収集ジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

収集ファイル

収集ファイルステップでは、収集するファイルのパスとファイル名を入力します。

添番	パス	ファイル名
1	/etc/hosts	

図252 ファイル収集ジョブ生成 - 収集ファイル

[手順]

- 追加**：収集するファイルを追加します。
追加ボタンをクリックし、ファイル名カラムに収集するファイルパス及びファイル名を入力します。収集ファイルが複数の場合、**追加**ボタンを利用して追加することができます

す。また、移動ボタンを用いて収集ファイルの順番を変更することもできます。

2. **削除**：収集ファイルの情報を削除します。一覧から対象を選択した後、**削除**ボタンをクリックします。

対象デバイス

ファイル収集ジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合には、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

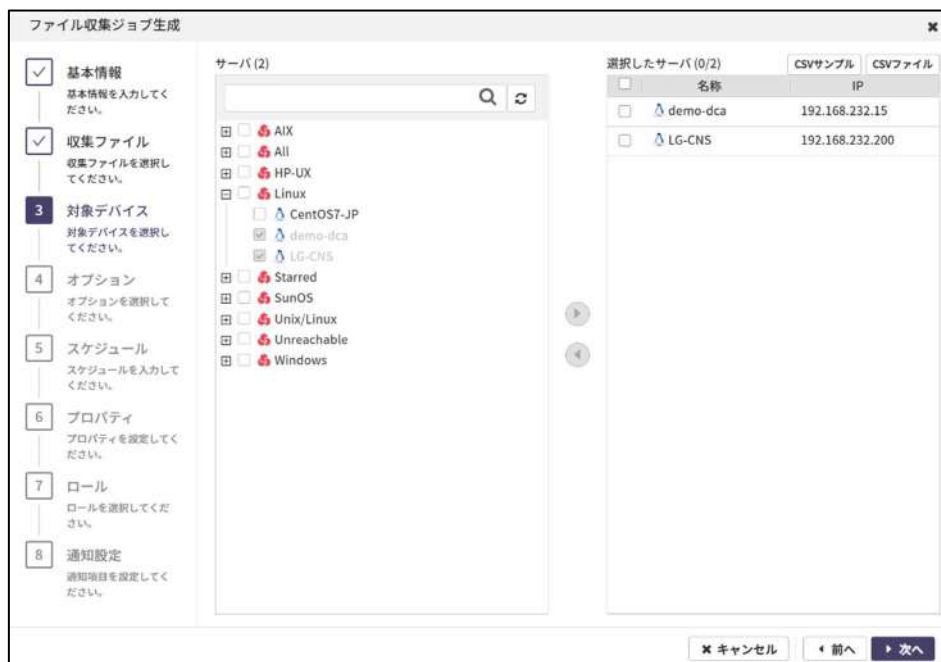


図2533 ファイル収集ジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **ファイル収集ジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

オプション

ファイル収集ジョブの前/後に実行するコマンドを設定します。

ファイル収集ジョブ前/後に実行するスクリプトの種類を選択し、スクリプトを実行することができます。スクリプトのExit code値が0またはスクリプト結果メッセージに特定の内容が含まれる/含まれない場合を選択して、スクリプト実行の成功有無を判断することができます。



図254 ファイル収集ジョブ生成 - ジョブ実行前/後のコマンド

[手順]

1. **スクリプト種類**：ファイル収集ジョブ前/後に実行するスクリプトの種類を選択します。スクリプト種類はファイル収集ジョブの基本情報から選択したOSの種類によって異なります。
2. **成功判断条件使用有無**：スクリプト実行結果によりファイル収集ジョブの成功有無を判断するのかわをチェックします。成功/失敗を判断せず、ファイル収集ジョブを実行すると単にスクリプトを実行する設定も可能です。
 チェックを入れる場合、**Exit codeが0の場合**または**結果メッセージに次のメッセージが含まれる場合に成功**、**含まれない場合に成功**から選択できます。
 - **Exit codeが0の場合**：成功可否の判断をチェックした場合に選択できます。Exit codeが0にリターンした場合は成功とみなすように設定できます。
 - **結果メッセージに次のメッセージが**：成功可否の判断をチェックした場合に選択

できます。スクリプト実行結果メッセージに**次のメッセージが含まれる場合に成功**として処理するかどうか、**含まれてない場合に成功**として処理するかを選択し、成功判断に使用する文字列を入力することができます。

3. **スクリプト**：ジョブ実行前/後に実行するスクリプトを入力します。

- **プロパティ**：スクリプト上に事前に定義されたプロパティを使用します。
- **マイコンピュータ**：既存にあるスクリプトをアップロードし、スクリプトを入力できます。



参考：スクリプト作成時、ユーザはプロパティを利用してサーバのプロパティを変数として使用できます。必要に応じてプロパティに変数(例：プログラムのパス名など)を追加し、これを活用すると、複数のシステムに一括してスクリプトを実行することができます。



参考：Exit codeが0を成功有無として判断するためには、スクリプト作成時exitコードを0に直接変更する必要があります。結果メッセージで判断する際には**含まれる場合と含まれない場合**の2つのケースを用います。

スケジュール

ファイル収集ジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、ファイル収集ジョブのプロパティを設定できます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
AGENT_TIMEOUT	Integer		30	エージェントへのリクエスト...
JOB_TIMEOUT	Integer		360	デバイスごとのジョブ完了ま...
SCHEDULE_PAUSE	Boolean		false	スケジュール作業と即時実行...
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して...

図255 ファイル収集ジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> ファイル収集ジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
AGENT_TIMEOUT	エージェントへのリクエスト（ファイル配布、スクリプト実行など）に対する完了までの最大待ち時間（分）。タイムアウト時間までにリクエストが完了しない場合、作業中止後に失敗として処理します。タイムアウトを0に設定した場合、基本設定されている最大のタイムアウトが適用されます。
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。

SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するファイル収集ジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当スクリプトジョブにアクセスできます。



図256 ファイル収集ジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報**、**SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図257 ファイル収集ジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして発送条件、受信者を有効化します。
2. 発送条件の状態、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

ファイル収集ジョブの結果

ファイル収集ジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > ファイル収集ジョブ > ジョブ結果**または特定ファイル収集ジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名前	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
●	itc/hostsファイル収集	2023-01-10 10:25:48	2023-01-10 10:26:00	0	2	2	全機2台デバイスに対するジョブが成功しました。

図258 ファイル収集ジョブ - ジョブ結果タブ

デバイス名	状態	開始日時	終了日時	メッセージ
CentOS7-JP	成功	2023-01-10 10:25:49	2023-01-10 10:26:00	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。
ジョブ実行前のコマンド				
hosts	成功	2023-01-10 10:25:50	2023-01-10 10:26:00	/tmp/CentOS7-JP/hosts (108 bytes) 転送が完了しました。
ジョブ実行後のコマンド				
LG-CNS	成功	2023-01-10 10:25:49	2023-01-10 10:25:57	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。

図259 ファイル収集ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

状態	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	/etc/hostsファイル収集	2023-01-10 10:25:48	2023-01-10 10:26:00		0	2	全体2個デバイスに対するジョブが成功しました。

図260 ファイル収集ジョブ - 詳細ジョブ結果

監査ジョブの生成

監査ジョブは、マスタデバイス、以前のスナップショットと比較し、デバイスの構成が標準構成と一致しているかどうかを判断します。ユーザは監査結果に基づき、デバイス構成の変更箇所を、日付及び時間別に確認することができます。また、変更が許可されていない項目の確認にも利用できます。

監査ジョブ一覧

生成された監査ジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名前	分類	エージェントレス	OS	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
runlog.sanfile.生成履歴	構成		Network	2023-01-11 07:30:00	admin		2023-01-10 10:28:39	

図261 監査ジョブ一覧

- **名称**：監査ジョブの名称です。
- **分類**：監査ジョブの分類です。
- **エージェントレス**：エージェントレスのオプション設定有無です。
- **OS**：監査ジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：監査ジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：監査ジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：監査ジョブを登録した日時です。
- **修正日時**：生成した監査ジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **監査ジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。
 - ① **構成 > ジョブ管理 > 監査ジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
 - ② **ジョブツリー**で**グループ**を選択し、コンテキストメニューで**監査ジョブ生成**をクリックします。この方法により、監査ジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図262 ジョブツリーでの監視ジョブ生成メニュー

- ③ サーバ/ネットワーク/エージェントレスツリーで、デバイスまたはグループのコンテキストメニューから**監視ジョブ生成**をクリックします。この方法により、監視ジョブの**対象デバイスステップ**に選択したデバイスまたはグループがデフォルトに設定されます。基本情報のOS設定で選択したデバイス/グループに合わせて選択する必要があります。OS設定で異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイス設定をしなければなりません



図263 サーバツリーでの監視ジョブ生成メニュー

2. 監査ジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：監査ジョブの名称と説明、分類、エージェントレス、対象OS、比較基準、静的グループのパスを設定します。
- ② **監査項目**：監査項目を選択します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑤ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑥ **ロール**：監査ジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑦ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、監査ジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成する監査ジョブの一般的な情報を入力します。

The screenshot shows a 'Monitoring Job Creation' dialog box with a sidebar on the left containing 7 numbered steps. Step 1, 'Basic Information', is selected and highlighted. The main content area contains the following fields and options:

- 名称***: A text input field with the placeholder text '名称を入力してください。'
- 説明**: A text area with the placeholder text '説明を入力してください。'
- 分類***: A dropdown menu with the placeholder text '選択してください。'
- エージェントレス
- OS***: A dropdown menu with the placeholder text '選択してください。'
- 比較基準***: A dropdown menu with the placeholder text '昨日以前のスナップショットとの比較'
- 静的グループのパス**: A text input field.
- Buttons: 'グループ選択' and '初期化'.

At the bottom right of the dialog, there are three buttons: 'キャンセル', '前へ', and '次へ'.

図264 監査ジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称**：監査ジョブの名称を入力します。
2. **説明**：監査ジョブの内容を入力します。
3. **分類**：監査ジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **エージェントレス**：エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。
5. **OS**：監査ジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
6. **比較基準**：昨日以前のスナップショットとの比較方法と、マスタデバイスとの比較する方法中で選択します。
 - **昨日以前のスナップショットとの比較**：現在収集した情報と以前の収集された情報を比較します。
 - **マスタデバイスとの比較**：標準構成の特定デバイスを指定し、監査対象のデバイスと比較します。
7. **静的グループのパス**：監査ジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

監査項目

監査項目ステップでは、変更管理する項目を選択します。

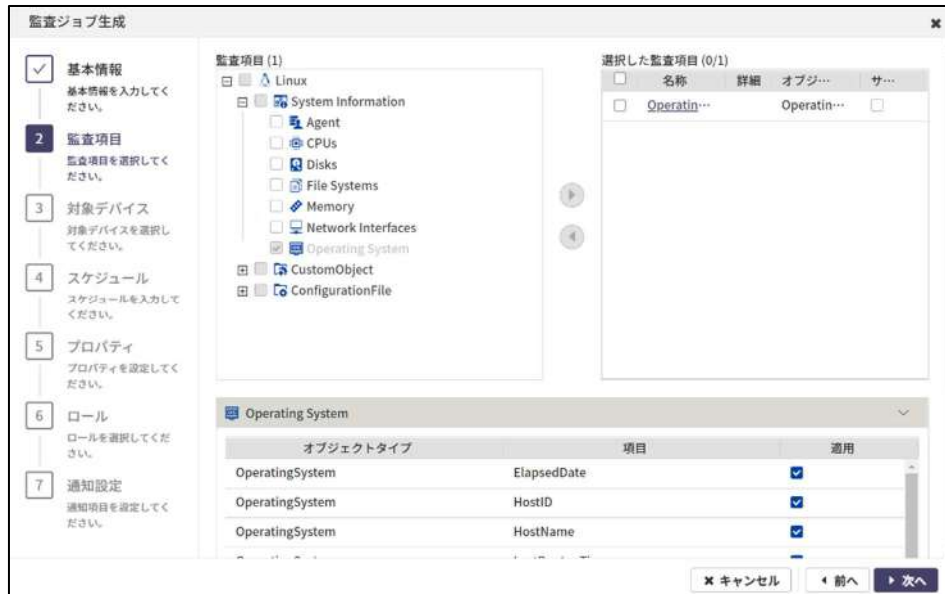


図265 監査ジョブ生成 - 監査項目

[手順]

1. **監査項目**で項目を選択し、右側に移動ボタンをクリックして選択した監査項目領域に移動します。
 - **サブグループを含む** : Network Interfacesのようにサブオブジェクトを構成している項目について、すべてのサブオブジェクトを監査項目として含むかどうかをチェックします。

対象デバイス

監査ジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合は、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

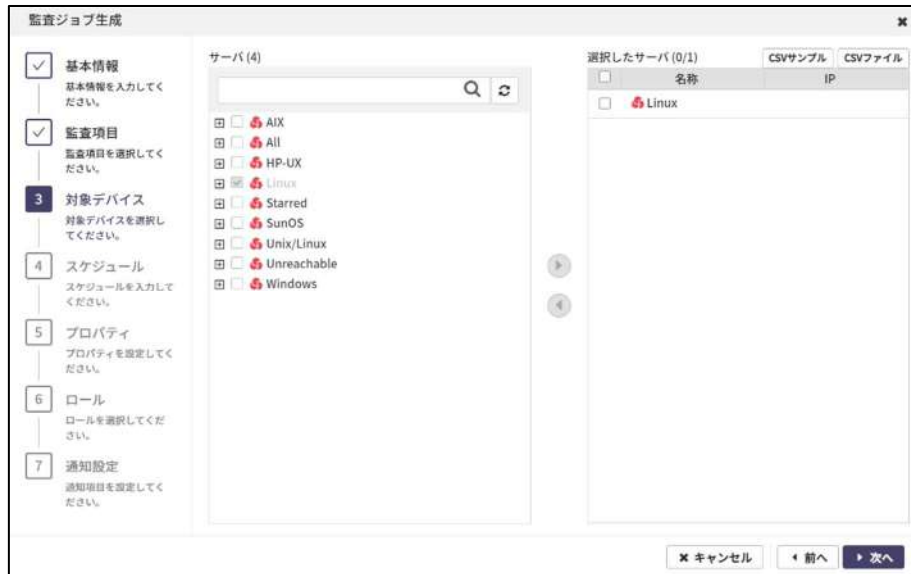


図266 監査ジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **監査ジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

スケジュール

監査ジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、**監査ジョブ**のプロパティを設定できます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
JOB_TIMEOUT	Integer	<input checked="" type="checkbox"/>	360	デバイスごとのジョブ完了ま...
SCHEDULE_PAUSE	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	スケジュール作業と即時実行...
STARRED	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	特定のオブジェクトに対して...

図267 監査ジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、**構成 > プロパティリスト**で行います。

<表> 監査ジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成する監査ジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザーのみ該当監査ジョブにアクセスできます。

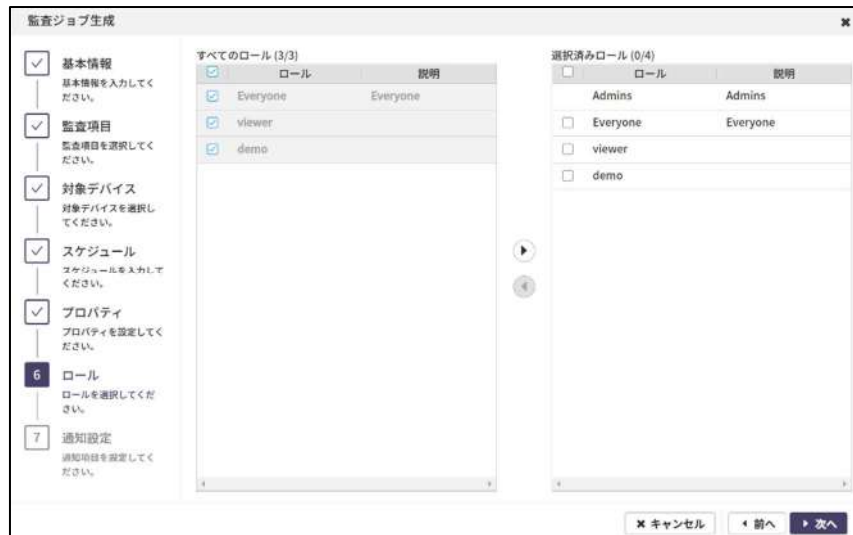


図268 監査ジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報**、**SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図269 監視ジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. 通知設定をクリックして發送条件、受信者を有効化します。
2. 發送条件の状態、結果、通知対象、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

監視ジョブの結果

監視ジョブ結果は、構成 > ジョブ管理 > 監視ジョブ > ジョブ結果または特定監視ジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状況	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	running-conf@変更履歴	2023-01-10 15:41:07	2023-01-10 15:41:09	0	0	1	全件1番デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	running-conf@変更履歴	2023-01-10 10:28:46	2023-01-10 10:28:50	0	0	1	全件1番デバイスに対するジョブが成功しました。

図270 監視ジョブ - ジョブ結果タブ

デバイス名	詳細	状	エ	キ	ライセンス	エラー件数	未	変	追	削	開始日時	終了日時	メッセージ
IPMI_SW		●			1	0	1	0	0	0	2023-01-10 15:41	2023-01-10 15:41	1個の項目が完了、ジョブが成功しました。

監査項目	ライセンス	エラー件数	未変更	変更	追加	削除	メッセージ
[C] running-config確認:Network	1	0	1	0	0	0	

図271 監査ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

監査ジョブの名称をクリックすると詳細な結果情報が確認できます。デバイス名の下には詳細な監査項目が確認できますし、該当監査項目には登録された構成リストがリンクされています。

詳細表示ボタンをクリックすると、監査項目ごとに詳細な変更事項が確認できます。

名称	値
1 show running-config	1 show running-config
2 Building configuration...	2 Building configuration...
3	3
4 Current configuration : 5463 bytes	4 Current configuration : 5463 bytes
5 1	5 1

図272 監査ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果(詳細表示)

The screenshot shows a web interface for job management. The breadcrumb trail is '構成 > ジョブ管理 > 監査ジョブ > running-config変更履歴'. The 'ジョブ結果' (Job Results) tab is active. Below the breadcrumb, there are filters for '期間' (Period) from 2022-12-11 to 2023-01-10 and a search bar. A table displays the job results:

状態	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	running-config変更履歴	2023-01-10 15:41:07	2023-01-10 15:41:09	0	0	1	全機1番デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	running-config変更履歴	2023-01-10 10:28:46	2023-01-10 10:28:50	0	0	1	全機1番デバイスに対するジョブが成功しました。

図273 監査ジョブ - 詳細ジョブ結果

Windows Updateジョブの生成

Windows Updateジョブを使うと、すべてのWindowsサーバに対して最新のアップデートを行うことができます。Windowsサーバごとにアップデートが必要な項目は、POLESTAR Automationが提供するプラグインを用いて定期的に分析して更新されます。手動でアップデート分析を行う場合には、**運用 > Windows Update管理の更新分析機能**を使って手動で分析を行います。



備考 : Windows Updateの自動分析は、Windows Update Analysis Serviceプラグインが担当します。**管理者 > プラグインタブ**で実行周期などの設定を行います。

Windowsアップデートをユーザの介入なしに常に最新の状態に保つ環境を構築するためには、Windows Updateジョブのアップデート項目を**重要な更新**または**すべて更新**を選択し、適切なスケジュールを登録する必要があります。そうすると、登録されたスケジュールに応じて、その時点でインストールする必要がある最新のアップデートが自動的にインストールされます。緊急パッチなどの理由で特定のアップデートのみをインストールしたい場合は、アップデート項目を指定してジョブを生成及び実行します。

Windows Updateジョブ一覧

生成されたWindows Updateジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。



図274 Windows Updateジョブ一覧

- **名称** : Windows Updateジョブの名称です。
- **分類** : Windows Updateジョブの分類です。
- **次の実行日時** : スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者** : Windows Updateジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ** : Windows Updateジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時** : Windows Updateジョブを登録した日時です。
- **修正日時** : 生成したWindows Updateジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **Windows Updateジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > Windows Updateジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
- ② **ジョブツリー**でグループを選択し、コンテキストメニューで**Windows Updateジョブ生成**をクリックします。この方法により、Windows Updateジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図275 ジョブツリーでのWindows Updateジョブ生成メニュー

- ③ **サーバツリー**で、サーバまたはグループのコンテキストメニューからWindows Updateジョブ生成をクリックします。この方法により、Windows Updateジョブの対象デバイスステップに選択したサーバまたはグループがデフォルトに設定されます。



図276 サーバツリーでのWindows Updateジョブ生成メニュー

2. Windows Updateジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報** : Windows Updateジョブの名称と説明、分類、静的グループのパスを設定します。
- ② **対象デバイス** : 対象デバイスを選択します。
- ③ **更新項目** : 更新項目を選択します。
- ④ **オプション** : アップデートのオプションを設定します。
- ⑤ **スケジュール** : ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑥ **プロパティ** : プロパティを設定します。
- ⑦ **ロール** : Windows Updateジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑧ **通知設定** : ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、Windows Updateジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するWindows Updateジョブの一般的な情報を入力します。

図277 Windows Updateジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : Windows Updateジョブの名称を入力します。
2. **説明** : Windows Updateジョブの内容を入力します。
3. **分類** : Windows Updateジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **静的グループのパス** : Windows Updateジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

対象デバイス

Windows Updateジョブを実行する対象デバイスを設定します。

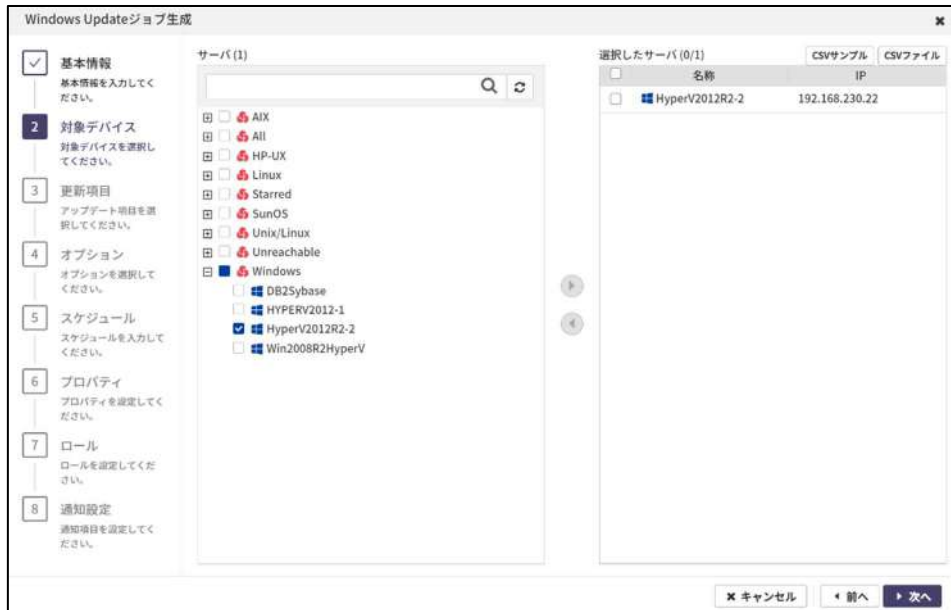


図278 Windows Updateジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. Windows Updateジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

更新項目

更新項目ステップでは更新する項目を選択します。



図279 Windows Updateジョブ生成 - 更新項目

[手順]

1. 更新項目を選択します。

- **重要な更新**：更新項目のタイプがImportant項目を対象に実行
- **すべて更新**：すべての更新項目を対象に実行
- **更新項目指定**：すべての更新項目に対して選択した更新項目のみを対象に実行



図280 Windows Updateジョブ生成 - 更新項目

- **対象外**：重要/すべて更新項目の除外カラムを設定すると更新されない

オプション

更新した後の再起動オプションを設定します。



図281 Windows Updateジョブ生成 - オプション

[手順]

1. 更新項目の更新を実行した後、再実行オプションを設定します。再起動オプションは、**Windows Update項目別の再起動オプションに従う**を選択します。
2. **次へ**ボタンをクリックします。



備考 : Windows Updateジョブは、対象サーバにすべての更新項目をインストール完了した後、再起動を行います。そのため、再起動が必要な更新項目を複数インストールしても最大1回のみサーバが再起動されます。

スケジュール

Windows Updateジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、Windows Updateジョブのプロパティを設定できます。



図282 Windows Updateジョブ生成 - プロパティ



参考 : プロパティの追加または修正は、**構成 > プロパティリスト**で行います。

<表> Windows Updateジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
AGENT_TIMEOUT	エージェントへのリクエスト（ファイル配布、スクリプト実行など）に対する完了までの最大待ち時間（分）。タイムアウト時間までにリクエストが完了しない場合、作業中止後に失敗として処理します。タイムアウトを0に設定した場合、基本設定されている最大のタイムアウトが適用されます。
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOU

	Tはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するWindows Updateジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当Windows Updateジョブにアクセスできます。

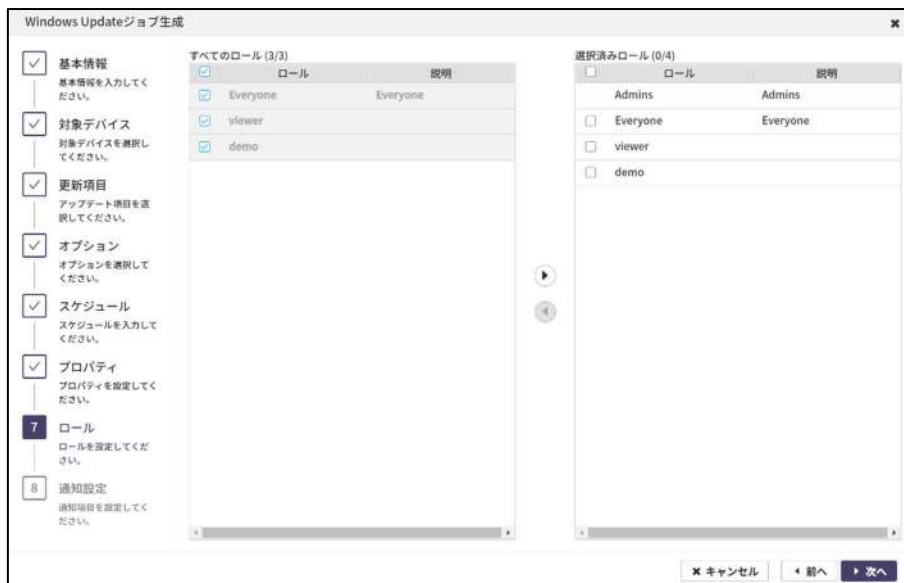


図283 Windows Updateジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックし、バッチジョブの生成を完了します。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報、SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図284 Windows Updateジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして發送条件、受信者を有効化します。
2. 發送条件の状態、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

Windows Updateジョブの結果

Windows Updateジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > Windows Updateジョブ > ジョブ結果**または特定Windows Updateジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	HyperV2012R2-2	2023-01-10 10:31:41	2023-01-10 10:43:02	0	1	1	全体1台デバイスに対するジョブが成功しました。

図285 Windows Updateジョブ - ジョブ結果タブ

デバイス名	状態	エラー件数	開始日時	終了日時	メッセージ
HyperV2012R2-2	成功	0	2023-01-10 10:31:41	2023-01-10 10:43:02	1個の項目が完了。ジョブが成功しました。
Microsoft .NET Framework 4.7.2 Language Packs for Wind...	成功	0	2023-01-10 10:31:42	2023-01-10 10:33:04	更新が正常に完了しました。

図286 Windows Updateジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

状態	名称	開始日時	終了日時	キャンセル	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	HyperV2012R2-2	2023-01-10 10:31:41	2023-01-10 10:43:02	0	1	1	全体1台デバイスに対するジョブが成功しました。

図287 Windows Updateジョブ - 詳細ジョブ結果

バッチジョブの生成

バッチジョブは、複数のジョブを実行する場合に利用します。該当のジョブを予め設定した順序、もしくは一括で実行することができます。

バッチジョブ一覧

生成されたバッチジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名前	分類	エージェントレス	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
(A) 登録性点検_Linux	点検	✓		admin		2023-01-10 10:35:14	
(A) 登録性点検_Unix	点検	✓		admin		2023-01-10 10:35:48	
(S) 登録性点検_Unix	点検			admin		2023-01-10 10:35:21	
(S) 登録性点検_Linux	点検			admin		2023-01-10 10:34:18	
(S) 登録性点検_Windows	点検			admin		2023-01-10 10:33:44	

図288 バッチジョブ一覧

- **名称**：バッチジョブの名称です。
- **分類**：バッチジョブの分類です。
- **次の実行日時**：スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者**：バッチジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ**：バッチジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時**：バッチジョブを登録した日時です。
- **修正日時**：生成したバッチジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **バッチジョブ**の生成は、次の2つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > バッチジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
- ② **ジョブツリー**でグループを選択し、コンテキストメニューで**バッチジョブ生成**をクリックします。この方法により、バッチジョブ生成ウィザードの**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図289 ジョブツリーでのバッチジョブ生成メニュー

2. バッチジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：バッチジョブの名称と説明、分類、対象OS、静的グループのパスを設定します。
- ② **対象ジョブ**：バッチジョブの対象になるジョブを選択します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑤ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑥ **ロール**：バッチジョブにアクセスできるロールを設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、バッチジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するバッチジョブの一般的な情報を入力します。

バッチジョブ生成

1 基本情報
基本情報を入力してください。

2 対象ジョブ
対象ジョブを選択してください。

3 対象デバイス
対象デバイスを選択してください。

4 スケジュール
スケジュールを入力してください。

5 プロパティ
プロパティを設定してください。

6 ルール
ルールを選択してください。

名称 *
名称を入力してください。

説明
説明を入力してください。

サブジョブを同時実行 サブジョブを順番に実行

対象サーバ指定 各サブジョブの対象サーバ

STOP_ON_ERROR ⓘ

分類 *
選択してください。

エージェントレス

OS
選択してください。

静的グループのパス

グループ選択 初期化

キャンセル 前へ 次へ

図290 バッチジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : バッチジョブの名称を入力します。
2. **説明** : バッチジョブの内容を入力します。
3. **オプション**
 - **サブジョブを同時実行** : 選択したサブジョブを同時に実行します。また、該当オプションを選択した場合、STOP_ON_ERROR機能が使えます。
 - **サブジョブを順番に実行** : 選択したサブジョブを順番に実行します。また、該当オプションを選択した場合、STOP_ON_ERROR機能が使えます。
 - **対象サーバ指定** : バッチジョブ実行の対象になるサーバを直接指定します。
 - **各サブジョブの対象サーバ** : それぞれのサブジョブに設定されている対象サーバをジョブ実行の対象とします。
 - **STOP_ON_ERROR** : 先行ジョブにエラーが発生した場合、次のジョブを開始せず終了します。
4. **分類** : バッチジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
5. **エージェントレス** : エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。

6. **OS** : バッチジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
7. **静的グループのパス** : バッチジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

対象ジョブ

バッチジョブで実行する対象ジョブを選択します。



図291 バッチジョブ生成 - 対象ジョブ

[手順]

1. **追加**ボタンをクリックします。
2. **対象ジョブ**ポップアップ画面でジョブを選択して保存します。



図292 バッチジョブ生成 - 対象ジョブ追加

3. 選択したジョブの実行順番設定が必要な場合は、ジョブを選択した後、上/下のボタンを使用して実行順番を設定します。

対象デバイス

基本情報ステップで**対象サーバ指定**オプションにチェックされた場合に有効になります。選択したジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合には、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

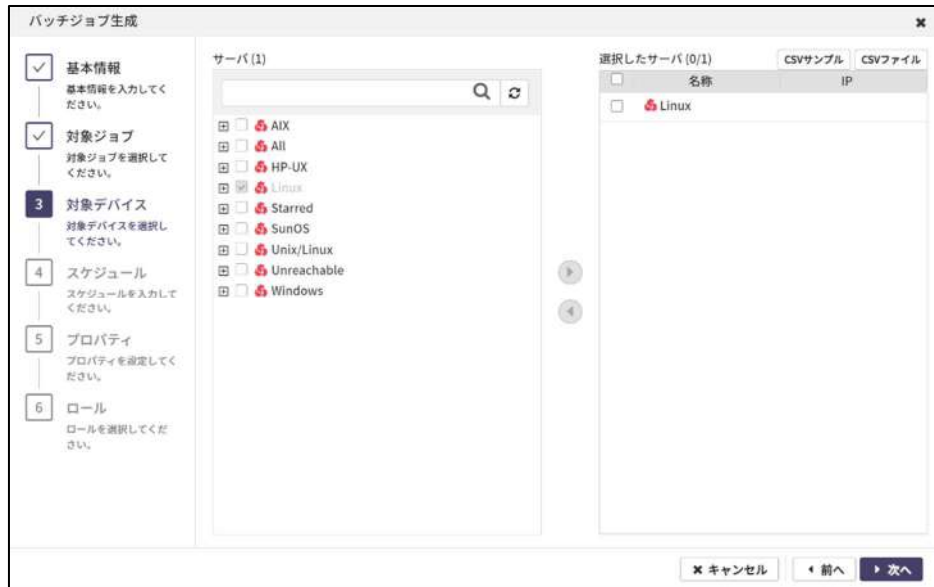


図293 バッチジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. バッチジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。
2. 次へボタンをクリックします。

スケジュール

バッチジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール部分**を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、バッチジョブのプロパティを設定できます。

バッチジョブ生成

基本情報
 対象ジョブ
 対象デバイス
 スケジュール
5 プロパティ
 6 ロール

プロパティ

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
JOB_TIMEOUT	Integer		360	デバイスごとのジョブ完了ま...
SCHEDULE_PAUSE	Boolean		false	スケジュール作業と即時実行...
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して...

3個

キャンセル 前へ 次へ

図294 バッチジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> バッチジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するバッチジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当データ比較ジョブにアクセスできます。

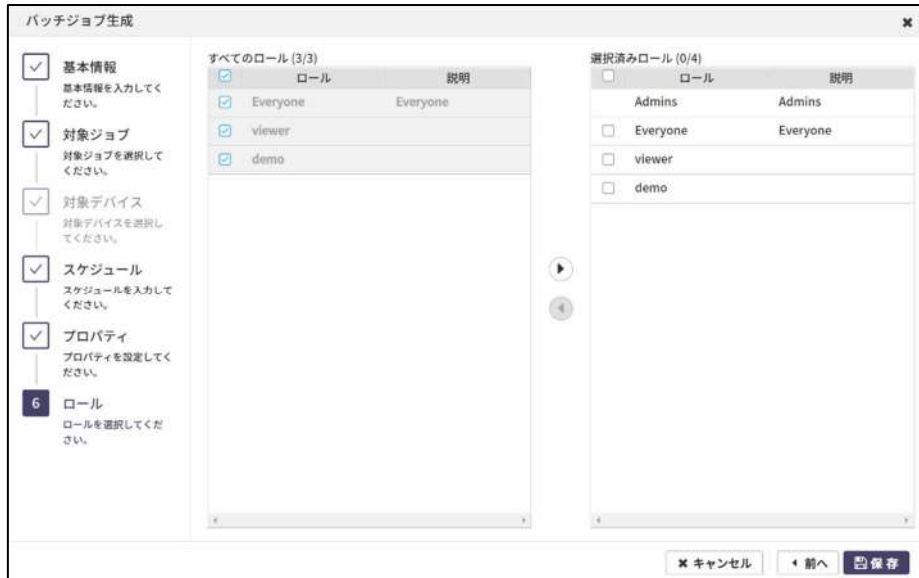


図295 バッチジョブ生成 - ロール

[手順]

1. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
2. **次へ**ボタンをクリックし、バッチジョブの生成を完了します。

バッチジョブの結果

バッチジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > バッチジョブ > ジョブ結果**または特定バッチジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。



図296 バッチジョブ - ジョブ結果タブ

状態	ジョブ種類	名称	開始日時	終了日時	メッセージ
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_アカウント...	2023-01-10 10:39:34	2023-01-10 10:40:25	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。
成功	ComplianceJob	脆弱性点検_サービス管...	2023-01-10 10:38:44	2023-01-10 10:39:34	全体4個デバイスに対するジョブが成功しました。

図297 バッチジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

データ比較ジョブの生成

データ比較ジョブは、対象デバイスごとに入力されたデータとデバイスから収集されたデータ比較によって変化の発生有無を判断します。ユーザは、結果を通じてデータが一致しない日付及び時間帯別に簡単に確認できます。

データ比較ジョブ一覧

生成されたデータ比較ジョブの一覧です。**条件追加**ボタンをクリックして基本検索項目以外の検索条件を追加して検索できます。

名称	分類	エージェントレス	OS	次の実行日時	登録者	修正ユーザ	登録日時	修正日時
running-conflict検	変更		Network		admin		2023-01-10 10:43:54	

図298 データ比較ジョブ一覧

- **名称**：データ比較ジョブの名称です。
- **分類**：データ比較ジョブの分類です。
- **エージェントレス**：エージェントレスのオプション設定有無です。

- **OS** : データ比較ジョブを適用したOSです。
- **次の実行日時** : スケジュールが設定されている場合の次の実行日時です。スケジュールが設定していない場合には空白で表示されます。
- **登録者** : データ比較ジョブを登録したユーザIDです。
- **修正ユーザ** : データ比較ジョブを修正したユーザ名です。
- **登録日時** : データ比較ジョブを登録した日時です。
- **修正日時** : 生成したデータ比較ジョブを修正した日時です。

[手順]

1. **データ比較ジョブ**の生成は、次の3つの方法で生成できます。

- ① **構成 > ジョブ管理 > データ比較ジョブ**で**生成**ボタンをクリックします。
- ② **ジョブツリー**で**グループ**を選択し、**コンテキストメニュー**で**データ比較ジョブ生成**をクリックします。この方法により、**データ比較ジョブ生成ウィザード**の**静的グループパス**に選択したグループが自動で表示されます。



図299 ジョブツリーでのデータ比較ジョブ生成メニュー

- ③ **サーバ/ネットワーク/エージェントレスツリー**で、**サーバ**または**グループ**の**コンテキストメニュー**から**データ比較ジョブ生成**をクリックします。この方法により、**データ比較ジョブ**の**対象デバイスステップ**に選択した**サーバ**または**グループ**

ブがデフォルトに設定されます。選択したデバイス/グループに合わせて基本情報ステップのOS設定を選択する必要があります。OS設定が異なる場合は、対象デバイスステップで初期化した後にデバイスを設定しなければなりません。



図300 サーバツリーでのデータ比較ジョブ生成メニュー

2. データ比較ジョブの生成は、次の手順で行います。

- ① **基本情報**：データ比較ジョブの名称と説明、分類、エージェントレス、対象OS、静的グループのパスを設定します。
- ② **監査項目**：監査項目を設定します。
- ③ **対象デバイス**：対象デバイスを選択します。
- ④ **データの入力**：比較基準データを入力します。
- ⑤ **スケジュール**：ジョブの実行スケジュールを設定します。
- ⑥ **プロパティ**：プロパティを設定します。
- ⑦ **ロール**：データ比較ジョブにアクセスできるロールを設定します。
- ⑧ **通知設定**：ジョブ状態や結果条件に合ったジョブ結果をメール、SMS、REST方式で送信するように設定します。

3. **保存**ボタンをクリックして、データ比較ジョブの生成を完了します。

基本情報

基本情報ステップでは、生成するデータ比較ジョブの一般的な情報を入力します。

図301 データ比較ジョブ生成 - 基本情報

[手順]

1. **名称** : データ比較ジョブの名称を入力します。
2. **説明** : データ比較ジョブの内容を入力します。
3. **分類** : データ比較ジョブの分類を指定します。該当項目は分類別のスマートグループを生成する際に活用することができます。
4. **エージェントレス** : エージェントレスライセンスがある場合、適用可能なオプションです。この項目にチェックを入れると、エージェントレスツリーにあるサーバのみ設定ができます。
5. **OS** : データ比較ジョブを適用するOSを設定します。選択したOSにより、選択する対象デバイスが限定されます。
6. **静的グループのパス** : データ比較ジョブを保存する静的グループのパスを設定します。

監査項目

監査項目ステップでは、データ比較管理する項目を選択します。

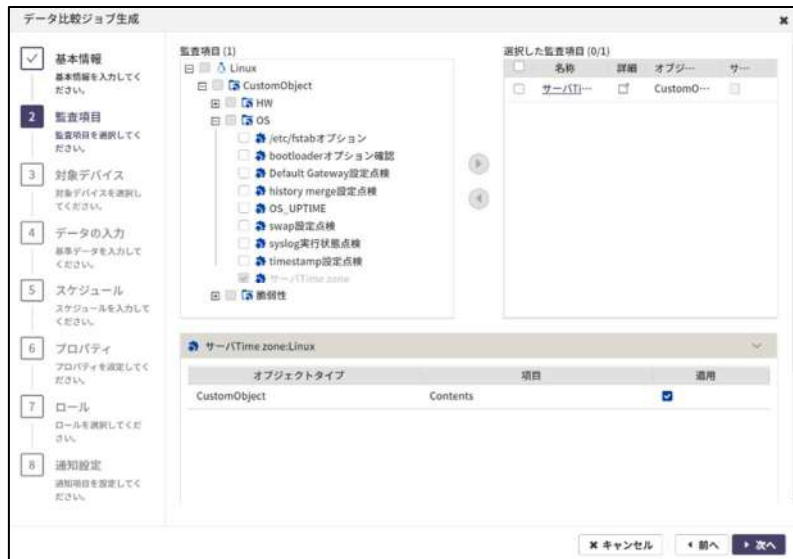


図302 データ比較ジョブ生成 - 監査項目

[手順]

1. **監査項目**で項目を選択し、右側に移動ボタンをクリックして選択した監査項目領域に移動します。1つの項目のみ選択可能です。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

対象デバイス

データ比較ジョブを実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスの設定後、基本情報ステップに再び移動してOS、エージェントレス設定を変更する場合には、手動で対象デバイスを変更した内容に合わせて修正する必要があります。

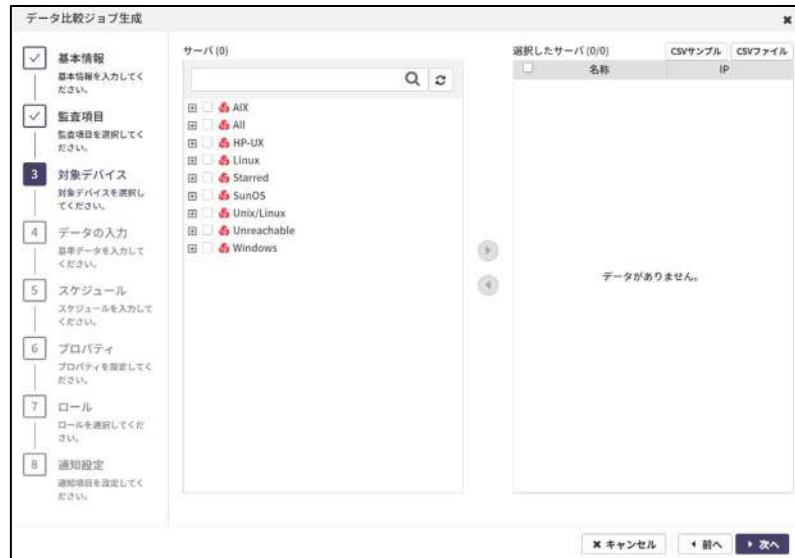


図303 データ比較ジョブ生成 - 対象デバイス

[手順]

1. **データ比較ジョブ**を実行する対象デバイスを設定します。対象デバイスを選択し、右側の移動ボタンをクリックして、選択したサーバ領域に移動します。データの入力ステップでは、デバイスごとに設定が必要ためグループの選択はできません。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

データの入力

選択されたデバイスごとに基準データを入力します。



図304 データ比較ジョブ生成 - データの入力

[手順]

1. 選択されたデバイスごとに基準データを入力します。
 - **CSVから基準データ入力**：デバイス別に基準データ情報を入力したCSVファイルをアップロードして適用します。
 - **CSVサンプル**：選択された対象デバイス別基準データの入力可能なCSV形式のサンプルファイルです。
2. **次へ**ボタンをクリックします。

スケジュール

データ比較ジョブを実行するスケジュールを設定します。スケジュール設定については、**点検ジョブ生成のスケジュール**部分を参照してください。

プロパティ

プロパティ設定画面で、データ比較ジョブのプロパティを設定できます。

プロパティ名	データ型	必須項目	値	説明
JOB_TIMEOUT	Integer		360	デバイスごとのジョブ完了ま...
SCHEDULE_PAUSE	Boolean		false	スケジュール作業と即時実行...
STARRED	Boolean		false	特定のオブジェクトに対して...

図305 データ比較ジョブ生成 - プロパティ



参考：プロパティの追加または修正は、構成 > プロパティリストで行います。

<表> データ比較ジョブのプロパティ説明

プロパティ名	説明
JOB_TIMEOUT	デバイスごとのジョブ完了まで待機する最大時間(分)です。タイムアウト時間までにジョブが終わらない場合、ジョブは強制的にキャンセルされます。タイムアウトをさせないようにするには0に設定します。ただし、サーバデバイス関連ジョブについてAGENT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはサーバ数 * AGENT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。ネットワークデバイス関連ジョブについてEXPECT_TIMEOUTが0ではなく、JOB_TIMEOUTの設定値より大きい場合は、JOB_TIMEOUTはネットワーク数 * EXPECT_TIMEOUTに変更され、サービスロジックにより処理します。
SCHEDULE_PAUSE	スケジュール作業と即時実行の中止設定
STARRED	特定のオブジェクトに対して星マーク

ロール

生成するデータ比較ジョブにアクセスできるロールを設定します。選択されたロールを持つユーザのみ該当データ比較ジョブにアクセスできます。



図306 データ比較ジョブ生成 - ロール

[手順]

3. **すべてのロール**一覧で選択した後、右側の移動ボタンをクリックして選択済みロール領域に移動します。
4. **次へ**ボタンをクリックします。

通知設定

ジョブ結果に対して通知を設定します。通報方式はメール、SMS、RESTをサポートします。メール、SMS適用のためには、**管理者 > 通知管理 > メールサーバ情報、SMS情報**が設定されていなければなりません。REST適用のためには、**管理者 > クレデンシャル管理**でNOTIFY_RESTが登録されていないと適用できません。

図307 データ比較ジョブ生成 - 通知設定

[手順]

1. **通知設定**をクリックして發送条件、受信者を有効化します。
2. 發送条件の状態、結果、通知対象、添付ファイルを選択します。
3. 受信者を設定します。(点検ジョブの通知設定参照)

データ比較ジョブの結果

データ比較ジョブ結果は、**構成 > ジョブ管理 > データ比較ジョブ > ジョブ結果**または特定データ比較ジョブのジョブ名をクリックしてジョブ結果タブで確認できます。

状態	名称	開始日時	終了日時	ギャップ	エラー件数	デバイス数	メッセージ
成功	running.confir	2023-01-19 16:06:52	2023-01-19 16:08:55		0	1	全161個デバイスに対するジョブが成功しま...

図308 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ

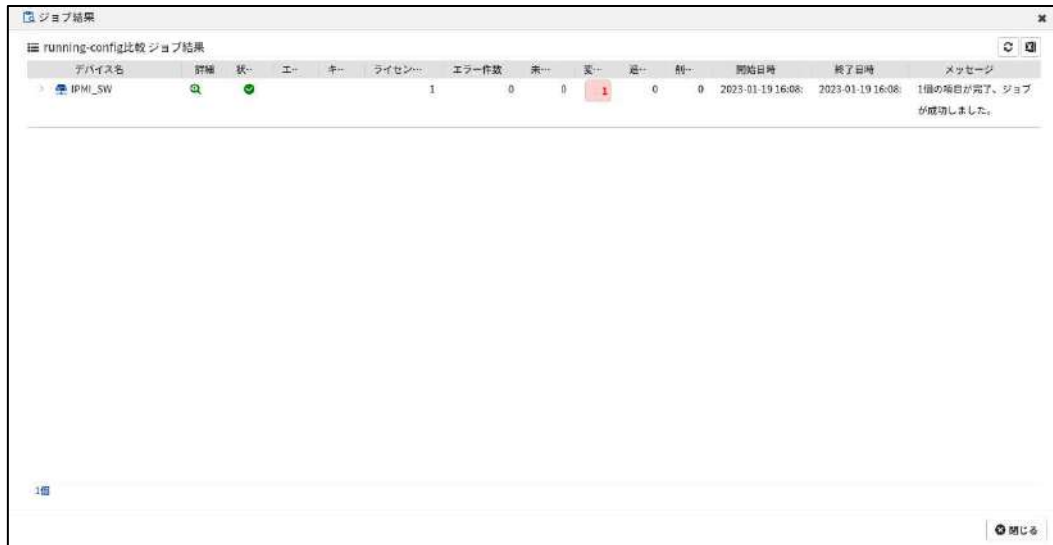


図309 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果

実行したジョブ結果の対象デバイス下位の監査項目リンクをクリックすると、登録した構成リストの情報を確認することができます。

詳細表示ボタンをクリックして、監査項目別の詳細表示を確認することができます。

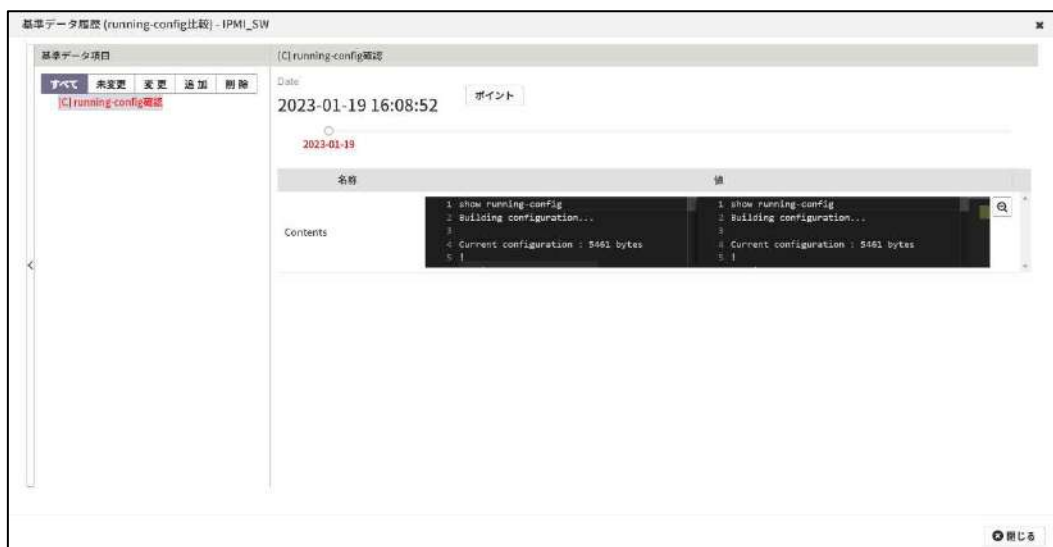


図310 データ比較ジョブ - ジョブ結果タブ - 詳細結果(詳細表示)

実行	名前	開始日時	終了日時	エラー数	デバイス数	メッセージ
成功	running-config比較	2023-01-19 16:08:52	2023-01-19 16:08:55	0	1	全体1台デバイスに対するジョブが成功しま...

図311 データ比較ジョブ - 詳細ジョブ結果

クラウド管理

登録されたアクセス情報に基づいてクラウドシステムにアクセスし、仮想サーバのリスト、クラウドシステム情報を収集できます。**管理者 > プラグイン**メニューにあるCloudScannerプラグインが一定周期で動作して情報を更新します。また、エージェントレスデバイスと連携して構成情報を収集できる機能も提供します。

クラウド生成

クラウド情報は、クレデンシャル登録とプラグイン実行が必要です。

[手順]

1. **管理者 > クレデンシャル管理**をクリックし、追加ボタンをクリックします。
2. クラウドの種類(AWS、AZURE、GCP)に対してアクセス情報、情報収集チェック、スキャングループを入力した後、CloudScannerプラグインに内容を設定して保存します。
3. 事前に設定したスケジュールにCloudScannerプラグインが実行され、クラウド情報を収集します。

クラウド一覧

追加されたクラウドの一覧は、**構成 > クラウド管理**で確認できます。また、条件追加ボタンをクリックして基本検索項目以外に検索したい項目を追加して検索することもできます。

名前	クラウド種類	クレデンシャル名	収集日時	登録日時
CLOUD_AWS	AWS	CLOUD_AWS	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35

図312 クラウド一覧

- **名称** : クラウド名です。
- **クラウド種類** : クラウドの種類です。(AWS、AZURE、GCP)
- **クレデンシャル名** : 認証情報があるクレデンシャル名です。
- **収集日時** : Cloud Scannerプラグインによってクラウドの情報が収集された時間です。
- **登録日時** : Cloud Scannerプラグインによってクラウドが登録された時間です。

仮想サーバー一覧

生成されたクラウドが持っている仮想サーバーの全体の一覧です。

状態	クラウド	クラウド名	クレデン...	リソースID	リソース名	プライ...	パブリ...	エラー	OS	ログ	タグ	収集日時	登録日時
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-9092e832	EMS-AGENT	172.31.2...			Linux	ap-northeast-2c	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
running	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-0154f05d	EMS-AWS-S	172.31.2...	3.38.33	3.38.33	Linux	ap-northeast-2a	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-01003485b	EMS-AGENT	172.31.2...	3.38.88	3.38.88	Linux	ap-northeast-2c	["Owner"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-036e64b2	EMS-AP-32c	172.31.2...	54.180	54.180	Linux	ap-northeast-2c	["Owner"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-03c5c094	eks-agent	172.31.2...			Windows	ap-northeast-2c	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-07b921245	eks-agent	172.31.2...	3.37.21	3.37.21	Windows	ap-northeast-2c	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-046c18046	EMS-AGENT	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	["Owner"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
running	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-0ac26930	EMS-AWS-S	172.31.2...	3.38.11	3.38.11	Linux	ap-northeast-2a	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-0c2b7605f	EMS-AGENT	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	["Owner"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-0d27604a	EMS-AGENT	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
running	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-0e38a40ff	eks-agent	172.31.2...	3.38.19	3.38.19	Linux	ap-northeast-2c	["Name"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35
stopped	AWS	CLOUD_AWS	CLOUD_AWS	i-07c44d2a5	Linux-ami1	172.31.2...	52.79.1	52.79.1	Linux	ap-northeast-2a	["us-east"]	2023-01-12 01:46:36	2023-01-12 01:46:35

図313 仮想サーバ全体の一覧

- **状態** : 仮想サーバの状態を表示します。
- **クラウド種類** : クラウドの種類です。(AWS、AZURE、GCP)
- **クラウド名** : 仮想サーバが属しているクラウド名です。
- **クレデンシャル名** : 認証情報があるクレデンシャル名です。
- **リソースID** : クラウドメーカーが提供する仮想サーバの固有IDです。
- **リソース名** : クラウドメーカーが提供する仮想サーバの名称です。
- **プライベートIP** : 仮想サーバのプライベートIP情報です。
- **パブリックIP** : 仮想サーバのパブリックIP情報です。

- **エラスティックIP**：仮想サーバのエラスティックIP情報です。
- **OS**：仮想サーバのOS情報です。
- **ロケール**：仮想サーバが起動しているデータセンターのエリアです。
- **タグ**：仮想サーバに付与されたタグ情報です。(JSON)
- **収集日時**：CloudScannerプラグインによって情報が収集された時間です。
- **登録日時**：クラウドが登録された時間です。

クラウド詳細情報

登録されているクラウド情報の詳細情報と、エージェントレスとの同期化有無を確認することができます。

次の方法でクラウドの詳細が確認できます。

[手順]

1. **構成 > クラウド管理**メニューをクリックします。
2. クラウド一覧の中、確認したいクラウド名をクリックします。

詳細情報

基本情報、仮想サーバ情報を照会することができます。



図314 クラウド詳細情報 - 基本情報

状態	リソースID	リソース名	プライベートIP	パブリックIP	エラスティックIP	OS	ロケール	タグ	エージェントレスとの同期
stopped	i-0092...	EMS-AGENT-04	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	[{"Name": "..."}]	false
running	i-0154...	EMS-AWS-SDK-09	172.31.1...	3.39.3...	3.39.3...	Linux	ap-northeast-2a	[{"Name": "..."}]	false
stopped	i-0209...	EMS-AGENT-01	172.31.1...	3.38.0...	3.38.0...	Linux	ap-northeast-2c	[{"Owner": "..."}]	false
stopped	i-036a...	EMS-AP-32core-1296B	172.31.1...	54.1...	54.100...	Linux	ap-northeast-2c	[{"Owner": "..."}]	false
stopped	i-03c5...	dca-qa-win2016-wmi	172.31.1...			Windows	ap-northeast-2c	[{"Name": "..."}]	false
stopped	i-07b3...	dca-qa-win2016	172.31.1...	3.37.1...	3.37.2...	Windows	ap-northeast-2c	[{"Name": "..."}]	false
stopped	i-0a6c...	EMS-AGENT-02	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	[{"Owner": "..."}]	false
running	i-0ac2...	EMS-AWS-SDK-07	172.31.1...	3.38.1...	3.38.1...	Linux	ap-northeast-2a	[{"Name": "..."}]	false
stopped	i-0cab...	EMS-AGENT-05	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	[{"Owner": "..."}]	false
stopped	i-0d27...	EMS-AGENT-02	172.31.1...			Linux	ap-northeast-2c	[{"Name": "..."}]	false
running	i-0d30...	dca-qa-linux	172.31.1...	3.39.1...	3.39.1...	Linux	ap-northeast-2c	[{"role": "..."}]	true
stopped	i-0fc4...	Linux-vm01-sdyoon	172.31.1...	52.7.1...	52.79.1...	Linux	ap-northeast-2a	[{"userio": "..."}]	false

図315 クラウド詳細情報 - 仮想サーバ

- **状態** : 仮想サーバの状態を表示します。
- **リソースID** : クラウドベンダーが提供する仮想サーバの固有IDです。
- **リソース名** : クラウドベンダーが提供する仮想サーバの名称です。
- **プライベートIP** : 仮想サーバのプライベートIP情報です。
- **パブリックIP** : 仮想サーバのパブリックIP情報です。
- **エラスティックIP** : 仮想サーバのエラスティックIP情報です。
- **OS** : 仮想サーバのOS情報です。
- **ロケール** : 仮想サーバが起動しているデータセンターのエリアです。
- **タグ** : 仮想サーバに付与されたタグ情報です。(JSON)
- **エージェントレスとの同期** : エージェントレスとの同期化有無情報です。

クラウド仮想サーバの登録

クラウド仮想サーバ登録ボタンをクリックし、選択した仮想サーバをエージェントレスとして登録して管理することができます。プロパティ、クラウド仮想サーバ照会、探索、ロール設定のステップで登録します。

[手順]

1. **クラウド仮想サーバ登録**ボタンをクリックします。
2. **プロパティ**ステップで**次へ**ボタンをクリックします。



図316 クラウド仮想サーバ登録 - プロパティ

3. **クラウド仮想サーバ照会**ステップで登録する仮想サーバを選択します。選択されたインスタンスをチェックした後、登録のためにSSHクレデンシャルを設定し、**次へ**ボタンをクリックします。

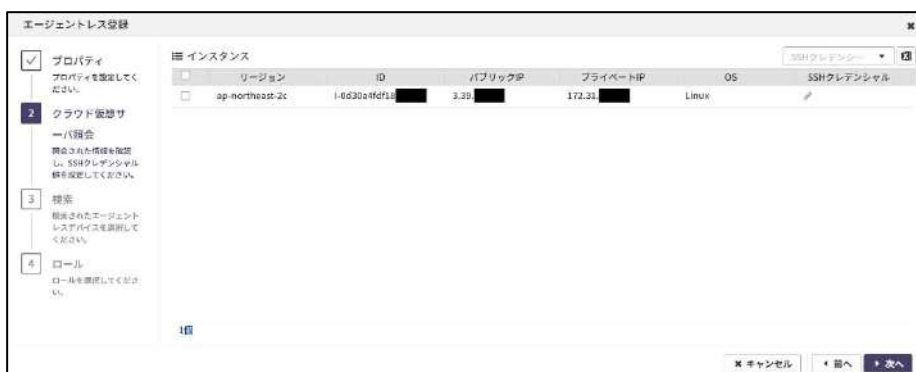


図317 クラウド仮想サーバ登録 - クラウド仮想サーバ照会

4. **探索**ステップで設定されたSSHクレデンシャル基盤で探索が行われ、探索結果は大きく3つ(登録可能、管理、接続不可)があります。接続できないデバイスは登録できません。探索結果から追加したいデバイスを選択し、**次へ**ボタンをクリックします。



図318 クラウド仮想サーバ登録 - 探索

5. **ロール**ステップで適切なロールを選択します。

ダッシュボード

主要点検についての点検現況、点検要約、ジョブ状態、ショートカット、ジョブスケジュール現況、月別Windows Update適用サーバ数、Windows重要更新の適用状況、OS別パッチ状況、OS別標準遵守率、OS別のバージョン現況、ジョブスケジュールの現況に対するダッシュボード機能を提供します。ユーザは直観的に運用状況が確認できます。

また、ユーザが設定したいウィジェットを追加及び配置することで、簡単に管理できる機能を提供します。

ダッシュボード管理

登録されたダッシュボードは、以下の手順から確認できます。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**をクリックします。



図319 ダッシュボード一覧

ダッシュボード管理では、ユーザが設定したいウィジェットを追加して新規ダッシュボードを登録できます。また、現在登録されているダッシュボードを編集、削除することができます。

ダッシュボード登録

新規ダッシュボードの登録手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加ボタン**をクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。

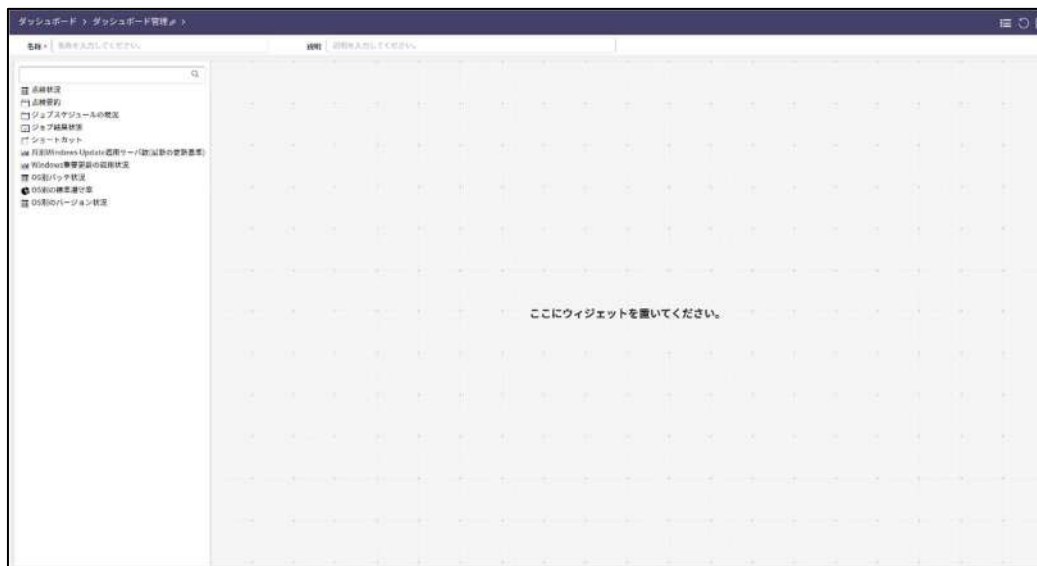


図320 ダッシュボード登録

4. 左側のウィジェットツリーから追加するウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。
5. ウィジェットの設定は、以下のような設定画面がポップアップで表示され、**ウィジェット名称**、**基準**、**点検グループの分類**項目を入力した後に確認ボタンをクリックします。もし、ウィジェットの追加をキャンセルする場合には**キャンセル**ボタンをクリックします。



図321 ウィジェットの設定

6. 以下のようにウィジェットが追加された後、右下のサイズ変更機能でサイズを設定することができ、タイトルにドラッグすれば好きな場所に移動することができます。

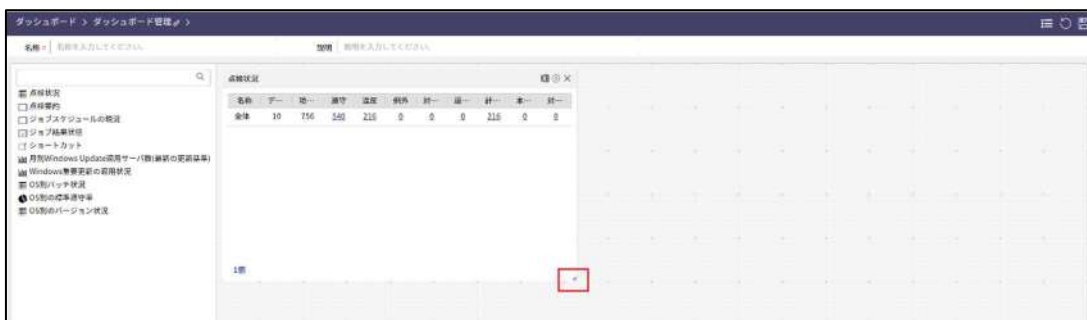


図322 追加されたウィジェット画面

7. 同じ方法で複数のウィジェットを追加できます。

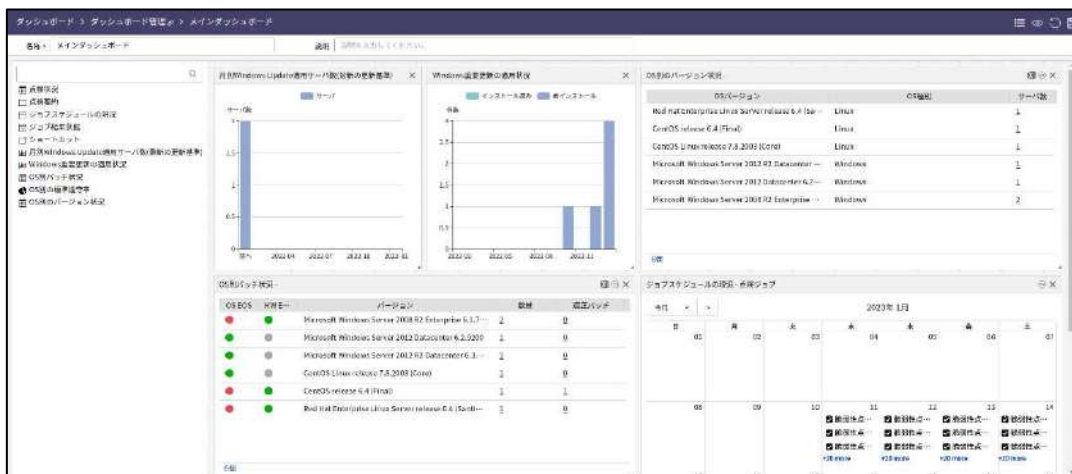


図323 複数のウィジェット追加結果

8. 追加したすべてのウィジェットを削除したい場合には、**初期化**(🔄)アイコンを、ダッシュボード一覧に戻りたい場合には**一覧**(☰)アイコンをクリックします。また、現在のウィジェットを保存する場合には、**保存**(💾)アイコンをクリックします。
9. 登録したダッシュボードを確認する場合には、上段の**一覧**(☰)アイコンをクリックします。
10. ダッシュボード一覧で登録したダッシュボードの確認ができ、新しいタブ(🔗)ボタンをクリックすると、大きな画面で内容を確認することができます。

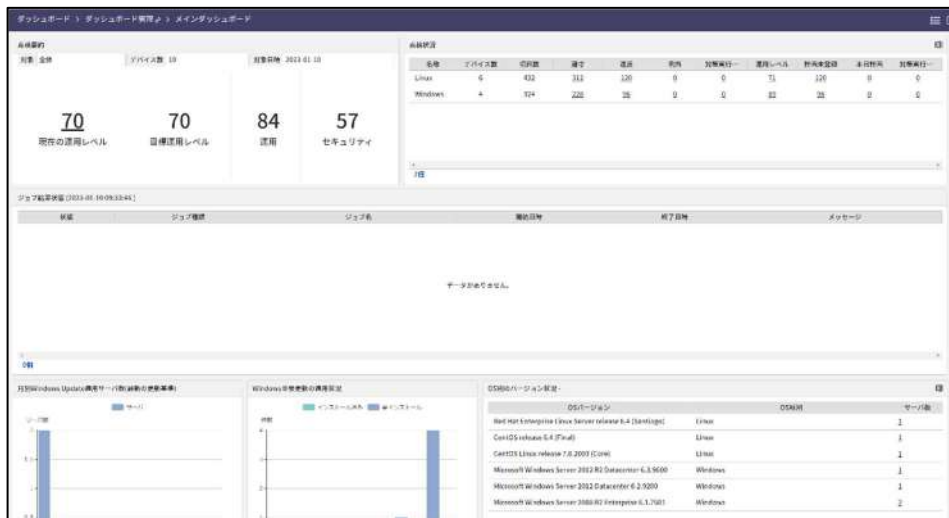


図324 登録完了したダッシュボード

ダッシュボード修正

ダッシュボード管理一覧から登録したダッシュボードを選択して修正できます。手順は以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 一覧から修正するダッシュボード名称にある修正(✎)アイコンをクリックします。
3. ダッシュボード画面で名称や説明の内容を修正したり、ウィジェットを追加/削除またはウィジェット設定ア(⚙)をクリックして修正します。



図325 ダッシュボード修正

4. **保存**アイコンをクリックして修正を完了します。

ダッシュボード削除

ダッシュボード管理一覧に登録されたダッシュボードを選択して削除できます。手順は以下の通りです。

[手順]

1. ダッシュボードメニューを選択します。
2. 一覧から削除するダッシュボード名称にチェックを入れて**削除**ボタンをクリックします。
3. メッセージのポップアップが表示されたら、**確認**ボタンをクリックします。



図326 ダッシュボード削除確認

ウィジェット


ウィジェットはダッシュボードを登録する時に追加できます。標準で提供されるウィジェットの種類は、以下の通りです。

<表> 基本ウィジェット種類

名称	説明
点検状況	点検ポリシーが適用されたデバイスを対象として、デバイス数、点検項目数、点検項目に対する順守/違反、例外、対策実行計画、運用レベル、計画未登録、本日計画、対策実行遅延件数の運用レベルを確認できます。
点検要約	全デバイスを対象としてプラグインパラメータで設定した目標とCLASSIFICATIONに対する現在の状況を表示します。
ジョブ結果状態	スクリプトジョブ、点検ジョブなどのジョブに対して、ジョブ状態（実行中、エラー、完了）、開始日時、終了日時、結果メッセージの状況を表示します。
ショートカット	ユーザがよく利用する管理対象デバイス（サーバ、ネットワーク、エージェントレス）、メニュー、ジョブをショートカットウィジェットで表示することができます。これにより、ダッシュボードから該当のデバイス、メニュー、ジョブに簡単に移動することができます。
月別Windows Update適用サーバ数（最新の更新基準）	過去12カ月間に、月別にPublished Dateを基準として、最後に更新されたサーバ数をグラフで表示します。
Windows重要更新の適用状況	過去12カ月間に、月別にPublished Dateを基準として、重要更新項目がインストール済みの件数とインストールされなかった件数をグラフで表示します。
OS別のバージョン状況	OS別バージョン状況を表示します。
ジョブスケジュールの現況	スケジュールが設定されているジョブ別の現況を表示します。

点検状況

点検ポリシーが適用されたデバイスに関して、デバイス数、点検項目数、点検項目数に対する順守/違反、例外、対策実行計画、運用レベル、計画未登録、本日計画、対策実行遅延件数の運用レベルを確認できます。

追加された点検状況ウィジェットは、ウィジェット設定()アイコンをクリックして設定を変更できます。順守、違反などのデータリンクをクリックすると、**構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ > 点検ジョブの詳細画面**に移動され、詳細情報の確認ができます。

名称	デバイ...	項目数	遵守	違反	例外	対策実...	運用レ...	計画未...	本日計画	対策実...
全体	10	756	540	216	0	0	70	216	0	0

図327 点検状況ウィジェット

<表> 点検状況の項目説明

項目名	説明
名称	デバイス別にグルーピングして表示するカテゴリ名称 (デフォルト値: 全体)
デバイス数	点検を行ったデバイス数
項目数	すべての点検項目数(すべてのポリシー数)
遵守	点検ポリシーを遵守した項目数
違反	点検ポリシーに違反した項目数
例外	例外設定した点検項目数
対策実行計画	違反項目中、対策計画が登録された項目数
運用レベル	全項目数に対して遵守された個数を百分率(%)で表示し、管理者 > システム管理 > プラグイン > Score statistics plugin プラグインが決めたスケジュールによって動作して更新
計画未登録	違反項目中、対策計画が登録されていない項目数
本日計画	登録された対策計画の項目中、本日実行予定の項目数
対策実行計画遅延	登録された計画日に対策が実行されず、違反状態で残っている項目数

点検状況ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボード**メニューを選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。

左側のウィジェットツリーから**点検状況**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。

点検状況ウィジェット設定画面がポップアップします。

4. 追加する**ウィジェット名称**を入力します。
5. **基準**は点検結果データをグルーピングする項目を設定します。



点検状況 ウィジェット設定

ウィジェット名称 *

点検状況

基準

全体

全体

OS_TYPE

デバイス

すべて

キャンセル 確認

図328 点検状況ウィジェット設定 - 基準項目

基準項目一覧は、管理者 > プラグインで**Score statistics plugin**プラグインのプロパティ情報名が**Property For Group**で指定した値が表示されます。
指定しなかった場合には**全体**で表示されます。

図329 Score statistics pluginプラグイン – Property For Groupプロパティ

また、この値は**構成 > プロパティリスト > Device**のサブプロパティに定義される必要があります。

名前	タイプ	ユーザー定義	デフォルト値	説明
OS_TYPE	String	<input type="checkbox"/>		OS種類
REACHABLE	Boolean	<input type="checkbox"/>	true	マネージャースレー
STARTED	Boolean	<input checked="" type="checkbox"/>	false	特定のオブジェ
SYSTEM_ID	Integer	<input type="checkbox"/>	0	システムで使用

図330 構成 > プロパティリスト > Device > ServerDevice > OS_TYPEプロパティ

6. **点検グループの分類**項目を選択して**確認**ボタンをクリックします。



点検状況 ウィジェット設定

ウィジェット名称 *

点検状況

基準

全体

点検グループの分類

すべて

すべて

セキュリティ

運用

キャンセル 確認

図331 点検状況ウィジェット - 点検グループの分類

7. **デバイス**項目で表示したいデバイスの種類を選択して**確認**ボタンをクリックします。



点検状況 ウィジェット設定

ウィジェット名称 *

点検状況

基準

全体

点検グループの分類

すべて

デバイス

すべて

すべて

サーバ

ネットワーク

エージェントレス

図332 点検状況ウィジェット - デバイス



参考：ウィジェットの分類（セキュリティ/運用、ネットワークなど）は、**点検グループの分類**で定義されたものになります。分類を変更したい場合には**構成 > プロパティリスト > Compliance > CLASSIFICATION**から、追加/修正/削除できます。

点検状況は、対象デバイスと点検グループの**STARRED**プロパティ値がすべて**TRUE**の

場合に表示されます。

点検要約

点検ジョブが実行された全デバイスを対象に、ウィジェットに設定した目標水準対比CLASSIFICATIONに対する現在の水準を表示し、CLASSIFICATION別の全項に対する遵守項目をパーセンテージで表示します。

現在のレベルのリンクをクリックすると、**構成 > ジョブ管理 > 点検ジョブ > 点検結果の詳細画面**に移動して詳細情報を確認できます。



図333 点検要約ウィジェット

<表> 点検要約項目説明

項目名	説明
対象	デバイス別にグルーピングして表示するカテゴリ名称 (デフォルト値: 全体)
デバイス数	点検を行ったデバイス数
対象日時	Score statistics pluginを通じて点数を算定された日時
現在の運用レベル	(ネットワーク+セキュリティ+運用) /分類数
目標運用レベル	管理者 > プラグインで名称がScore statistics pluginプロパティ名がDefaultGoalScoreに指定した値
セキュリティ	点検グループの分類が セキュリティ の遵守率 = 遵守項目数/点検項目数 (例外数は除く)
運用	点検グループの分類が 運用 の遵守率 = 遵守項目数/点検項目数 (例外数は除く)

点検要約ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**点検要約**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。
点検要約ウィジェット設定画面がポップアップします。
5. **ウィジェット名称**を入力します。
6. **基準**の一覧でデバイス別にカテゴリとして定義したプロパティ名を選択します。このプロパティは、**構成 > プロパティリスト**にすでに定義されて、**管理者 > プラグイン > Score statistics plugin > Property For Group**に定義されていることが前提です。全体を表示する場合には**全体**を選択します。
7. 基準のサブにはカテゴリを分類したプロパティ名を選択します。
全体を表示する場合には**全体**を選択します。
8. **確認**ボタンをクリックします。

図334 点検要約ウィジェット設定 - 全体



図335 点検要約ウィジェット設定 - OS_TYPE

LinuxのOS_TYPEプロパティに対する点検要約は以下の通りです。



図336 点検要約ウィジェット - Linux

ジョブ結果状態

スクリプトジョブ、点検ジョブなどのジョブに対して、状態（実行中、エラー/完了、成功/完了）、ジョブ種類、ジョブ名、開始日時、終了日時、メッセージを表示します。

ジョブ結果状態は、**ジョブ結果状態**ウィジェット設定で設定した**更新周期（5~3600秒）**ごとにアップデートされ、ウィジェットに設定した更新周期になったときに設定した**照会期間**に開始日時を含むジョブが存在する場合に表示します。

例えば、ウィジェットの設定で設定した照会期間が5分で、ウィジェット上部の時間を基準として過去5分間に実行されたジョブがある場合表示されます。

ジョブ名をクリックし、ジョブ結果ポップアップが表示されます。

状態	ジョブ種類	ジョブ名	開始日時	終了日時	メッセージ
✔	ScriptJob	[S_W]Windows.HotFi...	2023-01-10 16:25:	2023-01-10 16:25:	全体4個デバイスに対する

1個

図337 ジョブ結果状態ウィジェット

ジョブ結果状態ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**ジョブ結果状態**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。

ジョブ結果状態ウィジェット設定画面がポップアップします。

5. **ウィジェット名称**を入力し、**更新周期**は5~3,600秒間の値で、**照会期間**は5~30分間の値を入力して**確認**ボタンをクリックします。

⚙️ ジョブ結果状態 ウィジェット設定

ウィジェット名称 *

更新周期(5~3600 秒) *

照会期間(5~30 分) *

図338 ジョブ結果状態ウィジェット設定

ショートカット

ショートカットウィジェットは、ユーザがよく利用する管理対象デバイス（サーバ、ネットワーク、エージェントレス）、メニュー、ジョブがある場合、ショートカットウィジェットを追加してダッシュボードから該当のメニューまたはジョブへ簡単に移動することができます。

ウィジェット画面で(+)アイコンをクリックしてタブを追加することができ、タブをダブルクリックするとタブの名称を修正することができます。



図339 ショートカットウィジェット

ショートカットウィジェットに追加できる種類は、サーバ、ネットワーク、エージェントレス、ジョブ、クラウド、メニューがあります。

ショートカットウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボード**メニューを選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**ショートカット**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。
5. ショートカットウィジェット上部の設定(⚙️)アイコンをクリックし、ウィジェット名を変更します。



図340 ショートカットウィジェット設定


6. デフォルトタブの名称を変更する場合は、タブの名称をダブルクリックしてタブの名称を変更した後にエンターキーを押します。
7.  アイコンをクリックして追加するショートカット種類を選択します。



図341 ショートカット - 種類

8. ショートカット種類でサーバを選択した場合、ツリーを開けて追加するデバイスを選択してショートカットウィジェット領域にドラッグアンドドロップします。

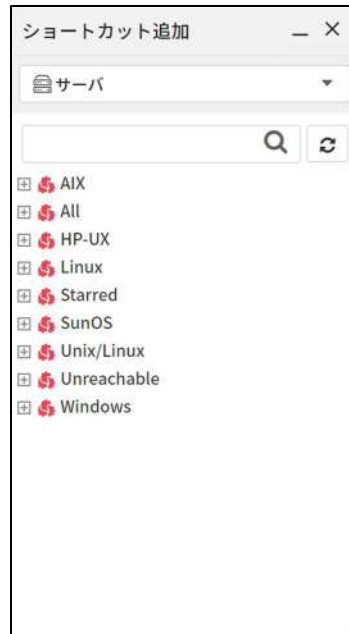


図342 ショートカット追加 - サーバ

9. サーバの追加画面は以下の通りです。

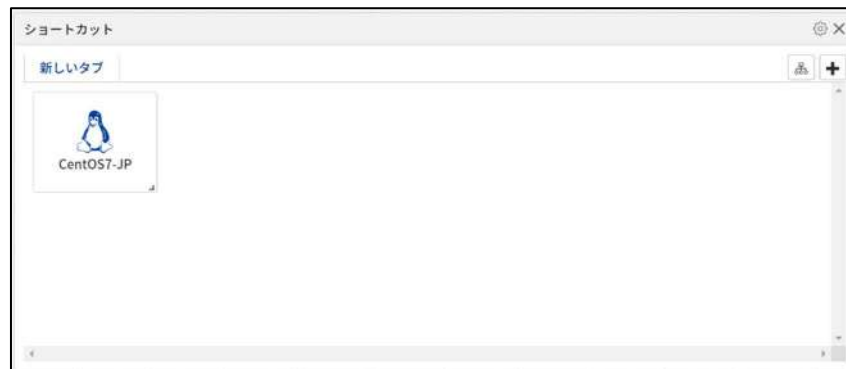


図343 ショートカット - サーバ追加完了

上記の方法でタブを追加し、ネットワーク、エージェントレス、ジョブ、メニュー、クラウドに対するショートカットウィジェットを追加できます。

月別Windows Update適用サーバ数（最新の更新基準）

当日を基準として、過去12ヶ月を月別に掲示日基準で最後に更新されたサーバ数をグラフで表示します。

例えば、8月にサーバが3表示されているとしたら、8月にMSでPublishedされ、最後にアップ

デートされたサーバが3つあることを意味します。X軸の名前が「前へ」と表示されているということは、その時点の過去全体をすべて含むことを意味します。バーチャートをクリックすると、アップデートされたサーバの一覧情報を構成 > デバイス管理 > サーバ画面で確認できます。

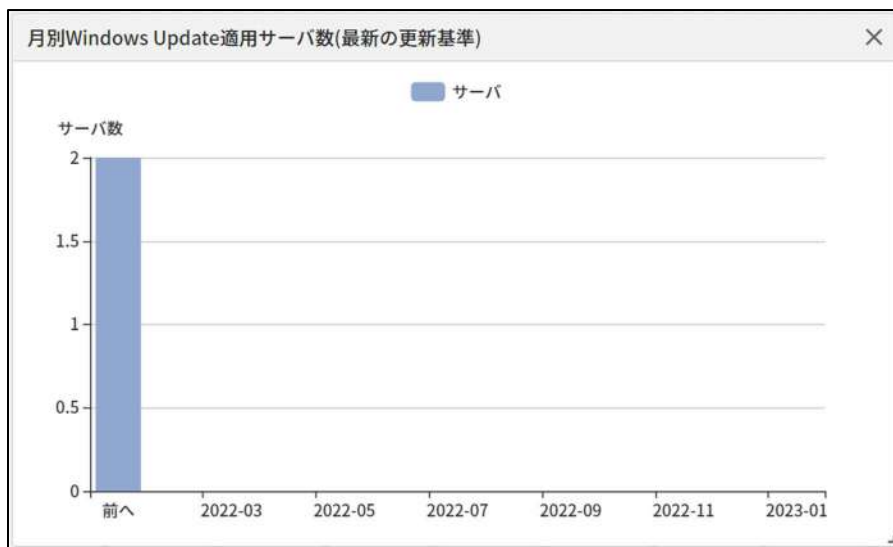


図344 月別Windows Update適用サーバ数（最新の更新基準）

月別Windows Update適用サーバ数（最新の更新基準） ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加ボタン**をクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**月別Windows Update適用サーバ数（最新の更新基準）** ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。

Windows重要更新の適用状況

当日を基準として、過去12ヶ月を表示し、月ごとに掲示された(Published Date基準)重要アップデートが、インストールされた件数とインストールされていない件数を表示します。その結果から未インストールについての状況把握が可能です。バーチャートをクリックすると、アップデートされたアップデート項目情報を**運営 > Windows Update管理画面**で確認できます。

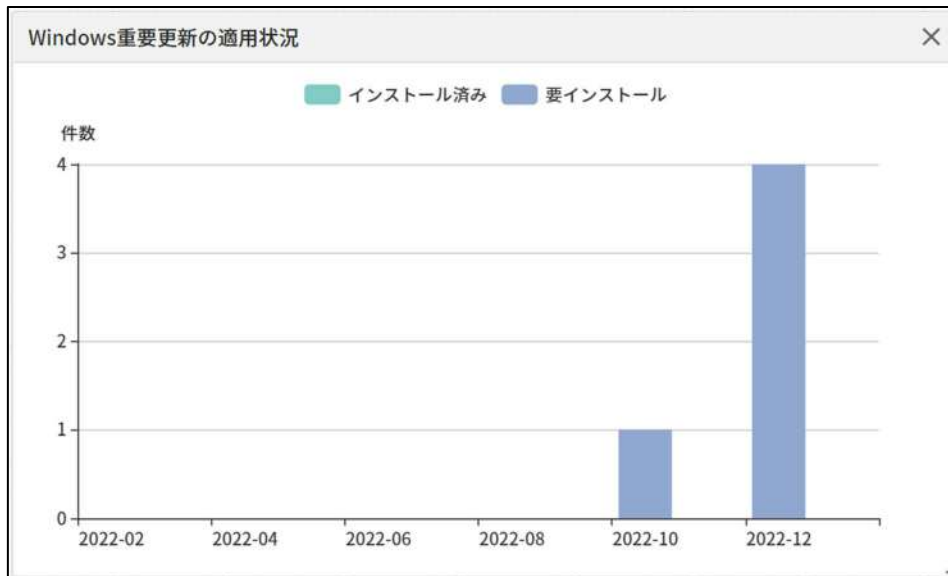


図345 Windows重要更新の適用状況

Windows重要更新の適用状況ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. ダッシュボードメニューを選択します。
2. 上段の追加ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの名称と説明を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーからWindows重要更新の適用状況ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。

OS別のバージョン状況

OS別バージョン状況を表示します。サーバ数のデータリンクをクリックすると、構成 > デバイス管理 > サーバ画面に移動して詳細情報が確認できます。

OSバージョン	OS種別	サーバ数
Red Hat Enterprise Linux Server release 6.4 (Santiago)	Linux	1
CentOS release 6.4 (Final)	Linux	1
CentOS Linux release 7.8.2003 (Core)	Linux	1
Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter 6.3.9600	Windows	1
Microsoft Windows Server 2012 Datacenter 6.2.9200	Windows	1
Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise 6.1.7601	Windows	2
6個		

図346 OS別のバージョン状況

OS別のバージョン状況ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**OS別のバージョン状況**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。
5. **OS別のバージョン状況**ウィジェット画面でウィジェット名称と追加するOSタイプを選択し、**確認**ボタンをクリックします。

図347 OS別のバージョン状況ウィジェット設定

ジョブスケジュールの現況

ジョブスケジュールの現況を表示します。ツールチップでジョブ名とスケジュールの情報が確

認できます。1日に登録されたジョブが多い場合、moreが表示され、moreをクリックするとジョブ名を確認することができます。

2023年1月						
日	月	火	水	木	金	土
01	02	03	04	05	06	07
08	09	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	01	02	03	04

図348 ジョブスケジュールの現況

ジョブスケジュールの現況ウィジェット追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **ダッシュボードメニュー**を選択します。
2. 上段の**追加**ボタンをクリックします。
3. 登録するダッシュボードの**名称**と**説明**を入力します。
4. 左側のウィジェットツリーから**ジョブスケジュールの現況**ウィジェットを選択して右側の領域にドラッグアンドドロップします。
5. **ジョブスケジュールの現況**ウィジェット設定画面でウィジェット名称と追加したいジョブの種類を選択し、**確認**ボタンをクリックします。ジョブの種類は複数選択可能で、ジョブはJavaの名順に並べられます。

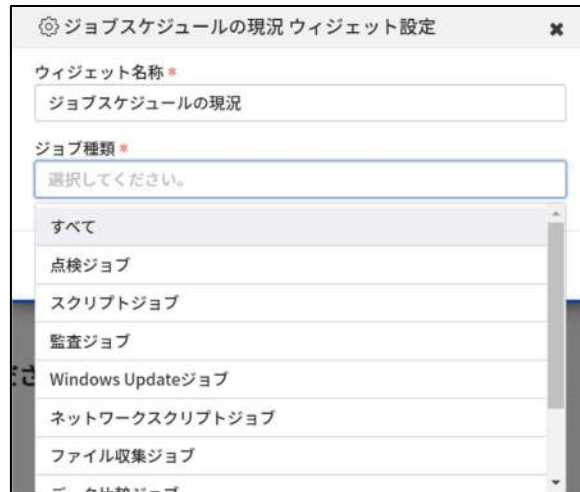


図349 ジョブスケジュールの現況ウィジェット設定


報告書

システムの主な運用状況について把握できるよう、様々な報告書テンプレートを提供しています。また、様々なファイルフォーマットをサポートしています。報告書はスケジュールに基づいてメールで自動で送信されます。

報告書テンプレート

標準テンプレートが添付されているため、様々な形態（点検、監査、ジョブ結果など）の報告書を簡単に作成できます。

報告書テンプレート一覧

報告書テンプレート情報は、以下の要領で確認することができます。更新()ボタンで登録されたテンプレートを更新することができます。

[手順]

1. 報告書メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧を確認します。

ファイル名	テンプレート名	説明	サーバ	エージェントレス	ネットワーク
agentless_information	エージェントレス構成情報	登録済みエージェントレスサーバの構成情報照会		○	
agentless_start_up	エージェントレス起動現況	登録済みエージェントレスサーバの最終起動日時を照会		○	
audit_new	監査ジョブ結果-ジョブ指定	入力されたパラメータの値を基準に、該当監査ジョブの結果表示	○	○	○
compliance	点検ジョブ結果	点検グループ別の実行結果、指定日付とのポリシー変更点検結果の比較	○	○	○

図350 報告書テンプレート一覧

<表> 報告書テンプレート一覧の説明

ファイル名	テンプレート名	説明	サーバ	エージェントレス	ネットワーク
agentless_information	エージェントレス構成情報	登録済みエージェントレスサーバの構成情報照会		○	
agentless_start_up	エージェントレス起動現況	登録済みエージェントレスサーバの最終起動日時を照会		○	
audit_new	監査ジョブ結果-ジョブ指定	入力されたパラメータの値を基準に、該当監査ジョブの結果表示	○	○	○
compliance	点検ジョブ結果	点検グループ別の実行結果、指定日付とのポリシー変更点検結果の比較	○	○	○

compliance_new	点検結果(チャート、グラフ)-対象指定	入力されたパラメータの値を基準に、現在のレベルと推移をチャートとグラフで表示及び分類別やデバイス別に点検結果を表示	0	0	0
compliance_registered	登録済み点検ジョブ一覧	登録されている点検分類、ポリシー数、ジョブ数などの情報を表示	0	0	0
compliance_target	点検ジョブ結果-ジョブ指定	入力されたパラメータの値を基準に、点検グループ別の実行結果、指定日付とのポリシー変更点検結果の比較	0	0	0
network_information	ネットワーク構成情報	登録済みネットワークの構成情報照会			0
network_script_customer	ネットワークスクリプトジョブ結果(プロパティ CUSTOMER_NAME プロパティ含む) -ジョブ指定	対象ネットワークスクリプトジョブ実行結果でプロパティ名がCUSTOMER_NAME(顧客名)情報と一緒に表示			0
network_script_result	ネットワークスクリプトジョブ結果	ネットワークスクリプトジョブの実行結果			0
network_script_target	ネットワークスクリプトジョブ結果-ジョブ指定	対象ネットワークスクリプトジョブ実行結果を表示			0
network_startup	ネットワーク機器の起動現況	登録済みネットワーク機器の最終起動日時を照会			0
server_registered	登録済みのサーバー一覧	登録サーバOS別情報、接続情報、サーバ	0		

		の起動日時、エージェントバージョンを表示			
script_customer	スクリプトジョブ結果(プロパティCUSTOMER_NAMEプロパティ含む) -ジョブ指定	対象スクリプトジョブ実行結果でプロパティ名がCUSTOMER_NAME(顧客名)情報と一緒に表示	0	0	
script_result	スクリプトジョブ結果	対象スクリプトジョブ実行結果を表示	0	0	
script_target	スクリプトジョブ結果-ジョブ指定	対象スクリプトジョブ実行結果を表示	0	0	
server_information	登録済みのサーバ構成情報	登録済みサーバの構成情報の照会	0		
server_startup	サーバ起動現況	登録済みサーバの最終起動日時を照会	0		
user_activity	ユーザ実行履歴統計	ユーザ実行履歴統計	0	0	0



備考 : SYSTEM_IDは生成されたジョブのプロパティから確認できます。

報告書テンプレート登録

OZ Report Designer Toolで生成したodi、ozrファイルを登録することで、報告書テンプレートが登録できます。テンプレートの特性に合わせてグループを生成して登録をすることもできます。

[手順]

1. **報告書メニュー**を選択します。
2. **追加ボタン**をクリックします。

図351 報告書テンプレート登録

- **テンプレート分類**：追加する報告書のタイプを入力します。
- **テンプレート名**：追加する報告書の名称を入力します。
- **説明**：追加する報告書についての説明を入力します。
- **ODIファイル名**：ODIファイルを**ファイルアップロード**ボタンを利用してアップロードします。
- **OZRファイル名**：OZRファイルを**ファイルアップロード**ボタンを利用してアップロードします。
- **パラメータ**：1つの報告書テンプレートに様々な条件を入力して、複数の報告書を追加することができます。パラメータは報告書テンプレートの種類によって異なって定義されます。パラメータの場合、「、」区切りで複数で入力できます。

3. **保存**ボタンをクリックして報告書テンプレートを登録します。

報告書テンプレート修正

登録済みの報告書テンプレートを修正します。修正手順は、次の通りです。

[手順]

1. 報告書メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧で修正するテンプレート名をクリックします。

図352 報告書テンプレート修正

- **テンプレート分類**：修正する報告書のタイプを入力します。
 - **テンプレート名**：修正する報告書の名称を入力します。
 - **説明**：修正する報告書についての説明を入力します。
 - **ODIファイル名**：修正するODIファイルを**ファイルアップロード**ボタンを利用してアップロードします。
 - **OZRファイル名**：修正するOZRファイルを**ファイルアップロード**ボタンを利用してアップロードします。
 - **パラメータ**：修正するパラメータを入力します。入力したパラメータはパラメータ値で報告書を様々に追加できます。
3. **保存**ボタンをクリックして報告書テンプレートを修正します。

報告書テンプレート削除

登録済みの報告書テンプレートを削除します。削除手順は、次の通りです。

[手順]

1. 報告書メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧で削除するテンプレートをチェックします。

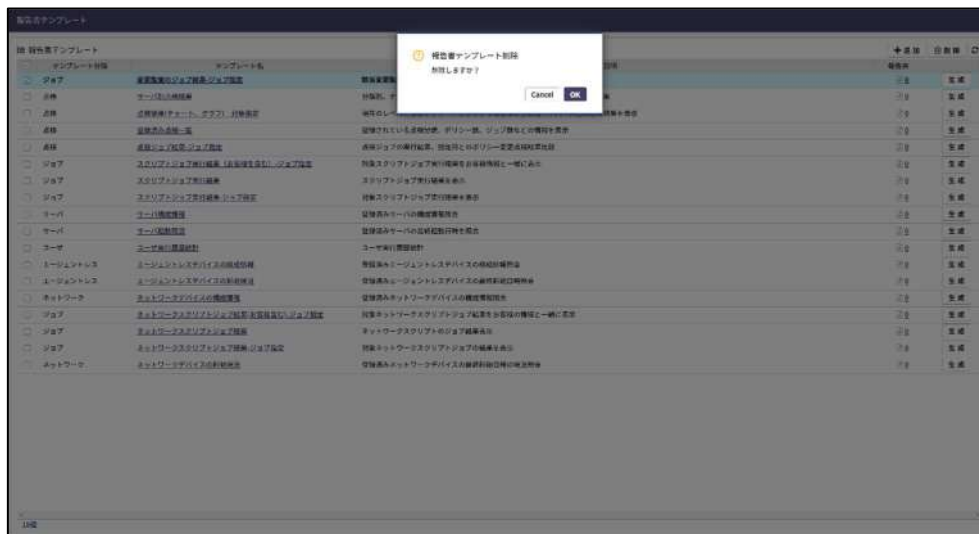


図353 報告書テンプレート削除

3. 削除ボタンをクリックして報告書テンプレートを削除します。

報告書管理

報告書テンプレート別に報告書を管理します。

報告書一覧

報告書テンプレート別の報告書一覧を確認します。報告書テンプレート一覧で報告書カラムの数字は該当のテンプレートに登録された報告書の数です。

報告書の確認手順は、以下の通りです。

[手順]

1. 報告書メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧で報告書カラムの数をクリックします。
3. テンプレートに追加された報告書一覧を確認します。

報告書タイトル	担当領域	スケジュール	パラメータ	作成者	生成日	実行日時
サーバ構成情報	最後の実行ジョブ	なし		admin	2023-01-10 16:38:21	2023-01-10 16:38:21

図354 報告書一覧

報告書追加

報告書テンプレート別に報告書を追加します。追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. 報告書メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧で登録するテンプレートの報告書カラムの数をクリックします。
3. 追加ボタンをクリックします。

図355 報告書追加

- **テンプレート名**：報告書を追加するテンプレート名を入力します。
- **報告書タイトル**：追加する報告書のタイトル名を入力します。
- **対象リソース**：報告書を追加するユーザ権限を設定します。
- **照会期間**：報告書のデータ参照期間を設定します。

<表> 照会期間項目説明

項目名	説明
過去1時間	報告書生成の1時間前までのデータを参照します。
過去3時間	報告書生成の3時間前までのデータを参照します。
過去6時間	報告書生成の6時間前までのデータを参照します。
過去12時間	報告書生成の12時間前までのデータを参照します。
過去24時間	過去24時間のデータを参照します。
本日	本日、現時点までのデータを参照します。
昨日	昨日のデータを参照します。
今週	今週の月曜日から本日までのデータを参照します。
先週	先週の月曜日から日曜日までのデータを参照しま

	す。
過去7日	本日を基準に7日前までのデータを参照します。
過去30日	本日を基準に30日前までのデータを参照します。
今月	今月のデータを参照します。
先月	先月のデータを参照します。
最後の実行ジョブ	最後のジョブ基準で照会します。

- **スケジュール**：自動で生成する報告書のスケジュールを設定します。

<表> スケジュール項目の説明

項目名	説明
毎日	毎日、特定の時間に報告書を生成します。
毎週	特定の曜日の特定の時間に報告書を生成します。
毎月	日付指定：毎月指定日時に報告書を生成します。 曜日指定：特定の週の指定日時に報告書を生成します。

- **添付ファイル**：メールを転送する報告書のファイル形式を設定します。ファイルの形式はXLS、PDF、DOCが対応できます。
- **メール件名**：報告書転送メール件名を入力します。
- **対象ユーザ**：報告書を受信するユーザを設定します。
- **対象ロール**：報告書を受信するロールを設定します。設定したロールに含まれるユーザに報告書メールが転送されます。
- **直接入力**：登録されていないユーザに報告書を転送する場合、ユーザのメールアドレスを直接入力します。複数のユーザを指定する場合は、コンマ (,) で区切って入力します。
- **パラメータ**：報告書のパラメータ値を設定します。

<表> パラメータ項目の説明

項目名	説明
パラメータ名	報告書テンプレートに定義されたパラメータ名が自動で表示されます。
タイプ	パラメータ値のデータタイプが自動で表示されます。
値	パラメータデータタイプに合わせて情報を入力します。

4. **保存ボタン**をクリックして報告書を追加します。



備考：ユーザが入力したパラメータ値別に複数の報告書を追加することができます。

例) 1つの点検結果報告書テンプレート (パラメータ: JOB_NAME) に2つの報告書を追加する

①運用点検結果報告書 (JOB_NAME: 日常点検_AIX) : 日常点検_AIX点検ジョブ結果のみ報告書追加

②脆弱性点検結果報告書 (JOB_NAME: 脆弱性点検_アカウント管理_AIX) : 脆弱性点検_アカウント管理_AIX点検ジョブ結果のみ報告書追加

報告書修正

登録した報告書を修正します。修正手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **報告書メニュー**を選択します。
2. 報告書テンプレート一覧で登録したテンプレートの報告書カラムの数をクリックします。
3. 修正する報告書名をクリックします。

図356 報告書修正

- **テンプレート名**：報告書名を修正します。
- **照会期間**：参照期間を修正します。
- **スケジュール**：報告書のスケジュールを修正します。
- **添付ファイル**：添付ファイルの形式を修正します。
- **メール件名**：報告書転送メール件名を修正します。
- **対象ユーザ**：報告書を受信するユーザを修正します。
- **対象ロール**：報告書を受信するロールを修正します。
- **直接入力**：直接に入力したメールアドレスを修正します。
- **パラメータ**：報告書のパラメータ値を修正します。

4. **保存ボタン**をクリックして報告書を修正します。

報告書削除

追加した報告書を削除します。削除手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **報告書メニュー**を選択します。
2. 報告書テンプレート一覧から削除するテンプレートの報告書カラムの数をクリックします。
3. 報告書一覧から削除する報告書にチェックします。



図357 報告書削除

4. **削除ボタン**をクリックして報告書を削除します。

報告書コピー

追加した報告書をコピーします。コピー手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **報告書**メニューを選択します。
2. 報告書テンプレート一覧でコピーするテンプレートの報告書カラムの数をクリックします。
3. 報告書一覧からコピーする報告書にチェックします。
4. **コピー**ボタンをクリックしてコピーする報告書タイトルを入力します。



図358 報告書コピー

5. **コピー**ボタンをクリックして報告書のコピー作業を完了します。

関連性情報管理

関連性情報管理は、サーバとサーバの関連情報をトポロジ形式で表示する機能です。サーバ間の関連情報はTCP連携情報を基づいて収集して関連情報をマッピングします。

サーバとサーバ間の関連情報

登録済みサーバの関連情報をマップで表示することができます。サーバ間の関連情報は、各サーバのTCP連携情報を周期的に収集して作ります。対象ポートはユーザが定義したサービスポートで限定されます。

全体サーバの関連情報は、**管理者 > プラグイン**のDependency Scannerプロパティが動作して更新します。デフォルトの実行周期は1日に1回で設定されています。

関連性情報表示

構成 > 関連性情報管理 > 関連性情報表示画面にサーバをドラッグアンドドロップして関連性を照会することができます。右上のスキャンボタンをクリックすると、実際の対象サーバに関連性の分析コマンドが実行され、改めて情報を収集してトポロジを作成します。

更新ボタンをクリックすると、情報収集は再度行わず、DBに保存されているデータに基づいてトポロジを作成することになります。

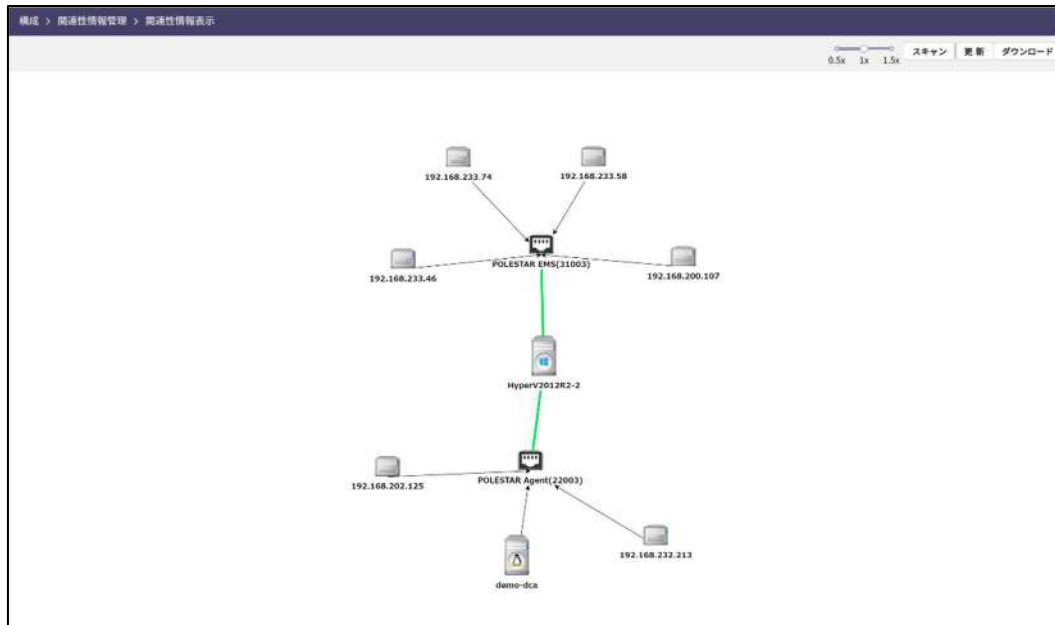


図359 関連性情報表示



参考：関連性情報表示にある対象サーバの中でOSアイコンが表示される場合は、POLESTAR Automationに登録済みのサーバの場合のみ表示されます。

サービス関連性情報管理

構成 > 関連性情報管理 > サービス関連性情報管理は、サーバ間の関連性情報をマッピングするためにサービスポートを管理します。登録済みのサービスポートを基準として関連情報を収集してマッピングします。

サービス登録時のタイプは、**管理者 > システム管理 > システムプロパティの関連情報サービスのタイプ**に設定した値で表示されます。

サービス名	タイプ	ポート	説明	削除
DB2	database	5000	DB2	削除
Infomix	database	1526	Infomix	削除
POLESTAR Agent	management	22003	POLESTAR Agent	削除
POLESTAR EMS	management	31003	POLESTAR EMS	削除
SqlServer	database	1433	SqlServer	削除
Tomcat	was	8009	Tomcat AJP Connector	削除

図360 サービス関連性情報管理

サービスが利用するサービスポートを登録してサーバ間関連情報に該当サービスを含めます。サービス関連性情報の追加手順は、以下の通りです。

[手順]

1. **構成** > **関連性情報管理** > **サービス関連性情報管理**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。
3. 以下の内容を入力します。
 - **サービス名** : サービス名を入力します。
 - **タイプ** : サービスのタイプを選択します。
 - **ポート** : サービスのポートを入力します。
 - **説明** : サービスの説明を入力します。
4. **保存**ボタンをクリックして追加したサービスを保存します。

運用/管理ツール

お知らせ

POLESTAR Automationユーザにシステムパッチ、ハードウェア点検、自動化システム定期パッチなどの作業があれば、お知らせ対象に内容を共有することができます。

運用 > お知らせをクリックして使用します。システムパッチ、ハードウェア点検、自動化システムの定期パッチなどの内容を共有できます。

お知らせ登録

お知らせ項目の登録手順は、次の通りです。

[手順]

1. **運用 > お知らせ**を選択します。
2. **追加**ボタンをクリックします。



図361 お知らせ登録

3. お知らせの内容を入力します。

- **お知らせ期間**：お知らせ内容が掲載される期間を設定します。
- **お知らせ対象**：すべてまたは特定ロールを選択し、お知らせする対象を設定します。
- **ポップアップ表示有無**：ログインする時にポップアップでお知らせする場合に選択します。
- **タイトル**：お知らせの件名を入力します。
- **内容**：お知らせの詳細内容を入力します。

4. **保存**ボタンをクリックします。

お知らせ照会

登録済みのお知らせを、検索条件によって照会できます。

[手順]

1. **運用 > お知らせ**を選択します。



図362 お知らせの照会

2. 以下の照会条件を入力します。

- **ポップアップ表示有無**：ログインする時にポップアップでお知らせする場合に選択します。
- **登録者**：お知らせを登録したユーザ名を入力します。
- **掲載終了**：掲載終了有無を選択します。すべて/実行中/掲載終了の中で選択できます。
- **お知らせ対象**：すべてのお知らせ(全ロール)またはマイお知らせ(自分が該当するロール)から選択します。ユーザ自身が該当するお知らせを検索する場合は、マイ

お知らせを選択します。

- **タイトル**：条件追加ボタンをクリックし、タイトルを選択してタイトルで検索できます。
- **内容**：条件追加ボタンをクリックし、内容を選択して内容で検索できます。

3. **検索**ボタンをクリックします。

システム管理

POLESTAR Automationシステム管理のための各種情報照会と設定を変更できる画面です。システム管理は、**Admins**権限を持つユーザのみがアクセスできます。システム管理により重要な設定情報を変更できるため、管理者以外の一般ユーザにはシステム管理メニューへのアクセスを制限することをお勧めします。

システム管理画面は、**管理者 > システム管理**サブメニューをクリックして使用します。

基本情報

POLESTAR Automationの起動環境情報の詳細が表示されます。各項目の説明は以下の通りです。

<表> 基本情報の項目

項目	説明
接続情報	ウェブ接続情報です。
マネージャーシステムID	マネージャーシステムのIDです。マネージャーシステムがクラスタ環境で構築されていた場合、それぞれのマネージャーシステムのIDは固有のIDでなければなりません。もし同じIDがある場合、正常に動作することはできません。 conf/config.propertiesのmanager_idで設定します。
マネージャーシステムグループ	ネットワークが分離されている場合は、ネットワークごとにマネージャーグループが生成されます。サーバが含まれているネットワークのマネージャーシステムグループをサーバのMANAGER_GROUPプロパティに自動で設定されます。

	conf/config.propertiesのcluster.manager_groupで設定します。
マネージャーシステムバージョン	マネージャーシステムのビルドバージョンです。
ビルド日時	マネージャーシステムのビルド日時です。
クラスタ環境構築の有無	マネージャーシステムがクラスタ環境であるかどうかに関する情報です。 conf/config.propertiesのcluster.is_clusteredで設定します。
OS	OS種類を表示します。
OSアーキテクチャ	OSのアーキテクチャを表示します。
システムタイムゾーン	システムのタイムゾーンです。システムの時間表示に問題がある場合、チェックしてください。 マネージャーシステムサーバのOSに設定されているタイムゾーンに従います。
JVM名	JVM名を表示します。
JVMバージョン	JVMのバージョンを表示します。
JVMオプション	マネージャーシステム起動に使用されたJVMのオプションを表示します。
DBタイプ	マネージャーシステムのリポジトリDBの種類を表示します。
JDBC URL	マネージャーシステムのリポジトリDBのアクセス情報を表示します。
DBアカウント	マネージャーシステムのリポジトリDBの接続アカウントを表示します。
DB詳細バージョン	マネージャーシステムDBのバージョンを表示します。

システムプロパティ

POLESTAR Automationのシステムプロパティが照会及び修正できます。カラム項目を基準として検索可能です。

名称	現在値	デフォルト値	形式	説明
Windows Update一覧分析制限時間	120	120	Integer	Windows Update一覧分析に必要な動作制限時間(分)です。(最大制限時間は6時間(360分)です。)
エージェント更新サーバの接続IP			String	エージェントが更新ファイルを受信するためのサーバ接続IPです。(エージェントがアクセス可能なIPであること)
エージェント更新サーバの接続ポート	80	80	Integer	エージェントが更新ファイルを受信するためのサーバ接続ポートです。(エージェントがアクセスできるポートであること)
デバイス名とホスト名を同期させる	true	true	Boolean	デバイス名をホスト名として自動的に同期します。デバイス名にホスト名とは別の名前を付けたい場合は、この項目をfalseに設定します。
ハードウェアエージング判断のための期間	60	60	Integer	ハードウェアエージング判断時に基準となる期間です。(単位は月単位です。)
ユーザ実行履歴メッセージの最小入力文字byte	0	10	Integer	ユーザが入力する実行内容が最小入力文字byte以下の場合に表示されるポップアップで使用されるプロパティです。現在値を-1に設定すると、ポップアップが表示されません。
他システムからの連携要			String	外部リクエストによるPOLESTAR Automationジョブ連携時、リクエストによる連携要の情報を設定します。
最初に表示されるページのURL情報	dashboard/editor?id=10355&mode=V		String	ログイン時に最初に表示されるページの情報を設定します。
関連情報サービスのタイプ	database.management_was		String	サーバの関連情報をスキャンするために登録するサービスのタイプ

図363 システムプロパティ

<表> システムプロパティ一覧

名称	デフォルト値	形式	説明
Windows Update一覧分析制限時間	120	Integer	Windows Update一覧分析に必要な動作制限時間(分)です。(最大制限時間は6時間(360分)です。)
エージェント更新サーバの接続IP		String	エージェントが更新ファイルを受信するためのサーバ接続IPです。(エージェントがアクセス可能なIPであること)
エージェント更新サーバの接続ポート	80	Integer	エージェントが更新ファイルを受信するためのサーバ接続ポートです。(エージェントがアクセスできるポートであること)
デバイス名とホスト名を同期させる	true	Boolean	デバイス名をホスト名として自動的に同期します。デバイス名にホスト名とは別の名前を付けたい場合は、この項目をfalseに設定します。
ハードウェアエージング判断のための期間	60	Integer	ハードウェアエージング判断時に基準となる期間です。(単位は月単位です。)
ユーザ実行履歴メッセージの最小入力文字byte	10	Integer	ユーザが入力する実行内容が最小入力文字byte以下の場合に表示されるポップアップで使用されるプロパティです。現在値を-1に設定すると、ポップアップが表示されません。
他システムからの連携要		String	外部リクエストによるPOLESTAR Automation

請時の POLESTAR Automation ジョブ連携失敗報告対象			tionジョブ連携時、リターンメッセージ失敗時にエラーを通知するメールアドレスを指定。カンマ(,)で区切って複数のアドレス宛に送信可能です。
最初に表示されるページのURL情報		String	ログイン時に最初に表示されるページの情報を設定します。
関連情報サービスのタイプ		String	サーバの関連情報をスキャンするために登録するサービスのタイプを指定します。半角コンマ(,)で区切って複数タイプを設定できます。

パスワードポリシー

パスワードポリシーの設定ができます。

The screenshot shows the 'パスワードポリシー' (Password Policy) configuration page. The settings are as follows:

- パスワード有効期間: 36 ヶ月
- パスワード長さ: 5 以上
- ログイン失敗許容回数: 10 未満
- パスワード再利用制限回数: 0
- ユーザID使用禁止:
- 数字必須:
- 英大小文字混在必須:
- 特殊文字必須:
- 同一文字/数字の繰り返し使用禁止:
- 連続した文字/数字の使用禁止:

適用 (Application): すべてのユーザに対して、次のログイン時にパスワード変更を求めます。 ユーザ設定されたパスワード有効期限に達し、パスワード変更を求めます。

図364 パスワードポリシー設定画面

- **パスワード有効期限** : パスワードの変更周期です。期限切れとログインする時、パスワードを変更する必要があります。
- **パスワード長さ** : パスワード文字の最小長さです。
- **ログイン失敗許容回数** : 失敗回数が設定する回数を超えたらログインができなくなります。その場合Admin権限の管理者にログインができるように要請する必要があります。
- **パスワード再利用制限回数** : 過去に使用したパスワードを、何回後の変更まで再利用

用禁止とするか、制限回数を設定します。

- **ユーザID使用禁止**：パスワードの生成や変更時、ユーザIDと同じ情報が入力できないようにします。
- **数字必須**：パスワードの生成や変更時、数字が必ず含まれるようにします。
- **英大小文字混在必須**：パスワードの生成や変更時、英大小文字を含めって生成します。
- **特殊文字必須**：パスワードの生成や変更時、特殊文字が必ず入れるようにします。
- **同一文字/数字の繰り返し使用禁止**：パスワードの生成や変更時、同じ文字とや数字が繰り返さないようにします。
- **連続した文字/数字の使用禁止**：パスワードの生成や変更時、連続された文字や数字を利用できないようにします。
- **適用**：次のログイン時にパスワードを変更するか、パスワード有効期限に合わせて変更するかを設定します。

データ保存期間ポリシー

POLESTAR Automationで蓄積された履歴データを設定した基準によって削除できます。削除は**実行**ボタンをクリックしてすぐに削除したり、プラグイン登録した後、期間に応じて削除したりすることができます。**履歴**ボタンをクリックし、削除履歴や成功/失敗の履歴も確認できます。

対象	保存期間	1回削除可能な最大履歴数	残りの削除件数	説明	即時削除
ユーザ実行履歴	24ヶ月	1000	0	ユーザ実行履歴の保存期間を設定します。	実行
接続履歴	24ヶ月	1000	0	ユーザ接続履歴の保存期間を設定します。	実行
点検ジョブ	24ヶ月	1000	0	点検ジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
スクリプトジョブ	24ヶ月	1000	0	スクリプトジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
監査ジョブ	24ヶ月	1000	0	監査ジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
Windows Updateジョブ	24ヶ月	1000	0	Windows Updateジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
ネットワークスクリプトジョブ	24ヶ月	1000	0	ネットワークスクリプトジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
ファイル収集ジョブ	24ヶ月	1000	0	ファイル収集ジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
データ比較ジョブ	24ヶ月	1000	0	データ比較ジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
ファイル配布ジョブ	24ヶ月	1000	0	ファイル配布ジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行
パッチジョブ	24ヶ月	1000	0	パッチジョブ履歴の保存期間を設定します。	実行

図365 データ保存期間ポリシー画面

<表> 削除対象一覧

項目	説明
ユーザ実行履歴	ログインした後、ユーザが書き込み/削除/実行権限に基づいて実行

	した履歴です。
接続履歴	接続した全てのユーザの接続情報です。
点検ジョブ	点検を実行するジョブの履歴です。
スクリプトジョブ	スクリプトを実行するジョブの履歴です。
監査ジョブ	監査ジョブを実行するジョブの履歴です。
Windows Updateジョブ	Windowsサーバに対する更新を実行するジョブの履歴です。
ネットワークスクリプトジョブ	ネットワークスクリプトを実行するジョブの履歴です。
ファイル収集ジョブ	ファイルを収集するジョブの履歴です。
データ比較ジョブ	データを比較するジョブの履歴です。
ファイル配布ジョブ	ファイルを配布するジョブの履歴です。
バッチジョブ	バッチジョブの履歴です。

データ保存期間ポリシーは、次のようになります。

[手順]

1. **管理者 > システム管理 > データ保存期間ポリシーメニュー**をクリックします。
2. **更新**をクリックして一覧を確認します。
 - **対象** : 削除する履歴のデータです。 <表> 削除対象一覧を参照してください。
 - **保存期間**
 - ✓ 無期限 : 全ての履歴データを削除せずに保存します。
 - ✓ ~ヶ月 : 現時点から、選択した月数分の最新データを保存します。
 - **1回に削除可能な最大履歴数** : 即時実行、またはプラグインが実行される際に、最大で削除できる履歴データの数(100 ~ 5000)です。
 - **残りの削除点数** : 保存期間に条件に該当する削除できる履歴データ数です。
 - **説明** : 対象に対する説明です。

ポリシー変更は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者 > システム管理 > データ保存期間ポリシーメニュー**をクリックします。
2. 照会されたポリシー一覧から、変更したいカラム項目を選択します。

3. 変更する内容を修正して**保存**ボタンをクリックしてポリシー変更を完了します。



備考：対象で保存期間または1回に削除可能な最大履歴数を変更すると、**保存**ボタンが有効になります。

即時実行は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **システム管理** > **データ保存期間ポリシー**メニューをクリックします。
2. データ保存期間ポリシー一覧ですぐに削除したい項目に対して**実行**ボタンをクリックします。

削除された履歴確認は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **システム管理** > **データ保存期間ポリシー**メニューをクリックします。
2. **履歴**ボタンをクリックしてすべての履歴が確認できます。
 - **対象**：削除された履歴データです。
 - **開始日時**：削除が開始した日時です。
 - **終了日時**：削除が終了した日時です。
 - **1回に削除可能な最大履歴数**：削除可能な最大件数です。
 - **削除された列数**：削除されたデータの列数です。
 - **残りの削除件数**：保管周期条件に該当する削除可能な履歴データです。
 - **ステータス**：削除状態です。
 - **実行者**：削除を行ったユーザーIDです。（システムの場合、プラグインのため削除されることを意味します。）

対象	開始日時	終了日時	1回に削除可能...	削除された...	残りの削除...	状況	実行者
ユーザ実行履歴	2023-01-10 11:08:55	2023-01-10 11:08:55	1000	0	0	成功	admin

図366 データ保存期間ポリシーの履歴画面

ライセンス情報

POLESTAR Automationのライセンス情報を照会し、ライセンスを登録または更新することができます。

種類	ライセンス全数	ライセンス使用数	ライセンス残数
AgentlessDevice	上限なし	3	上限なし
AuditJob	上限なし	1	上限なし
BatchJob	上限なし	5	上限なし
Cloud	上限なし	0	上限なし
ComplianceJob	上限なし	23	上限なし
DHJob	上限なし	1	上限なし
FileCollectJob	上限なし	1	上限なし
FileDeployJob	上限なし	2	上限なし
NetworkDevice	上限なし	5	上限なし
NetworkScriptJob	上限なし	5	上限なし
ScriptJob	上限なし	21	上限なし

種類	使用可否
authorization.AgentlessDevice	true
authorization.AuditJob	true
authorization.BatchJob	true
authorization.Bulletin	true
authorization.CliNetwork	true
authorization.Cloud	true
authorization.Compliance	true
authorization.ComplianceJob	true
authorization.ConfigurationDictionary	true
authorization.Credential	true
authorization.Dependency	true

図367 ライセンス情報

- **お客様**：登録されているライセンスの顧客情報を表示します。
- **登録日**：ライセンスの登録日付を表示します。
- **有効期限**：ライセンスの有効期限を表示します。ライセンスの有効期限が終了すると、

ログイン時にライセンス更新のリクエストが表示されます。ライセンスを更新するまで、ユーザはログインできません。

- **種類別のライセンス数量**：登録されているライセンスの種類別の総数と使用数及び残数を表示します。

ライセンス登録/更新手順は、次のようになります。

[手順]

1. ライセンスファイル (license.nlf) をftpを利用してPOLESTAR Automationのマネージャサーバにアップロードします。パスは次の通りです。

```
/[POLESTAR Automation マネージャインストールパス]/license/
```

2. 管理者 > システム管理 > ライセンス情報メニューをクリックします。
3. **ライセンス更新**ボタンをクリックします。
4. **OK**ボタンをクリックします。

プラグイン

プラグインは、POLESTAR Automation内で周期的に動作するJavaクラスです。プラグインが動作するときは、POLESTAR AutomaiionのすべてのJAVA APIを使用することができます。POLESTAR Automationには内部的に使用するビルトインプラグインがいくつか存在します。お客様のカスタムプラグインは、外部システムへのデータ連動などのための用途に有効に使用されます。カスタムプラグインを作成する場合は、サポートにご相談ください。

ID	名称	実行周期	プロパティ	説明	使用
10041	Cloud Scanner	毎日03時00分に実行	AgentlessDevice Properties Json : ...	クラウドに接続して仮想サーバ情報を収集します。	
10048	Connection Checker	01時間ごとに00分に実行		デバイスの接続有無を確認します。	✓
10039	Dependency Scanner	毎日04時00分に実行		サーバ及びネットワークデバイス間の関連性情報をスキャンして記録	✓
10044	History data delete	毎日06時00分に実行		作業履歴データを基準に沿って削除します。	
10040	JobResult Export Service	毎日03時00分に実行	COLUMNS : * ...	実行ジョブの結果をTXT形式で保存します。	
10050	Live Object Persister	毎日00時00分に実行		主要ライブオブジェクトの現在値をDBの保存先に保存します。保存対	✓
10045	OperatingSystem Scanner	毎日04時00分に実行		サーバ導入日、登録OS E05オブジェクト、パッチテンプレートを通	✓
10049	Score statistics plugin	毎日08時00分に実行	Daily Stat : true ...	運用レベルを算定して保存します。	✓
10042	Software Collector	毎日20時00分に実行	Days for delete : 30 ...	登録されているマスタソフトウェアのスク립ト情報を通じ、各サー	✓
10046	Switch Port Scanner	毎日02時00分に実行		管理スイッチポート情報とポート別に接続されているデバイス情報を	✓
10047	Update Device Property Service	01時間ごとに00分に実行		デバイスにライブ属性を持つプロパティの情報をデータベースの最新	✓
10043	Windows Update Analysis Service	毎日01時00分に実行	Max Update Days : 365	全Windowsサーバの更新情報を分析します。分析結果はWindows	✓

図368 プラグインの一覧画面

プラグイン一覧は、ユーザのライセンスに合わせて表示されるため、画面と項目が一致しない場合があります。

<表> ビルトインプラグイン一覧

プラグイン名	クラス	説明
Connection Checker	com.nkia.automation.plugin.ConnectionChecker	デバイスの接続有無を確認します。
Dependency Scanner	com.nkia.automation.plugin.DependencyScanner	サーバ及びネットワークデバイス間の関連性情報をスキャンして記録します。スキャン結果は関連性情報表示画面に反映されます。
History data delete.	com.nkia.automation.plugin.RawJobDataRemover	作業履歴データを基準に沿って削除します。
Live Object Persister	com.nkia.automation.plugin.LiveObjectPersister	主要ライブオブジェクトの現在値をDBの保存先に保存します。保存対象のライブオブジェクトは、システム環境設定に定義されます。保存されたライブオブジェクトは高速に照会可能となり、報告書の作成にも活用されます。
Software Scanner	com.nkia.automation.plugin.SoftwareScanner	登録されているマスタソフトウェアのスク립ト情報を通じ、各サーバにインストールされたソフトウェア情報を収集します。結果はソフトウェア照会画面に反

		映されず。
Switch Port Scanner	com.nkia.automation.plugin.SwitchPortScanner	管理スイッチポート情報とポート別に接続されているデバイス情報を収集して保存します。
Update Device Property Service	com.nkia.automation.plugin.UpdateDevicePropertyService	デバイスにライブ属性を持つプロパティの情報をデータベースの最新値として同期します。
Windows Update Analysis Service	com.nkia.automation.plugin.WindowsUpdateAnalysisService	全Windowsサーバの更新情報を分析します。分析結果はWindows Updateのライブオブジェクトに反映されます。
Operating System Scanner	com.nkia.automation.plugin.OperatingSystemScanner	サーバ導入日、登録OS EOSオブジェクト、パッチテンプレートを通じてサーバのハードウェアエイジングとOSの適合性情報を収集して保存します。
Cloud Scanner	com.nkia.automation.plugin.CloudScanner	クラウドに接続して仮想サーバ情報を収集します。
Score statistics plugin	com.nkia.automation.plugin.ScoreStatPlugin	運用レベルを算定して保存します。
JobResult Export Service	com.nkia.automation.plugin.JobResultExportService	実行ジョブの結果をTXT形式で保存します。

プラグインの登録手順は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **プラグイン**メニューをクリックし、**追加**ボタンをクリックします。
2. クラスを入力して検索ボタンをクリックします。クラスパスに入力したクラスが存在しない場合は、「プラグインクラスが見つかりません。」というエラーメッセージが表示されます。
3. 次のプラグインのパラメータを入力します。

- **名称**：プラグイン名はユーザが修正できます。
- **実行周期**：期間設定ボタンをクリックすると、実行サイクルを変更できます。実行サイクルは、ジョブのスケジュール変更と同じです。
- **使用**：プラグインを使用有無をチェックします。このチェックボックスをチェックしない場合は、プラグインは動作しません。
- **説明**：基本説明が表示され、ユーザが修正できます。
- **プロパティ**：プラグインのプロパティを設定します。
- **ロール**：プラグインのロールを設定します。

プラグイン

クラス *

com.nkia.automation.plugin.ConnectionChecker

基本情報 プロパティ ロール

名称 *

Connection Checker

実行周期

01時間ごとに00分実行 時間設定

使用

説明

デバイスの接続有無を確認します。

× キャンセル 保存

図369 プラグイン登録

4. **保存**ボタンをクリックし、プラグイン登録を完了します。



備考：プラグインクラスは、複数のプラグインで重複して登録される可能性があります。プラグインで複数の実行サイクルが必要な場合、またはプロパティを変えて動作することが必要な場合は、1つのプラグインクラスを複数のプラグインとして登録します。



備考：プラグインを登録すると、**実行周期**に合わせて表示されます。その状態でもプラグインは正常に動作します。ユーザがスケジュールを変更すると、ユーザが理解できる内容で表示されます。

プラグインの設定変更手順は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **プラグイン**メニューをクリックします。
2. 照会されたプラグインから、修正するプラグイン名をクリックします。
3. 設定内容を修正して**保存**ボタンをクリックして変更を完了します。

プラグインの削除手順は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **プラグイン**メニューをクリックします。
2. 照会されたプラグインで削除するプラグインの**削除**ボタンをクリックします。



参考 : プラグインを一時的に使用しない時には、**使用のチェックを付けず**に保存ボタンをクリックして保存します。

クラスタリング

マネージャーシステムがクラスタ環境で構築されている場合、各マネージャーシステムの状態を確認することができます。正常に動作しているマネージャーシステムの情報は、このページで表示されます。このページに表示されていないマネージャーシステムについては、サーバダウンなどのエラーが発生している可能性があり、調査や対応が必要になります。現在接続しているマネージャーIDの場合、**接続情報**カラムに**現在接続中の管理システム**というメッセージが表示されます。

マネージャーシステムID	マネージャーシステムグル...	IPアドレス	ポート	最終チェックイン日時	リモートサービス使用	接続情報
MANAGER_JP_1	DefaultGroup	dca.nkia.net	8443	2023-01-10 16:45:43	✓	https://dca.nkia.net:8443(現在接続中の管理システム)

図370 クラスタリング情報

クレデンシャル管理

デバイスを鍵認証を利用して登録し、管理することができます。対応できるクレデンシャルの種類は、SSH、AWS、REST、AZURE、GCP、NOTIFY_REST、WMIです。SSH、AWS、AZURE、GCPはエージェントレスデバイスを登録するために使用します。RESTは他製品とPOLESTAR Automationを連携するために使用します。NOTIFY_RESTはジョブ結果通知をREST方式で適用する場合に使用します。



備考：クレデンシャル管理にREST設定しなくてもREST APIの接続が可能です。ただし、外部システムの連携などでREST API接続を制限する場合は、REST設定を追加する必要があります。



図371 クレデンシャル管理一覧

クレデンシャル削除

登録済みクレデンシャルの削除手順は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者 > クレデンシャル管理**メニューをクリックします。
2. 一覧から削除するクレデンシャルをチェックします。



3. **削除**ボタンをクリックして削除します。

クレデンシャル修正

登録済みクレデンシャルの修正手順は、次のようになります。

[手順]

1. **管理者** > **クレデンシャル管理**メニューをクリックします。
2. 一覧から修正するクレデンシャルの名称をクリックします。

図373 クレデンシャル修正

3. **保存**ボタンをクリックして修正除します。



備考：修正する時、セキュリティのためプライベートキー情報は画面に表示されません。



備考：リージョン選択タブは、種類からAWSを選択した場合にのみ有効になります。

SSHクレデンシャル登録

SSHクレデンシャルの登録手順は、次のようになります。

図374 SSHクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : SSHを選択します。
2. **名称** : SSHクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : SSHクレデンシャルの説明を入力します。
4. **接続方式** : ID/PW、プライベートキー方式を選択します。
5. **アカウント** : 接続方式に合わせて適用するサーバのOSアカウント名を入力します。
6. **パスワード** : ID/PW方式を選択すると活性化され、アカウントに対するパスワードを入力します。
7. **プライベートキー** : プライベートキー方式を選択し、有効化されます。SSHプライベートキー値を入力します。キーは、ssh-keygen、Puttygenツールを利用して生成することができます。
8. **SUパスワード** : ID/PW方式を選択し、有効化されます。アカウント入力欄にOSの一般ユーザを入力した場合、root権限を獲得するためのSUパスワードを入力します。
9. **SSHポート** : SSHポートを入力します。
10. **実行パス** : SSHクレデンシャルで登録されるエージェントレスに実行されるスクリプトのパスを入力します。
11. **Use Tunneling** : SSH Tunnelingサーバを通じてSSHアクセスが必要な環境の場合、チェックした後にトンネリングステップで情報を入力します。
12. **Use Sudo Comand** : 一般アカウントでsudoコマンドを使用する場合はチェックします。
13. **次へ** ボタンをクリックしてロールを設定します。

14. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

AWSクレデンシャル登録

AWS EC2のインスタンス一覧を収集するためのクレデンシャル登録手順は、次のようになります。

The screenshot shows a web form titled 'クレデンシャル登録' (Credential Registration). On the left, there is a progress indicator with three steps: 1. 基本情報 (Basic Information), 2. リージョン選択 (Region Selection), and 3. ロール (Role). Step 1 is currently active. The main form area contains the following fields and options:

- 種類 *** (Type): A dropdown menu with 'AWS' selected.
- 名称 *** (Name): A text input field.
- 説明** (Description): A text area for entering details.
- アクセスキーID *** (Access Key ID): A text input field.
- セキュリティアクセスキー *** (Security Access Key): A text input field.
- AWSプライベートIPの使用有無** (AWS Private IP Usage): A checkbox.
- 情報収集** (Information Collection): A checkbox.
- スキャングループ** (Scan Group): A text input field.

At the bottom right, there are three buttons: 'キャンセル' (Cancel), '戻る' (Back), and '次へ' (Next).

図375 AWSクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : AWSを選択します。
2. **名称** : AWSクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : AWSクレデンシャルの説明を入力します。
4. **アクセスキーID** : AWSにアクセスするアカウントIDを入力します。
5. **セキュリティアクセスキー** : AWSアクセスアカウントのキーを入力します。
6. **AWSプライベートIPの使用有無** : 仮想サーバ情報の中、プライベート/パブリックIP情報を利用してエージェントレスを登録する時接続するために設定します。チェックしない場合はパブリックIPで接続されます。
7. **情報収集** : チェックする場合、CloudScannerによって詳細情報及び仮想サーバ情報を収集し、クラウド管理で確認することができます。
8. **スキャングループ** : 多数のCloudScannerを登録して使用する際に基準となるグループ値です。

9. **次へ**ボタンをクリックして収集するリージョンを設定します。
10. **次へ**ボタンをクリックしてロールを設定します。
11. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

RESTクレデンシャル登録

他製品とPOLESTAR Automationを連携するためのRESTクレデンシャル登録手順は、次のようになります。

図376 RESTクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : RESTを選択します。
2. **名称** : RESTクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : RESTクレデンシャルの説明を入力します。
4. **許容IP** : 連携する許容IPアドレスを入力します。入力したIPアドレス条件に一致する場合、該当するREST APIを許可します。(*の場合全部許可し、-の場合は全部許可しません)
5. **AccessKey** : REST API方式で連携するキー情報を入力します。
6. **AccessToken** : **生成**ボタンをクリックして、REST API方式で連携するトークン情報

を設定します。

7. **AccessToken有効期限**：生成されたトークンの有効期限を設定します。選択した日付になるとAccess Tokenが満了し、REST APIの連携ができません。トークンを改めて再生成する必要があります。
8. **次へ**ボタンをクリックしてロールを設定します。
9. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

RESTクレデンシャルの適用方法

生成されたRESTクレデンシャル情報を他製品に適用する方法です。基本情報タブにある**Http Header**情報をコピーし、連携する他製品にPOLESTAR AutomationでREST APIを要請する時Header情報に設定すれば連携できます。



図377 RESTクレデンシャル - 基本情報

AZUREクレデンシャル登録

AZURE仮想サーバー一覧を収集するためのクレデンシャル登録手順は、次のようになります。

図378 AZUREクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : AZUREを選択します。
2. **名称** : AZUREクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : AZUREクレデンシャルの説明を入力します。
4. **テナントID** : テナントIDを入力します。
5. **クライアントID** : クライアントIDを入力します。
6. **クライアントパスワード** : クライアントパスワードを入力します。
7. **Subscription** : Subscriptionを入力します。
8. **AzureプライベートIPの使用有無** : 仮想サーバ情報の中、プライベート/パブリックIP情報を利用してエージェントレスを登録する時接続するために利用します。チェックしない場合には、パブリックIPで接続されます。
9. **情報収集** : チェックする場合、CloudScannerによって詳細情報及び仮想サーバ情報を収集し、クラウド管理で確認することができます。
10. **スキャングループ** : 多数のCloudScannerを登録して使用する際に基準となるグループ値です。
11. **次へ** ボタンをクリックしてロールを設定します。
12. **保存** ボタンをクリックして登録を完了します。

GCPクレデンシャル登録

GCP(Google Cloud Platform)仮想サーバー一覧を収集するためのクレデンシャル登録手順は、次のようになります。

図379 GCPクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : GCPを選択します。
2. **名称** : GCPクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : GCPクレデンシャルの説明を入力します。
4. **Project ID** : プロジェクトIDを入力します。
5. **プライベートキー** : プライベートキーを入力します。
6. **GCPプライベートIPの使用有無** : 仮想サーバ情報の中、プライベート/パブリックIP情報を利用してエージェントレスを登録する時接続するために利用します。チェックしない場合には、パブリックIPで接続されます。
7. **情報収集** : チェックする場合、CloudScannerによって詳細情報及び仮想サーバ情報を収集し、クラウド管理で確認することができます。
8. **スキャングループ** : 多数のCloudScannerを登録して使用する際に基準となるグループ値です。
9. **次へ** ボタンをクリックしてロールを設定します。
10. **保存** ボタンをクリックして登録を完了します。

NOTIFY_RESTクレデンシャル登録

ジョブ実行の結果通知をREST方式で送信するためのクレデンシャル手順は、次のようになります。

図380 NOTIFY_RESTクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類** : NOTIFY_RESTを選択します。
2. **名称** : NOTIFY_RESTクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明** : NOTIFY_RESTクレデンシャルの説明を入力します。
4. **Request URL** : Request URLを入力します。
5. **Header** : URL Header情報を入力します。
6. **Body** : URL Bodyを入力します。
7. **次へ**ボタンをクリックしてロールを設定します。
8. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

WMIクレデンシャル登録

WMIクレデンシャルの登録手順は、次のようになります。

図381 WMIクレデンシャル登録 - 基本情報

[手順]

1. **種類**：WMIを選択します。
2. **名称**：WMIクレデンシャルの名称を入力します。
3. **説明**：WMIクレデンシャルの説明を入力します。
4. **アカウント**：アカウント名を入力します。
5. **パスワード**：パスワード情報を入力します。
6. **ドメイン名**：ドメイン名を入力します。
7. **次へ**ボタンをクリックしてロールを設定します。
8. **保存**ボタンをクリックして登録を完了します。

通知管理

メールサーバ情報

メール転送機能を使う場合のメールサーバの情報を設定します。

メールサーバの登録は、SMTPとHTTPをサポートします。ただし、一つの方式のみを選択し、適用する必要があります。

<表> SMTP方式メールサーバの設定情報項目

項目	デフォルト値	説明
SMTPユーザ		オプション-メール送信時にSMTP認証を使う場合、ユーザ名を入力します。
SMTPパスワード		オプション-SMTP認証用パスワードを入力します。
SMTPポート	25	使用するSMTPポート番号です。
SMTPホスト名		SMTPメールサーバホスト名です。
メール送信者		このサーバからメールが送信される際のデフォルトの送信アドレスです。
メール接頭辞	[Automation]	送信する全てのメールタイトルの先頭に、この接頭辞が付加されます。
Plain text利用	false	メールの形式を設定します。(true: Plain text, false: HTML)
通知有効	true	通知機能を設定します。

名称	現在値	デフォルト値	形式	説明
Plain text利用	false	false	Boolean	メールの形式を設定します。(true: Plain text, false: HTML)
SMTPパスワード	*****		Password	オプション-SMTP認証用パスワードを入力します。
SMTPホスト名	not_automation@nkia.co.kr		String	SMTPメールサーバホスト名です。
SMTPポート	25	25	Integer	使用するSMTPポート番号です。
SMTPユーザ	mail.nkia.co.kr		String	オプション-メール送信時にSMTP認証を使う場合、ユーザ名を入力します。
メール接頭辞	[Automation]	[Automation]	String	送信する全てのメールタイトルの先頭に、この接頭辞が付加されます。
メール送信者			String	このサーバからメールが送信される際のデフォルト送信アドレスです。
通知有効	true	true	Boolean	通知機能を設定します。

図382 SMTPメールサーバ情報

<表> HTTP方式メールサーバの設定情報項目

項目	デフォルト値	説明
ヘッダ	# {Authorization=cfg6536288ssaskjhj}, # {Content-Type=application/json}	メールを受信するURL Headerを入力 # {キー1=値1}, # {キー2=値2} ex> # {Authorization=cfg6536288ssaskjhj}, # {Content-Type=application/json}
URL		メールを受信するURLを入力します。
メール送信者		このサーバがメールを送信するアドレスになります。

メール接頭辞		この接頭辞は全てのメールタイトルの前に付加されます。
Plain text利用	false	メールの形式を設定します。(true: Plain text, false: HTML)
送信方式	EMAIL	メールを受信する方式を設定します。 (ユーザメールアドレス ユーザーID)
通知有効	false	通知機能を設定します。

各種	現在値	デフォルト値	形式	説明
Plain text利用	false	false	Boolean	メールの形式を設定します。(true: Plain text, false: HTML)
URL			String	メールを受信するURLを入力
ヘッダ	#Authorization=ctg536286ssas...	#Authorization=ctg536286ssas...	String	メールを送信するURL Headerを入力(キー1=値1 キー2=値2) ex: #
メール接頭辞			String	この接頭辞は全てのメールタイトルの前に付加されます。
メール送信先			String	このサーバがメールを送信するアドレスになります。
送信方式	EMAIL	EMAIL	String	メールを受信する方式を設定します。(ユーザメールアドレス ユーザーID)
通知有効	false	false	Boolean	通知機能を設定します。

図383 HTTPメールサーバ情報



参考：テストメール送信ボタンをクリックすると、現在設定されている情報に基づきテストメールを送信します。

テストメール送信 ✕

受信者 *

メールを入力してください。

タイトル *

このメッセージはPOLESTAR Automationから送信されました。

メッセージタイプ

Text HTML

本文

POLESTAR Automationからのメッセージです。

✕ キャンセル **送信**

図384 テストメール送信

SMS情報

ログインの2段階認証機能が有効な場合、SMSで認証番号を受信してログインできます。SMSの登録は、DB、HTTP、TCP及びUDPをサポートします。ただし、一つの方式のみを選択し、適用する必要があります。

<表> SMS設定情報項目：DB

項目	デフォルト値	説明
DBアカウント		SMS送信のためのDB接続ユーザID情報
DBパスワード		SMS送信のためのDB接続ユーザパスワード情報
Insert SQL	insert into SMS_MESSAGE (SENDER, RECEIVER, MESSAGE) values ('#{sender}', '#{receiver}', '#{message}')	通知情報を入力するためのSQL文を設定します。 SQL文に使用可能表現式：#{sender} #{receiver} #{message}
JDBC URL	jdbc:oracle:thin:@127.0.0.1:1521:ORCL	ベンダ別JDBC URL情報 例) jdbc : oracle : thin : @127.0.0.1 : 1521/ORCL
JDBCドライバ	oracle.jdbc.driver.OracleDriver	ベンダ別JDBC Driver Class名 例) oracle.jdbc.driver.OracleDriver
メッセージ文字数の制限	70	SMSの最大文字数を制限します。
送信者電話番号		SMSの送信に用いられる、デフォルトの送信用電話番号です。
通知有効	false	通知機能を設定します。



備考：Insert SQLは、ユーザの環境に合わせて変更する必要があります。

名前	現在値	デフォルト値	形式	説明
認証アカウント			String	SMS送信のためのDB接続ユーザー情報
認証パスワード			Password	SMS送信のためのDB接続パスワード情報
挿入SQL	insert into SMS_MESSAGE(SENDER, RECEIVER, MESSAGE) va...	insert into SMS_MESSAGE(SENDER, RECEIVER, MESSAGE) va...	Text	追加情報を入力するためのSQL文を登録します。SQL文に使用可
DB接続URL	jdbc:oracle:thin:@127.0.0.1:1521:ORCL	jdbc:oracle:thin:@127.0.0.1:1521:ORCL	String	例) jdbc:oracle:thin:@127.0.0.1:1521:ORCL
DB接続ドライバ	oracle.jdbc.driver.OracleDriver	oracle.jdbc.driver.OracleDriver	String	ベンダ別DB接続ドライバクラス名
メッセージ文字数制限	70	70	Integer	SMSの最大文字数を制限します。
通知有効/無効	false	false	Boolean	SMSの送信に際して、デフォルトの通知無効状態です。

図385 SMS情報 - DB

<表> SMS設定情報項目 : HTTP

項目	デフォルト値	説明
ヘッダ	#{Authorization=cfg6536288ssaskjhj}, #{Content-Type=application/json}	SMSを受信するURL Headerを入力 #{キー1=値1},#{キー2=値2} 例) #{Authorization=cfg6536288ssaskjhj}, #{Content-Type=application/json}
URL		SMSを受信するURLを入力
SMS送信者		このサーバからSMSが送信される際のデフォルト送信アドレスです。
SMSの接頭辞		この接頭辞は全てのSMSのタイトル先頭に付加されます。
転送方式	EMAIL	SMSを受信する方式を設定します。(ユーザーメールアドレス ユーザーID)
通知有効	false	通知機能を設定します。

名前	現在値	デフォルト値	形式	説明
SMSの接頭辞			String	この接頭辞は全てのSMSのタイトル先頭に付加されます。
送信先アドレス			String	このサーバからSMSが送信される際のデフォルト送信アドレスです。
URL			String	SMSを受信するURLを入力
ヘッダ	#{Authorization=cfg6536288ssaskjhj},#{Content-Type=application/json}	#{Authorization=cfg6536288ssaskjhj},#{Content-Type=application/json}	String	SMSを受信するURL Headerを入力(#{キー1=値1},#{キー2=値2})
送信方式	EMAIL	EMAIL	String	SMSを受信する方式を設定します。(ユーザーメールアドレス ユーザーID)
通知有効	false	false	Boolean	通知機能を設定します。

図386 SMS情報 - HTTP

<表> SMS設定情報項目 : TCP

項目	デフォルト値	説明
EOLを含む	false	メッセージの最後にEnd of Line(EOL)を含む
メッセージ文字数制限		SMSの最大文字数を制限します。

メッセージエンコーディング	UTF-8	メッセージのエンコード文字セット。例) UTF-8
メッセージテンプレート	<code>#{sender}</code> <code>#{receiver}</code> <code>#{message}</code>	使用可能表現式 : <code>#{sender} #{receiver} #{message}</code>
SMSの接頭辞		この接頭辞は全てのSMSのタイトル先頭に付加されます。
送信者		SMSを送信するデフォルト送信者です。
通知有効	false	通知機能を設定します。
ポート番号		SMSサーバのポート番号を設定します。
ホスト名		SMSサーバのIPを設定します。



図387 SMS情報 - TCP

<表> SMS設定情報項目 : UDP

項目	デフォルト値	説明
EOLを含む	false	メッセージの最後にEnd of Line(EOL)を含む
メッセージ文字数制限		SMSの最大文字数を制限します。
メッセージエンコーディング	UTF-8	メッセージのエンコード文字セット。例) UTF-8
メッセージテンプレート	<code>#{sender}</code> <code>#{receiver}</code> <code>#{message}</code>	使用可能表現式 : <code>#{sender} #{receiver} #{message}</code>
SMSの接頭辞		この接頭辞は全てのSMSのタイトル先頭に付加されます。
送信者		SMSを送信するデフォルト送信者です。

通知有効	false	通知機能を設定します。
ポート番号		SMSサーバのポート番号を設定します。
ホスト名		SMSサーバのIPを設定します。



名前	現在値	デフォルト値	形式	説明
通知有効	false	false	Boolean	メッセージの最後にEnd of Line (EOL)を含む。
SMSの送信元			String	この送信元は全てのSMSのタイトル先頭に付加されます。
ホスト名			String	SMSサーバのIP
ポート番号			Integer	SMSサーバ(SMSポート)番号
メッセージエンコーディング	UTF-8	UTF-8	String	メッセージのエンコード文字セット。例) UTF-8
メッセージテンプレート	{sender} {receiver} {message}	{sender} {receiver} {message}	String	使用可能な形式: {sender} {receiver} {message}
メッセージ文字数制限			Integer	SMSの基本文字数を制限します。
送信先			String	SMSを送信するデフォルト送信先です。
通知有効	false	false	Boolean	通知機能を設定します。

図388 SMS情報 - UDP



参考：テストSMS送信ボタンをクリックすると、現在設定されている情報に基づきテストSMSを送信します。テストSMS送信ボタンは、通知有効値がtrueで設定された場合にアクティブになります。



テストSMS送信 ✕

宛先(-[ハイフン]なし) *

電話番号を入力してください。

メッセージ

テストSMS送信

✕ キャンセル
送信

図389 テストSMS送信

ライブオブジェクト照会

ツリー上でライブオブジェクトを探索することは、個々のサーバのみサーバ情報の照会が可能です。複数サーバに対してライブオブジェクトを同時に照会するためには、**運用 > ライブオブジェクト照会**機能を利用します。

ライブオブジェクト照会機能の利用方法は、以下の通りです。

[手順]

1. **運用 > ライブオブジェクト照会**を選択します。
2. **ライブオブジェクト照会**画面の左側上部の**対象デバイス**領域に対象サーバを追加や除外します。
 - 対象サーバの追加はサーバ/ネットワーク/エージェントレスツリー領域のグループ、または特定のデバイスにチェックを入れてドラッグアンドドロップして対象デバイス領域に置きます。
 - 対象サーバの除外は対象デバイス領域でアイコン(×)をクリックします。
3. **選択項目**では、照会するデバイスの下位項目を追加することができます。
 - **項目追加**ボタンをクリックし、項目追加ポップアップの指標選択タブで選択デバイスのシステム情報やCustomObjectサブツリーを拡張します。
 - 照会する指標を選択し、**選択項目**領域にドラッグアンドドロップで置きます。

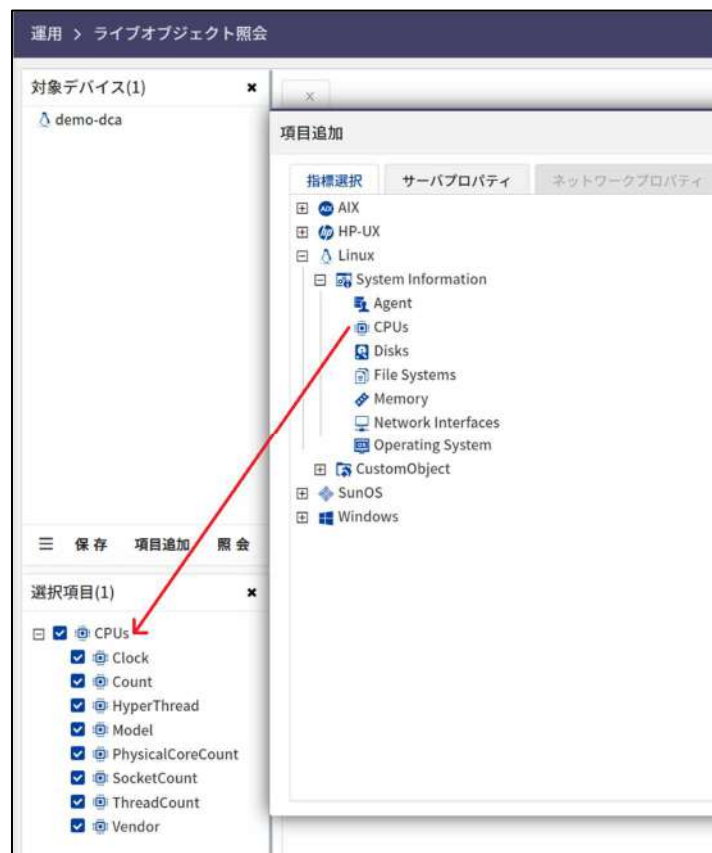



図390 ライブオブジェクト照会の選択項目

- 選択項目領域で必要な項目を選択またはキャンセルできます。
- ライブオブジェクト外にプロパティに関する項目も一括して照会したい場合は、項目追加ポップアップのサーバプロパティタブでプロパティ一覧の中から希望する項目の左側アイコン()をドラッグアンドドロップで選択項目領域に置きます。

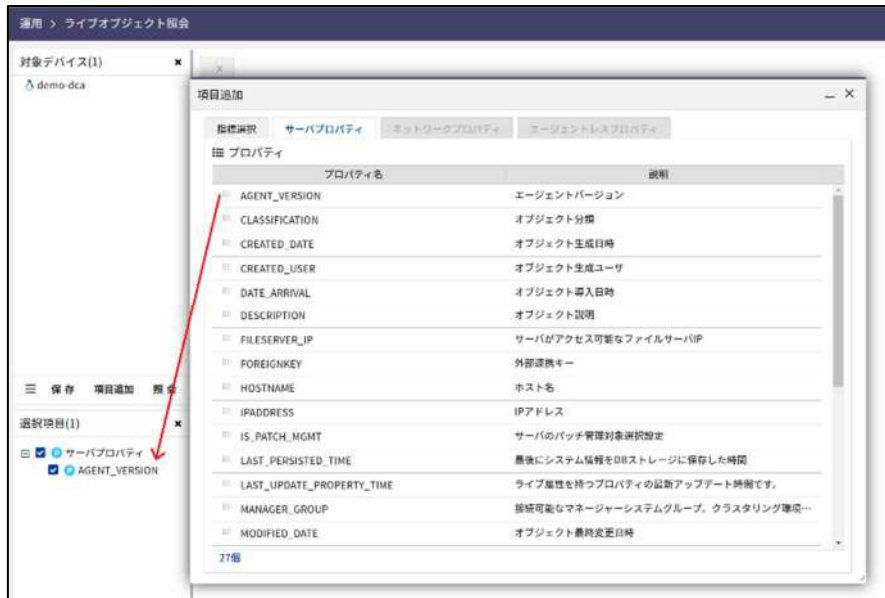


図391 ライブオブジェクト照会のサーバプロパティ選択項目

4. **照会**ボタンをクリックすると、ライブオブジェクト照会の右側画面に結果が表示されます。

The screenshot shows the '実行結果' (Execution Results) table with the following data:

状態	デバイス	Clock	Count	HyperThread	Model	CPU	PhysicalCoreCount	SocketCount	ThreadCount	Vendor
●	demo-dca	2600	8	16x	Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2650 v2 @ 2.60GHz					Genu

On the left, the '選択項目(1)' (Selected Items) list includes: CPU, Clock, Count, HyperThread, Model, PhysicalCoreCount, SocketCount, ThreadCount, and Vendor.

図392 ライブオブジェクト照会結果

5. よく利用するライブオブジェクト照会項目は、保存ボタン(保存)を通じて名称を指定して保存することができます。保存された内容は☰ボタンを通じて選択できます。

The '保存' dialog box contains a text input field with the name 'CPUs照会' and two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save).

図393 ライブオブジェクト照会の条件保存

6. 以下は、Windows系サーバのCPU情報を照会した例です。

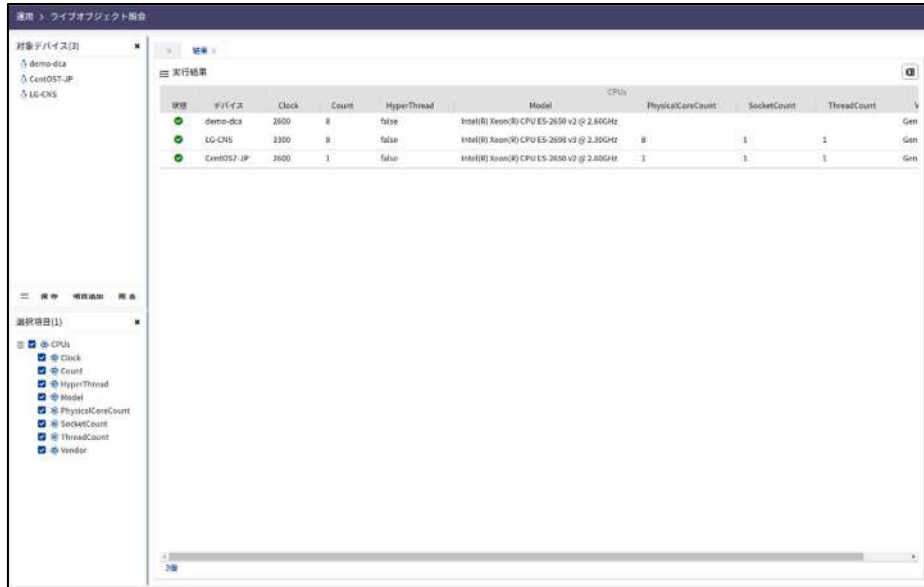


図394 ライブオブジェクト照会の一括照会結果画面

URLショートカット

設定により、特定のウェブサイトのURLショートカットを提供します。リンクは最大5つまで設定でき、右上のユーザ名の前に表記されます。

<install path>/conf/config.propertiesファイルでopen_url.link.img.1、open_url.link.url.1項目に情報を入力して設定することができます。

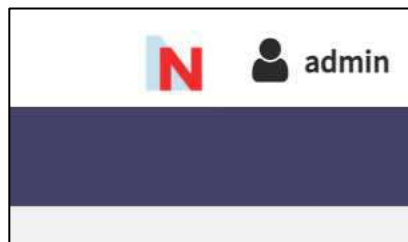


図395 URLショートカット

付録

構成構文解析器一覧

POLESTAR Automationで提供されている構成構文解析器の一覧です。構文解析器は構成リス

トに登録される形式(**ConfigurationFile**、**CustomObject**)の結果を特定な文法に合わせて処理し、定型化された形式で表現するための文法処理器です。

<表> 構文解析器一覧

種類	対応OS	説明
array.grammar	全体	データが「:」、「¥t」、「,」、「」形式になっているファイルを解析する文法です。最初の行の値をキーとして定義し、「#」、「-」、「:」で始まる文は注釈処理されます。
property.grammar	全体	区分字が「=」になっているファイルを解析する文法です。最初の行の値をキーとして定義し、「#」で始まる文は注釈処理されます。
value.grammar	全体	ファイルの内容や結果値が一つの値のみ存在するのを処理する文法です。「#」、「-」、「:」で始まる文は注釈処理されます。
xml.grammar	全体	XML形式のファイル进行处理する文法です。
hosts.grammar	AIX、 SunOS、HP- UX、Linux	/etc/hostsファイルの内容进行处理する文法です。
ini.grammar	全体	ファイルの内容でセクション形式のファイル进行处理する文法です。セクションは [] になっているものを処理し、サブの内容は「=」や「¥t」になっている形式をサポートします。キーは、セクションとサブ内容の最初の項目として定義し、「#」、「-」、「;」で始まる文章は注釈処理されます。
inittab.grammar	AIX、 SunOS、HP- UX、Linux	/etc/inittab形式のファイル进行处理する文法です。
passwd.grammar	AIX、 SunOS、HP- UX、Linux	/etc/passwd形式のファイル进行处理する文法で、/etc/group形式も処理されます。
vfstab.grammar	AIX、 SunOS、HP-	/etc/vfstab、/etc/fstab形式のファイル进行处理する文法です。

	UX、Linux	
aix_security.grammar	AIX	/etc/securityサブにあるファイル（user/groupなど）を処理する文法です。
aix_tunables.grammar	AIX	/etc/tunablesサブにあるファイル（lastboot など）を処理する文法です。
key_value.grammar	全体	array.grammarと似ているが、区切り文字として「:」を除いて、主にWindowsのパス名の表示に使用される際に使用します。
csv.grammar	全体	コンマ(,)で区切られたcsv形式の構文を処理する文法です。最初の行の値をキーとして定義し、「#」文字で始まる注釈処理されます。

正規表現

POLESTAR Automationで点検項目のルール設定(**matches**)と制限コマンドを登録する際には、正規表現を使用します。正規表現とは、特定のルールを持つ文字列の集合を表現するために使用する形式言語です。正規表現のより詳細な説明は、http://en.wikipedia.org/wiki/Regular_expressionを参照してください。

文法

メタ文字は、特定の論理的な関係を表す記号として使えます。これ以外の文字は、一般的な文字として認識されます。

- 選択記号：「|」記号は複数の式の中から1つを選択します。例えば、abc|adcはabcという文字列とadcという文字列の両方を含みます。
- 結び記号：「(」と「)」で複数の式を1つに結ぶことができます。abc|adcとa(b|d)cは同じ意味です。
- 個数記号：文字の後ろに付いて文字の個数を示します。
 - ▶ 「*」：0個以上。「a*b」は「b」、「ab」、「aab」、「aaab」を含みます。
 - ▶ 「+」：1個以上。「+b」は「ab」、「aab」、「aaab」を含みますが、「b」は含みません。

- ▶ 「?」 : 0個または1個。「a?b」は「b」、「ab」を含みます。
- ▶ 「{m, n}」 : m個以上n個以下。「a{1,3}b」は「ab」、「aab」、「aaab」を含みますが、「b」や「aaab」は含みません。
- 例えば、(fa|mo|b?o)therは「father」、「mother」、「bother」を意味します。
- 「[]」 : 「[]」と「[]」の間の文字中で1つを選択します。「[]」を複数書いたのと同じ意味です。例えば、[abc]dはad、bd、cdを意味します。また、「-」記号と一緒に書けば文字の範囲を指定できます。[a-z]はaからzまでの中の1つ、[1-9]は1から9までの中の1つを意味します。
- 「[^]」 : 「[^]」と「[]」の間の文字を除いた残りの1つを選択します。例えば、[^abc]dはad、bd、cdは含まず、ed、fdなどを含みます。[^a-z] はアルファベットの小文字で始まらないすべての文字を意味します。
- 「^」、「\$」 : それぞれ文字列の最初と最後を意味します。

<表> 正規表現メタ文字

メタ文字	機能	例	説明
^	列の開始指示者	^nkia	nkiaで始まるすべての行と一致
\$	列の端の指示者	nkia\$	nkiaで終わるすべての行と一致
.	1文字と一致	n.kia	nで始まって続いて任意の1文字が来てkiaで終わる文字列を持った行と一致
*	前の文字が0個以上出た場合は一致	n*kia	nが0個以上で始まるkia文字列がある行と一致。kia、nkia、nnkia、nnnkia等が一致。
[]	設定中の1文字と一致	[Nn]kia	Nkiaやnkiaを含む行と一致
[x?y]	設定した範囲内の1文字と一致	[A-Z]kia	A~Z間の文字と続いてkiaが来る時に一致
[^]	設定に属さない1文字と一致	[^A-Z]	A~Z間の文字ではなく文字と一致
¥	メタ文字機能の削除	nkia¥.	nkiaを含み、次いでメタ文字ではなく、独自の文字が含まれる列と一致

Windowsエージェントレスサーバのポリシー設定

Windowsエージェントレスサーバを登録するためには、エージェントレスに関するポリシーを設定する必要があります。

ポリシー設定は、OSバージョンにより、DCOMアクセス関連の**DCOM権限設定**、**DCOM許可ポート設定**、**DCOM OSファイアウォール設定**、**ローカルセキュリティ設定**、**Remote UAC設定**、**ファイル共有関連のファイアウォール設定**が必要になります。OSのバージョン毎に必要な設定は、以下の通りです。

<表> Windows OS別のエージェントレスポリシー設定

OSバージョン	DCOM権限設定	DCOM許可ポート設定	DCOMファイアウォール設定	ローカルセキュリティ設定	Remote UAC設定	ファイル共有ファイアウォール設定
Windows 2003	X	O	O	X	X	X
Windows 2008	X	X	O	X	X	X
Windows 2012	X	X	O	X	X	X
Windows 2016	X	X	O	X	X	X
Windows 2019	X	X	O	X	X	X
Windows 2022	X	X	O	X	X	X
Windows XP	X	O	O	O	X	X
Windows 7	O	X	O	X	O	O
Windows 10	X	X	O	X	O	O
Windows 11	X	X	O	X	O	O

DCOM権限設定

DCOM権限設定は、Windows 7に対して別途設定が必要です。それ以外のバージョンではデフォルト設定で使用可能です。

- ① スタート > 実行 > dcomcnfgを入力し、管理者権限で実行します。
- ② コンソールルート > コンポーネントサービス > コンピューター > マイコンピューター > DCOMの構成 > Windows Management and Instrumentationを選択し、右クリックしてプロパティをクリックします。

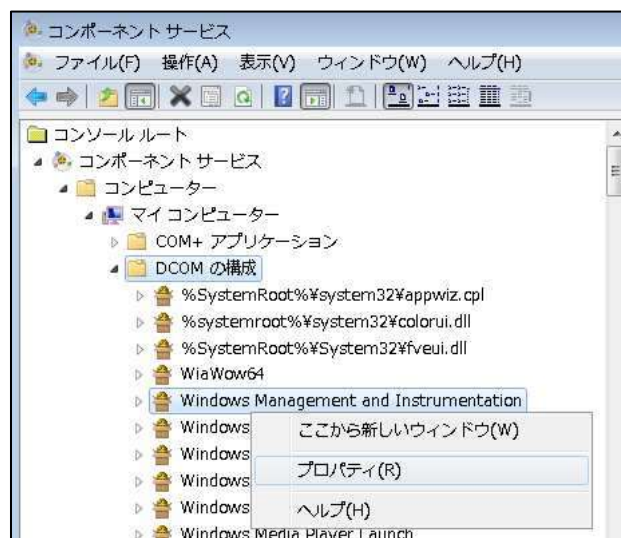


図396 コンポーネントサービス > DCOMの構成

- ③ Windows Management and Instrumentationプロパティ画面で**セキュリティ**タブをクリックします。

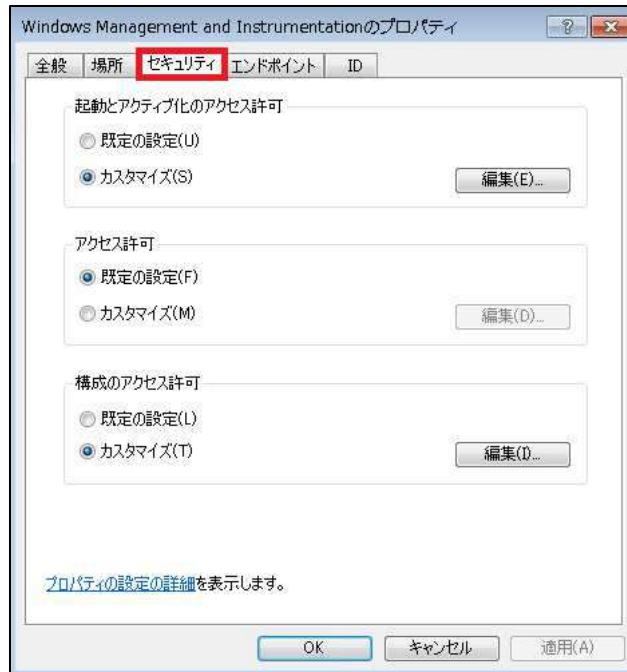


図397 Windows Management and Instrumentationプロパティ

- ④ 起動とアクティブ化のアクセス許可 > カスタマイズ > 編集ボタンをクリックし、Everyoneグループを追加した後にEveryoneのアクセス許可に**リモートからの起動**、**リモートからのアクティブ化**項目の許可チェック及び**OK**ボタンをクリックします。

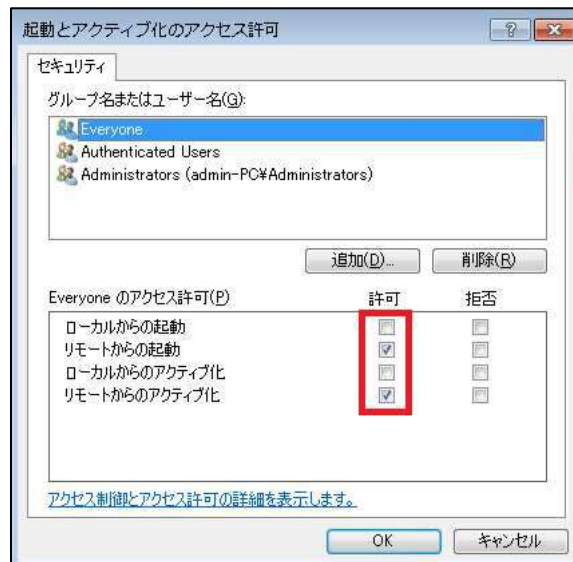


図398 起動とアクティブ化のアクセス許可

DCOM許容ポート設定

DCOM許容ポート設定は、Windows XP、Windows 2003に対して別途設定が必要です。それ以外のバージョンではデフォルト設定で使用可能です。

- ① スタート > 実行 > dcomcnfgを入力し、実行します。
- ② コンポーネントサービス > コンピュータ > マイコンピュータを選択し、右クリックしてプロパティをクリックします。



図399 コンポーネントサービス > コンピュータ > マイコンピュータ

- ③ **既定のプロトコル**タブをクリックし、接続指向TCP/IPを選択してプロパティボタンをクリックします。

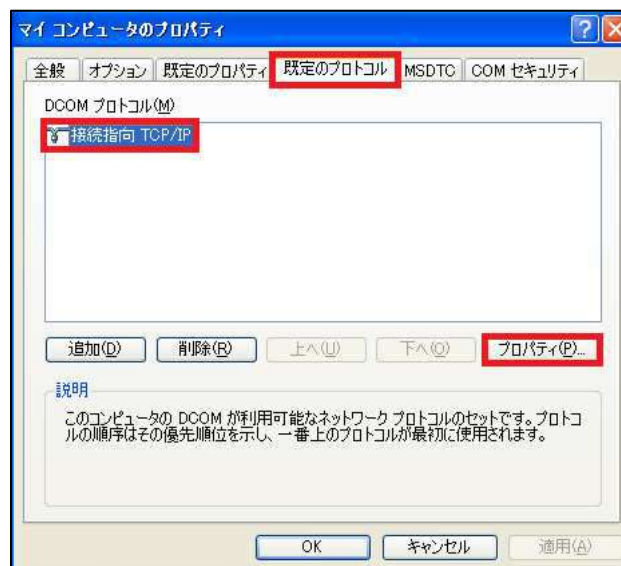


図400 マイコンピュータのプロパティ

- ④ **追加**ボタンをクリックした後、現在PC（サーバ）で使用していない10個程度のポート範囲を以下のように**4000-4010**を入力します。

<Windows XP、Windows 2003推奨ポート範囲>

- 1025 ~ 5000

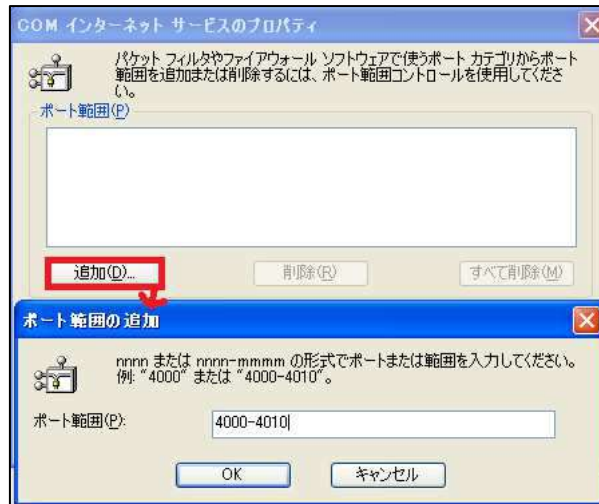


図401 COMインターネットサービスのポート範囲の追加

- ⑤ もし、管理対象サーバが公認ネットワークに存在する場合、インターネット範囲を選択します。私設ネットワークで運営する場合、イントラネット範囲を選択します。（ポート範囲割り当て、基本動的ポート割り当ての両方を選択）
- 以下は私設ネットワークとして運営され、イントラネットの範囲に指定された場合であり、選択後にOKボタンをクリックします。



図402 COMイントラネットサービスのプロパティ

- ⑥ マイコンピュータのプロパティ画面で**適用**ボタン及び**OK**ボタンをクリックします。
- ⑦ システムを再起動します。

DCOMファイアウォール設定

DCOM Windowsファイアウォールの設定は、Windows OSのファイアウォールを使用している場合、Windows XP、Windows 2003及び以降のバージョンに対して設定が必要です。もし、Windows OSのファイアウォールを使用しない場合は、この設定はスキップします。

■ Windows XP、Windows 2003

- ① スタート > 実行 > cmd.exeを入力して実行します。
- ② 以下のようにTCP 135基本ポートオープンコマンドを実行します。

```
C:¥User¥nkia>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=135 name=DCOM_TCP135
```

- ③ DCOMが使用するポート範囲を指定する場合、**DCOM許容ポート設定**で**DCOMインターネットサービスポート範囲を追加**する際に指定したポートを入力して以下のようにコマンドを

実行します。

ex) port=4000 ~ 4010

```
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4000 name=DCOM_TCP4000
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4001 name=DCOM_TCP4001
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4002 name=DCOM_TCP4002
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4003 name=DCOM_TCP4003
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4004 name=DCOM_TCP4004
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4005 name=DCOM_TCP4005
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4006 name=DCOM_TCP4006
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4007 name=DCOM_TCP4007
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4008 name=DCOM_TCP4008
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4009 name=DCOM_TCP4009
C:\>netsh firewall add portopening protocol=tcp port=4010 name=DCOM_TCP4010
```

■ Windows 7、10、11 ~ Windows 2016、2019、2022

- ① コントロールパネル > システムとセキュリティ > Windows Defender ファイアウォール > 詳細設定をクリックします。
- ② **受信の規則**をクリックします。



図403 Windowsファイアウォール

- ③ 以下のように Windows Management Instrumentation (DCOM受信) と Windows Management Instrumentation (WMI受信)を探してPCバージョンとサーババージョンに対して右クリックした後、**規則の有効化**を設定します。

PCバージョン

- Windows Management Instrumentation (DCOM受信) - プロファイル → プライベート、パブリック(規則の有効化)
- Windows Management Instrumentation (WMI受信) - プロファイル → プライベート、パブリック(規則の有効化)

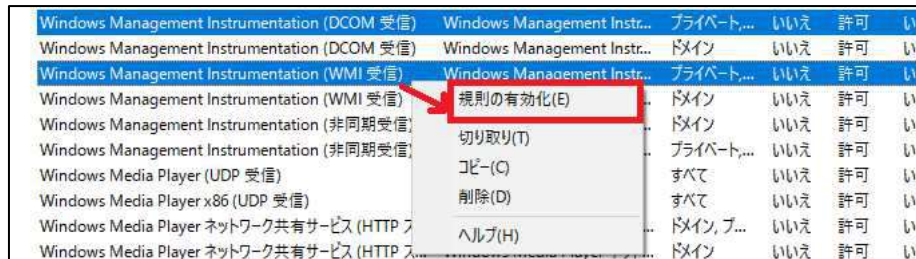


図404 PCバージョンでの受信の規則使用

サーババージョン

- Windows Management Instrumentation (DCOM受信) - プロファイル → すべて(規則の有効化)
- Windows Management Instrumentation (WMI受信) - プロファイル → すべて(規則の有効化)



図405 サーババージョンでの受信の規則使用

- ④ 受信の規則でWindows Management Instrumentation (DCOM受信) を選択し、右クリックしてプロパティをクリックします。



図406 Windows Management Instrumentation (DCOM受信) - プロパティ

- ⑤ **スコープ**タブでリモートIPアドレスをこれらのIPアドレスから**任意のIPアドレス**に変更した後、**OK**ボタンをクリックします。

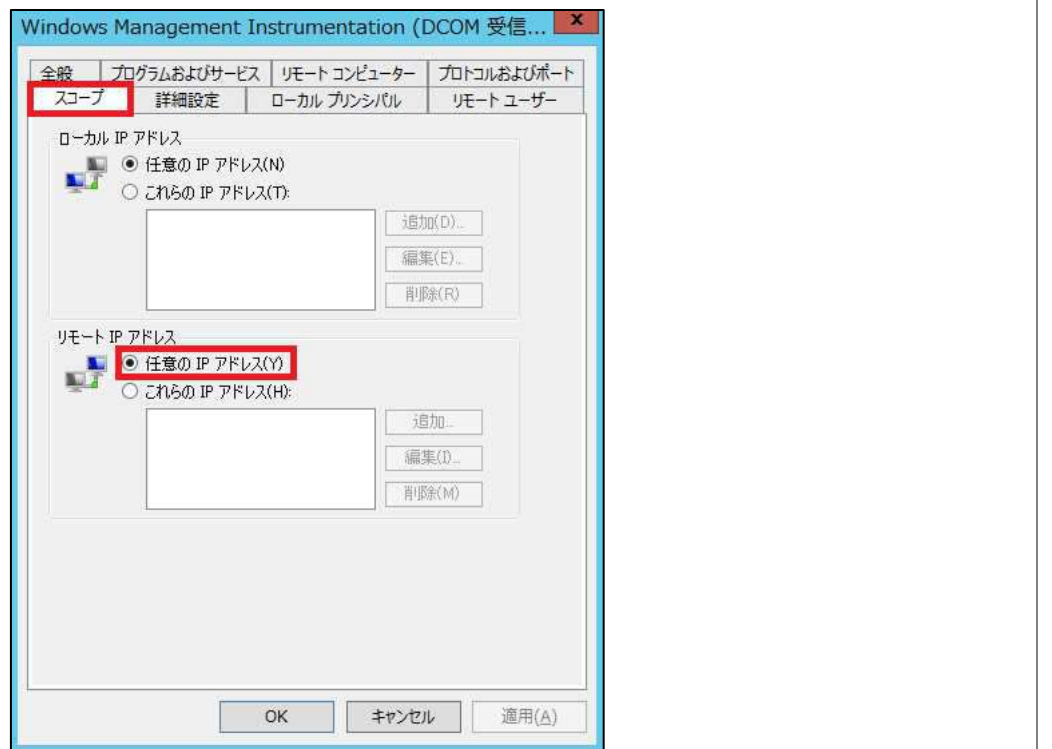


図407 Windows Management Instrumentation (DCOM受信) – 任意のIPアドレス設定

- ⑥ 受信の規則でWindows Management Instrumentation (WMI受信) を選択し、右クリックしてプロパティをクリックします。

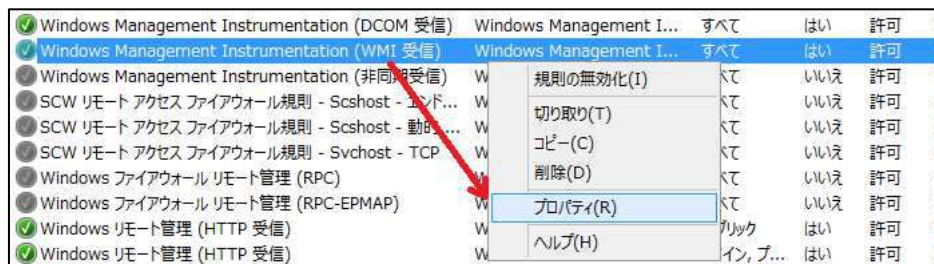


図408 Windows Management Instrumentation (WMI受信) – プロパティ

- ⑦ **スコープ**タブでリモートIPアドレスをこれらのIPアドレスから**任意のIPアドレス**に変更した後、**OK**ボタンをクリックします。

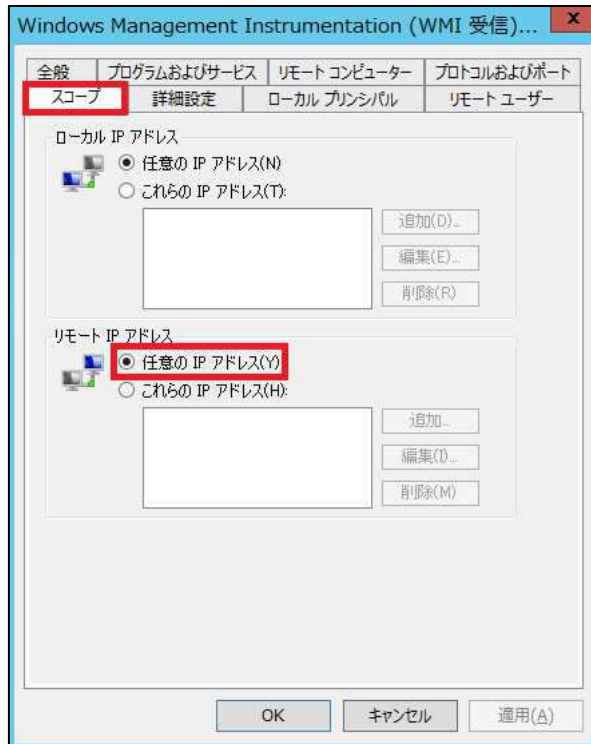


図409 Windows Management Instrumentation (WMI受信) – 任意のIPアドレス設定

ローカルセキュリティ設定

ローカルセキュリティ設定は、Windows XPに対して別途設定が必要です。それ以外のバージョンでは設定する必要がありません。

- ① スタート > 実行 > secpol.mscを入力して実行します。
- ② セキュリティの設定画面でローカルポリシー > **セキュリティオプション**をクリックします。
- ③ **ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル**項目を探してダブルクリックします。

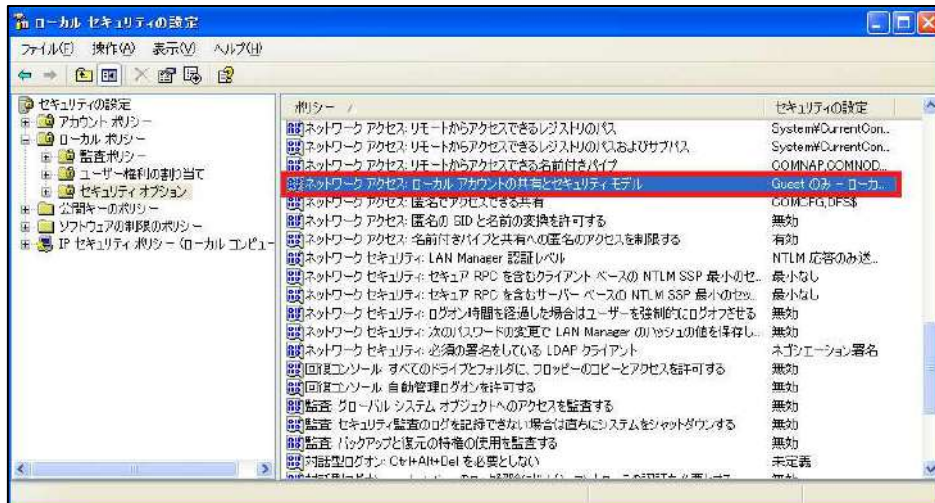


図410 ローカルポリシー - セキュリティオプション

- ④ **Guestのみ - ローカルユーザーがGuestとして認証する**で**クラシック - ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する**に変更してOKボタンをクリックします。

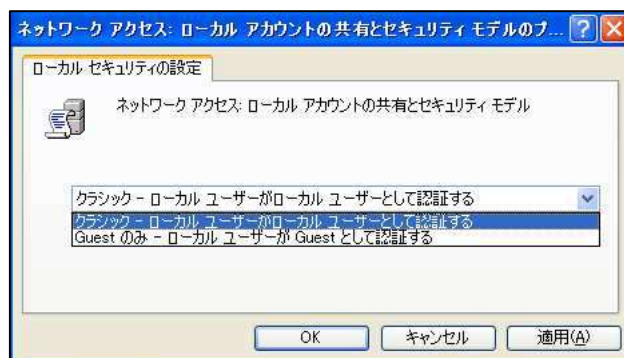


図411 ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル

Remote UAC権限設定

Remote UAC権限設定は、Windows 7、Windows 10、Windows 11に対して別途設定が必要です。それ以外のバージョンでは設定する必要がありません。

Remote UAC権限設定のデフォルト値は、Administratorsグループのメンバーがリモートで接続するたびに、該当アカウントのセキュリティトークンがフィルタリングされ、管理者権限を削除してフィルタリングされるように設定されています。

レジストリパス(HKLM¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Policies¥System

)では、LocalAccountTokenFilterPolicy値が1の場合、フィルタリングが実行されず、アカウントがすべて管理者権限につながるように設定する必要があります。

- ① スタート > 実行 > regedit.exeを入力し、管理者権限で実行します。
- ② レジストリ画面でHKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Policies¥Systemまで開きます。
- ③ 画面右側にLocalAccountTokenFilterPolicy名が存在しない場合は、右クリックして新規 > DWORD(32ビット)メニューをクリックします。
もし、存在する場合、**LocalAccountTokenFilterPolicy**値を1に設定します。

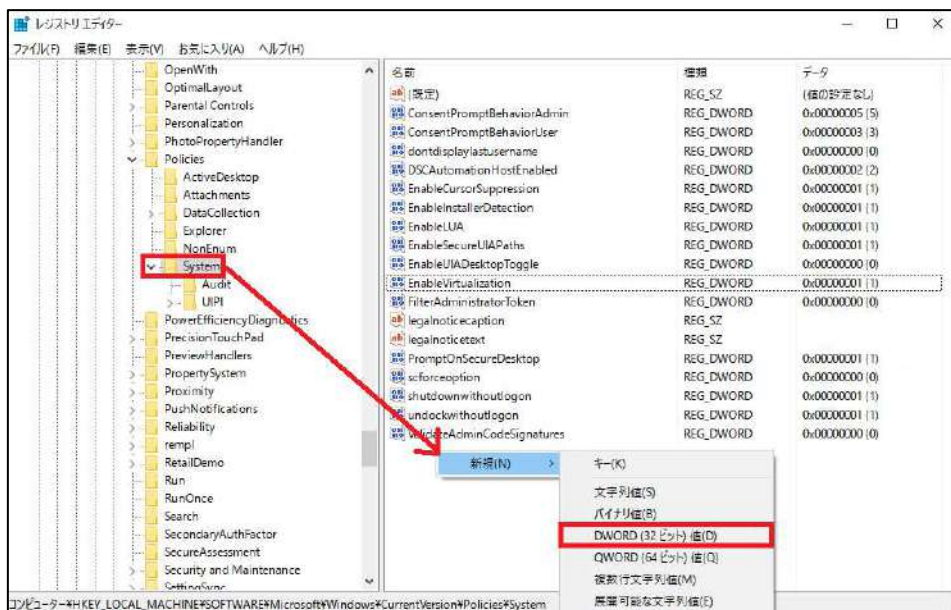


図412 レジストリエディター - Remote UAC権限設定

- ④ 新しい値 #1名前を**LocalAccountTokenFilterPolicy**に変更する場合、**LocalAccountTokenFilterPolicy**名前の後に空白がないように設定が必要です。
- ⑤ 生成した**LocalAccountTokenFilterPolicy**名前をダブルクリックして値を**0**から**1**に設定し、**OK**ボタンをクリックします。

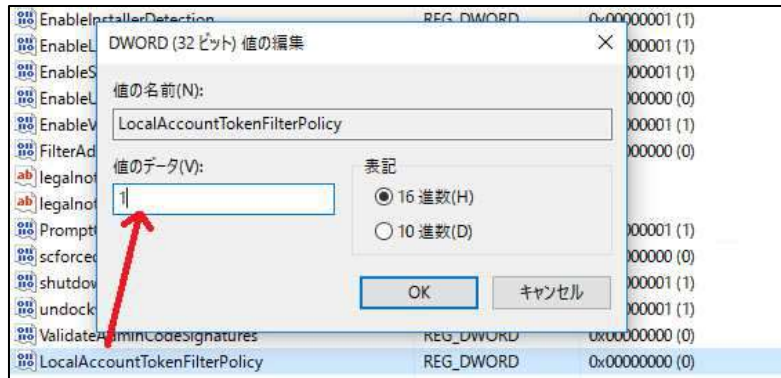


図413 LocalAccountTokenFilterPolicy値設定

ファイル共有OSファイアウォール設定

ファイル共有OSファイアウォール設定は、Windows 7、Windows 10、Windows 11に対して別途設定が必要です。それ以外のバージョンでは設定する必要がありません。

もし、Windows OSのファイアウォールを使用しない場合は、この設定はスキップします。

- ① コントロールパネル > システムとセキュリティ > Windows Defenderファイアウォール > 詳細設定をクリックします。
- ② **受信の規則**をクリックします。



図414 Windowsファイアウォール

- ③ 以下のようにプロファイルカラムがプライベート、パブリックのファイルとプリンターの共有 (NB受信)とファイルとプリンターの共有 (SMB受信)に対して右クリックした後、**規則の有効化**を設定します。

- ファイルとプリンターの共有 (NB受信) - プロファイル → プライベート、パブリック (規則の有効化)
- ファイルとプリンターの共有 (SMB受信) - プロファイル → プライベート、パブリック (規則の有効化)

受信の規則	名前	グループ	プロファイル	有効	操作	優先度
	パフォーマンスログと警告 (TCP 受信)	パフォーマンスログと警告	ドメイン	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (LLMNR UDP 受信)	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB セッション受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB セッション受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB データグラム受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB データグラム受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (Spooler Service - RPC)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (Spooler Service - RPC)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (エコ-要求 - ICMPv4 受信)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (エコ-要求 - ICMPv4 受信)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (エコ-要求 - ICMPv6 受信)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (エコ-要求 - ICMPv6 受信)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (エコ-要求 - ICMPv6 受信)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い
	ファイルとプリンターの共有 (スプーラー サービス - RPC-EPMAP)	ファイルとプリンターの共有	...	はい	許可	低い

図415 ファイルとプリンターの共有の受信の規則使用

- ④ 受信の規則で**ファイルとプリンターの共有 (NB受信)** - プロファイル → プライベート、パブリックを選択し、右クリックして**プロパティ**をクリックします。

ファイルとプリンターの共有 (NB セッション受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (NB セッション受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (NB データグラム受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (NB データグラム受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)	ファイルとプリンターの共有	ドメイン	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い
ファイルとプリンターの共有 (Spooler Service - RPC)	ファイルとプリンターの共有	プライベート...	はい	許可	低い

図416 ファイルとプリンターの共有 (NB受信) - プロパティ

- ⑤ **スコープ**タブでリモートIPアドレスをこれらのIPアドレスから**任意のIPアドレス**に変更した後、**OK**ボタンをクリックします。

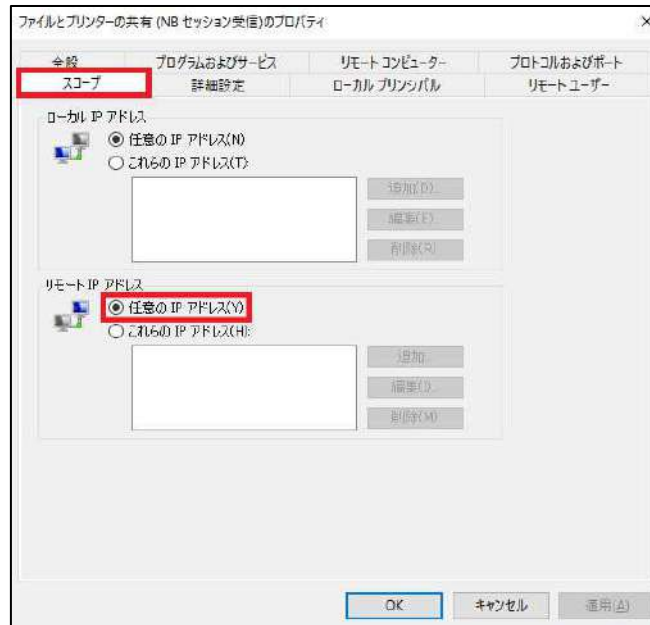


図417 ファイルとプリンターの共有 (NB受信) - 任意のIPアドレス設定

- ⑥ 受信の規則で**ファイルとプリンターの共有 (SMB受信)** - プロファイル → プライベート、パブリックを選択し、右クリックして**プロパティ**をクリックします。

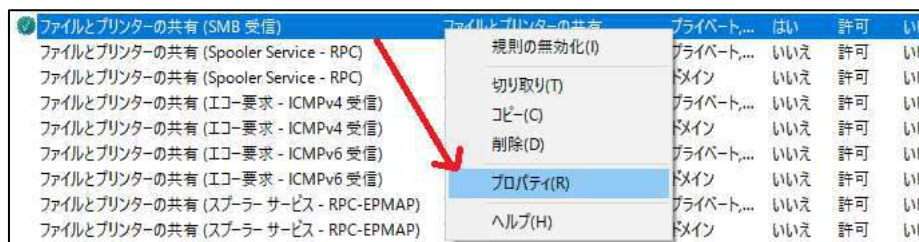


図418 ファイルとプリンターの共有 (SMB受信) - プロパティ

- ⑦ **スコープ**タブでリモートIPアドレスを**これらのIPアドレス**から**任意のIPアドレス**に変更した後、**OK**ボタンをクリックします。



図419 ファイルとプリンターの共有 (SMB受信) - 任意のIPアドレス設定

POLESTAR Automation Windows Defender設定

OSがWindowsの場合、POLESTAR Automationをインストールした後にjava.exeに対してWindows Defenderポリシーの追加が必要し、もしポリシーが追加されなかった場合には、ハングアップが発生する可能性があります。

ポリシーの追加手順は以下の通りです。

[手順]

1. **コントロールパネル > システムとセキュリティ > Windows Defenderファイアウォール**をクリックします。
2. Windows Defenderファイアウォール画面で**Windows Defenderファイアウォールを介したアプリまたは機能の許可**をクリックします。



図420 Windows Defenderファイアウォール

3. 別のアプリの許可ボタンをクリックします。

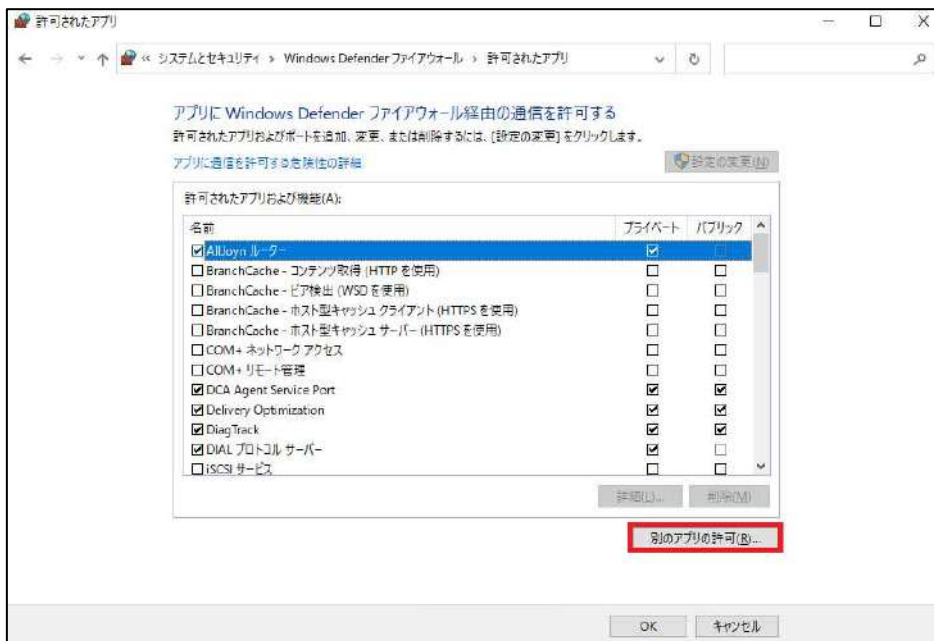


図421 許可されたアプリ

4. アプリの追加画面で参照ボタンをクリックし、POLESTAR Automationのjava.exeパスを設定した後に追加ボタンをクリックします。

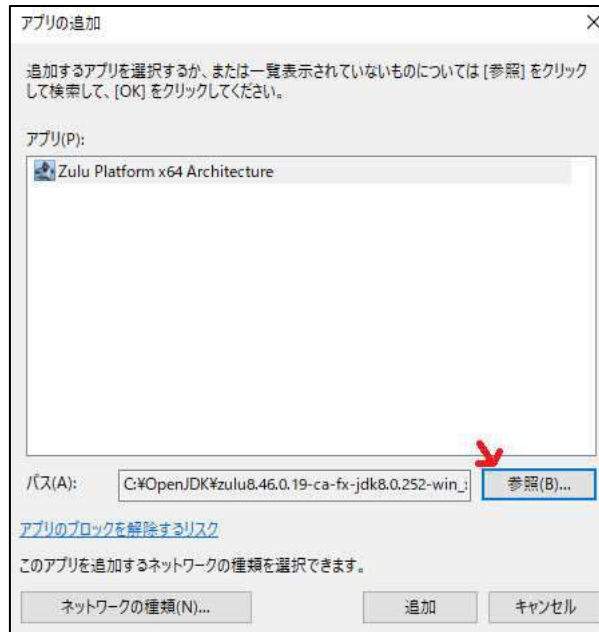


図422 アプリの追加

5. 以下の画面のように Zulu Platform x64 Architecture が追加されたことを確認できます。

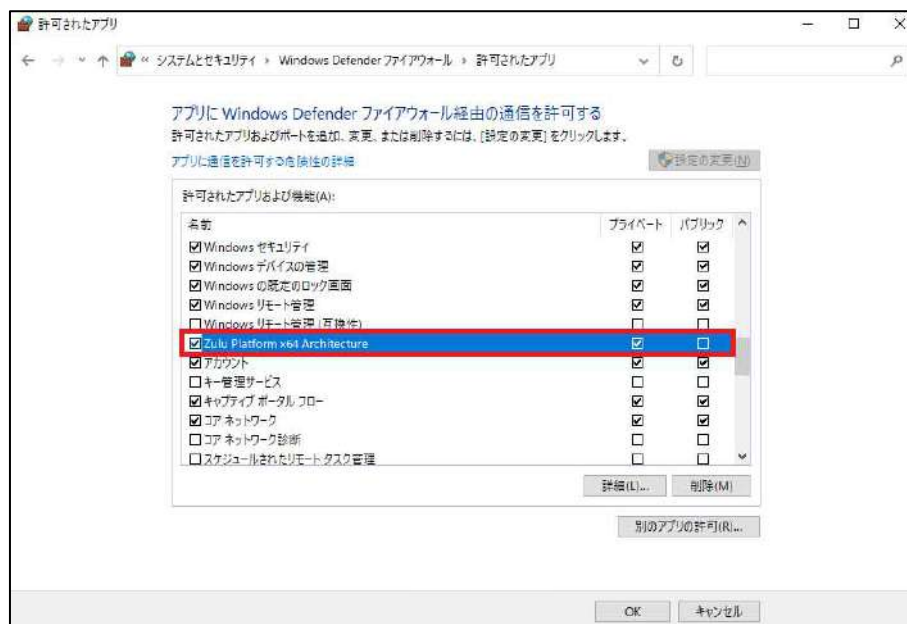


図423 java.exeアプリの追加

6. **OK**ボタンをクリックします。

Windows OpenSSHサーバのインストール及び構成

エージェントレスサーバにファイルを配布するには、WindowsサーバにOpenSSHサーバをインストールする必要があります。その上でOpenSSHサーバ内部のSFTPサーバ機能を利用して配布することができます。

OpenSSHサーバのインストール方法はOSバージョンに依存します。Windows 10、Windows Server 2019とWindows 7、Windows Server 2008~Windows Server 2016バージョンによって異なります。

Windows 10、Windows Server 2019以上

OpenSSHをインストールするためには、Windowsアップデートを最新バージョンにアップデートする事前作業が必要であり、そのOSバージョンは**インターネットが可能な環境**でなければなりません。

Windows 11、Windows Server 2022以上のバージョンの場合は、Windows 10、Windows Server 2019のインストール方法と同じです。

<表> OSバージョン別のWindowsアップデートビルド番号確認

OSバージョン	ビルドバージョン
Windows 10	最新アップデートビルドバージョン
Windows Server 2019	システムビルドが 17763.194 より以下の場合、Windows アップデートをシステムビルドが 17763.194 より以上か同じになるまでにアップデートが必要。 ※システムビルド番号の確認方法 1) 「スタート > 実行 > cmd.exe」を実行 2) 「Version」の次に表示されるビルド番号を確認 ex) Microsoft Windows [Version 10.0. 17763.557

* **Windows 11、Windows Server 2022以上のバージョンの場合、ビルド番号を確認する必要はありません。**

[手順]

1. **検索 > Windows PowerShellアプリ**を検索した後、右クリックしてWindows PowerShellを**管理者権限として実行**をクリックします。
2. 以下のようにOpenSSHインストール確認コマンドを実行します。

```
Get-WindowsCapability -Online | ? Name -like 'OpenSSH*'
```

```
PS C:\Users\Administrator> Get-WindowsCapability -Online
                           | ? Name -like 'OpenSSH*'

Name : OpenSSH.Client~~~~0.0.1.0
State : Installed

Name : OpenSSH.Server~~~~0.0.1.0
State : NotPresent
```

3. OpenSSHがインストールされていない場合、以下のようにコマンドを実行してOpenSSHをインストールします。

```
Add-WindowsCapability -Online -Name OpenSSH.Server~~~~0.0.1.0
```

```
PS C:\Users\Administrator> Add-WindowsCapability -Online
                           -Name OpenSSH.Server~~~~0.0.1.0

Path           :
Online         : True
RestartNeeded  : True
```



参考 : OpenSSHのインストールは、インターネット可能な環境でインストールできます。

4. 以下のようにOpenSSHのインストール確認コマンドを実行します。

```
Get-WindowsCapability -Online | ? Name -like 'OpenSSH*'
```

```
PS C:\Users\Administrator> Get-WindowsCapability -Online
| ? Name -like 'OpenSSH*'
Name : OpenSSH.Client~~~~0.0.1.0
State : Installed
Name : OpenSSH.Server~~~~0.0.1.0
State : Installed
```



備考 : OpenSSHインストール時に以下のようなエラーが発生した場合、システムビルド番号が17763.194以上までWindowsアップデートが必要です。

システムビルド番号の確認は、「<表> OSバージョン別のWindowsアップデートビルド番号確認」を参照してください。

Add-WindowsCapability: Add-WindowsCapability failed. Error code = 0x800f0950

5. 以下のようにOpenSSHサーバのサービスを開始します。

```
Start-Service sshd
```

```
PS C:\Users\Administrator> Start-Service sshd
PS C:\Users\Administrator> █
```

6. 以下のようにOpenSSHサーバのサービス開始タイプを自動で変更します。

```
Set-Service -Name sshd -StartupType 'Automatic'
```

```
PS C:\Users\Administrator> Set-Service -Name sshd -StartupType 'Automatic'
PS C:\Users\Administrator> █
```

Windows 7、Windows Server 2008 ~ Windows Server 2016

Windows 7、Windows Server 2008 ~ Windows Server 2016バージョンにOpenSSHをインストールするためには、GitHubからWin32-OpenSSH(<https://github.com/PowerShell/Win32-OpenSSH/releases>)のリリースバイナリをダウンロードしてインストールする必要があります。

[手順]

1. Win32-OpenSSHリンクからOS環境に合わせてx64環境であればOpenSSH-Win64.zipを、x86環境であればOpenSSH-Win32.zipをダウンロードして特定経路にZIPファイルを解凍します。
2. x64環境では、OpenSSH-Win64のディレクトリ下位にsshd.exeファイルが存在するディレクトリまで探索し、すべてのファイルをコピーして「C:¥Program Files」パスにOpenSSHディレクトリを生成して貼り付けます。
3. **検索 > Windows PowerShell**を検索後、右クリックしてWindows PowerShellを**管理者権限として実行する**メニューをクリックします。
4. cdコマンドを使用してOpenSSHパスまで移動します。
5. 以下のようにコマンドを実行してOpenSSHをインストールします。

```
¥Install-sshd.ps1
```

```
PS C:¥Program Files¥OpenSSH> .¥install-sshd.ps1
[SC] SetServiceObjectSecurity SUCCESS
[SC] ChangeServiceConfig2 SUCCESS
[SC] ChangeServiceConfig2 SUCCESS
sshd and ssh-agent services successfully installed
```

6. 以下のようにコマンドを実行してSSHキーを生成します。

```
¥ssh-keygen.exe -A
```

```
PS C:¥Program Files¥OpenSSH> .¥ssh-keygen.exe -A
```



備考 : ¥ssh-keygen.exe -A実行時に以下のエラーが発生した場合、次のように解決後、「¥ssh-keygen.exe -A」をもう一度実行します。

XXX Could not save your public key in __PROGRAMDATA__

```
PS C:¥Program Files¥OpenSSH> .¥ssh-keygen.exe -A
ssh-keygen: generating new host keys: RSA Could not save your public key in __PROGRAMDATA__¥¥¥ssh/ssh_host_rsa_key.DpByfo
pUJl: No such file or directory
ssh-keygen: generating new host keys: DSA Could not save your public key in __PROGRAMDATA__¥¥¥ssh/ssh_host_dsa_key.uIdt8Z
glag: No such file or directory
ssh-keygen: generating new host keys: ECDSA Could not save your public key in __PROGRAMDATA__¥¥¥ssh/ssh_host_ecdsa_key.IM
H05EjBxG: No such file or directory
ssh-keygen: generating new host keys: ED25519 Could not save your public key in __PROGRAMDATA__¥¥¥ssh/ssh_host_ed25519_ke
y.CjG6q1B0rs: No such file or directory
```

C:¥PROGRAMDATA¥sshディレクトリが存在しないため発生したエラーで、以下のよう

に解決します。

```
mkdir %PROGRAMDATA%\ssh
```

もし、C:\PROGRAMDATAディレクトリが見えない場合、以下のように解決します。

1) **Windowsエクスプローラ > 表示 > オプション > フォルダーと検索のオプションの変更をクリック**

2) フォルダオプションウィンドウで表示タブをクリックし、詳細設定 > ファイルおよびフォルダー > ファイルとフォルダーの表示 > 隠しファイル、隠しフォルダーおよび隠しドライブを表示するをエック

7. 以下のようにコマンドを実行してOpenSSHサービスを開始します。

```
Start-Service sshd
```

```
PS C:\Program Files\OpenSSH> Start-Service sshd
```



備考 : Start-Service sshd実行時にサービスの開始が失敗した場合、C:\ProgramData\sshの下位ファイルをすべて削除した後にサービスを起動します。

8. 以下のようにコマンドを実行し、OpenSSHサービスの開始タイプを自動で変更します。

```
Set-Service -Name sshd -StartupType 'Automatic'
```

```
PS C:\Program Files\OpenSSH> Set-Service -Name sshd -StartupType 'Automatic'
PS C:\Program Files\OpenSSH> █
```

9. 以下のようにコマンドを実行し、OpenSSHのファイアウォールルールを追加します。

```
netsh advfirewall firewall add rule name="OpenSSH Server (sshd)" dir=in action=allow protocol=TCP localport=22
```

エージェントレス用VBScript作成ガイド

リモートホスト接続するためのWMIスクリプト作成

エージェントレス用VBScriptを実行するためには、リモートサーバに接続する手順が必要となります。ローカルで実行するVBScriptは、以下のような連絡が必要なパラメータの情報が

必要です。

<表> エージェントレス用VBScriptリモートホスト接続情報

パラメータ	説明
strServer	接続するコンピュータ名もしくはリモートサーバの IP を入力します。
strDomain	ログインするドメイン名を入力します。もし、strUser アカウントがドメインアカウントの場合はドメイン名を入力し、ドメインアカウントでない場合は入力不要です。
strUser	接続に使用するユーザー名（ユーザーアカウント）を入力します。文字列はユーザ名または「Domain¥Username」形式で入力します。
strPassword	接続の際に使用するパスワードを指定します。



参考： リモートサーバがローカルホストであれば、strServerは「.」を入力します。strDomain、strUser、strPasswordについては入力不要です。

エージェントレス用VBScript作成時の基本的なスクリプトを以下の通りです。スクリプト内容中、「Sub DisplayErrorInfo」宣言箇所の直前の行にスクリプト本文を作成します。SWbemLocator.ConnectServerメソッドからリターンした「objwbemService」を使用してWin32_xxxクラスのプロパティとメソッドの実装ができます。

<表> エージェントレス用VBScript基本テンプレート

```
Option Explicit

' On Error Resume Next
Const wbemFlagReturnImmediately = &h10
Const wbemFlagForwardOnly = &h20

Dim strComputer, objWMIService
Dim objArgs, strDomain, strPassword, strUser
Dim objSWbemLocator, bIsLocalServer

strComputer = "."
strDomain = ""
strUser = ""
```

```

strPassword = ""
bIsLocalServer = False

'check Agentless
If WScript.Arguments.Count > 0 Then

    If WScript.Arguments.Count <> 4 Then
        WScript.Echo "Fail=not found Arguments count[" & WScript.Arguments.Count & "]"
        WScript.Quit(1)
    End If

    'check argument
    '0 = IP or hostname 1 = domain, 2 = username, 3 = password,
    Set objArgs = WScript.Arguments
    strComputer = objArgs.Unnamed.Item(0)
    strDomain = objArgs.Unnamed.Item(1)
    strUser = objArgs.Unnamed.Item(2)
    strPassword = objArgs.Unnamed.Item(3)

    'Check if ipaddress is local or remote
    If IsLocalServer(strComputer) = True Then
        bIsLocalServer = True
        strComputer = "."
        strDomain = ""
        strUser = ""
        strPassword = ""
    End If

End If

'localhost or wmi connect Managed server
Set objSWbemLocator = CreateObject("WbemScripting.SWbemLocator")
Set objWMIService = objSWbemLocator.ConnectServer(strComputer, _
    "root¥CIMV2", _
    strUser, _
    strPassword, _
    "MS_409", _

```

```

    "ntlmDomain:" + strDomain)

If Err <> 0 Then
    DisplayErrorInfo
    WScript.Quit(1)
End If

Sub DisplayErrorInfo

    WScript.Echo "Error:      : " & Err
    WScript.Echo "Error (hex) : &H" & Hex(Err)
    WScript.Echo "Source      : " & Err.Source
    WScript.Echo "Description : " & Err.Description
    Err.Clear

End Sub

Function IsLocalServer(strComputer)
    Dim strLocalComputer, objLocalWMIService
    Dim objIPConfig, colIPConfig, i, strLocalIP
    Dim strQuery

    strLocalComputer = "."
    strQuery = "Select IPAddress from Win32_NetworkAdapterConfiguration WHERE IPEnabled
= 'True'"
    Set objLocalWMIService = GetObject("winmgmts:" &
"{impersonationLevel=impersonate}!¥¥" & strLocalComputer & "¥root¥cimv2")
    Set colIPConfig = objLocalWMIService.ExecQuery(strQuery, "WQL", _
        wbemFlagReturnImmediately + wbemFlagForwardOnly)

    'Check if ipaddress is local or remote
    For Each objIPConfig in colIPConfig
        If Not IsNull(objIPConfig.IPAddress) Then
            For i = LBound(objIPConfig.IPAddress) to UBound(objIPConfig.IPAddress)
                strLocalIP = objIPConfig.IPAddress(i)
                'filtering IPv6
                If Not Instr(strLocalIP, ":") > 0 Then

```

```

        'WScript.Echo "strComputer(" & strComputer & ") == strCmpIPAddress(" &
strCmpIPAddress & ")"
    If StrComp(strLocalIP, strComputer) = 0 Then
        IsLocalServer = True
        Exit Function
    End If
End If
Next
End If
Next

IsLocalServer = False
End Function

```

このように、スクリプト本文まで作成されたスクリプトは、運用 > 入力コマンド実行を実行したり、下の図のように構成 > 構成リスト > 追加でタイプがAgentlessCustomObjectのCustomObjectを登録して点検グループ及び点検ジョブを登録し、実行することができます。

図424 構成リスト登録

スクリプト説明

以下のスクリプトで、リモートサーバ情報である因子が4つではない場合、スクリプトが終了されます。

各因子は順番に対して0番インデックスにstrComputer、1番インデックスにstrDomain、2番インデックスにstrUser、3番インデックスにstrPasswordが位置し、各変数に割り当てます。

Function関数であるIsLocalServerでは、パラメータでstrComputerをめぐりながらめぐりしたIPアドレスがローカルホストに割り当てられたIPアドレスの有無をチェックします。もし、ローカルホストに割り当てられたIPアドレスの場合はTrue値をリターンし、そうでない場合（リモートサーバ）はFalse値をリターンします。

もし、IsLocalServerリターン値がTrueの場合、strComputer="."に割り当て、残りのstrDomain、strUser、strPassword値を空の値に割り当てます。

```
'check Agentless
If WScript.Arguments.Count > 0 Then

    If WScript.Arguments.Count <> 4 Then
        WScript.Echo "Fail=not found Arguments count[" & WScript.Arguments.Count &"]"
        WScript.Quit(1)
    End If

    'check argument
    '0 = IP or hostname 1 = domain, 2 = username, 3 = password,
    Set objArgs = WScript.Arguments
    strComputer = objArgs.Unnamed.Item(0)
    strDomain = objArgs.Unnamed.Item(1)
    strUser = objArgs.Unnamed.Item(2)
    strPassword = objArgs.Unnamed.Item(3)

    'Check if ipaddress is local or remote
    If IsLocalServer(strComputer) = True Then
        bIsLocalServer = True
        strComputer = "."
```

```

        strDomain = ""
        strUser = ""
        strPassword = ""
    End If

End If

```

リモートサーバ情報因子を変数に割り当てられた状態で、以下のスクリプトのようにSWbemLocatorオブジェクトのConnectServerメソッドのパラメータにリモート情報をそれぞれ転送します。

2番目の因子であるネームスペースは、スクリプト実行に必要なWin32_xxクラスが属するネームスペースを指定します。(例: root¥CIMV2)

ConnectServerメソッドリターン値であるSWbemServicesを使用してスクリプトを作成してください。

もし、ConnectServerメソッドが失敗した場合、Err値が0でない値にリターンし、エラー情報を出力することができます。(DisplayErrorInfoプロシージャ)

```

'localhost or wmi connect Managed server
Set objSWbemLocator = CreateObject("WbemScripting.SWbemLocator")
Set objWMIService = objSWbemLocator.ConnectServer(strComputer, _
    "root¥CIMV2", _
    strUser, _
    strPassword, _
    "MS_409", _
    "ntlmdomain:" + strDomain)

```

```
If Err <> 0 Then
    DisplayErrorInfo
    WScript.Quit(1)
End If
```

ConnectServerメソッドが失敗した場合は、リモート情報(IP、Domain、User、Password)が不一致またはエージェントレスサーバのポリシー設定がされていない場合であり、リモート情報が正しいかエージェントレスサーバのポリシー設定の適用有無を確認してください。



参考 : エージェントレスサーバのポリシー設定は、「付録 : Windowsエージェントレスサーバのポリシー設定」を参照してください。